

加古川市  
高齢社会と介護保険に関する調査報告書

令和5年5月

加古川市



# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
7	「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」結果の分析について	2
II	調査結果	3
1	一般高齢者	3
(1)	回答者属性	3
(2)	ご家族や生活状況について	7
(3)	からだを動かすことについて	10
(4)	食べることについて	21
(5)	日常の生活について	27
(6)	地域での活動について	37
(7)	たすけあいについて	43
(8)	健康について	46
(9)	人生の最終段階に関することについて	55
(10)	認知症に関することについて	59
(11)	介護保険に関することについて	62
(12)	成年後見制度について	65
(13)	災害に関することについて	68
2	高齢者・介護者	71
(1)	回答者属性	71
(2)	介護保険、その他福祉及び医療に関することについて	73
(3)	介護をしている人について	101
(4)	介護を必要としている人について	111
(5)	介護の環境などについて	113
(6)	認知症に関することについて	125
(7)	介護をしている人への支援について	131
(8)	成年後見制度について	133
(9)	人生の最終段階に関することについて	135
(10)	災害に関することについて	138
3	介護支援専門員	139

4	訪問看護事業所.....	195
5	訪問看護師.....	200



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

加古川市の高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の見直しの基礎資料として、アンケート調査を実施しました。

## 2 調査対象

一般高齢者アンケート：(無作為抽出)65歳以上で、要介護認定を受けていない人、または、要支援認定を受けた人

高齢者・介護者アンケート：(無作為抽出)65歳以上で要支援・要介護認定を受けた人とその介護者

介護支援専門員アンケート：(悉皆調査)居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護に所属のケアマネジャー

訪問看護事業所アンケート：(悉皆調査)訪問看護事業所

訪問看護師アンケート：(悉皆調査)訪問看護師

## 3 調査期間

令和5年2月7日～令和5年3月3日

## 4 調査方法

一般高齢者アンケート：郵送配付・郵送回収方式

高齢者・介護者アンケート：郵送配付・郵送回収方式

介護支援専門員アンケート：インターネットによる回答


訪問看護事業所アンケート：インターネットによる回答

訪問看護師アンケート：インターネットによる回答

## 5 回収状況

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
一般高齢者アンケート	3,450通	2,162通	62.7%	2,162通	62.7%
高齢者・介護者アンケート	2,150通	1,111通	51.7%	1,111通	51.7%
介護支援専門員アンケート	248通	166通	66.9%	160通	64.5%
訪問看護事業所アンケート	28通	22通	78.6%	22通	78.6%
訪問看護師アンケート	178通	102通	57.3%	100通	56.2%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

## 7 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」結果の分析について

本報告書は、要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することに主眼を置き、「介護予防・フレイル対策、認知症予防」へとつなげていくための、基礎調査として位置づけられています。

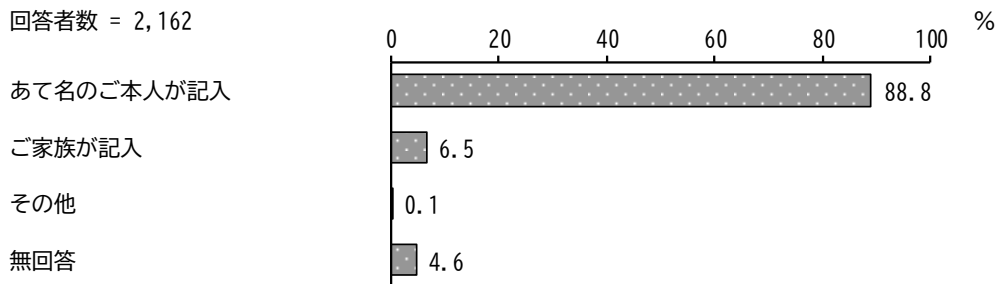
## Ⅱ 調査結果

### 1 一般高齢者

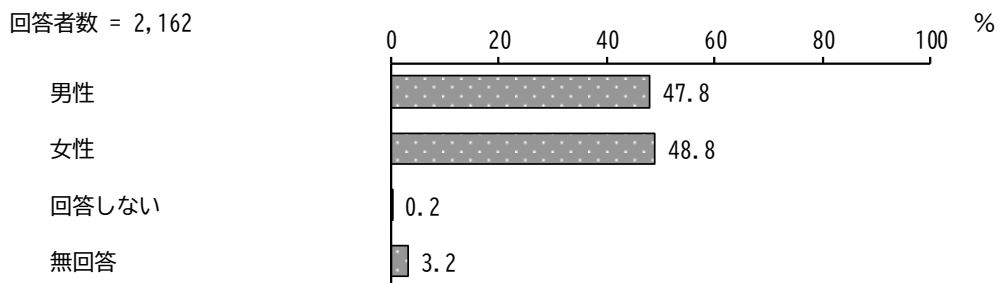
#### (1) 回答者属性

問1 アンケートを記入されたのはどなたですか。(○はひとつ)

「あて名のご本人が記入」の割合が 88.8%、「ご家族が記入」の割合が 6.5%となっています。



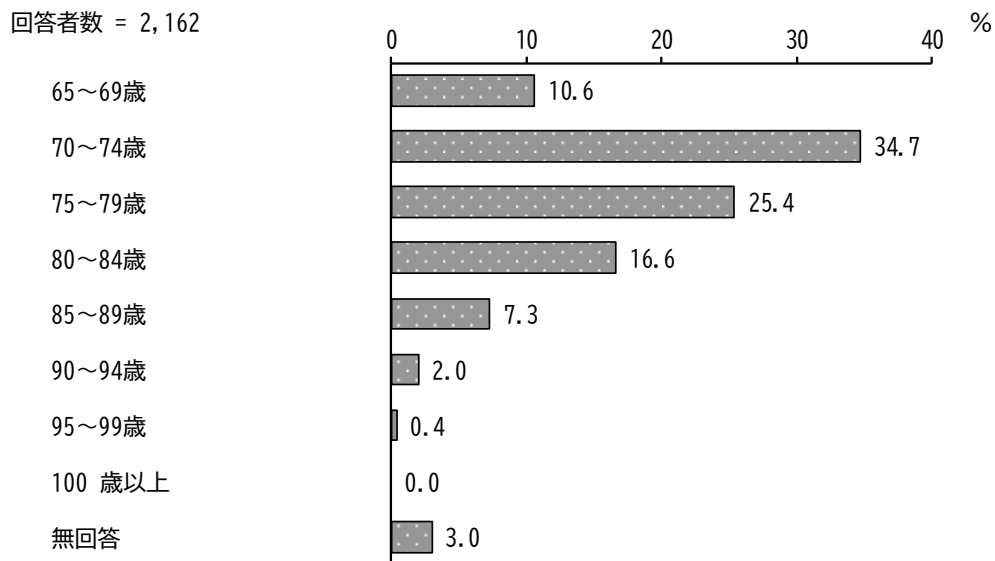
問2 ご本人の性別を教えてください。(○はひとつ)





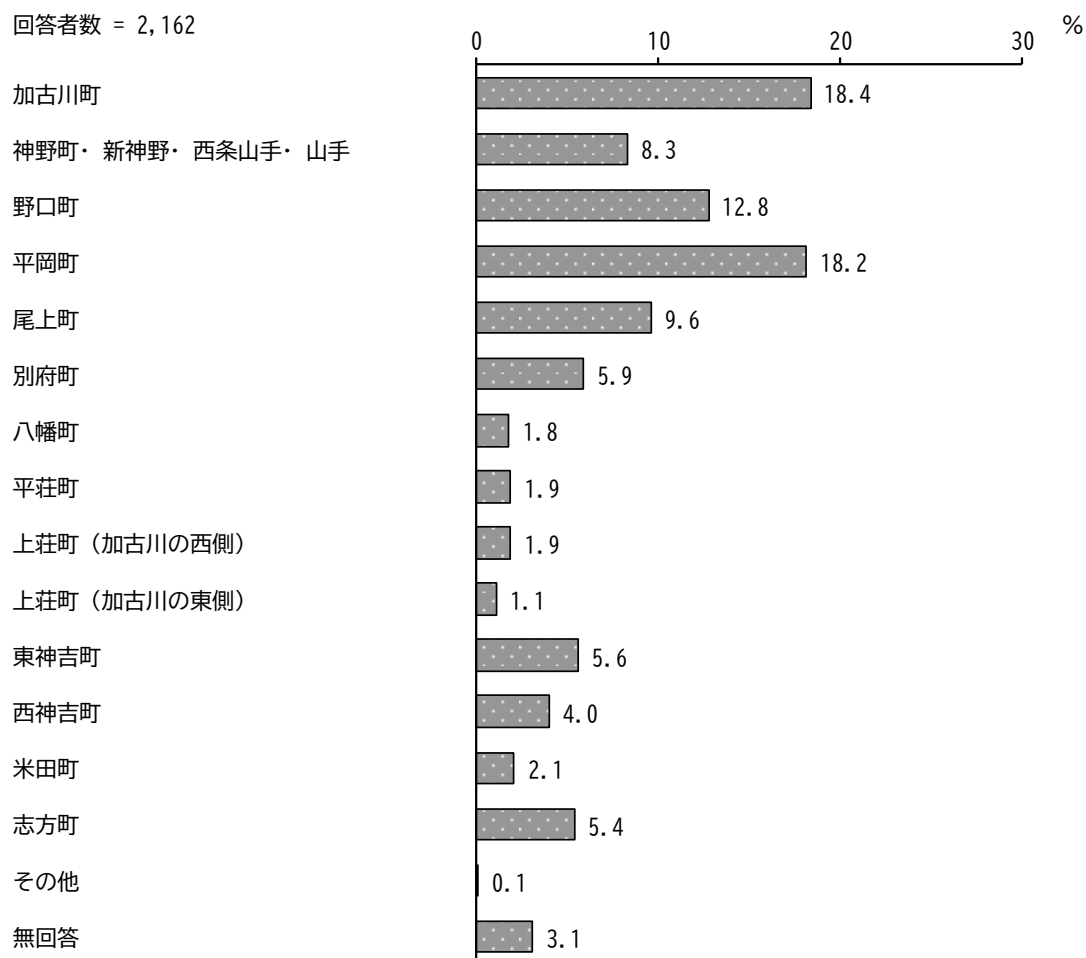
問3 令和5年1月1日現在の、ご本人の年齢を教えてください。(〇はひとつ)

「70～74歳」の割合が34.7%と最も高く、次いで「75～79歳」の割合が25.4%、「80～84歳」の割合が16.6%となっています。



問4 ご本人のお住まいの地域を教えてください。(○はひとつ)

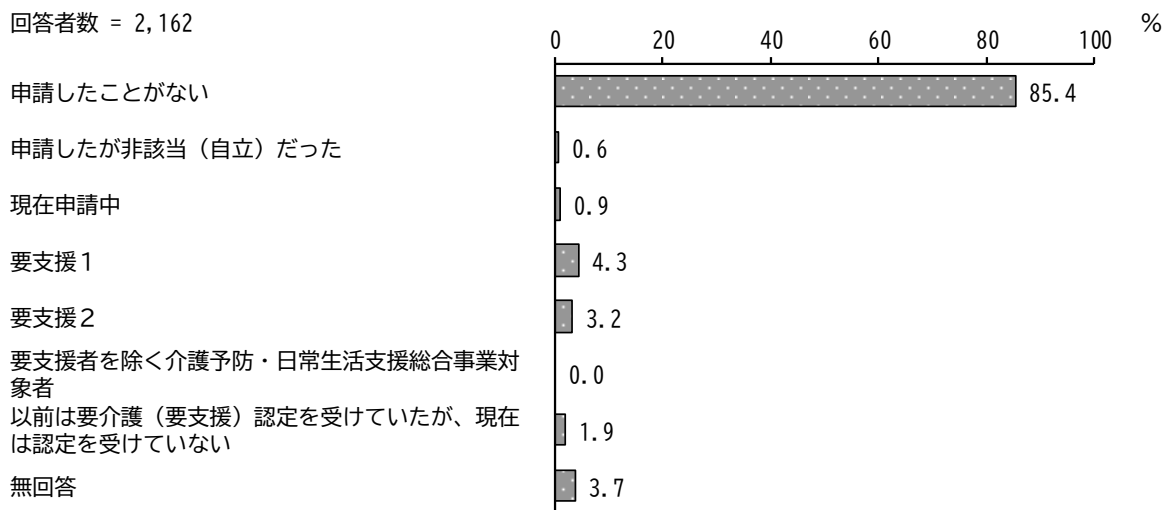
「加古川町」の割合が18.4%と最も高く、次いで「平岡町」の割合が18.2%、「野口町」の割合が12.8%となっています。



問5 ご本人は、現在、要介護（要支援）認定を受けていますか。（○はひとつ）

「申請したことがない」の割合が85.4%と最も高くなっています。また、何らかの認定を受けている人の割合は7.5%となっています。

回答者数 = 2,162

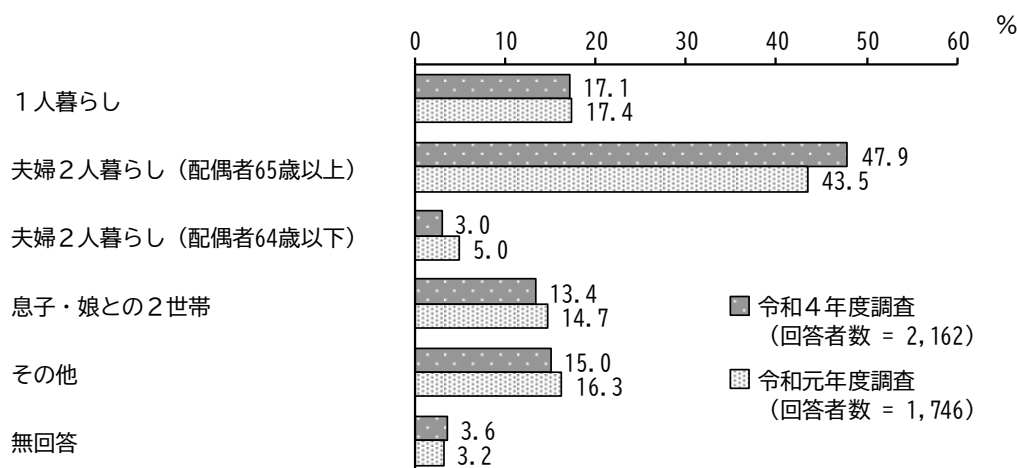


## (2) ご家族や生活状況について

### 問6 家族構成を教えてください。(〇はひとつ)

「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が47.9%と最も高く、次いで「1人暮らし」の割合が17.1%となっています。

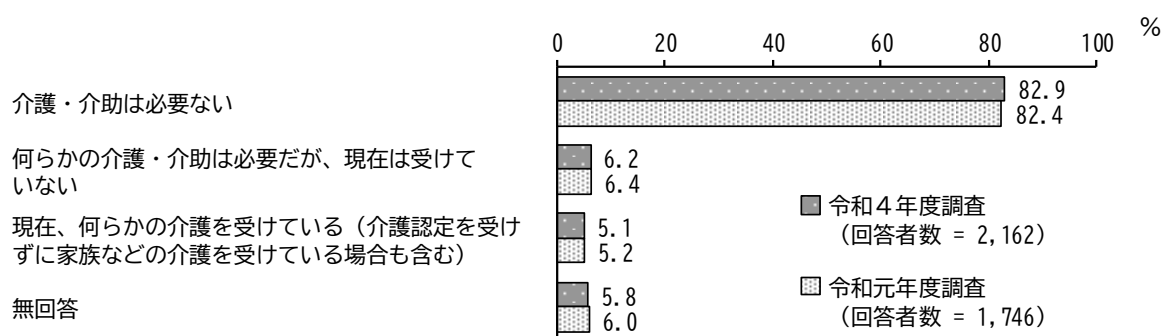
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 問7 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(〇はひとつ)

介護・介助の必要性をみると、「介護・介助は必要ない」の割合が82.9%と最も高く、何らかの介護・介助が必要な人は11.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

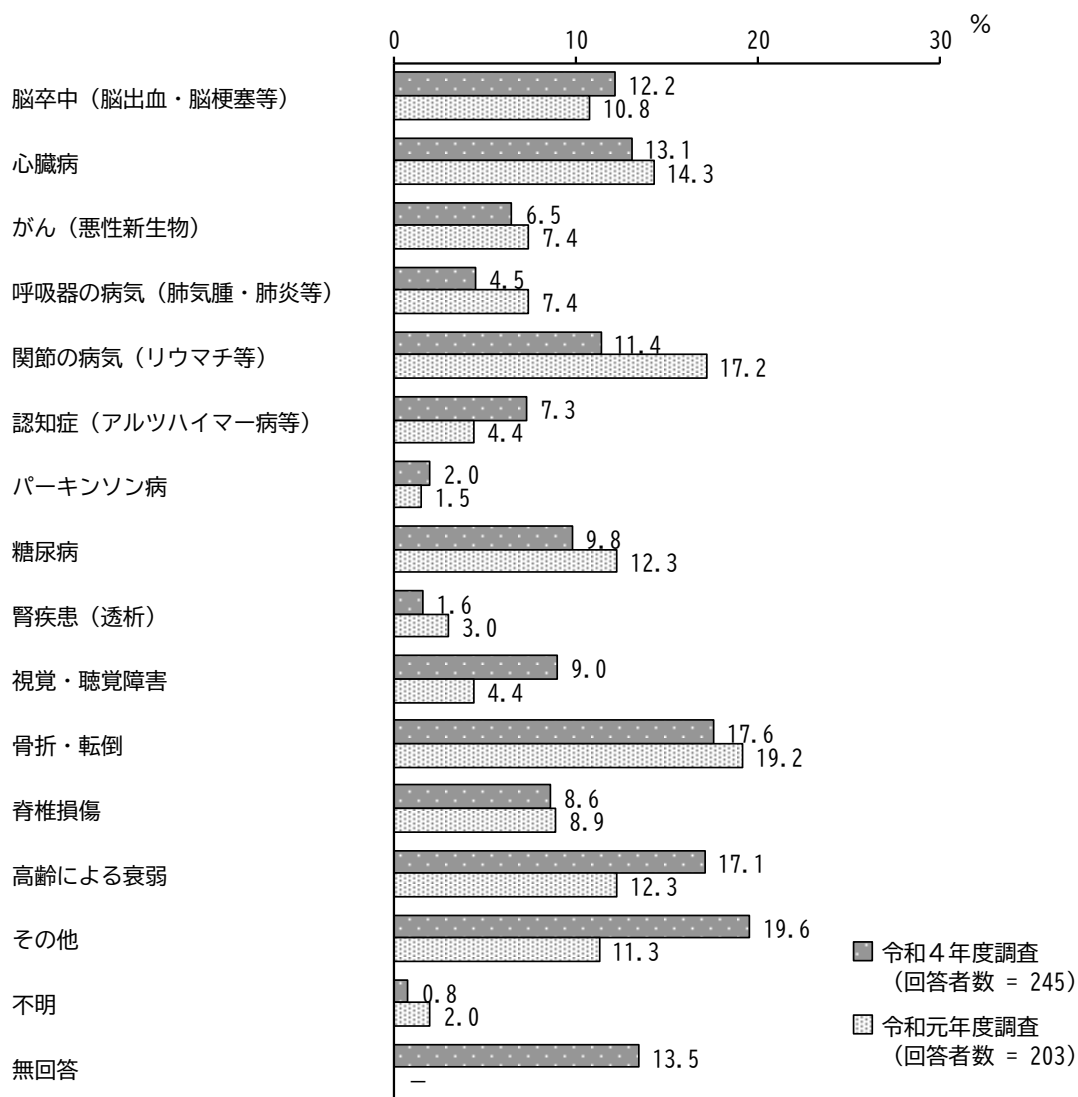


※問7で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人におたずねします。

**問8 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)**

何らかの介護・介助が必要な人について、介護・介助が必要になった主な原因をみると、「骨折・転倒」の割合が17.6%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」の割合が17.1%、「心臓病」の割合が13.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「関節の病気（リウマチ等）」の割合が減少しています。

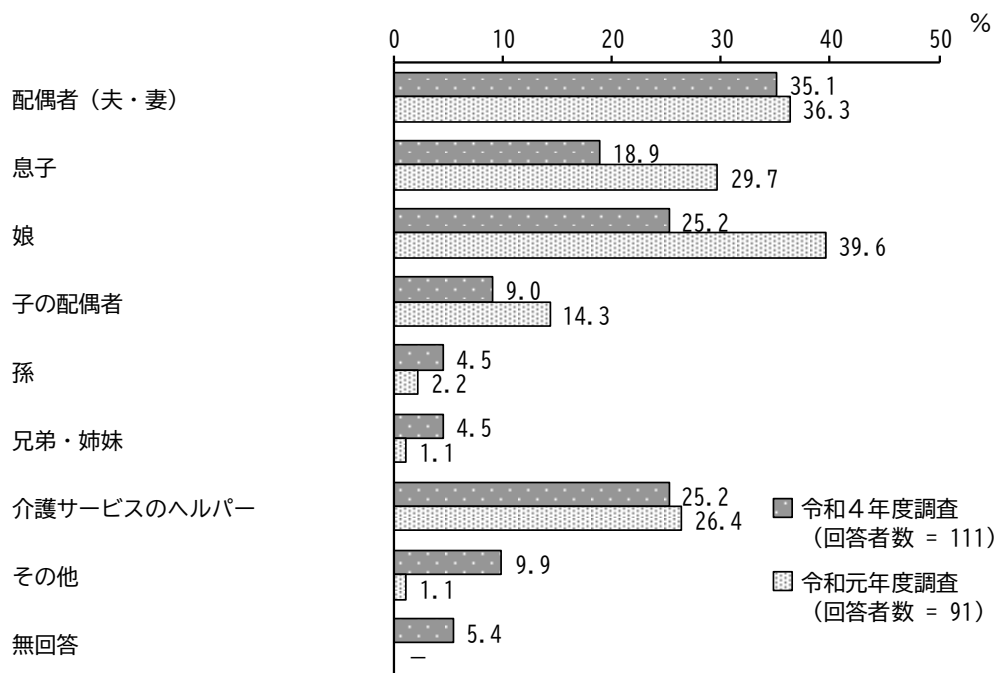


※問7で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人におたずねします。

**問9 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)**

「配偶者（夫・妻）」の割合が35.1%と最も高く、次いで「娘」、「介護サービスのヘルパー」の割合が25.2%となっています。

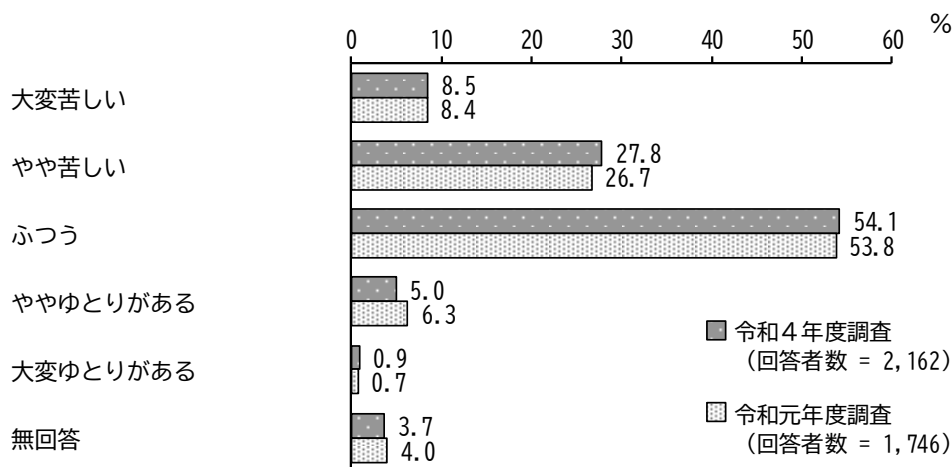
令和元年度調査と比較すると、「息子」「娘」「子の配偶者」の割合が減少しています。



**問10 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○はひとつ)**

「ふつう」の割合が54.1%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が27.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



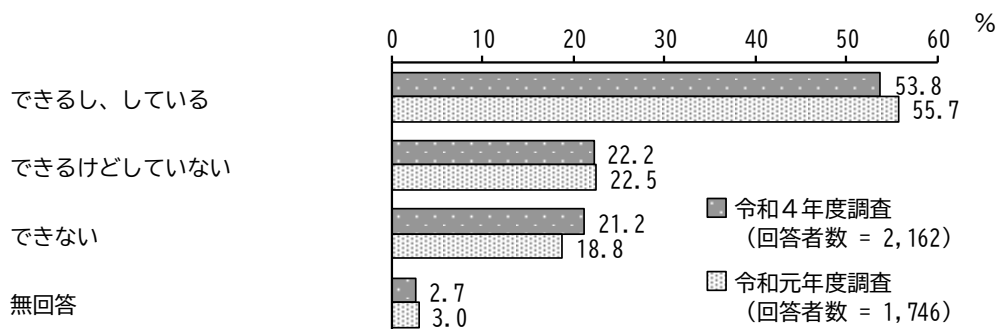
### (3) からだを動かすことについて

#### 問 11 次の事柄についておたずねします。(それぞれ○はひとつ)

##### (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

「できるし、している」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が 22.2%、「できない」の割合が 21.2%となっています。

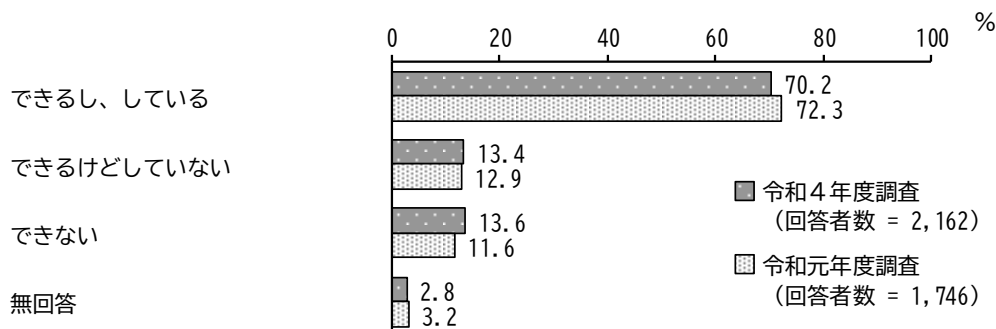
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



##### (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

「できるし、している」の割合が 70.2%と最も高く、次いで「できない」の割合が 13.6%、「できるけどしていない」の割合が 13.4%となっています。

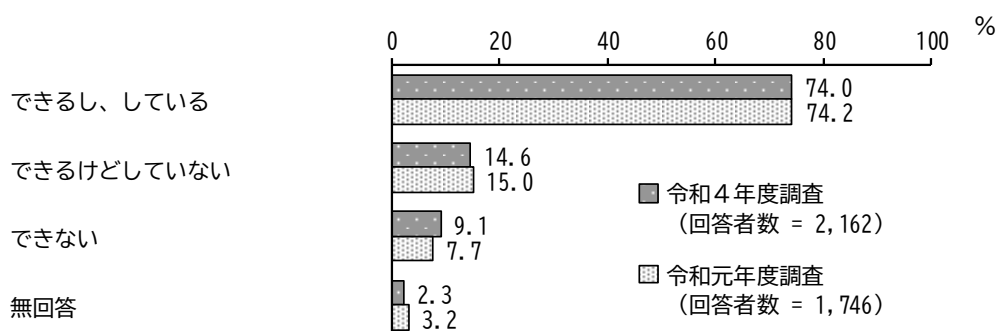
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



##### (3) 15分位続けて歩いていますか。

「できるし、している」の割合が 74.0%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が 14.6%となっています。

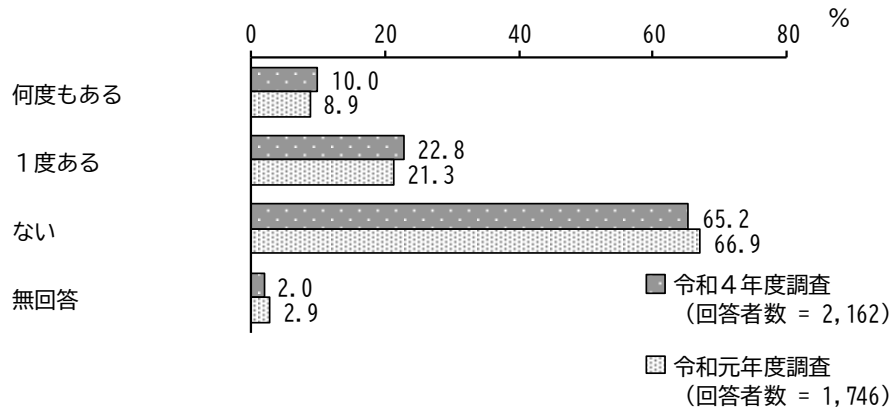
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(4)過去1年間に転んだ経験がありますか。

「ない」の割合が65.2%と最も高く、次いで「1度ある」の割合が22.8%、「何度もある」の割合が10.0%となっています。

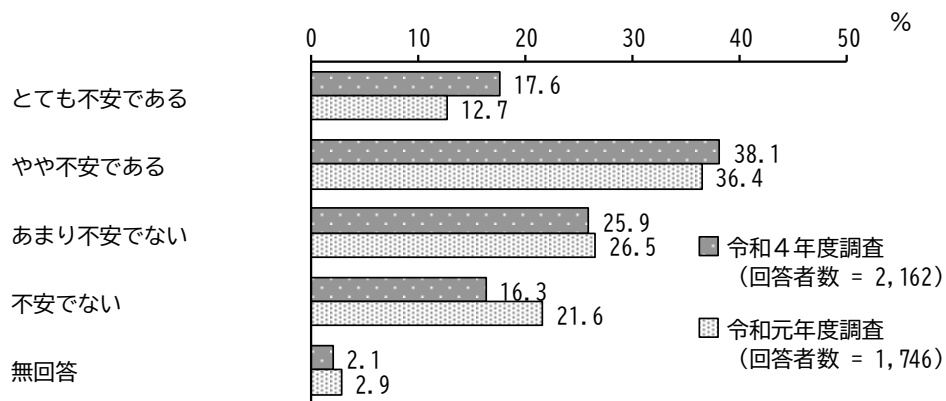
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(5)転倒に対する不安は大きいですか。

「やや不安である」の割合が38.1%と最も高く、次いで「あまり不安でない」の割合が25.9%、「とても不安である」の割合が17.6%となっています。

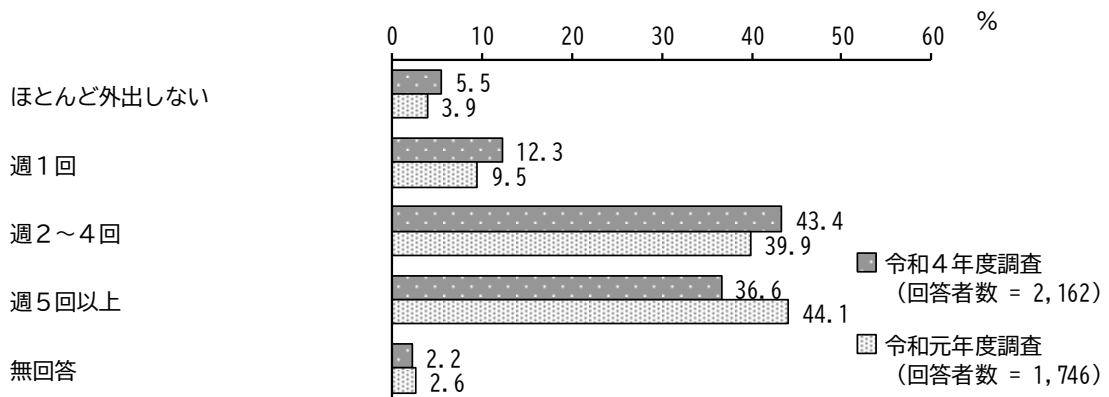
令和元年度調査と比較すると、「不安でない」の割合が減少しています。



(6)週に1回以上は外出していますか。

「週2～4回」の割合が43.4%と最も高く、次いで「週5回以上」の割合が36.6%、「週1回」の割合が12.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「週5回以上」の割合が減少しています。





【地域活動への参加状況別】

地域活動への参加状況別にみると、週一回以上活動に参加しているで「週5回以上」の割合が、週一回未満活動に参加しているで「週2～4回」の割合が高くなっています。

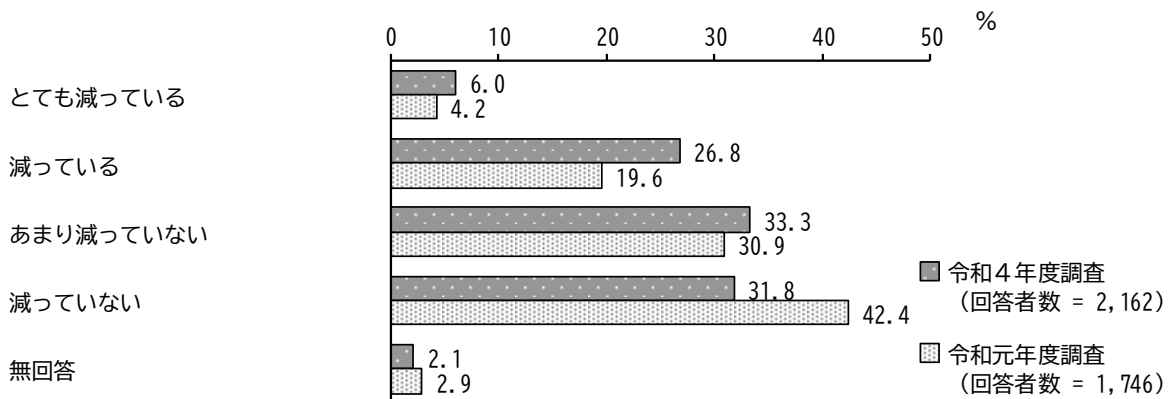
単位：％

区分	回答者数 (件)	ほとんど外出 しない	週1回	週2～4回	週5回以上	無回答
全 体	2162	5.5	12.3	43.4	36.6	2.2
週一回以上活動に参加している	883	0.7	6.1	40.7	51.0	1.6
週一回未満活動に参加している	460	3.9	14.8	50.9	28.9	1.5
全く活動に参加していない	536	12.3	16.6	43.5	25.0	2.6

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

「あまり減っていない」の割合が33.3%と最も高く、次いで「減っていない」の割合が31.8%、「減っている」の割合が26.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「減っている」の割合が増加し、「減っていない」の割合が減少しています。



## 運動器の機能リスク該当者割合の分析

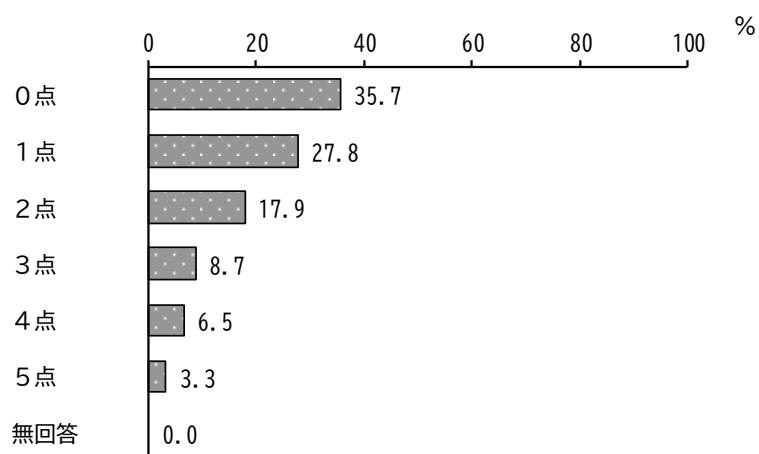
以下の5つの設問のうち、該当する選択肢を回答した場合は1点とし、3点以上であれば運動器機能の低下している高齢者になります。

### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 11 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
問 11 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
問 11 (3)	15分位続けて歩いていますか。	3. できない
問 11 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
問 11 (5)	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

「0点」の割合が35.7%と最も高く、次いで「1点」の割合が27.8%、「2点」の割合が17.9%となっています。

回答者数 = 2,162



## 転倒リスク該当者割合の分析

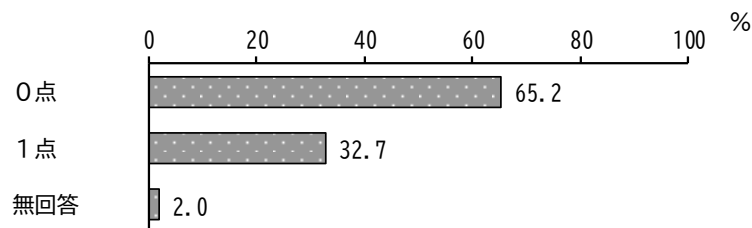
国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する選択肢を回答した場合は1点とし、転倒のリスク該当者と判定しました。

### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 11 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

「0点」の割合が65.2%、「1点」の割合が32.7%となっています。

回答者数 = 2,162



## 閉じこもりリスク該当者割合の分析

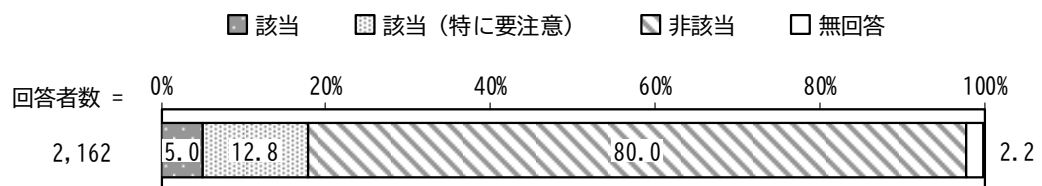
### 【一般高齢者】

問 11 (6) で「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」を回答した場合は、閉じこもり傾向のある高齢者に該当します。そのうち問 11 (7) で「1. とても減っている」「2. 減っている」を回答した場合は、特に要注意に該当します。

### 【判定設問】

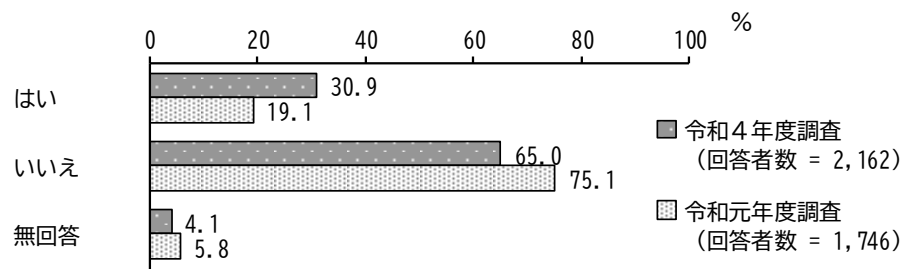
問番号	設問	該当する選択肢
問 11 (6)	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回
問 11 (7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか。	1. とても減っている 2. 減っている

閉じこもりに該当する「ほとんど外出しない」方は17.8%で、うち外出頻度が「とても減っている」「減っている」を選んでいる12.8%の人は「特に要注意」となっています。



問12 外出を控えていますか。(○はひとつ)

「はい」の割合が30.9%、「いいえ」の割合が65.0%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。

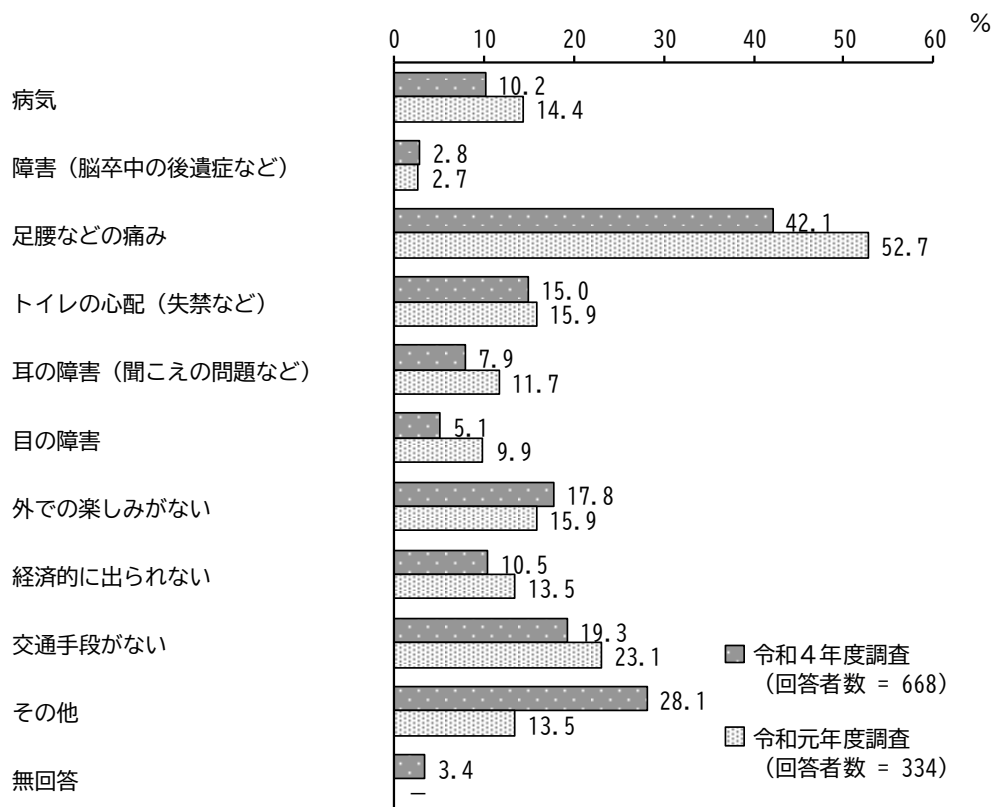


※問 12 で「はい」と回答した人におたずねします。

問 13 外出を控えている理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

「足腰などの痛み」の割合が 42.1%と最も高く、次いで「交通手段がない」の割合が 19.3%、「外での楽しみがない」の割合が 17.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「足腰などの痛み」の割合が減少しています。



【地域活動への参加状況別】

地域活動への参加状況別にみると、全く活動に参加していないで「外での楽しみがない」の割合が高くなっています。

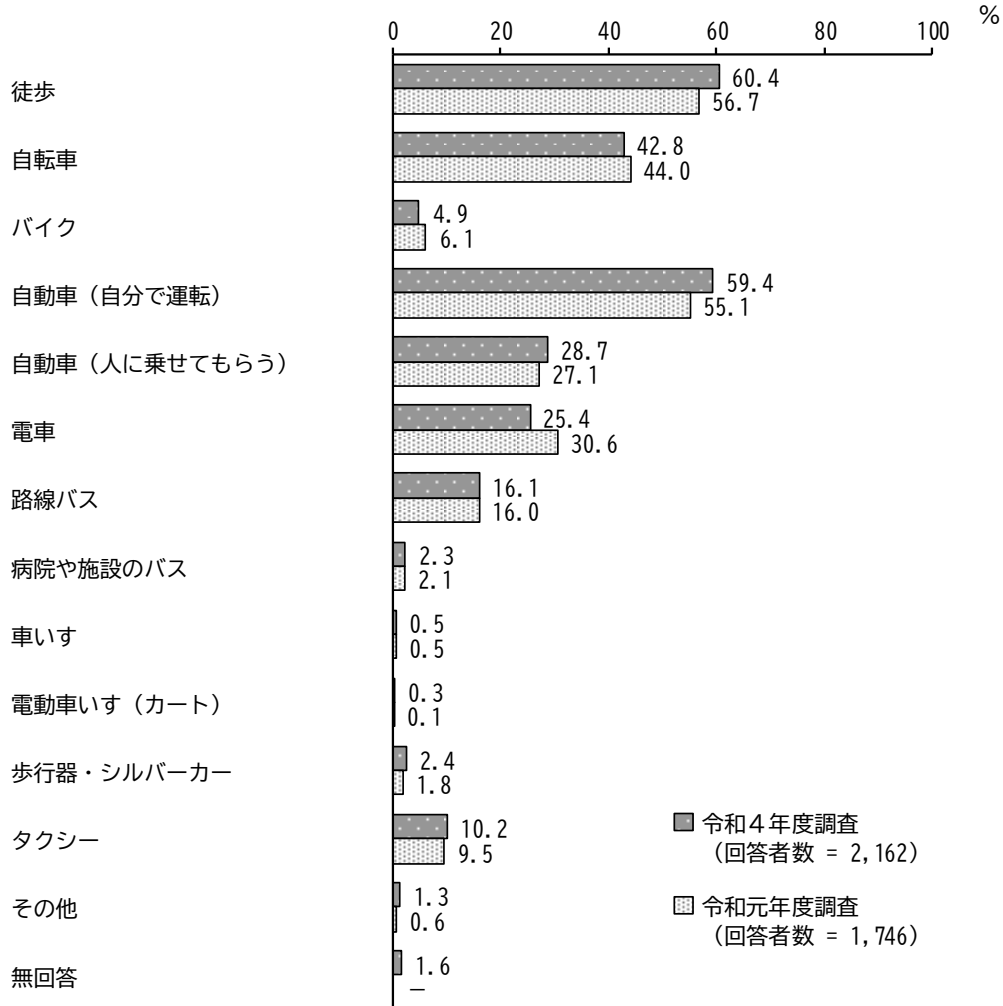
単位：%

区分	回答者数 (件)	病気	障害 (脳卒中の後遺症など)	足腰などの痛み	トイレの心配 (失禁など)	耳の障害 (聞こえの問題など)	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
全体	668	10.2	2.8	42.1	15.0	7.9	5.1	17.8	10.5	19.3	28.1	3.4
週一回以上活動に参加している	155	5.8	1.3	38.1	12.3	6.5	3.2	9.7	7.1	15.5	34.8	7.7
週一回未満活動に参加している	166	9.6	2.4	37.3	15.1	7.8	4.2	16.9	11.4	18.7	34.3	4.2
全く活動に参加していない	231	14.3	5.2	43.7	16.5	7.8	6.9	23.8	12.1	21.6	27.7	1.3

問 14 外出する際の移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「徒歩」の割合が 60.4%と最も高く、次いで「自動車（自分で運転）」の割合が 59.4%、「自転車」の割合が 42.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「電車」の割合が減少しています。



【地区別】

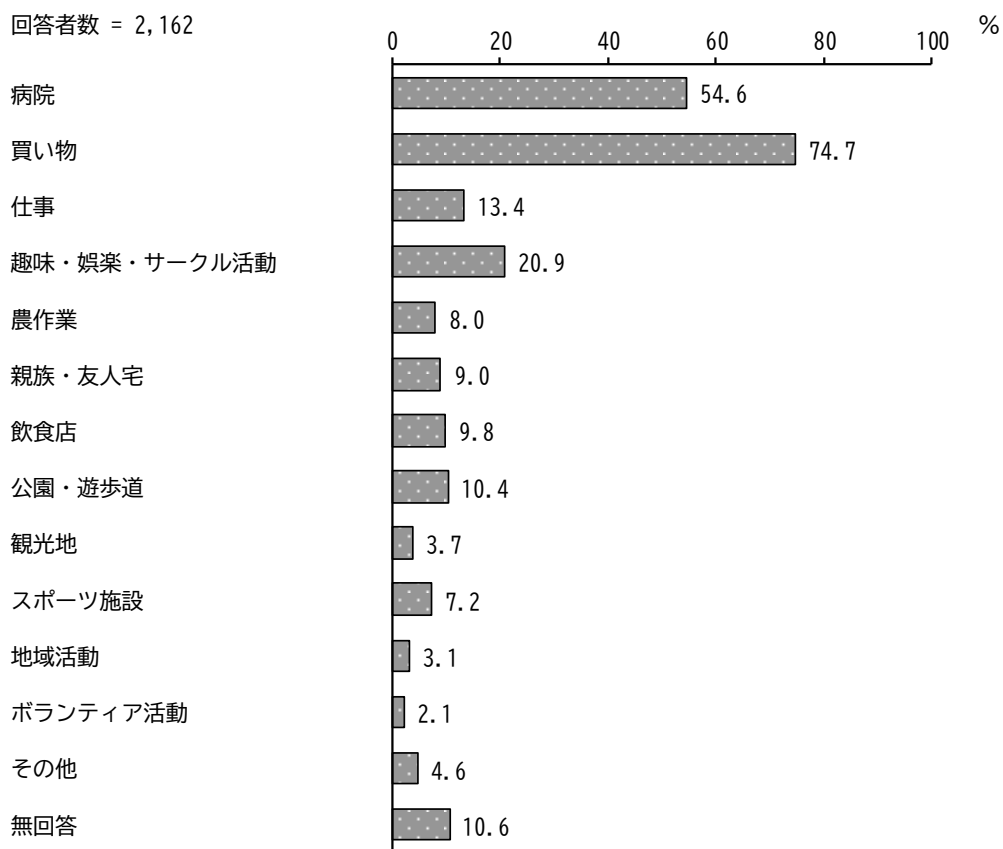
地区別にみると、他に比べ、八幡町で「自動車（自分で運転）」の割合が、上荘町（加古川の東側）で「自動車（自分で運転）」の割合が、尾上町で「路線バス」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カー）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体	2162	60.4	42.8	4.9	59.4	28.7	25.4	16.1	2.3	0.5	0.3	2.4	10.2	1.3	1.6
加古川町	398	66.3	56.5	3.8	59.3	24.6	22.9	11.3	0.8	0.3	0.3	2.8	6.8	1.5	1.3
神野町・新神野・西条山手・山手	179	63.1	29.1	3.9	54.2	34.1	25.1	20.7	2.8	1.7	0.6	5.0	14.0	1.1	1.7
野口町	277	64.6	51.3	5.1	57.0	31.0	24.9	19.1	0.7	0.4	—	1.8	9.4	1.1	0.7
平岡町	394	70.1	46.7	5.1	61.2	26.6	33.0	15.2	2.8	0.3	—	1.0	12.9	0.8	0.3
尾上町	207	59.4	45.9	3.4	54.6	33.3	33.3	32.4	2.9	—	—	2.4	11.1	1.9	1.9
別府町	127	70.1	48.8	2.4	57.5	29.1	29.1	23.6	2.4	0.8	—	2.4	11.8	0.8	1.6
八幡町	38	36.8	13.2	—	84.2	23.7	18.4	—	7.9	2.6	—	2.6	7.9	2.6	5.3
平荘町	42	38.1	11.9	11.9	71.4	28.6	11.9	9.5	2.4	—	2.4	2.4	2.4	—	2.4
上荘町（加古川の西側）	40	32.5	15.0	10.0	70.0	37.5	12.5	7.5	5.0	—	—	2.5	2.5	—	—
上荘町（加古川の東側）	23	34.8	13.0	4.3	82.6	30.4	13.0	8.7	—	—	—	4.3	8.7	—	—
東神吉町	121	56.2	45.5	8.3	60.3	32.2	20.7	9.9	4.1	—	0.8	4.1	11.6	—	3.3
西神吉町	86	37.2	30.2	5.8	60.5	25.6	23.3	9.3	2.3	—	1.2	1.2	10.5	2.3	2.3
米田町	46	63.0	45.7	4.3	52.2	32.6	30.4	13.0	2.2	4.3	—	2.2	13.0	2.2	—
志方町	116	44.8	18.1	8.6	72.4	25.9	12.9	11.2	2.6	—	0.9	1.7	6.0	4.3	0.9
その他	2	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—

問 15 主な外出先はどこですか。(移動手段は問いません。)(○は3つまで)

「買い物」の割合が74.7%と最も高く、次いで「病院」の割合が54.6%、「趣味・娯楽・サークル活動」の割合が20.9%となっています。

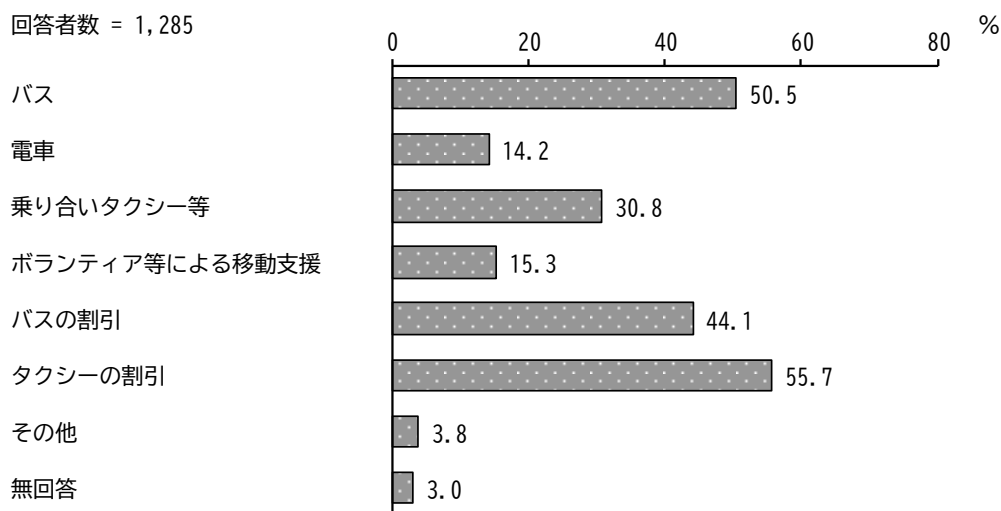




※問 14 で「自動車（自分で運転）」と回答した人におたずねします。

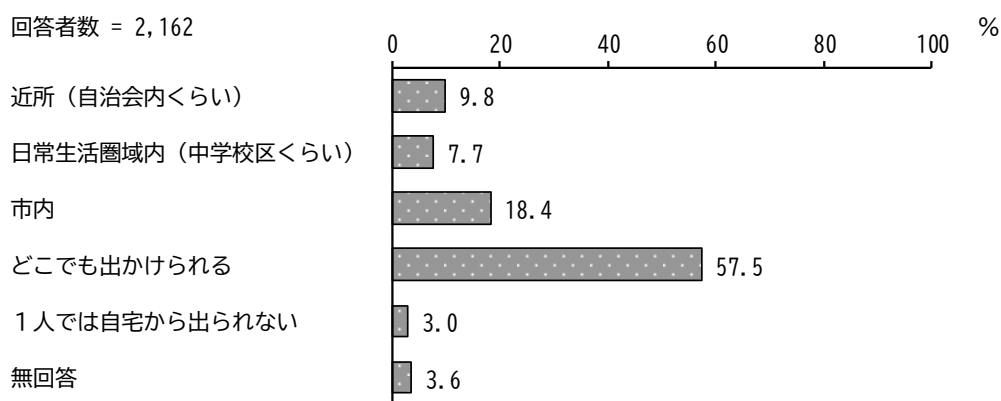
問 16 運転免許を返納した場合に充実してほしい交通施策は何ですか。  
(○は3つまで)

「タクシーの割引」の割合が 55.7%と最も高く、次いで「バス」の割合が 50.5%、「バスの割引」の割合が 44.1%となっています。



問 17 あなたが1人で外出できる範囲はどこまでですか。(移動手段は問いません。)  
(○はひとつ)

「どこでも出かけられる」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「市内」の割合が 18.4%となっています。



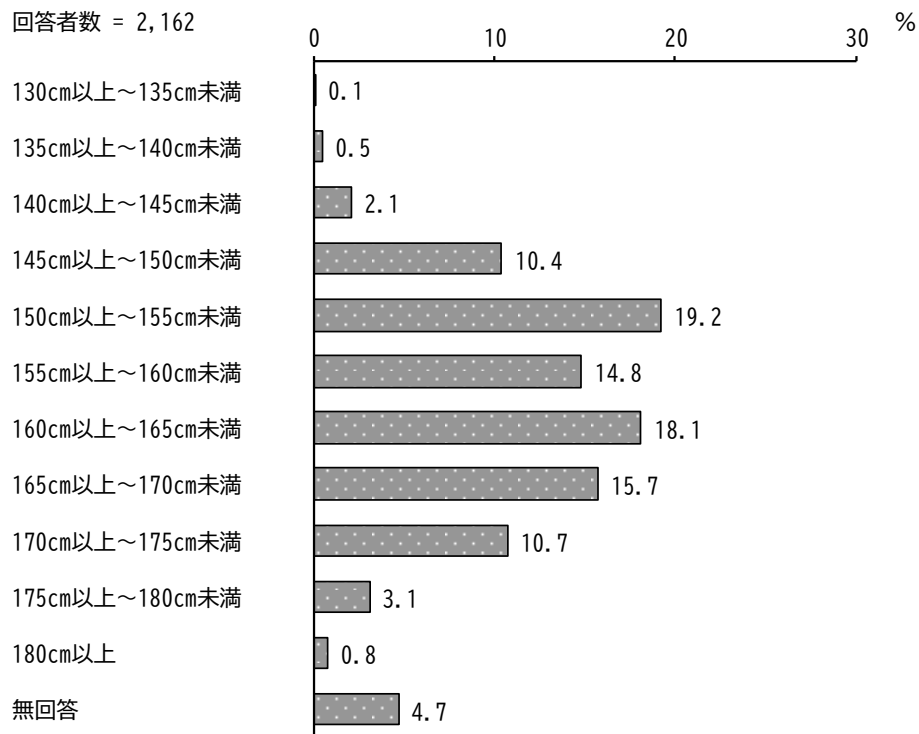
## (4) 食べることについて

問 18 次の事柄についておたずねします。(それぞれ○はひとつ)

### (1) 身長・体重

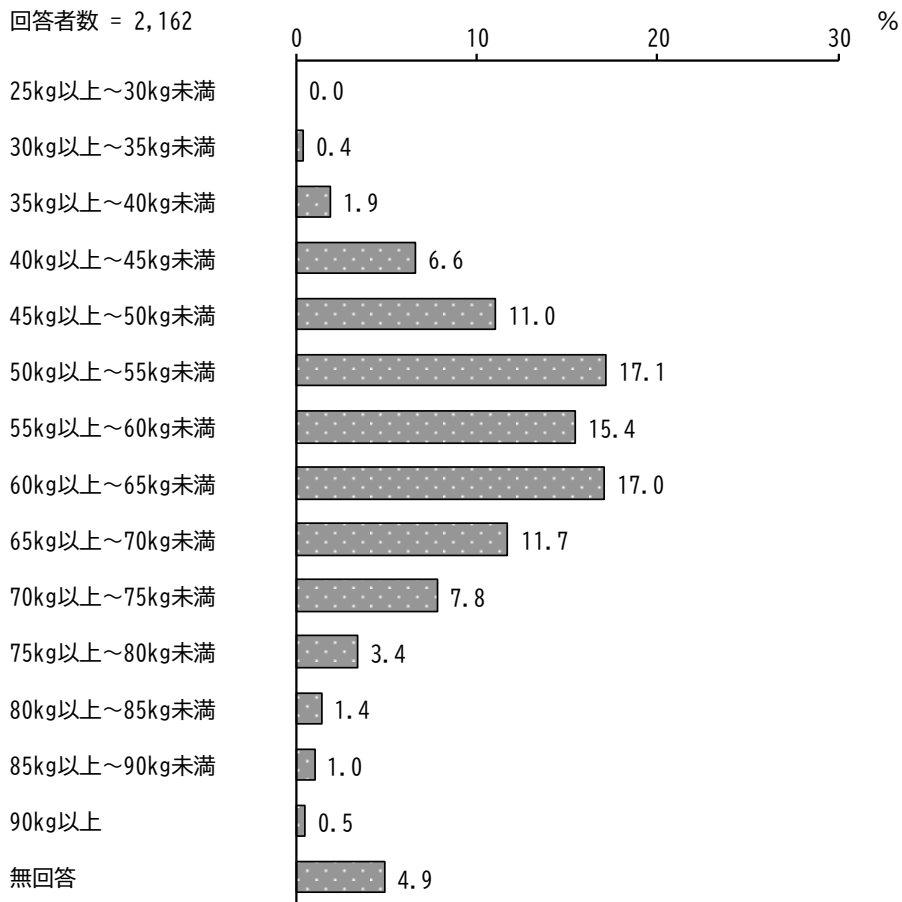
#### ア 身長

「150cm 以上～155cm 未満」の割合が 19.2%と最も高く、次いで「160cm 以上～165cm 未満」の割合が 18.1%、「165cm 以上～170cm 未満」の割合が 15.7%となっています。



## イ 体重

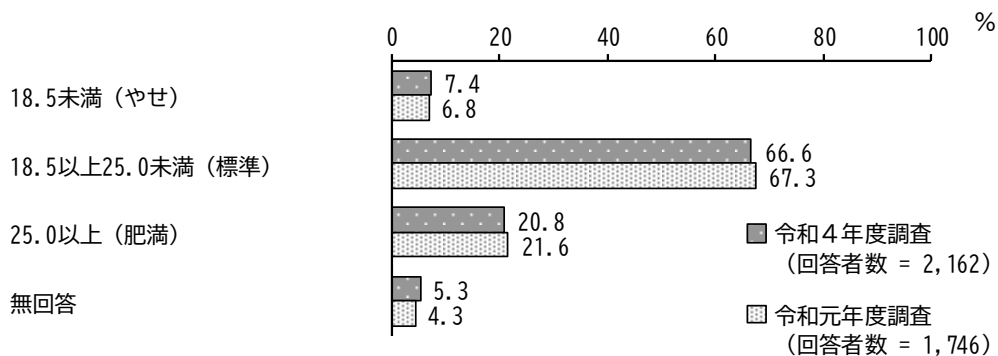
「50kg以上～55kg未満」の割合が17.1%と最も高く、次いで「60kg以上～65kg未満」の割合が17.0%、「55kg以上～60kg未満」の割合が15.4%となっています。



## ウ BMI

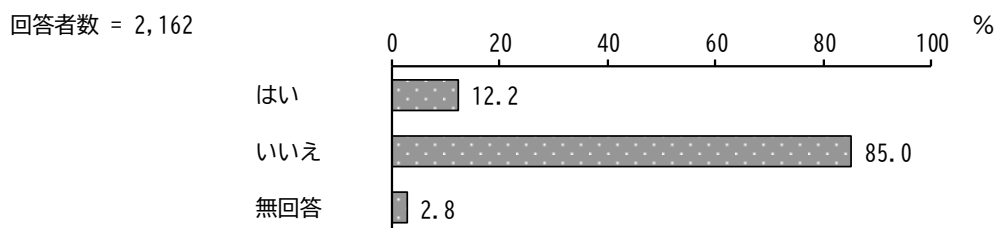
「18.5以上25.0未満（標準）」の割合が66.6%と最も高く、次いで「25.0以上（肥満）」の割合が20.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

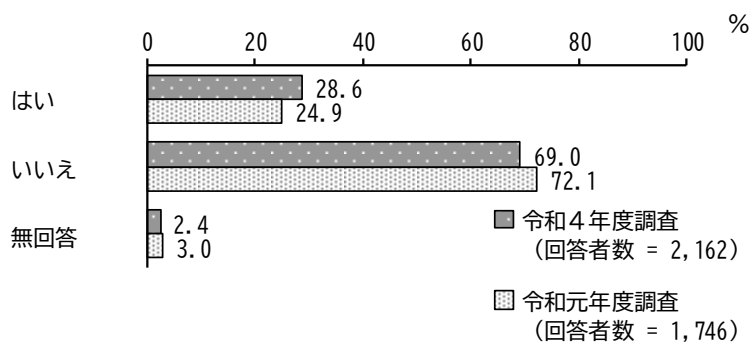
「はい」の割合が12.2%、「いいえ」の割合が85.0%となっています。



(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

「はい」の割合が28.6%、「いいえ」の割合が69.0%となっています。

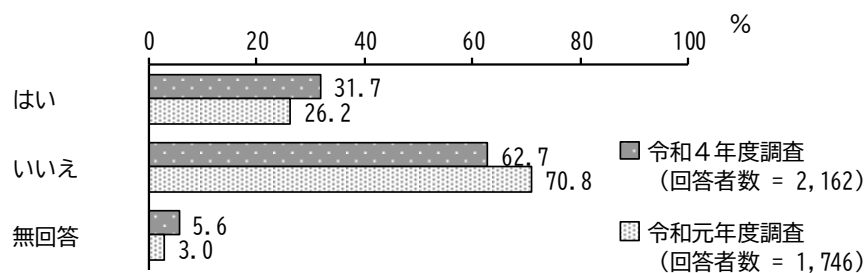
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(4) お茶や汁物などでむせることがありますか。

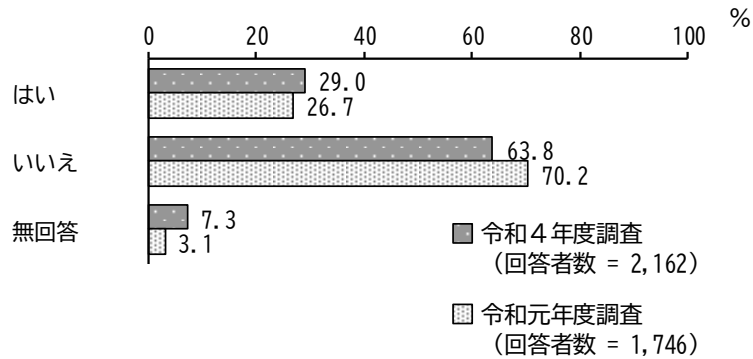
「はい」の割合が31.7%、「いいえ」の割合が62.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。



(5) 口の渇きが気になりますか。

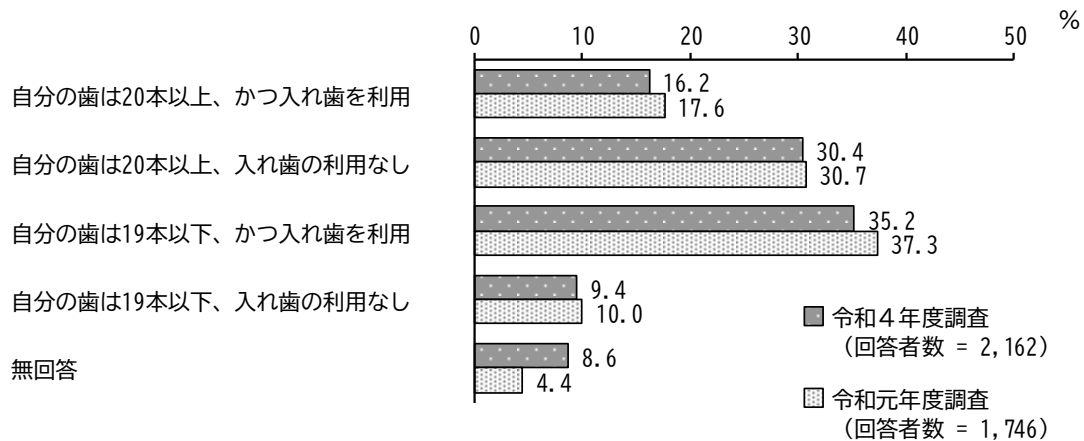
「はい」の割合が29.0%、「いいえ」の割合が63.8%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、「いいえ」の割合が減少しています。



(6) 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

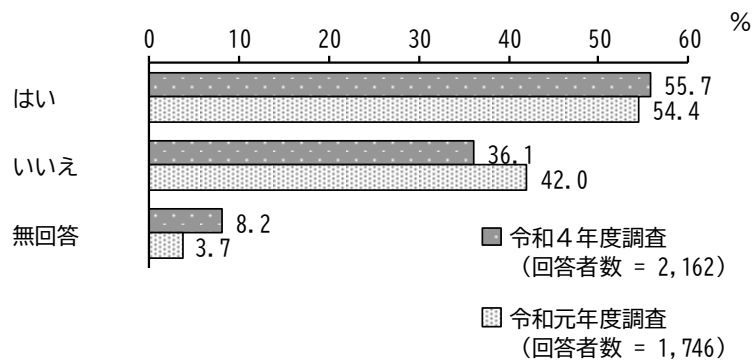
「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が35.2%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が30.4%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」の割合が16.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(7) 定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか。

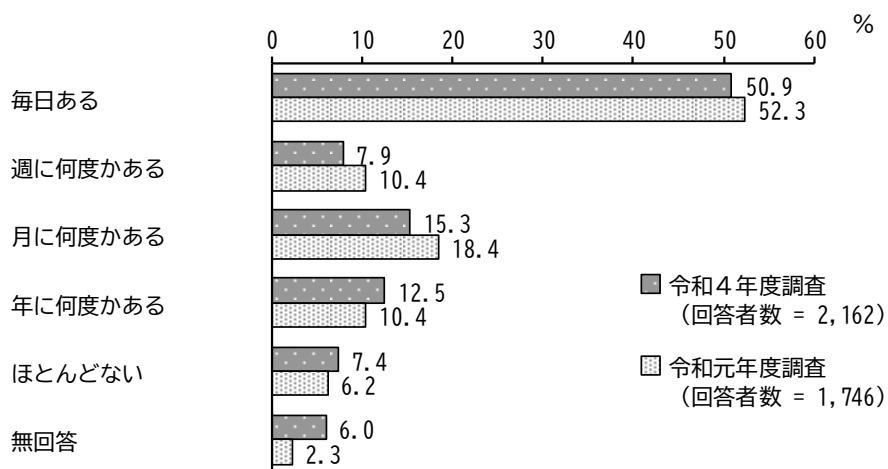
「はい」の割合が55.7%、「いいえ」の割合が36.1%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、「いいえ」の割合が減少しています。



(8) どなたかと食事をとる機会がありますか。

「毎日ある」の割合が50.9%と最も高く、次いで「月に何度かある」の割合が15.3%、「年に何度かある」の割合が12.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



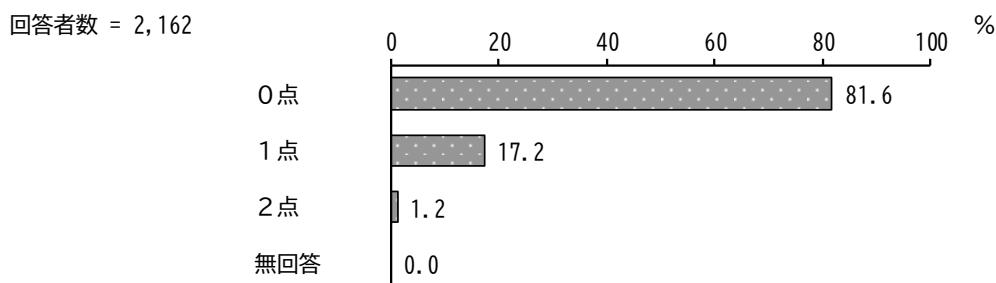
## 低栄養リスク該当者割合の分析

問 18 (1) で身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。問 18 (2) で「1. はい」を回答した場合は、体重の減少傾向があります。この 2 設問ともに該当した場合は、低栄養状態にある高齢者になります。

### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 18 (1)	身長・体重をご記入ください。	BMI 18.5 未満
問 18 (2)	6 か月間で 2 ~ 3 kg 以上の体重減少がありましたか。	1. はい

「0 点」の割合が 81.6% と最も高く、次いで「1 点」の割合が 17.2% となっています。



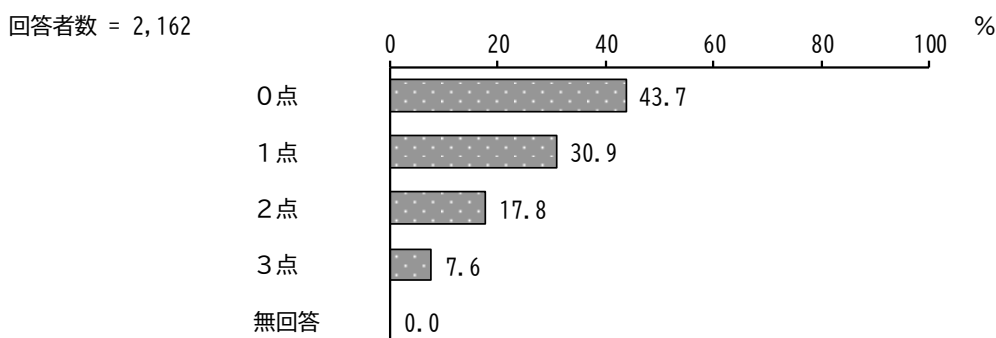
## 口腔機能リスク該当者割合の分析

問 18 (3) で「1. はい」を回答した場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります。問 18 (4) (5) で「1. はい」を回答した場合は、嚥下機能の低下が疑われる高齢者になります。この 3 つの設問のうち 2 設問に該当した場合は、口腔機能の低下している高齢者になります。

### 【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 18 (3)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
問 18 (4)	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
問 18 (5)	口の渇きが気になりますか。	1. はい

「0 点」の割合が 43.7% と最も高く、次いで「1 点」の割合が 30.9%、「2 点」の割合が 17.8% となっています。

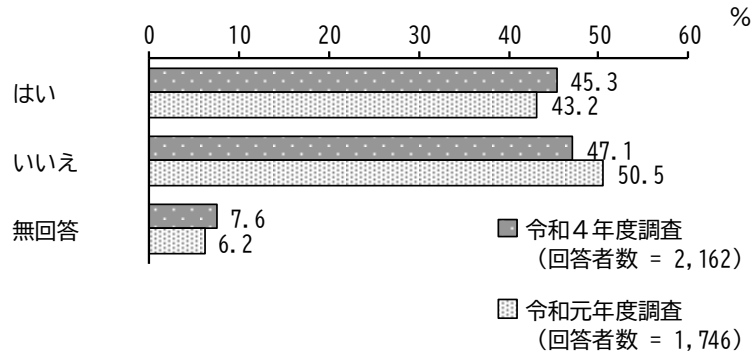


## (5) 日常の生活について

### 問 19 次の事柄についておたずねします。(それぞれ○はひとつ)

#### (1) 物忘れが多いと感じますか。

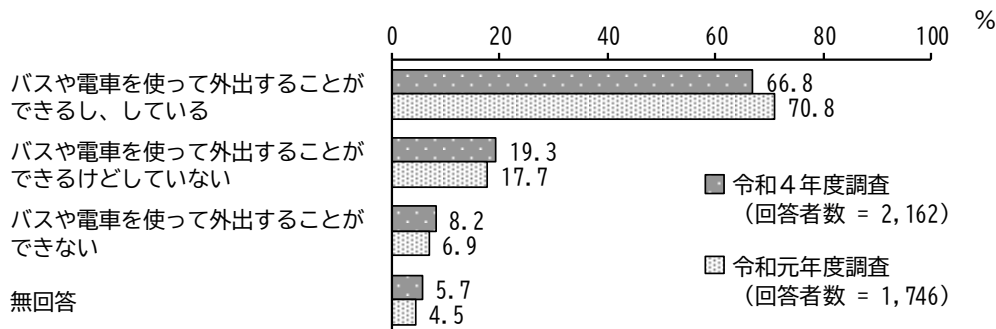
「はい」の割合が45.3%、「いいえ」の割合が47.1%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



#### (2) バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)

「できるし、している」の割合が66.8%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が19.3%となっています。

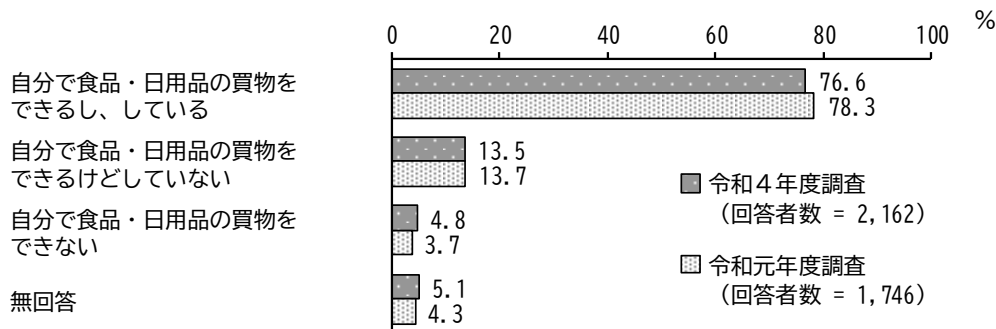
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



#### (3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。

「できるし、している」の割合が76.6%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が13.5%となっています。

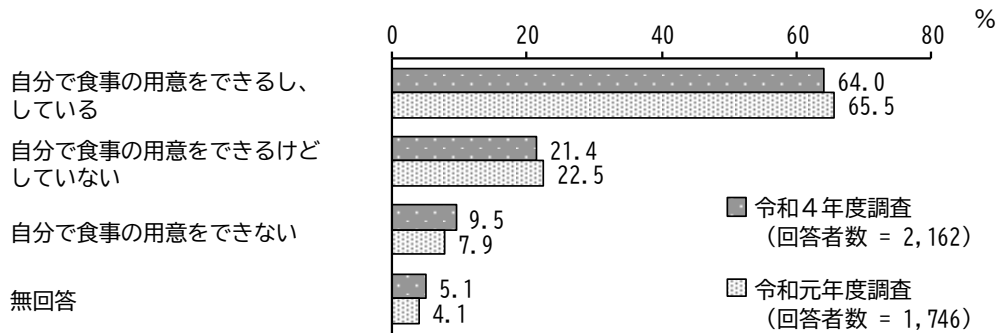
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。





**(4) 自分で食事の用意をしていますか。**

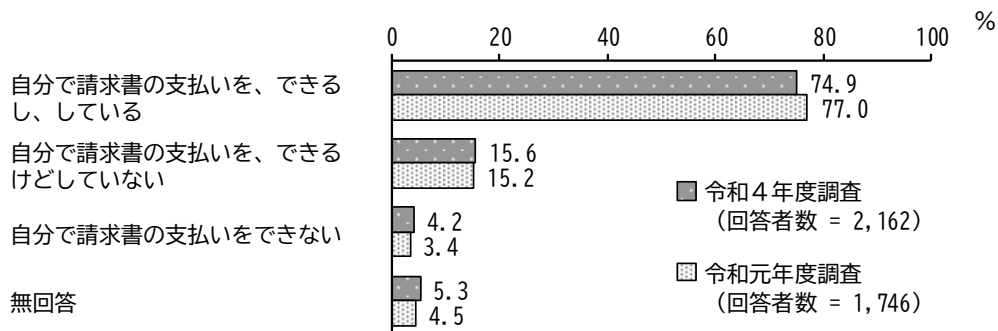
「できるし、している」の割合が64.0%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が21.4%となっています。



**(5) 自分で請求書の支払いをしていますか。**

「できるし、している」の割合が74.9%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が15.6%となっています。

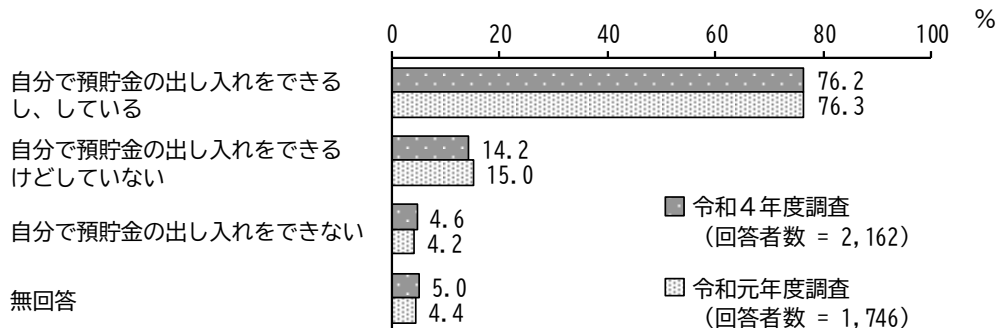
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



**(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。**

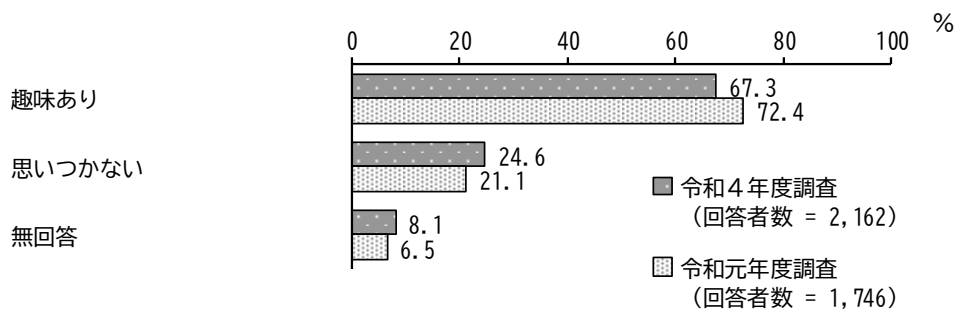
「できるし、している」の割合が76.2%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が14.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(7) 趣味はありますか。

「趣味あり」の割合が67.3%、「思いつかない」の割合が24.6%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、「趣味あり」の割合が減少しています。



【趣味の有無と幸福度】

趣味の有無と幸福度の関係を見ると、趣味がある人の幸福度が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	4点未満	7点未満 4点以上	7点以上	無回答
趣味あり	1455	2.4	27.1	67.4	3.1
思いつかない	531	5.1	42.6	48.0	4.3

【趣味の有無別にみた地域活動への参加状況】

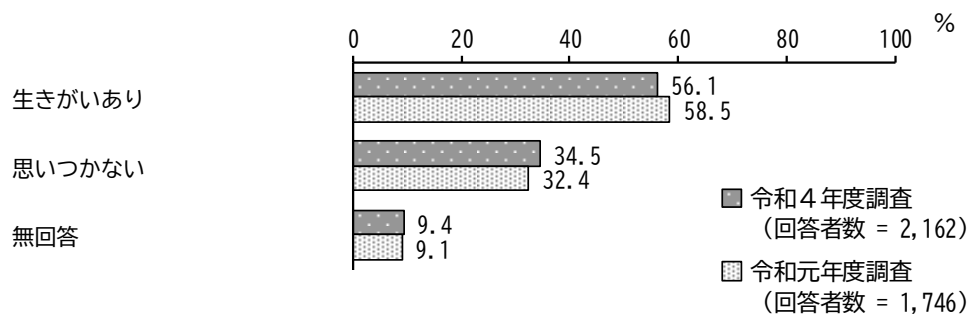
地域活動への参加状況を見ると、趣味がある人の活動へ参加する割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	週一回以上活動に 参加している	週一回未満活動に 参加している	全く活動に参加 していない	無回答
趣味あり	1455	47.5	22.9	19.8	9.8
思いつかない	531	25.6	16.8	39.7	17.9

(8) 生きがいがありますか。

「生きがいあり」の割合が56.1%、「思いつかない」の割合が34.5%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【生きがいの有無と幸福度】

生きがいの有無と幸福度の関係を見ると、生きがいがある人の幸福度が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	4点未満	7点未満 4点以上	7点以上	無回答
生きがいあり	1212	1.5	21.7	73.7	3.1
思いつかない	746	6.2	46.9	42.8	4.2

【生きがいの有無別にみた地域活動への参加状況】

生きがいの有無別に地域活動への参加状況を見ると、生きがいがある人で活動への参加する割合が高くなっています。

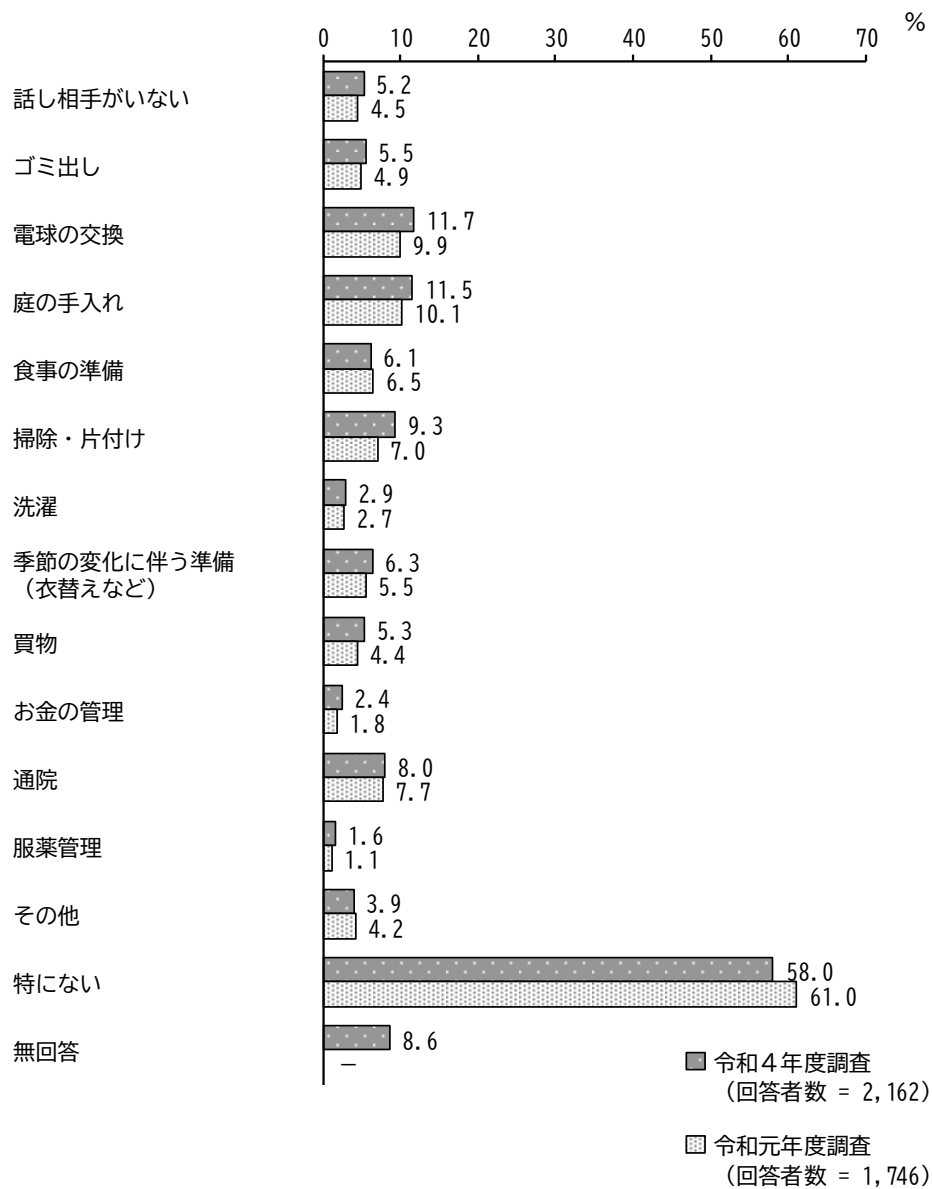
単位：%

区分	回答者数 (件)	週一回以上活動に 参加している	週一回未満活動に 参加している	全く活動に参加 していない	無回答
生きがいあり	1212	49.6	21.0	18.6	10.8
思いつかない	746	28.0	21.6	35.8	14.6

問 20 現在の生活で困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

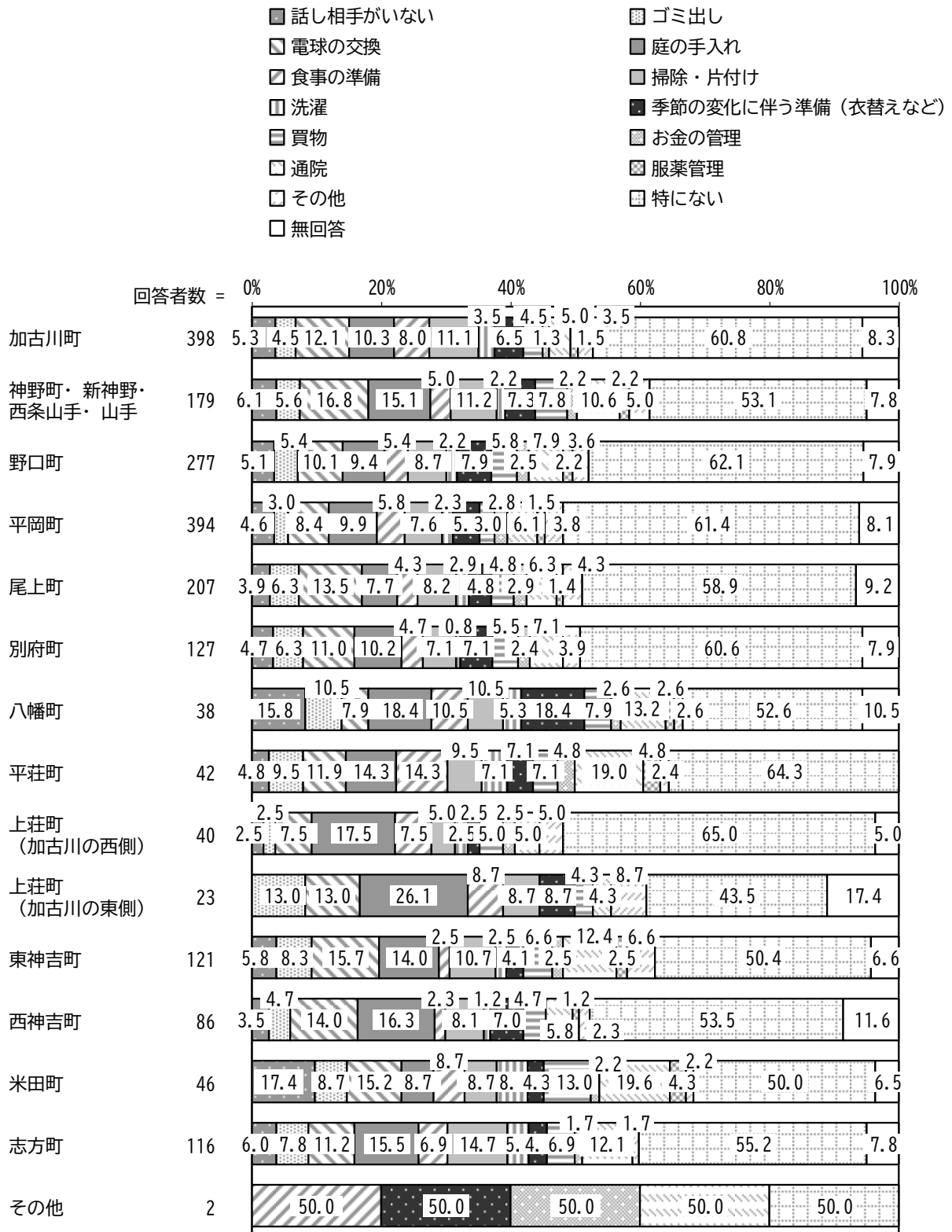
「特にない」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「電球の交換」の割合が 11.7%、「庭の手入れ」の割合が 11.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【現在困っていることと地区】

地区別に高い困りごとにみると、他に比べ、上荘町（加古川の東側）、八幡町、上荘町（加古川の西側）で「庭の手入れ」の割合が高くなっています。



【現在困っていることと家族構成】

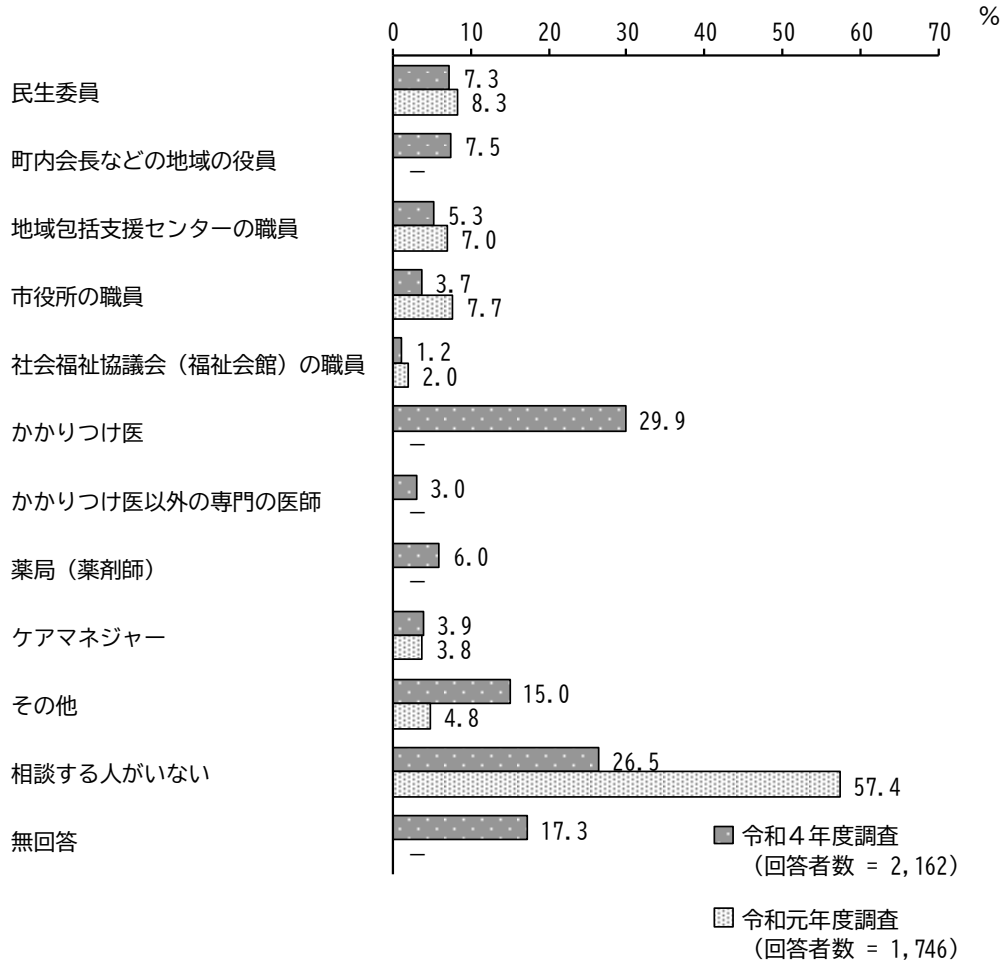
生活で困っていることと家族構成の関連をみると、“話し相手がない”で「1人暮らし」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答
話し相手がない	113	41.6	23.0	3.5	15.9	15.0	0.9
ゴミ出し	119	26.9	45.4	1.7	10.9	11.8	3.4
電球の交換	253	34.4	36.0	0.8	11.9	13.0	4.0
庭の手入れ	248	27.4	35.9	1.2	15.3	16.5	3.6
食事の準備	132	27.3	42.4	0.8	13.6	9.8	6.1
掃除・片付け	202	25.2	37.6	3.0	16.8	13.4	4.0
洗濯	62	25.8	38.7	1.6	17.7	11.3	4.8
季節の変化に伴う準備(衣替えなど)	137	17.5	45.3	1.5	19.7	13.9	2.2
買物	115	20.0	45.2	1.7	15.7	14.8	2.6
お金の管理	51	19.6	45.1	2.0	13.7	7.8	11.8
通院	173	19.1	42.8	2.3	17.3	14.5	4.0
服薬管理	35	22.9	42.9	5.7	14.3	8.6	5.7
その他	84	31.0	28.6	4.8	13.1	17.9	4.8
特になし	1255	11.3	54.1	3.6	12.8	15.8	2.4

問 21 困ったときに、家族や友人以外で相談する相手を教えてください。  
(あてはまるものすべてに○)

「かかりつけ医」の割合が 29.9%と最も高く、次いで「相談する人がいない」の割合が 26.5%となっています。



※「町内会長などの地域の役員」「かかりつけ医」「かかりつけ医以外の専門の医師」「薬局（薬剤師）」の選択肢は、令和4年度調査で追加されたものです。

【地域活動への参加状況別】

地域活動への参加状況別にみると、全く活動に参加していないで「相談する人がいない」の割合が高くなっています。

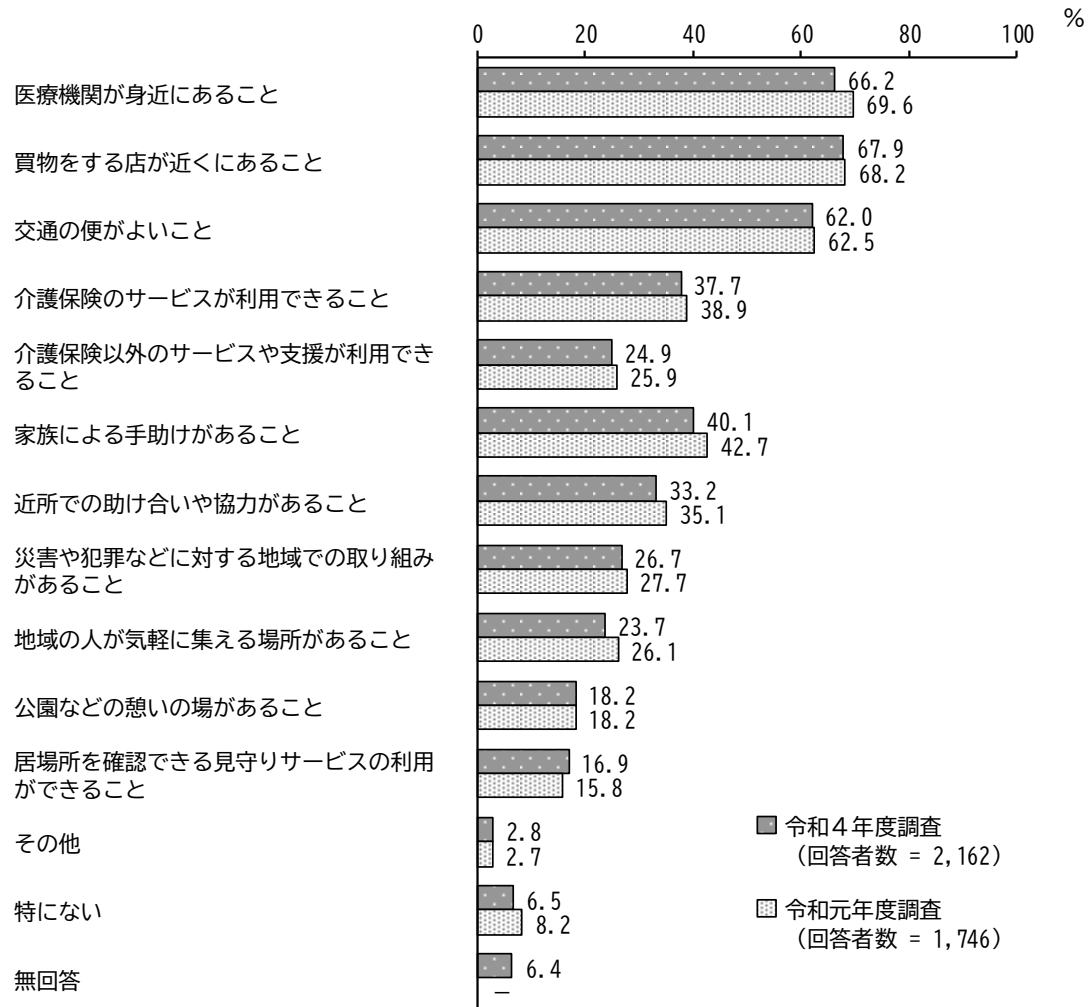
単位：%

区分	回答者数(件)	民生委員	町内会長などの地域の役員	地域包括支援センターの職員	市役所の職員	社会福祉協議会(福祉会館)の職員	かかりつけ医	かかりつけ医以外の専門の医師	薬局(薬剤師)	ケアマネジャー	その他	相談する人がいない	無回答
全 体	2162	7.3	7.5	5.3	3.7	1.2	29.9	3.0	6.0	3.9	15.0	26.5	17.3
週一回以上活動に参加している	883	7.5	8.4	5.4	2.9	1.0	31.9	2.5	5.7	1.7	17.1	24.1	16.0
週一回未満活動に参加している	460	7.0	13.3	5.2	4.3	1.5	33.7	5.2	7.8	2.8	15.7	25.7	14.8
全く活動に参加していない	536	6.3	3.2	5.0	3.7	1.1	26.7	1.9	4.7	7.5	12.9	35.8	14.7



問 22 今後も自分の希望する場所で暮らしていくためには何が必要だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

「買物をする店が近くにあること」の割合が67.9%と最も高く、次いで「医療機関が身近にあること」の割合が66.2%、「交通の便がよいこと」の割合が62.0%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



## (6) 地域での活動について

問 23 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

※①～⑧それぞれに回答してください。(○はひとつ)

『③趣味関係のグループ』で「月1～3回」の割合が、『⑦町内会・自治会』で「年に数回」の割合が高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、『⑦町内会・自治会』で「参加していない」の割合が増加し、「年に数回」の割合が減少しています。

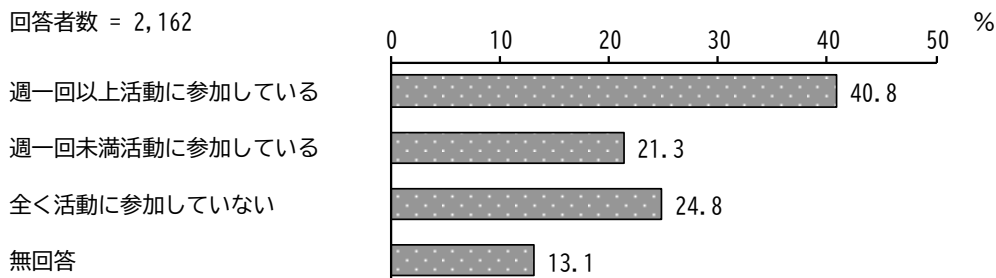
単位：％

区分	回答者数 (件)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	2162	0.4	0.9	1.1	3.3	4.0	61.7	28.7
②スポーツ関係のグループやクラブ	2162	3.6	7.1	5.2	3.4	1.9	54.7	24.1
③趣味関係のグループ	2162	1.8	4.3	5.4	10.6	3.1	51.5	23.3
④学習・教養サークル	2162	0.3	1.3	1.6	4.0	1.7	62.2	28.9
⑤いきいき百歳体操やサロンなど 介護予防のための通いの場	2162	1.0	0.6	4.7	2.0	1.1	64.7	25.9
⑥老人クラブ	2162	0.2	1.0	0.5	1.9	4.4	63.7	28.3
⑦町内会・自治会	2162	0.5	0.6	0.5	4.6	18.7	47.6	27.5
⑧収入のある仕事	2162	8.3	6.0	0.9	1.3	1.6	54.9	27.0

### ①～⑧の地域活動への参加状況まとめ

①～⑧の地域活動への参加状況を総合すると、「週一回以上活動に参加している」の割合が40.8%と最も高く、次いで「全く活動に参加していない」の割合が24.8%、「週一回未満活動に参加している」の割合が21.3%となっています。

回答者数 = 2,162



【幸福度別】

幸福度別にみると、4点未満で「全く活動に参加していない」の割合が、7点以上で「週一回以上活動に参加している」の割合が高くなっています。

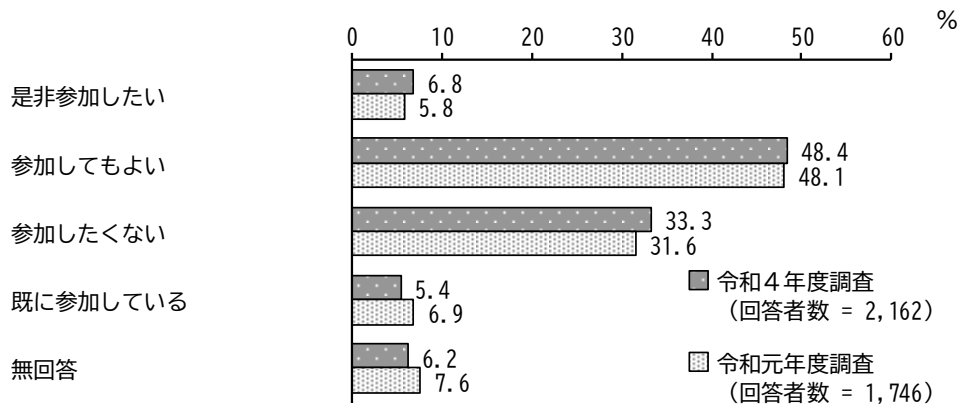
単位：％

区分	回答者数(件)	週一回以上活動に参加している	週一回未満活動に参加している	全く活動に参加していない	無回答
全体	2162	40.8	21.3	24.8	13.1
4点未満	74	17.6	14.9	50.0	17.6
4点以上～7点未満	673	34.0	23.5	28.8	13.7
7点以上	1324	47.1	20.8	21.1	11.0

問 24 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(○はひとつ)

「参加してもよい」の割合が48.4%と最も高く、次いで「参加したくない」の割合が33.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【地域活動への参加者としての参加意向と現在の参加状況】

地域づくり活動への参加意向と、現在の地域活動への参加状況の関連をみると、参加したくない人で「全く活動に参加していない」の割合が高くなっています。

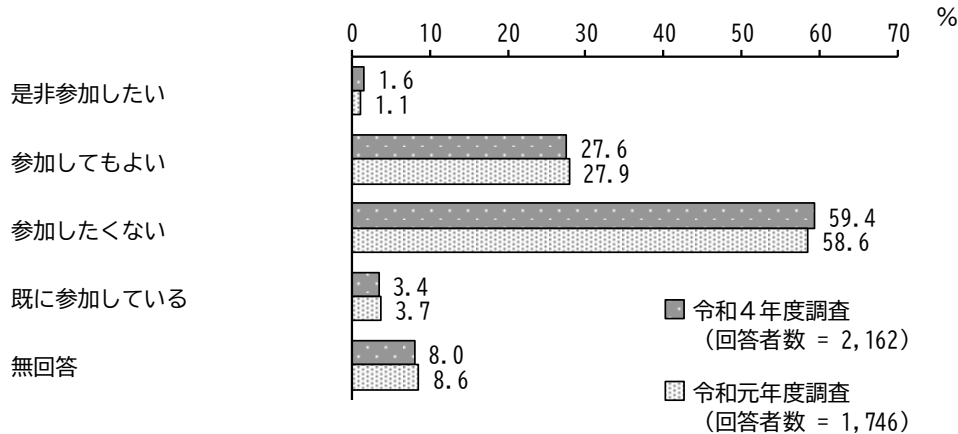
単位：%

区分	現在の参加状況					
	回答者数(件)	週一回以上活動に参加している	週一回未満活動に参加している	全く活動に参加していない	無回答	
参加意向	是非参加したい	146	62.3	18.5	14.4	4.8
	参加してもよい	1046	48.8	26.7	16.6	7.9
	参加したくない	720	23.3	17.4	45.3	14.0
	既に参加している	116	81.9	15.5	—	2.6

問 25 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（○はひとつ）

「参加したくない」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が 27.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【地域活動への企画・運営者としての参加意向と現在の参加状況】

地域づくり活動への企画・運営者としての参加意向と、現在の地域活動への参加状況の関連をみると、参加したくない人で「全く活動に参加していない」の割合が高くなっています。

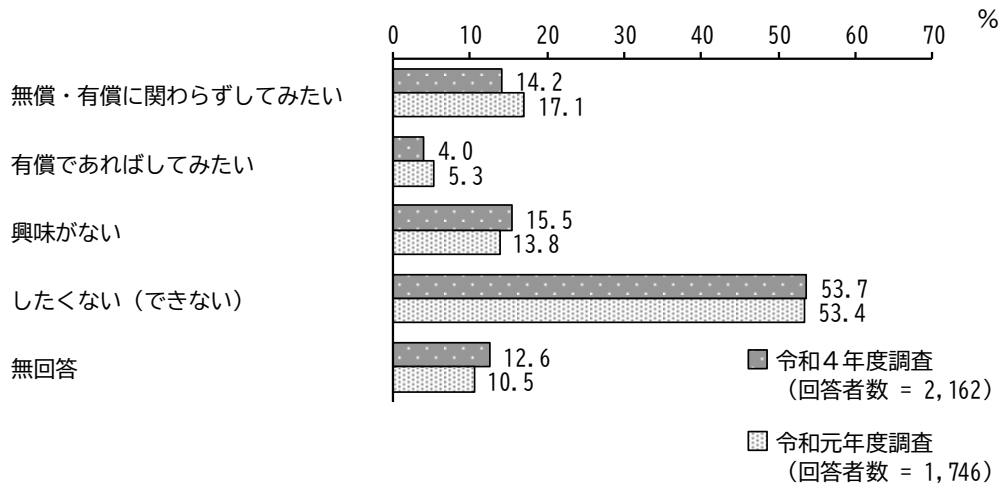
単位：%

区分		現在の参加状況				
		回答者数 (件)	週一回以上活動に 参加している	週一回未満活動に 参加している	全く活動に参加 していない	無回答
参加意向	是非参加したい	34	58.8	29.4	5.9	5.9
	参加してもよい	596	56.2	24.3	13.8	5.7
	参加したくない	1285	33.3	21.7	33.9	11.1
	既に参加している	73	83.6	13.7	—	2.7

問 26 見守りや介護が必要な人に対してボランティア活動などをしてみたいと思いますか。(○はひとつ)

「したくない(できない)」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「興味がない」の割合が 15.5%、「無償・有償に関わらずしてみたい」の割合が 14.2%となっています。

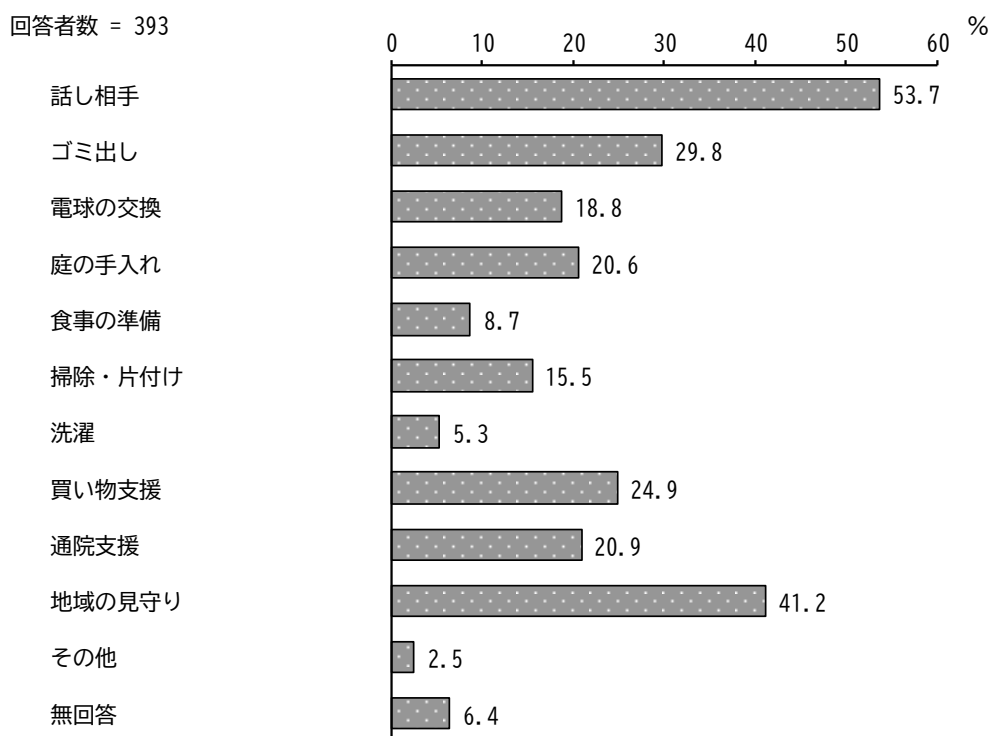
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※問 26 で「無償・有償に関わらずしてみたい」「有償であればしてみたい」と回答した人におたずねします。

問 27 どのようなことであればボランティア活動などをしてみたいと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「話し相手」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「地域の見守り」の割合が 41.2%、「ゴミ出し」の割合が 29.8%となっています。



【地域活動への参加状況別】

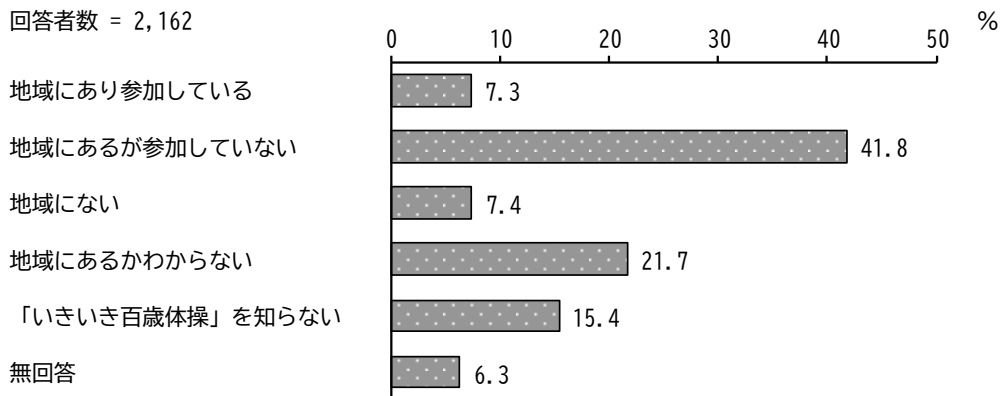
地域活動への参加状況別にみると、週一回未満活動に参加しているで「話し相手」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	話し相手	ゴミ出し	電球の交換	庭の手入れ	食事の準備	掃除・片付け	洗濯	買い物支援	通院支援	地域の見守り	その他	無回答
週一回以上活動に参加している	234	51.3	30.8	19.7	21.8	7.7	14.5	3.4	24.4	21.8	44.9	3.0	4.7
週一回未満活動に参加している	97	58.8	28.9	19.6	16.5	11.3	15.5	5.2	25.8	20.6	42.3	3.1	6.2
全く活動に参加していない	49	55.1	28.6	14.3	24.5	8.2	20.4	12.2	26.5	20.4	24.5	—	14.3

問 28 お住まいの地域にいきいき百歳体操を実施している会場はありますか。  
(○はひとつ)

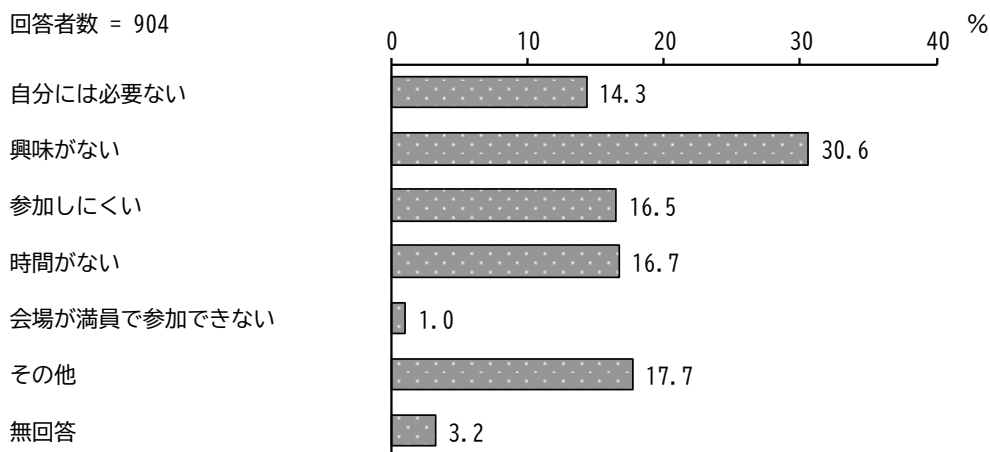
「地域にあるが参加していない」の割合が41.8%と最も高く、次いで「地域にあるかわからない」の割合が21.7%、「いきいき百歳体操」を知らない」の割合が15.4%となっています。



※問 28 で「地域にあるが参加していない」と回答した人におたずねします。

問 29 参加していない理由は、次のどれですか。(○はひとつ)

「興味がない」の割合が30.6%と最も高く、次いで「時間がない」の割合が16.7%、「参加しにくい」の割合が16.5%となっています。

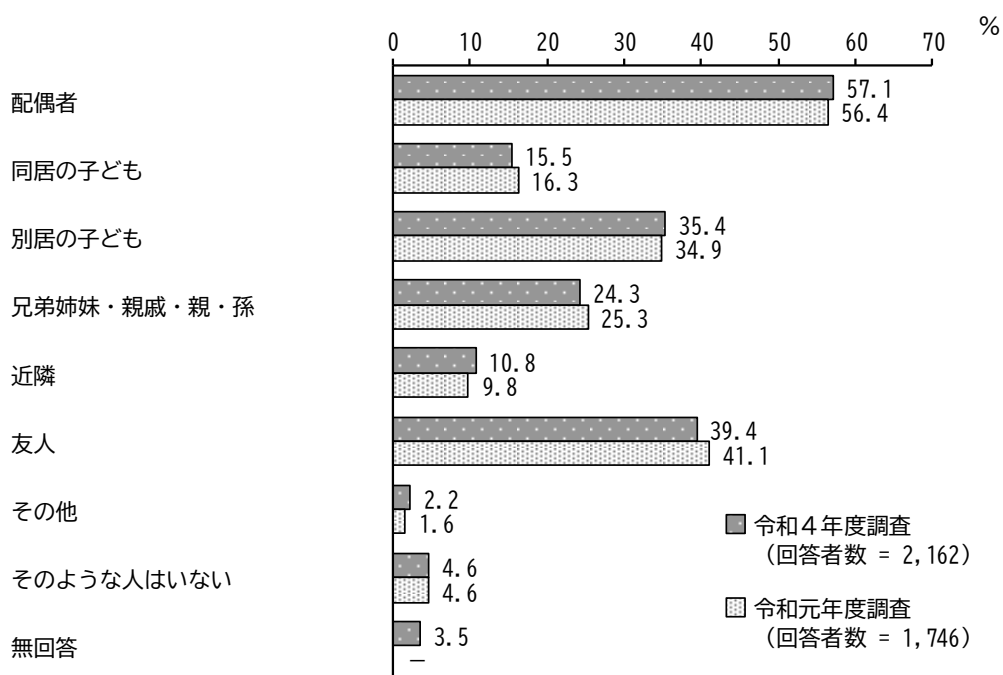


## (7) たすけあいについて

問 30 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はどなたですか。  
（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」の割合が57.1%と最も高く、次いで「友人」の割合が39.4%、「別居の子ども」の割合が35.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

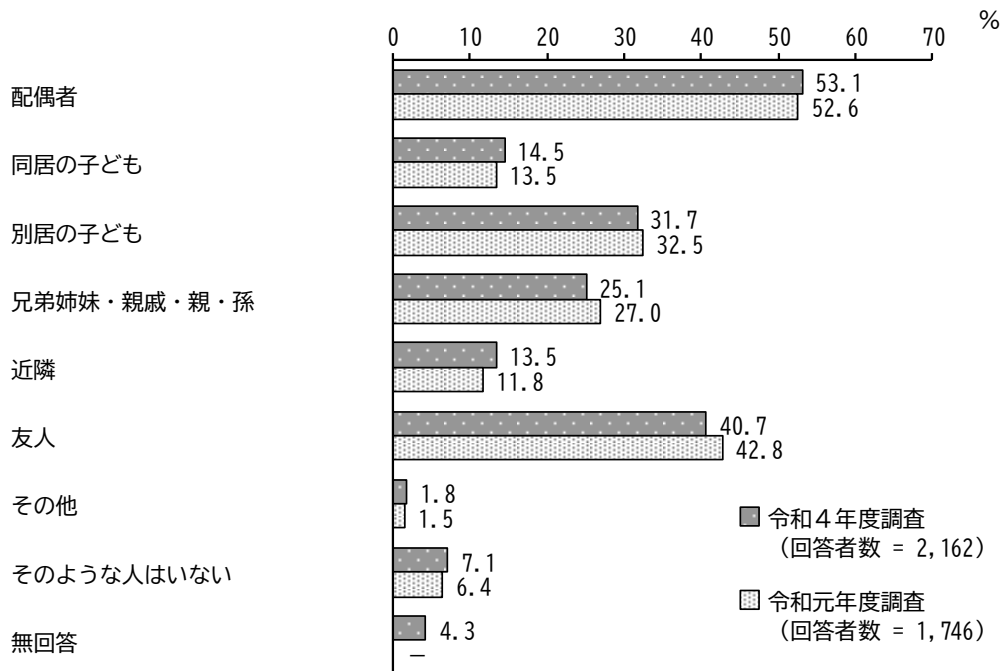




問 31 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はどなたですか。  
（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」の割合が53.1%と最も高く、次いで「友人」の割合が40.7%、「別居の子ども」の割合が31.7%となっています。

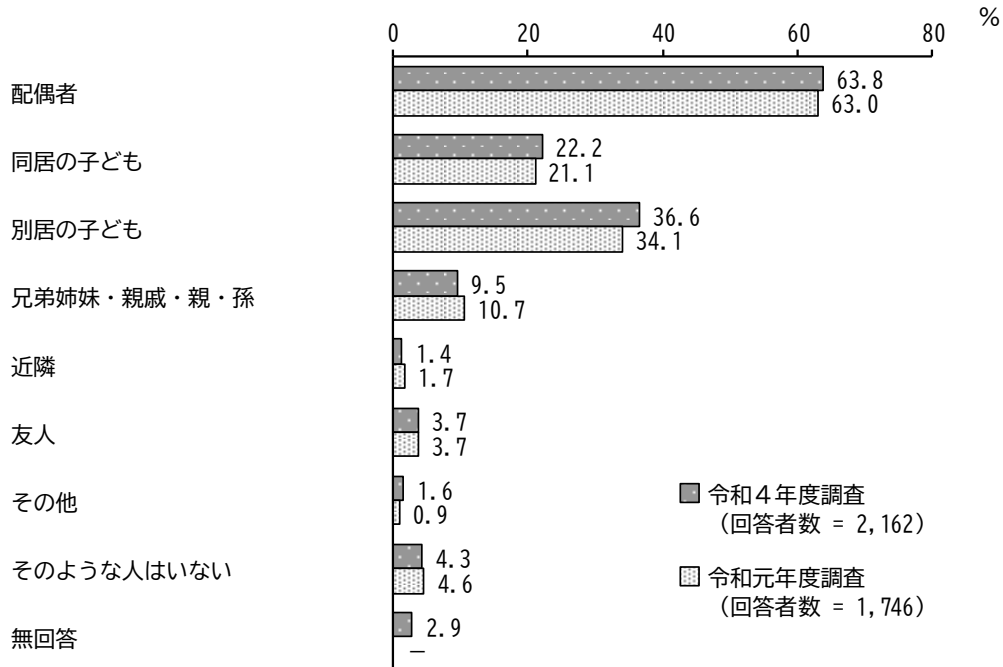
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 32 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者」の割合が63.8%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が36.6%、「同居の子ども」の割合が22.2%となっています。

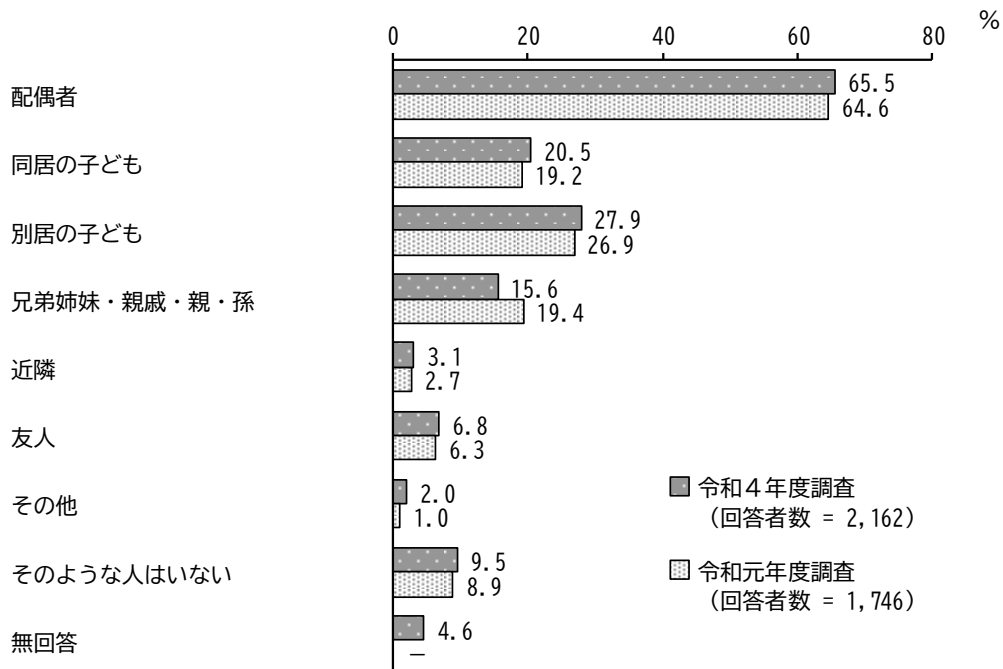
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 33 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者」の割合が65.5%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が27.9%、「同居の子ども」の割合が20.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

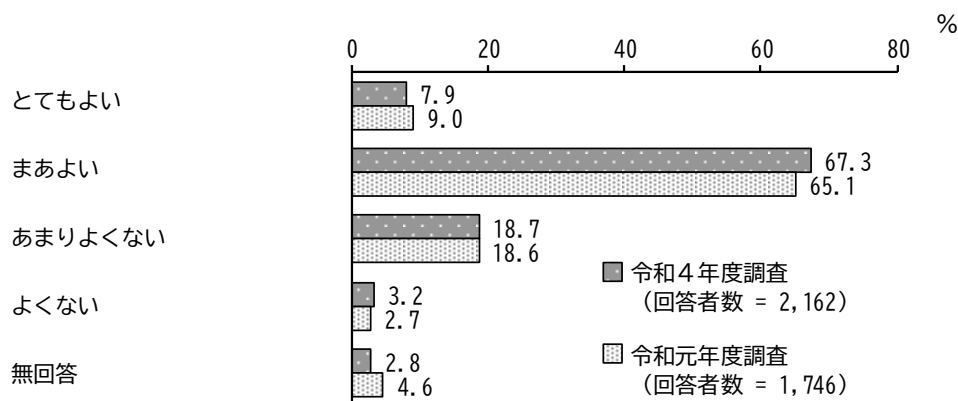


## (8) 健康について

### 問 34 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○はひとつ)

「とてもよい」と「まあよい」をあわせた“よい”の割合が75.2%、「あまりよくない」と「よくない」をあわせた“よくない”の割合が21.9%となっています。

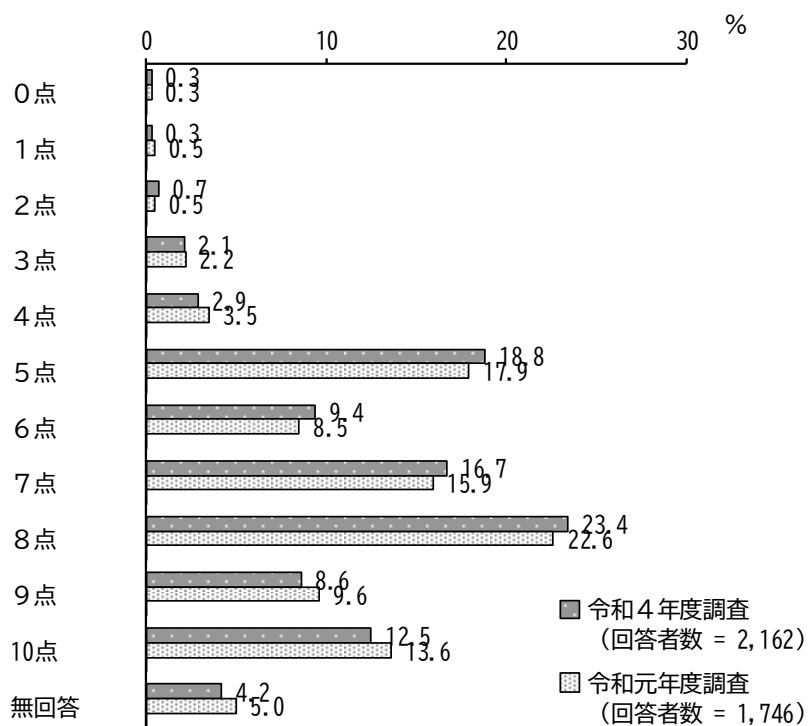
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 問 35 あなたは、現在どの程度幸せですか。(○はひとつ) ※「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください。

「8点」の割合が23.4%と最も高く、次いで「5点」の割合が18.8%、「7点」の割合が16.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「5点」「6点」「7点」「8点」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全 体	2162	0.3	0.3	0.7	2.1	2.9	18.8	9.4	16.7	23.4	8.6	12.5	4.2
男性	1033	0.2	0.5	1.1	2.6	3.5	19.5	10.8	17.0	23.3	7.2	10.9	3.4
女性	1054	0.4	0.2	0.4	1.7	2.2	17.8	8.1	16.4	23.6	9.9	14.6	4.7
回答しない	5	－	－	－	－	－	20.0	40.0	－	－	20.0	－	20.0

【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全 体	2162	0.3	0.3	0.7	2.1	2.9	18.8	9.4	16.7	23.4	8.6	12.5	4.2
65～69 歳	229	－	－	0.9	2.6	4.8	17.5	9.2	14.0	26.2	9.2	14.8	0.9
70～74 歳	750	0.4	0.5	0.5	2.3	3.9	15.3	11.3	17.2	24.3	8.4	11.3	4.5
75～79 歳	549	－	0.4	0.9	1.8	2.0	20.8	8.7	17.1	24.6	7.8	11.8	4.0
80～84 歳	358	0.6	0.3	0.3	1.1	2.0	22.6	7.5	16.8	20.9	10.1	14.8	3.1
85～89 歳	158	－	－	1.3	3.8	1.3	19.6	10.1	17.7	17.7	8.2	15.2	5.1
90～94 歳	44	2.3	－	2.3	4.5	2.3	22.7	9.1	13.6	20.5	2.3	13.6	6.8
95～99 歳	9	－	－	－	－	－	－	－	22.2	22.2	11.1	11.1	33.3
100 歳以上	1	－	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－

### 【認定状況別】

認定状況別にみると、他に比べ、以前は要介護（要支援）認定を受けていたが、現在は認定を受けていないで「7点」の割合が、要支援2で「5点」の割合が、申請したが非該当（自立）だったで「5点」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全体	2162	0.3	0.3	0.7	2.1	2.9	18.8	9.4	16.7	23.4	8.6	12.5	4.2
申請したことがない	1847	0.3	0.3	0.4	1.8	2.6	17.7	9.3	16.6	24.7	8.8	13.5	4.0
申請したが非該当（自立）だった	14	—	—	7.1	7.1	7.1	28.6	14.3	7.1	7.1	—	7.1	14.3
現在申請中	19	—	—	5.3	10.5	—	26.3	15.8	—	21.1	5.3	—	15.8
要支援1	92	1.1	—	1.1	3.3	7.6	20.7	13.0	19.6	16.3	6.5	6.5	4.3
要支援2	70	—	1.4	2.9	7.1	4.3	30.0	10.0	15.7	15.7	5.7	4.3	2.9
要支援者を除く介護 予防・日常生活支援総 合事業対象者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
以前は要介護（要支 援）認定を受けていた が、現在は認定を受け ていない	40	—	2.5	5.0	—	2.5	22.5	10.0	30.0	7.5	7.5	12.5	—

### 【家族構成別】

家族構成別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全体	2162	0.3	0.3	0.7	2.1	2.9	18.8	9.4	16.7	23.4	8.6	12.5	4.2
1人暮らし	369	0.5	0.5	1.4	4.1	4.3	20.1	9.8	15.4	18.4	8.9	11.1	5.4
夫婦2人暮らし（配偶 者65歳以上）	1036	0.3	0.3	0.4	1.4	1.9	17.7	8.6	17.5	27.0	8.8	12.7	3.4
夫婦2人暮らし（配偶 者64歳以下）	65	—	—	3.1	4.6	4.6	15.4	10.8	13.8	24.6	9.2	9.2	4.6
息子・娘との2世帯	290	—	0.3	1.0	0.7	3.8	19.0	9.7	15.2	23.4	9.3	14.1	3.4
その他	325	0.3	0.3	0.3	2.8	2.8	20.9	11.7	17.8	18.2	6.8	14.2	4.0

【地域活動への参加状況別】

地域活動への参加状況別にみると、大きな差はみられません。

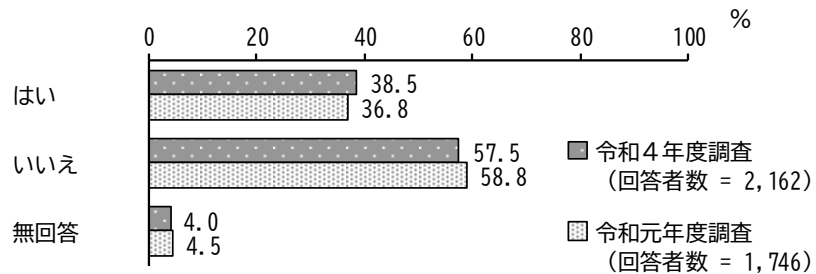
単位：%

区分	回答者数 (件)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全 体	2162	0.3	0.3	0.7	2.1	2.9	18.8	9.4	16.7	23.4	8.6	12.5	4.2
週一回以上活動に 参加している	883	0.2	0.2	0.2	0.8	1.5	16.3	8.2	18.3	27.3	11.4	13.5	2.0
週一回未満活動に 参加している	460	0.2	0.2	0.4	1.5	3.7	18.3	12.4	18.3	22.4	8.3	10.9	3.5
全く活動に参加して いない	536	0.4	0.4	1.5	4.7	4.3	20.5	11.4	14.0	20.0	6.7	11.6	4.7

問 36 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(○はひとつ)

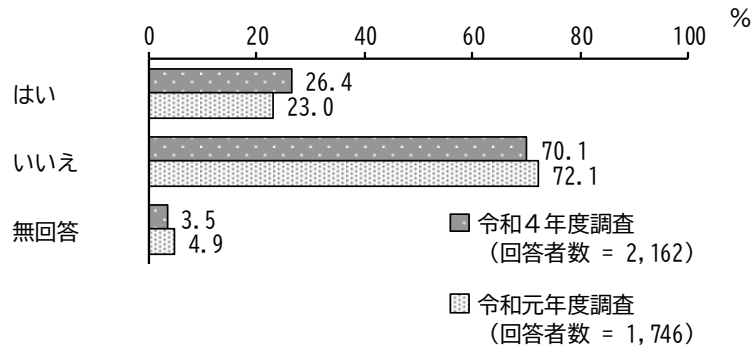
「はい」の割合が38.5%、「いいえ」の割合が57.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 37 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(○はひとつ)

「はい」の割合が26.4%、「いいえ」の割合が70.1%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



うつリスク該当者割合の分析

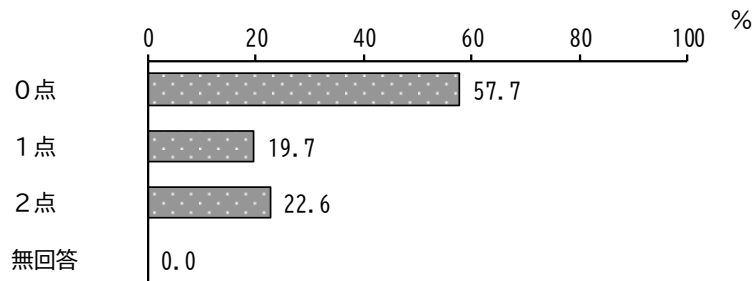
該当する選択肢を回答した場合は1点とし、問36・37でいずれか1つでも「1. はい」を回答した場合は、うつ傾向の高齢者になります。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 36	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問 37	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

「0点」の割合が57.7%と最も高く、次いで「2点」の割合が22.6%、「1点」の割合が19.7%となっています。

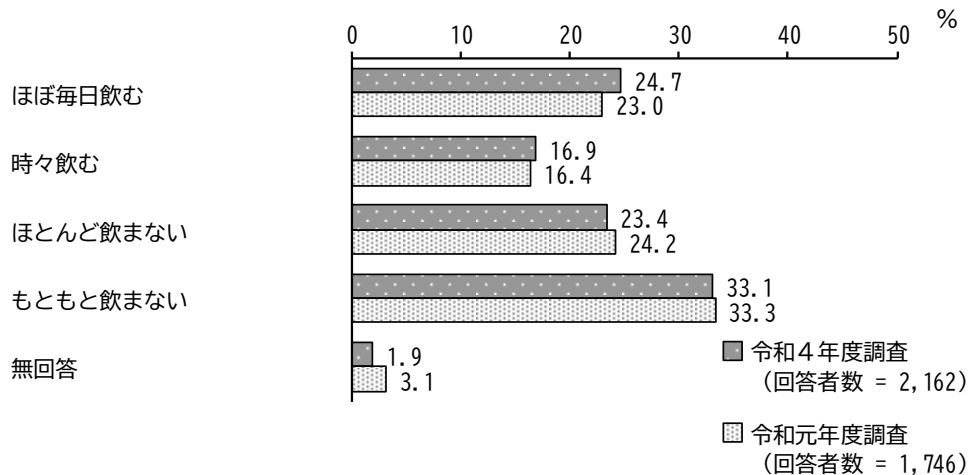
回答者数 = 2,162



問 38 お酒は飲みますか。(○はひとつ)

「もともと飲まない」の割合が33.1%と最も高く、次いで「ほぼ毎日飲む」の割合が24.7%、「ほとんど飲まない」の割合が23.4%となっています。

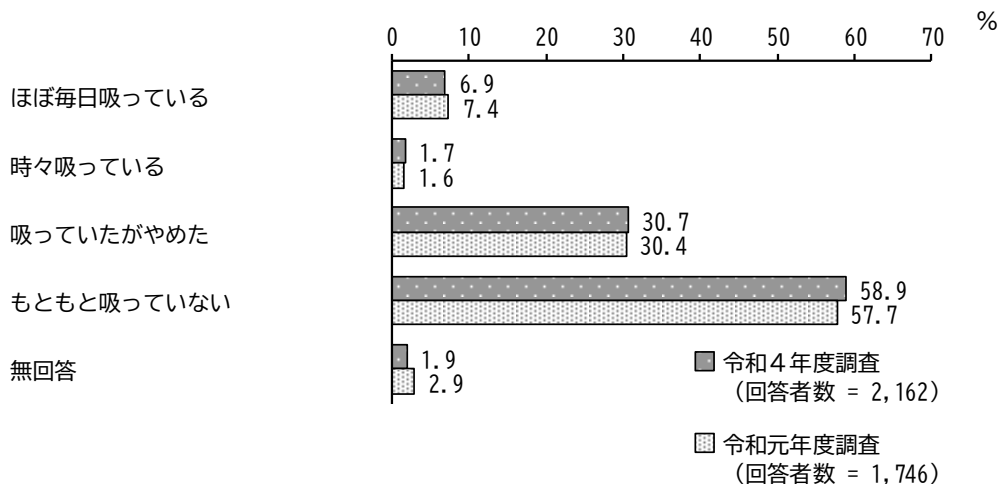
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 39 タバコは吸っていますか。(○はひとつ)

「もともと吸っていない」の割合が58.9%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」の割合が30.7%となっています。

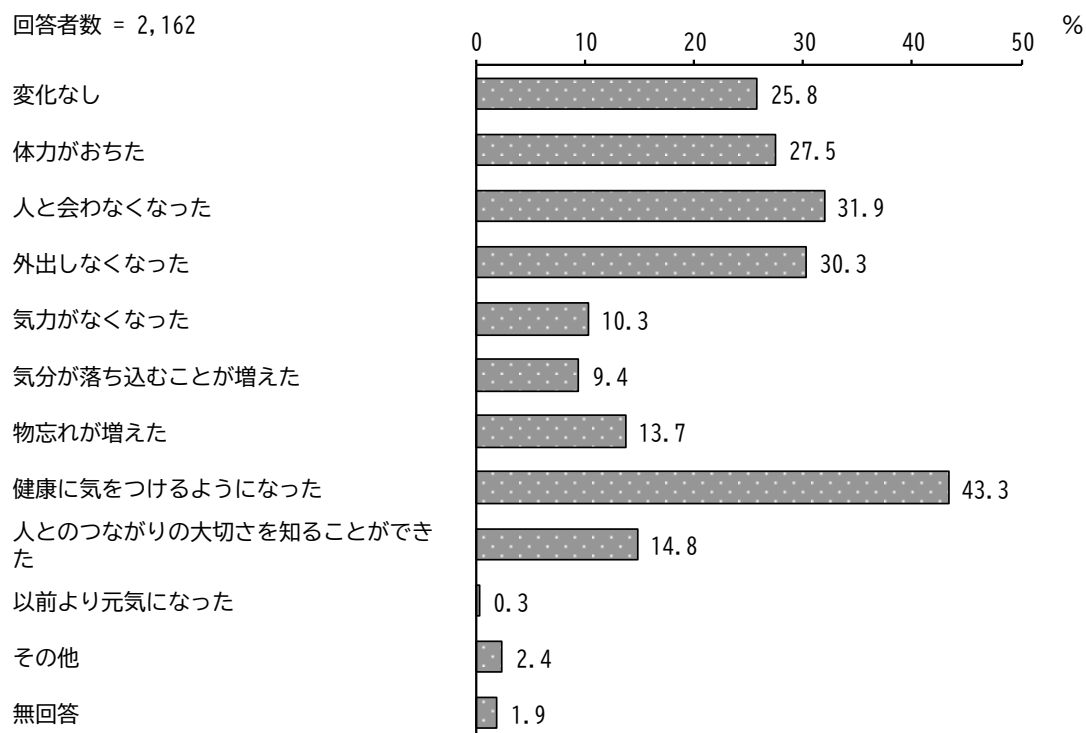
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。





問 40 新型コロナウイルス感染症の流行以前と比べて心身に変化はありましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

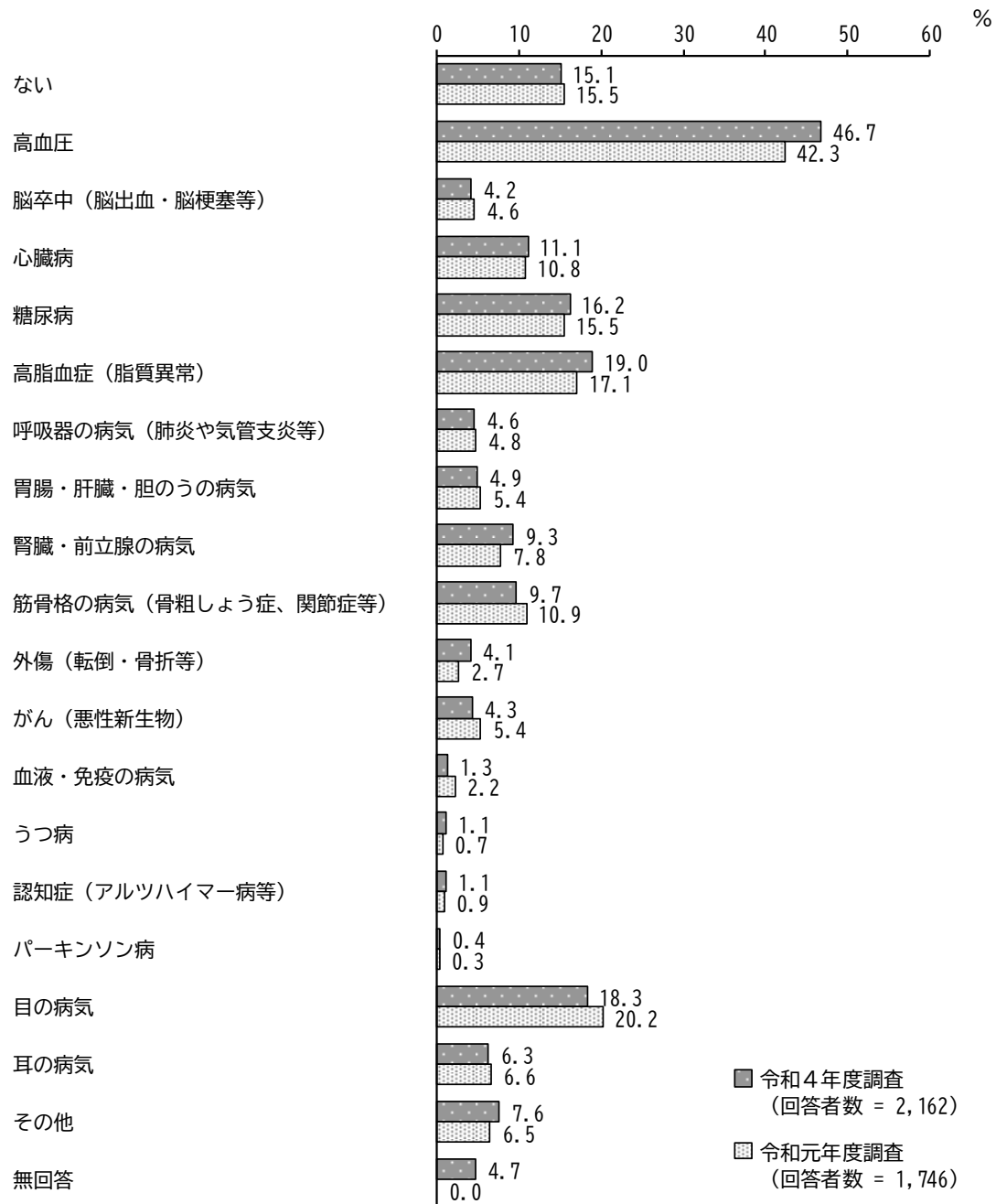
「健康に気をつけるようになった」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「人と会わなくなった」の割合が 31.9%、「外出しなくなった」の割合が 30.3%となっています。



問 41 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)

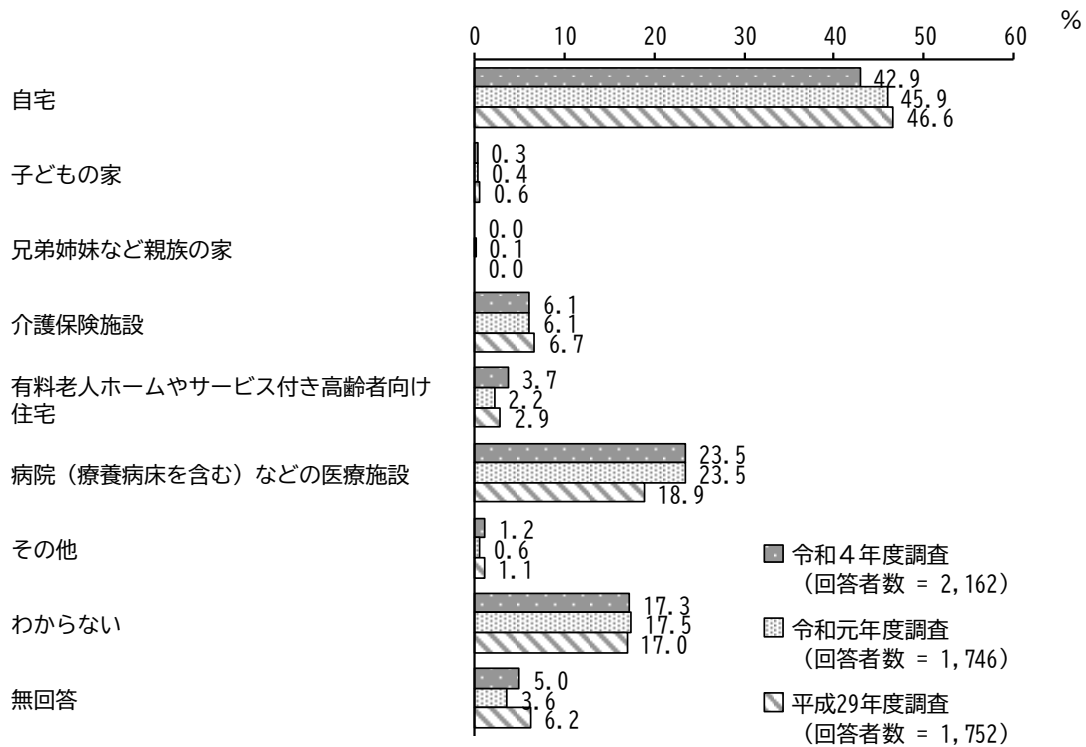
「高血圧」の割合が46.7%と最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」の割合が19.0%、「目の病気」の割合が18.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 42 治る見込みがない病気になった場合、どこで最期を迎えたいですか。  
(○はひとつ)

「自宅」の割合が42.9%と最も高く、次いで「病院（療養病床を含む）などの医療施設」の割合が23.5%、「わからない」の割合が17.3%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

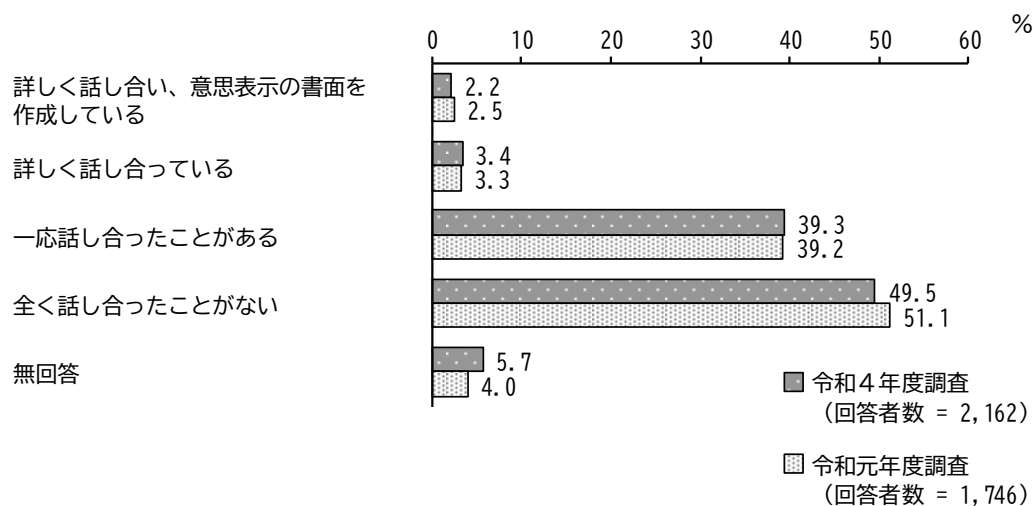


## (9) 人生の最終段階に関することについて

問 43 人生の最期をどのように迎えたいか家族と話し合ったことがありますか。  
(○はひとつ)

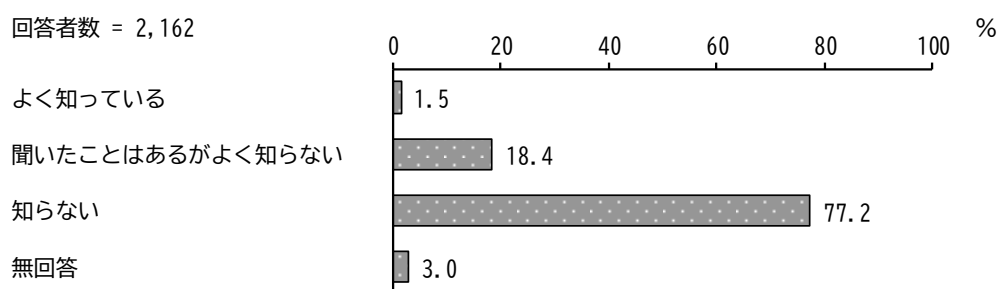
「全く話し合ったことがない」の割合が49.5%と最も高く、次いで「一応話し合ったことがある」の割合が39.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 44 あなたは、アドバンス・ケア・プランニング（ACP、人生会議）について、知っていますか。(○はひとつ)

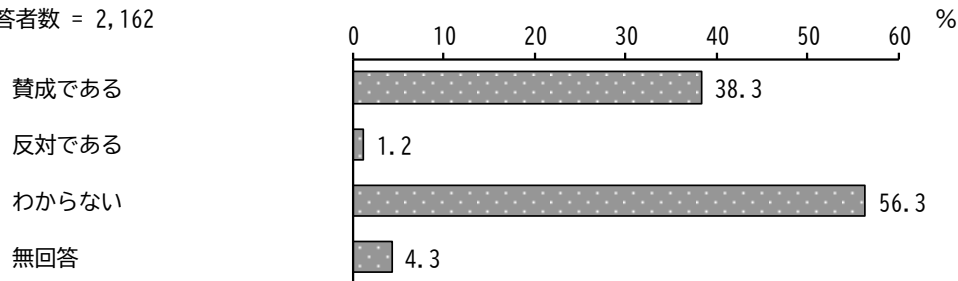
「知らない」の割合が77.2%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」の割合が18.4%となっています。



問 45 このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。  
(○はひとつ)

「わからない」の割合が56.3%と最も高く、次いで「賛成である」の割合が38.3%となっています。

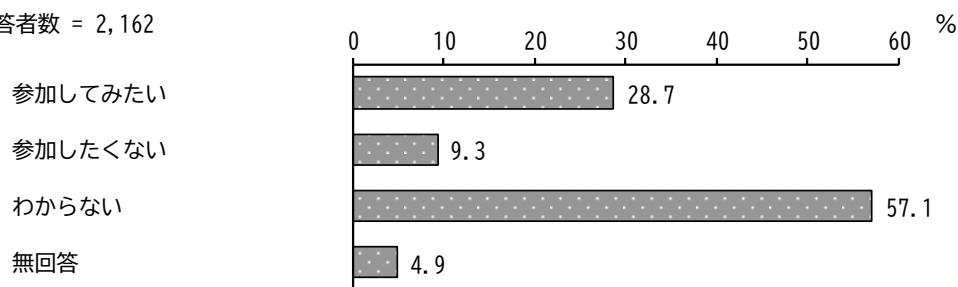
回答者数 = 2,162



問 46 もし、ACP について学ぶ機会があれば参加してみたいですか。(○はひとつ)

「わからない」の割合が57.1%と最も高く、次いで「参加してみたい」の割合が28.7%となっています。

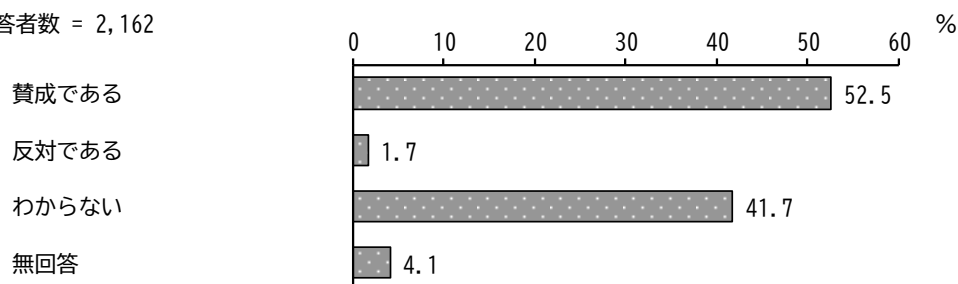
回答者数 = 2,162



問 47 あなたは、自分が意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・療養を受けたいか（受けたくないか）などを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。(○はひとつ)

「賛成である」の割合が52.5%と最も高く、次いで「わからない」の割合が41.7%となっています。

回答者数 = 2,162



【地域活動への参加状況別】

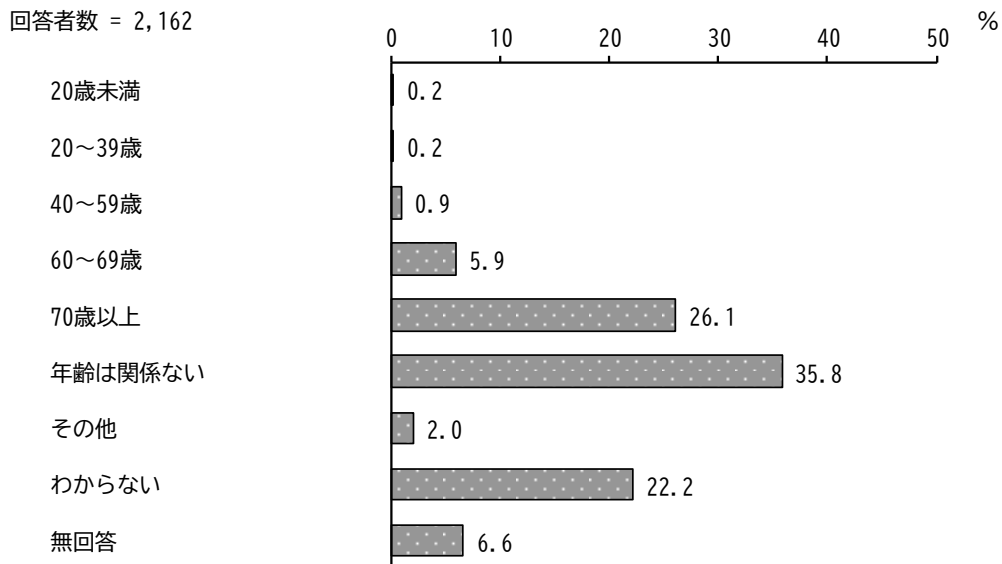
地域活動への参加状況別にみると、週一回以上活動に参加しているで「賛成である」の割合が、全く活動に参加していないで「わからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	賛成である	反対である	わからない	無回答
全 体	2162	52.5	1.7	41.7	4.1
週一回以上活動に参加している	883	60.7	1.1	35.8	2.4
週一回未満活動に参加している	460	54.6	2.0	40.4	3.0
全く活動に参加していない	536	47.6	1.9	47.8	2.8

問 48 もし、家族や医療介護関係者等と医療・療養について話し合う（人生会議を実践する）時期があるとすれば、いつごろが適切な年齢だと思いますか。（話し合ったことがある人は、いつごろでしたか。）（○はひとつ）

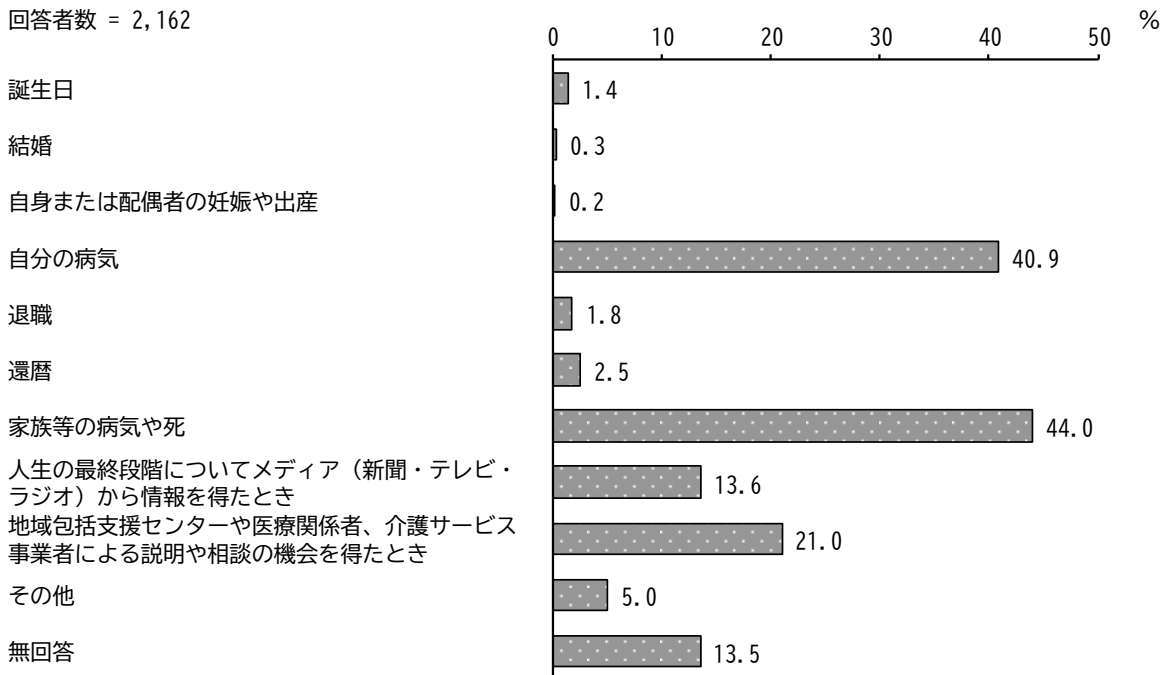
「年齢は関係ない」の割合が 35.8%と最も高く、次いで「70 歳以上」の割合が 26.1%、「わからない」の割合が 22.2%となっています。



問 49 もし、家族や医療介護関係者等と医療・療養について話し合うきっかけがあれば、どのような出来事だと思いますか。(話し合ったことがある人は、何がきっかけでしたか。)(あてはまるものすべてに○)

「家族等の病気や死」の割合が 44.0%と最も高く、次いで「自分の病気」の割合が 40.9%、「地域包括支援センターや医療関係者、介護サービス事業者による説明や相談の機会を得たとき」の割合が 21.0%となっています。

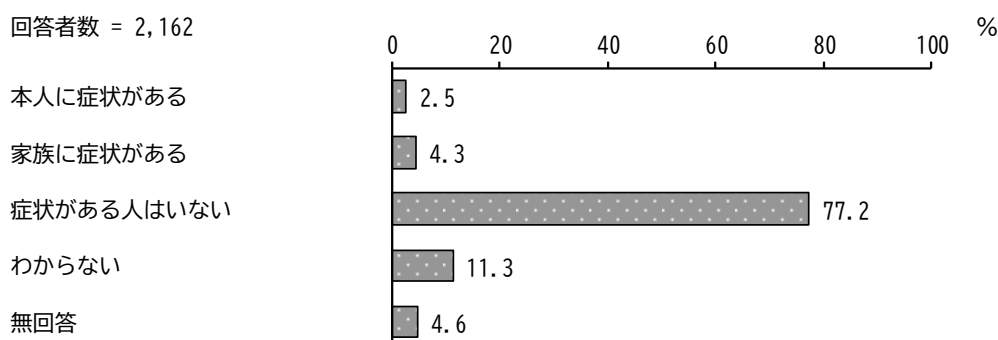
回答者数 = 2,162



## (10) 認知症に関することについて

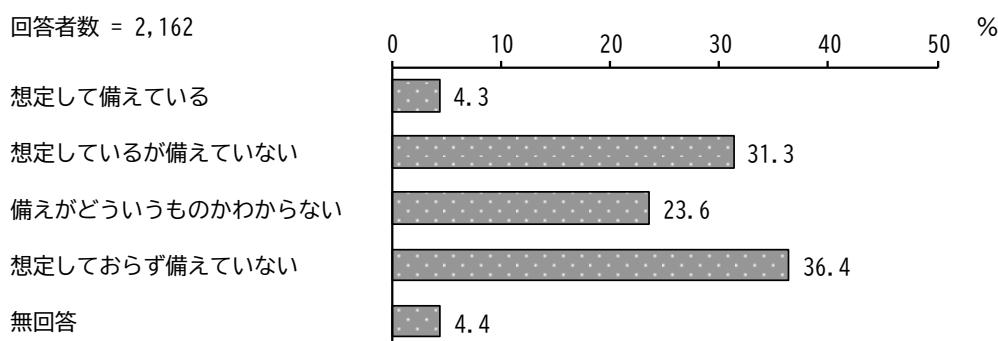
問 50 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。  
(○はひとつ)

「症状がある人はいない」の割合が 77.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 11.3%となっています。



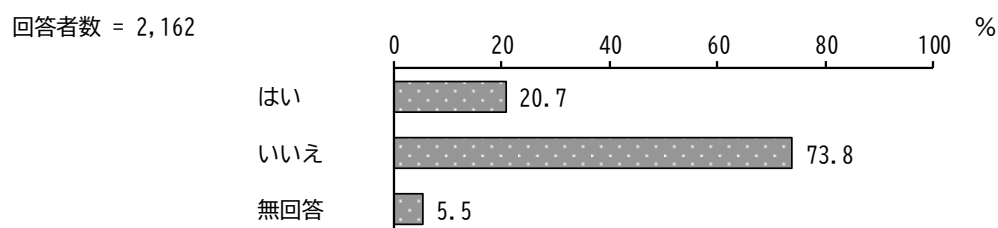
問 51 あなたは認知症になることを想定して、備えをしていますか。(○はひとつ)

「想定しておらず備えていない」の割合が 36.4%と最も高く、次いで「想定しているが備えていない」の割合が 31.3%、「備えがどういうものかわからない」の割合が 23.6%となっています。



問 52 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○はひとつ)

「はい」の割合が 20.7%、「いいえ」の割合が 73.8%となっています。





【認知症の症状がある家族の有無別】

認知症の症状がある家族の有無別にみると、家族に症状があるで「はい」の割合が、わからないで「いいえ」の割合が高くなっています。

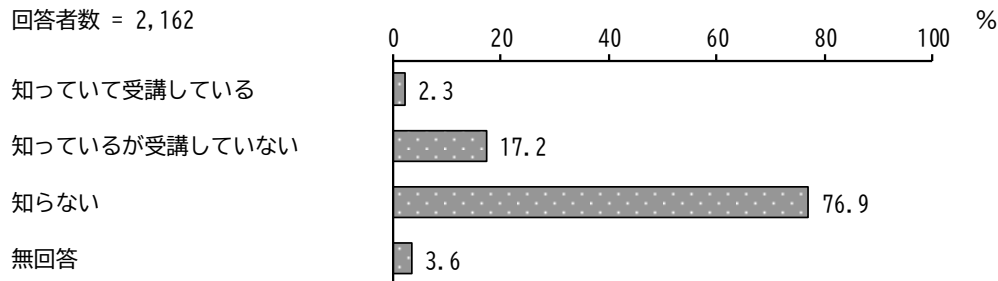
単位：%

区分	回答者数 (件)	はい	いいえ	無回答
全 体	2162	20.7	73.8	5.5
本人に症状がある	55	23.6	69.1	7.3
家族に症状がある	94	30.9	66.0	3.2
症状がある人はいない	1670	21.4	75.6	3.1
わからない	244	16.4	82.0	1.6

問 53 加古川市では、認知症の基礎知識や認知症の人への接し方を学ぶ「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。(〇はひとつ)

「知らない」の割合が 76.9%と最も高く、次いで「知っているが受講していない」の割合が 17.2%となっています。

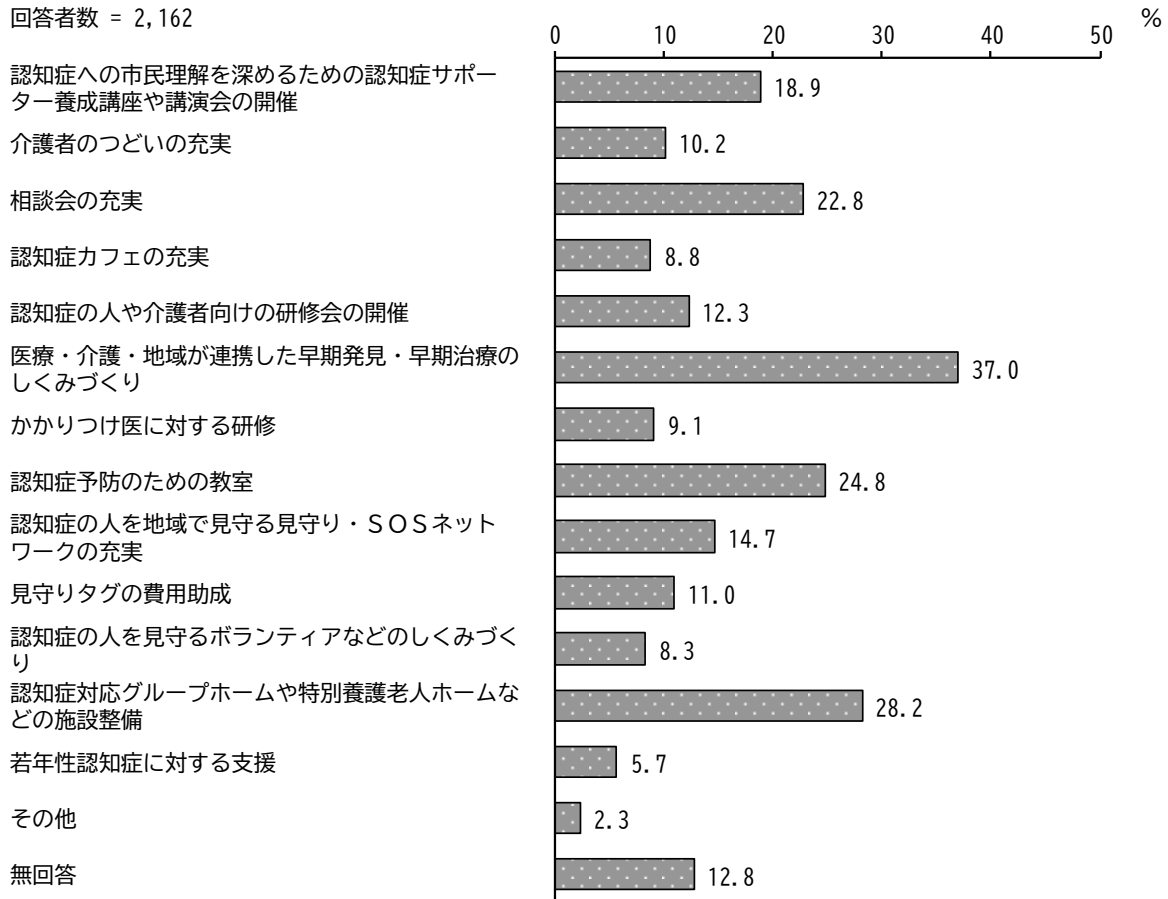
回答者数 = 2,162



問 54 今後、市が認知症対策を進めて行くうえで、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期治療のしくみづくり」の割合が37.0%と最も高く、次いで「認知症対応グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」の割合が28.2%、「認知症予防のための教室」の割合が24.8%となっています。

回答者数 = 2,162

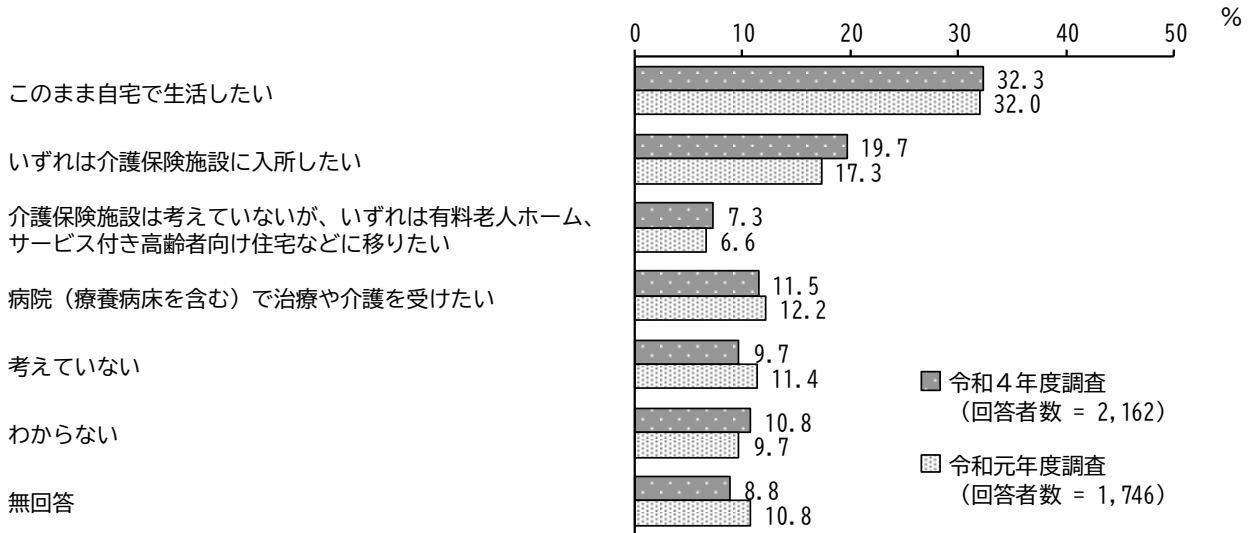


## (11) 介護保険に関することについて

### 問 55 介護を受ける場合、どのような場所を希望しますか。(〇はひとつ)

「このまま自宅で生活したい」の割合が32.3%と最も高く、次いで「いずれは介護保険施設に入所したい」の割合が19.7%、「病院(療養病床を含む)で治療や介護を受けたい」の割合が11.5%となっています。

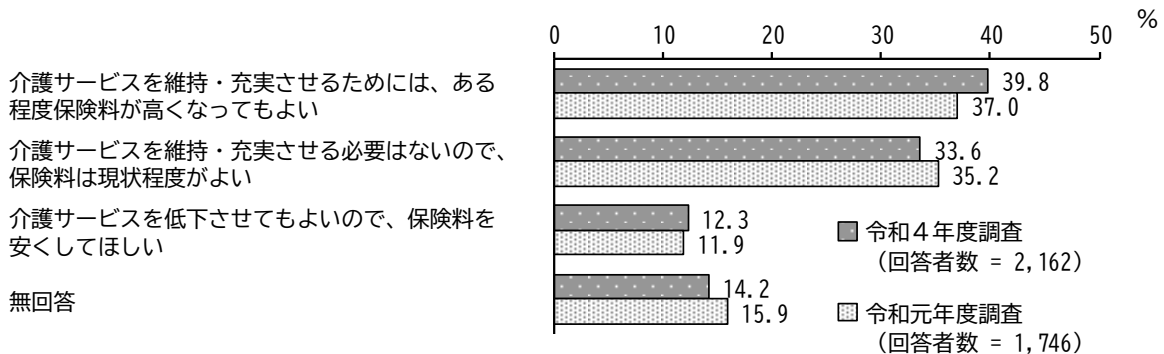
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 問 56 今後、高齢者の増加に伴い、介護サービスを利用する人の増加が見込まれています。その結果、保険料が高くなる可能性があります。保険料と介護サービスの関係について、あなたの考えにもっとも近いものはどれですか。(〇はひとつ)

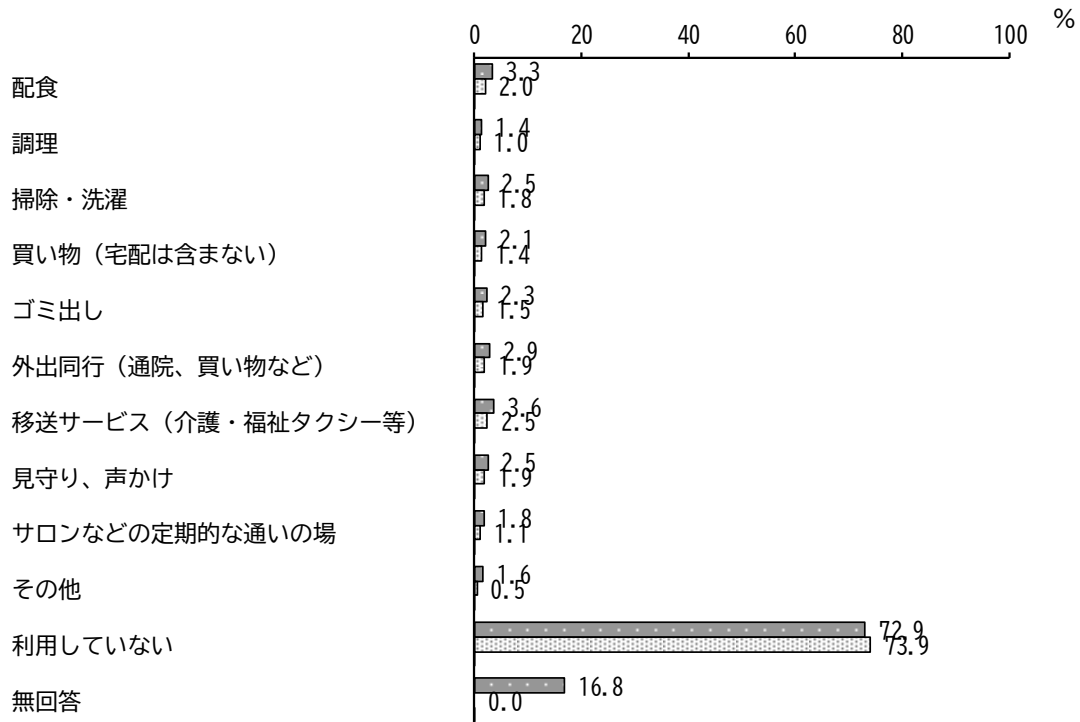
「介護サービスを維持・充実させるためには、ある程度保険料が高くなってもよい」の割合が39.8%と最も高く、次いで「介護サービスを維持・充実させる必要はないので、保険料は現状程度がよい」の割合が33.6%、「介護サービスを低下させてもよいので、保険料を安くしてほしい」の割合が12.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 57 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて教えてください。(あてはまるものすべてに○)

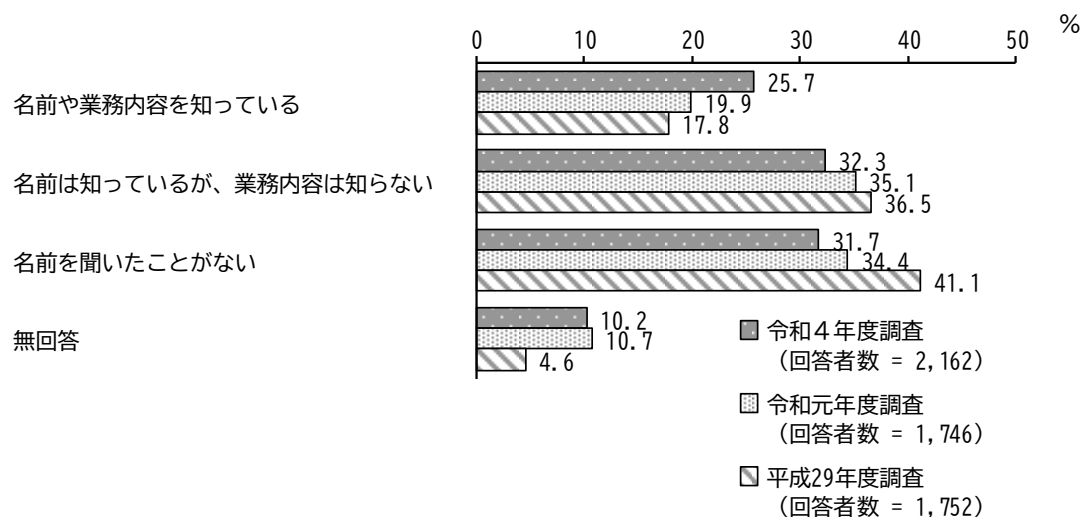
「利用していない」の割合が72.9%と最も高くなっています。  
 令和元年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。



問 58 市内に地域包括支援センターがあることを知っていますか。(○はひとつ)

「名前は知っているが、業務内容は知らない」の割合が32.3%と最も高く、次いで「名前を聞いたことがない」の割合が31.7%、「名前や業務内容を知っている」の割合が25.7%となっています。

令和元年度調査、平成29年度調査と比較すると、「名前や業務内容を知っている」の割合が増加しています。

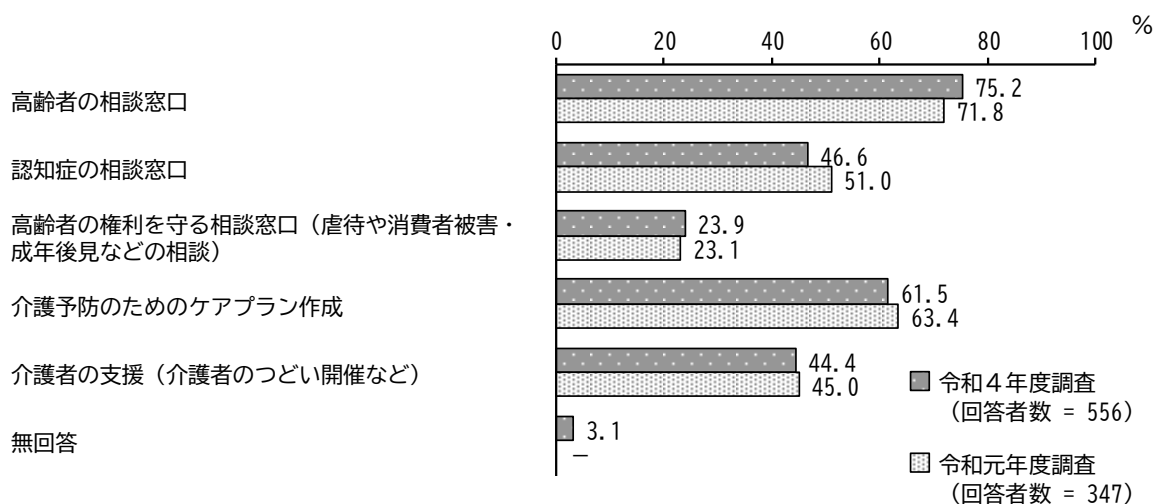


※問 58 で「名前や業務内容を知っている」と回答した人におたずねします。

問 59 地域包括支援センターでは以下のような業務を行っていますが、どのような業務内容を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「高齢者の相談窓口」の割合が 75.2%と最も高く、次いで「介護予防のためのケアプラン作成」の割合が 61.5%、「認知症の相談窓口」の割合が 46.6%となっています。

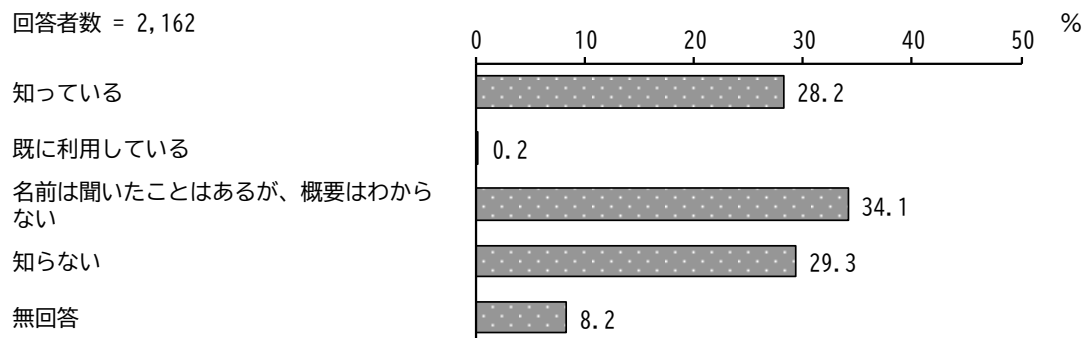
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



## (12) 成年後見制度について

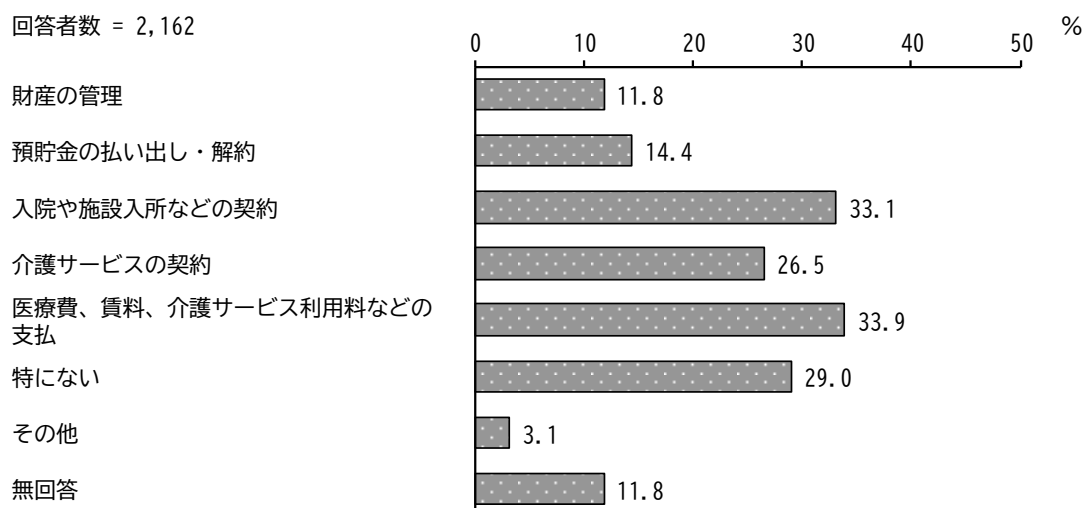
### 問 60 成年後見制度について制度の概要を知っていますか。(○はひとつ)

「名前は聞いたことはあるが、概要はわからない」の割合が34.1%と最も高く、次いで「知らない」の割合が29.3%、「知っている」の割合が28.2%となっています。



### 問 61 将来の自分について不安なことはどんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

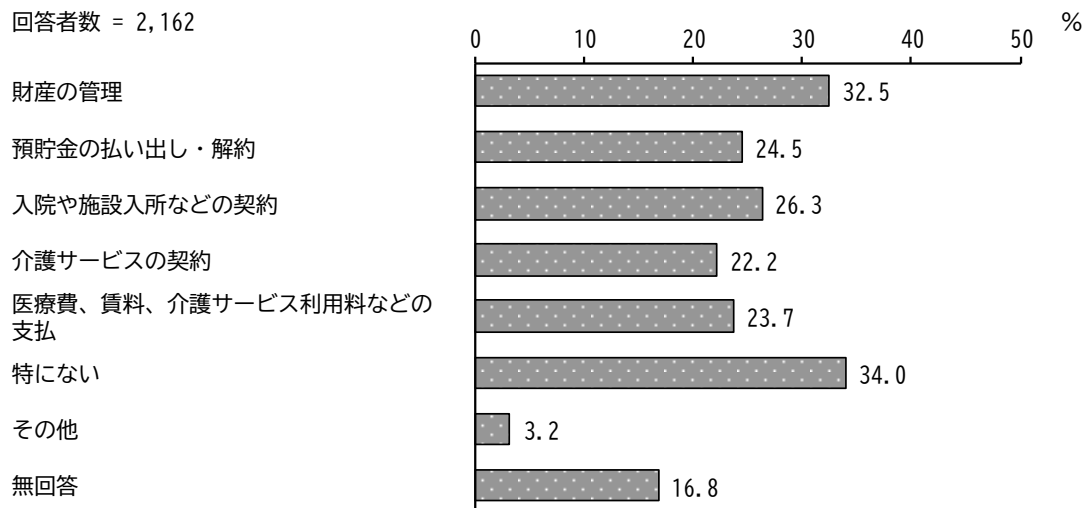
「医療費、賃料、介護サービス利用料などの支払」の割合が33.9%と最も高く、次いで「入院や施設入所などの契約」の割合が33.1%、「特にない」の割合が29.0%となっています。



問 62 成年後見制度を利用した場合、以下のようなことを支援することができますが、どのような内容を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

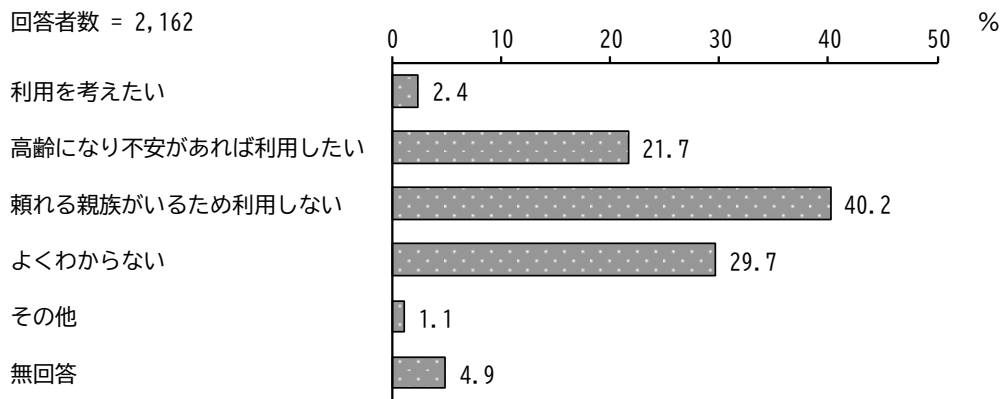
「特にない」の割合が 34.0%と最も高く、次いで「財産の管理」の割合が 32.5%、「入院や施設入所などの契約」の割合が 26.3%となっています。

回答者数 = 2,162



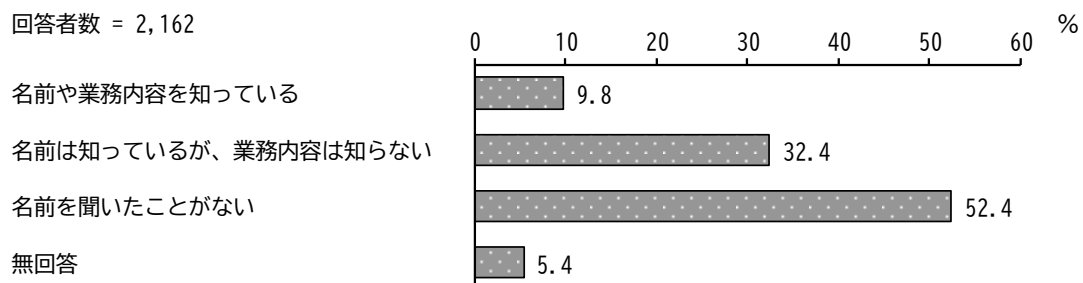
問 63 問 62 の選択肢「財産の管理」～「医療費、賃料、介護サービス利用料などの支払」のような支援をしてくれる成年後見制度の利用についてどのように考えますか。(○はひとつ)

「頼れる親族がいるため利用しない」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「よくわからない」の割合が 29.7%、「高齢になり不安があれば利用したい」の割合が 21.7%となっています。



問 64 成年後見制度の相談ができる成年後見支援センターが市内にあることを知っていますか。(○はひとつ)

「名前を聞いたことがない」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「名前は知っているが、業務内容は知らない」の割合が 32.4%となっています。

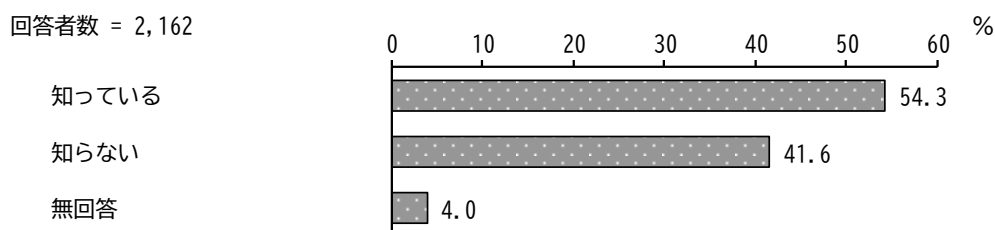




### (13) 災害に関することについて

問 65 自分が住んでいる地域や家の周りの災害の危険性を知っていますか。(○はひとつ)

「知っている」の割合が 54.3%、「知らない」の割合が 41.6%となっています。



#### 【地域活動への参加状況別】

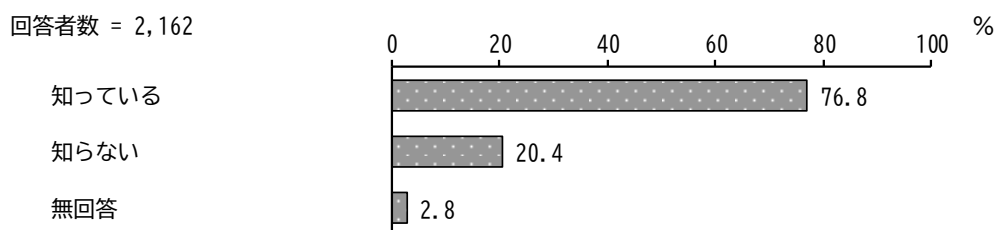
地域活動への参加状況別にみると、週一回未満活動に参加しているで「知っている」の割合が、全く活動に参加していないで「知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	2162	54.3	41.6	4.0
週一回以上活動に参加している	883	58.6	38.7	2.7
週一回未満活動に参加している	460	62.6	36.3	1.1
全く活動に参加していない	536	47.2	49.8	3.0

問 66 避難場所を知っていますか。(○はひとつ)

「知っている」の割合が 76.8%、「知らない」の割合が 20.4%となっています。



【地域活動への参加状況別】

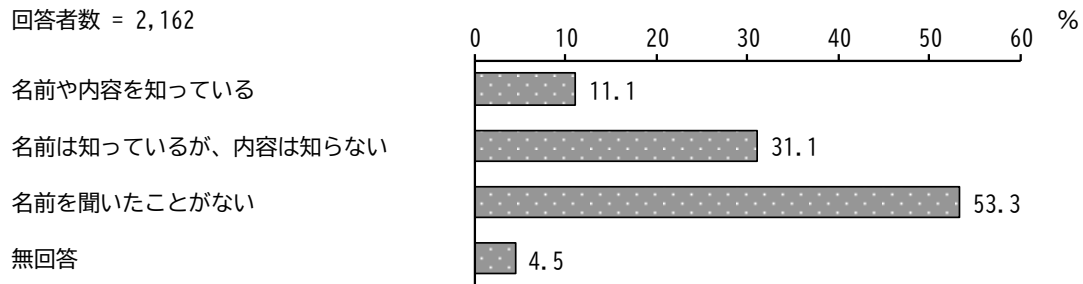
地域活動への参加状況別にみると、全く活動に参加していないで「知らない」の割合が、週一回未満活動に参加しているで「知っている」の割合が、週一回以上活動に参加しているで「知っている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	知っている	知らない	無回答
全 体	2162	76.8	20.4	2.8
週一回以上活動に参加している	883	82.0	16.2	1.8
週一回未満活動に参加している	460	82.6	16.5	0.9
全く活動に参加していない	536	69.4	28.2	2.4

問 67 災害時における「避難行動要支援者制度」について知っていますか。(〇はひとつ)

「名前を聞いたことがない」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 31.1%、「名前や内容を知っている」の割合が 11.1%となっています。



【地域活動への参加状況別】

地域活動への参加状況別にみると、全く活動に参加していないで「名前を聞いたことがない」の割合が、週一回未満活動に参加しているで「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

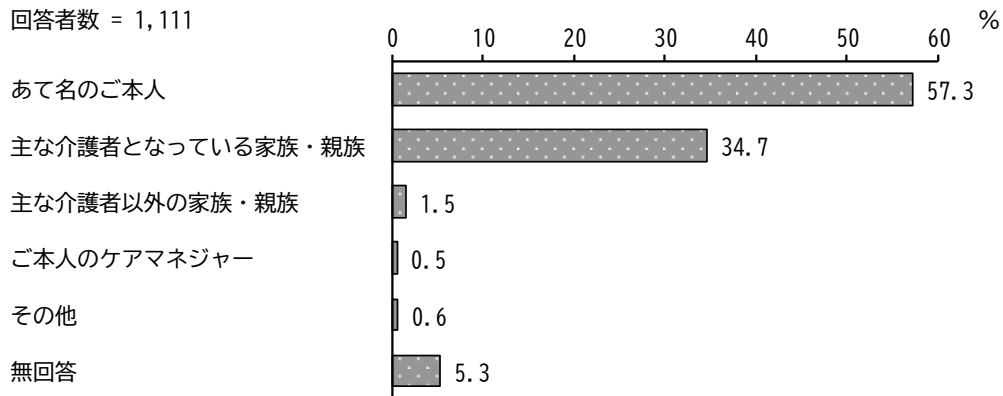
区分	回答者数(件)	名前や内容を知っている	名前は知っているが、内容は知らない	名前を聞いたことがない	無回答
全 体	2162	11.1	31.1	53.3	4.5
週一回以上活動に参加している	883	14.2	31.3	51.3	3.3
週一回未満活動に参加している	460	10.9	36.7	51.3	1.1
全く活動に参加していない	536	8.0	26.9	62.3	2.8

## 2 高齢者・介護者

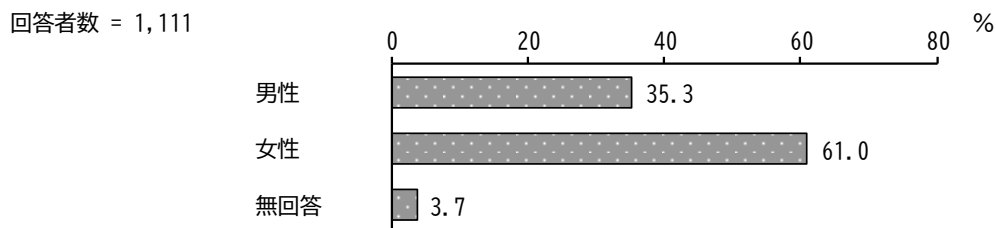
### (1) 回答者属性

問1 このアンケートを記入される人はどなたですか。(○はひとつ)

「あて名のご本人」が記入した割合が 57.3%と最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」の割合が 34.7%となっています。

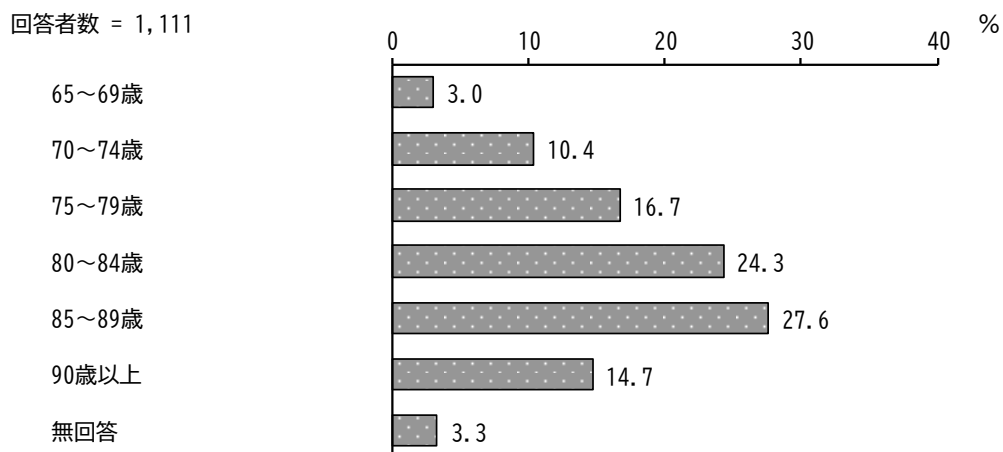


問2 あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

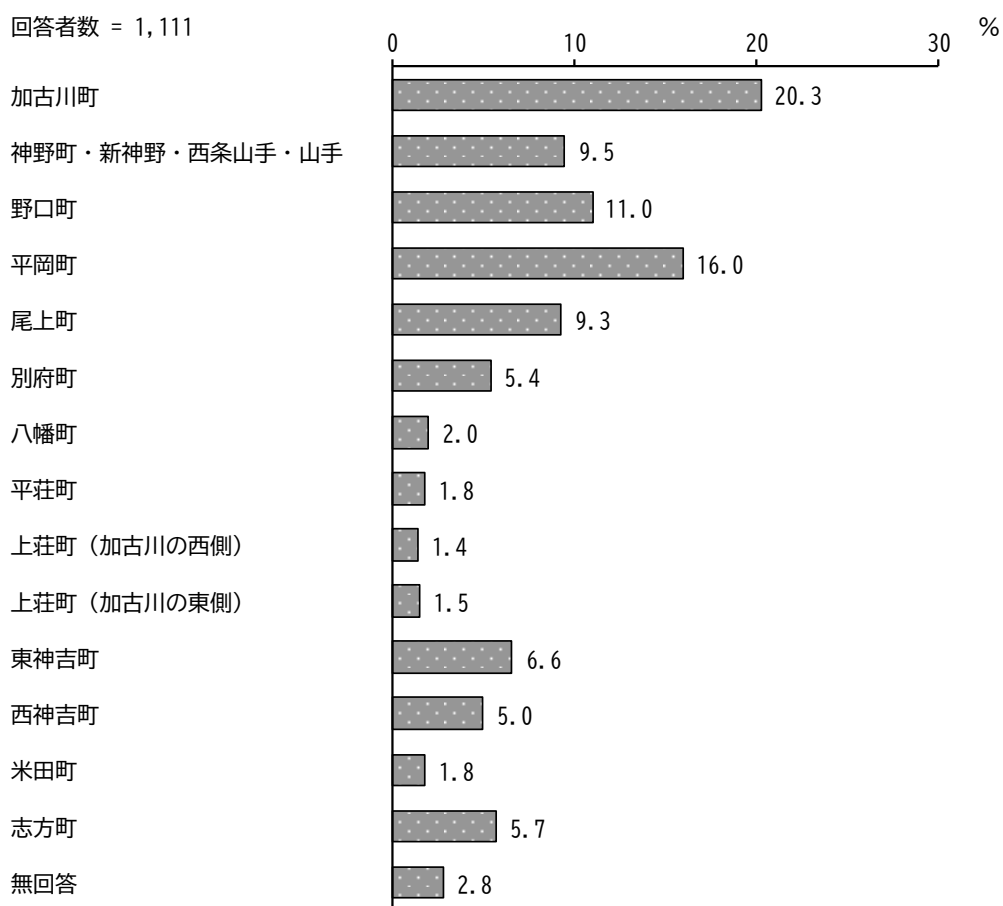


問3 令和5年1月1日現在の、あなたの年齢を教えてください。(○はひとつ)

「85～89歳」の割合が 27.6%と最も高く、次いで「80～84歳」の割合が 24.3%、「75～79歳」の割合が 16.7%となっています。

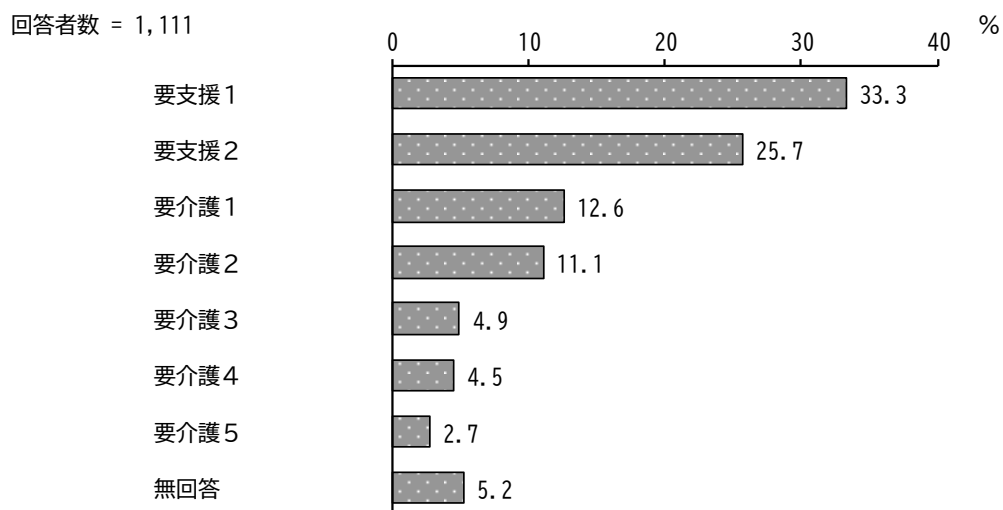


問4 あなたのお住まいの地域を教えてください。(〇はひとつ)



問5 あなたの現在の介護度を教えてください。現在、更新申請または変更申請中の人は、前の介護度を教えてください。(〇はひとつ)

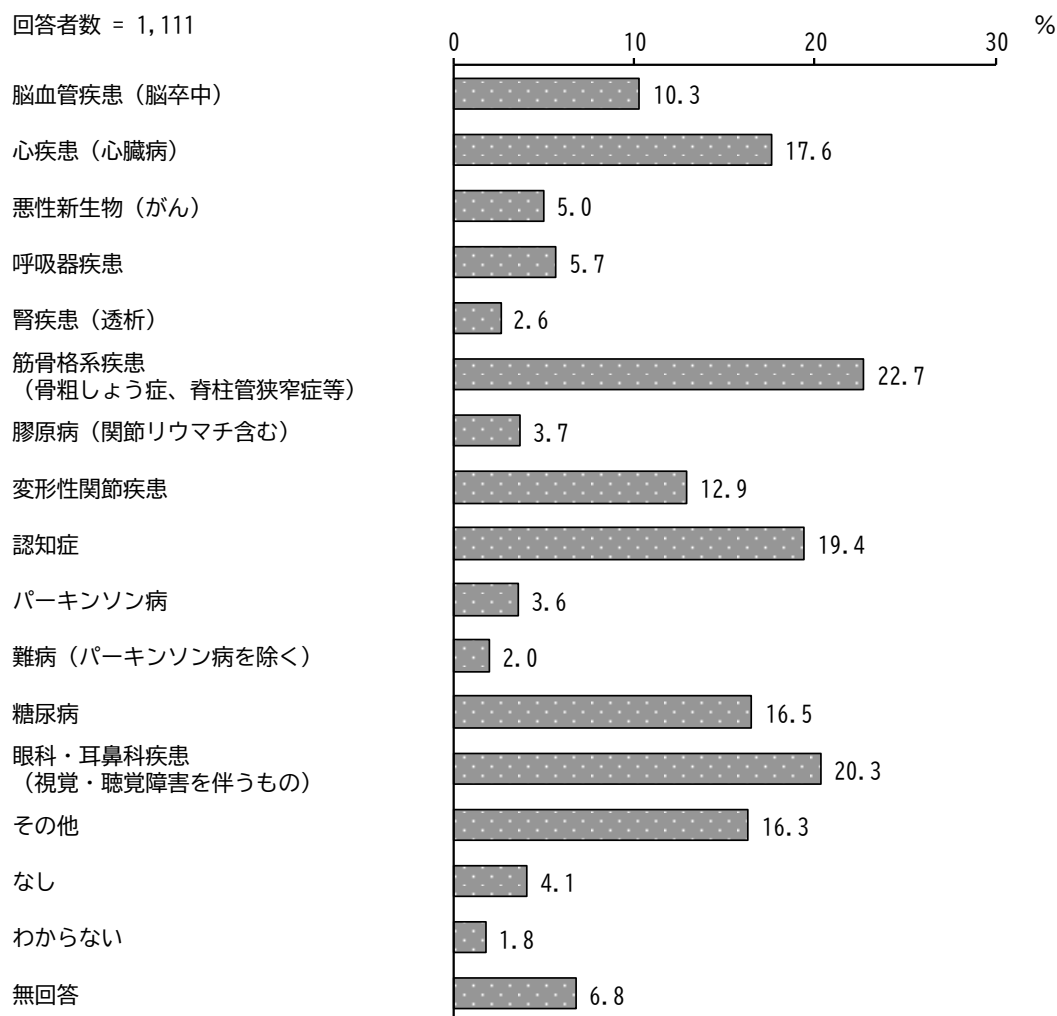
「要支援1」の割合が33.3%と最も高く、次いで「要支援2」の割合が25.7%、「要介護1」の割合が12.6%となっています。



## (2) 介護保険、その他福祉及び医療に関することについて

問6 あなたが、現在抱えている傷病について教えてください。  
(あてはまるものすべてに○)

「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の割合が 22.7%と最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が 20.3%、「認知症」の割合が 19.4%となっています。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護3・4・5及び要介護1・2で「認知症」の割合が、要支援1・2で「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の割合が高くなっています。

単位：％

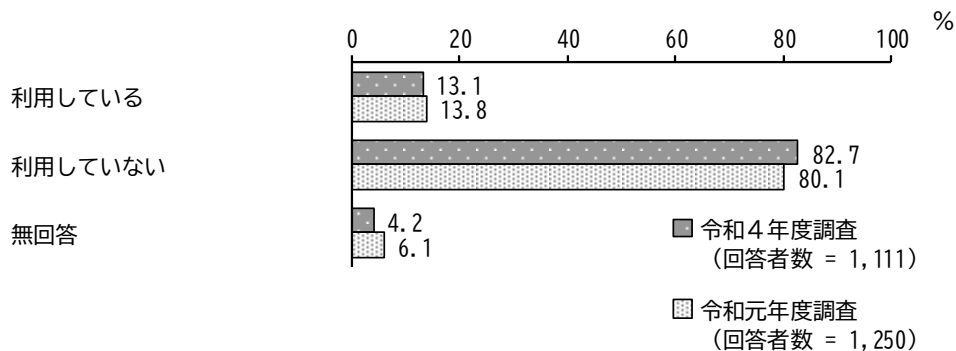
区分	回答者数(件)	脳血管疾患(脳卒中)	心疾患(心臓病)	悪性新生物(がん)	呼吸器疾患	腎疾患(透析)	筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)	膠原病(関節リウマチ含む)	変形性関節疾患
全 体	1111	10.3	17.6	5.0	5.7	2.6	22.7	3.7	12.9
要支援1・2	656	8.4	17.4	4.9	4.7	2.3	29.9	5.0	18.0
要介護1・2	263	11.0	20.2	3.0	8.0	1.5	12.2	1.1	4.6
要介護3・4・5	134	20.9	12.7	9.0	6.0	4.5	12.7	3.0	9.0

区分	認知症	パーキンソン病	難病(パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)	その他	なし	わからない	無回答
全 体	19.4	3.6	2.0	16.5	20.3	16.3	4.1	1.8	6.8
要支援1・2	5.8	2.4	1.2	17.2	23.5	16.8	4.4	2.0	5.6
要介護1・2	51.3	4.9	3.0	14.4	16.7	15.2	3.0	2.3	5.7
要介護3・4・5	29.1	7.5	3.7	17.2	14.9	18.7	3.7	—	3.7

問7 あなたは、現在、訪問診療を利用していますか。(○はひとつ)

「利用している」の割合が13.1%、「利用していない」の割合が82.7%となっています。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護3・4・5で「利用している」の割合が、要支援1・2で「利用していない」の割合が高くなっています。

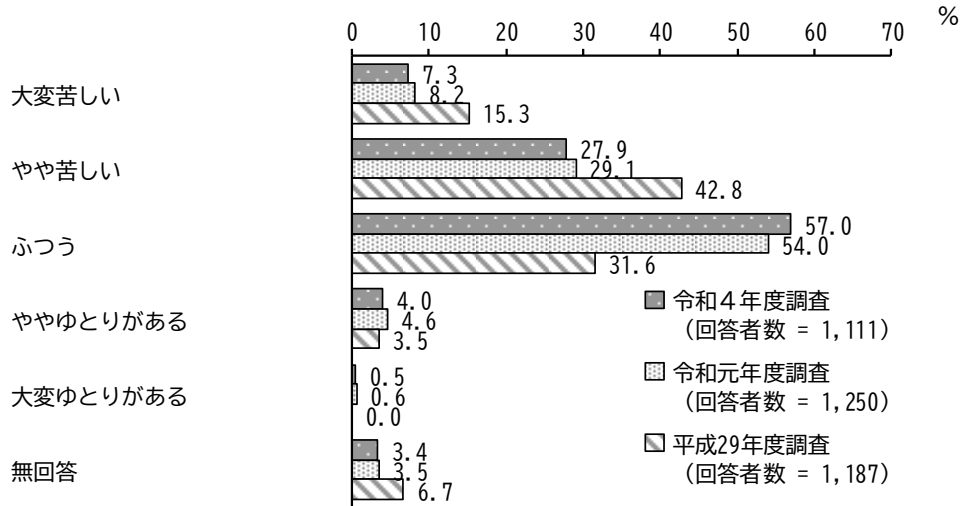
単位：%

区分	回答者数(件)	利用している	利用していない	無回答
全体	1111	13.1	82.7	4.2
要支援1・2	656	8.5	88.3	3.2
要介護1・2	263	12.9	85.2	1.9
要介護3・4・5	134	35.1	61.9	3.0



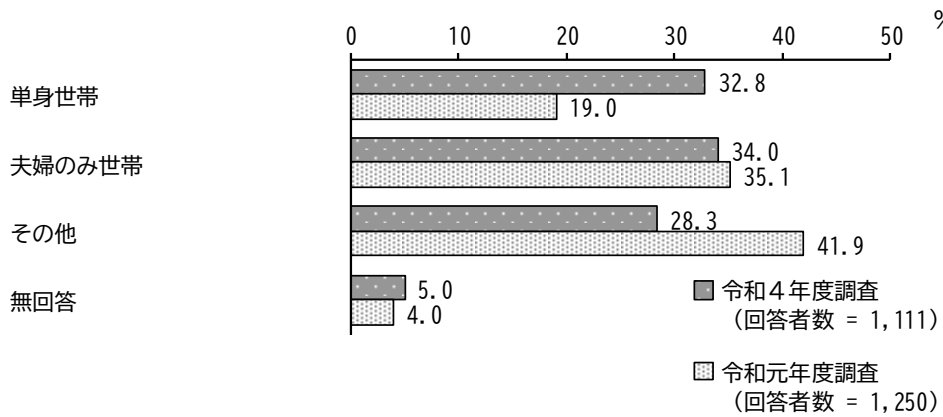
問8 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○はひとつ)

前回、前々回調査と比較すると「大変苦しい」「やや苦しい」の割合が減少し、「ふつう」の割合が増加しています。



問9 世帯類型について、教えてください。(○はひとつ)

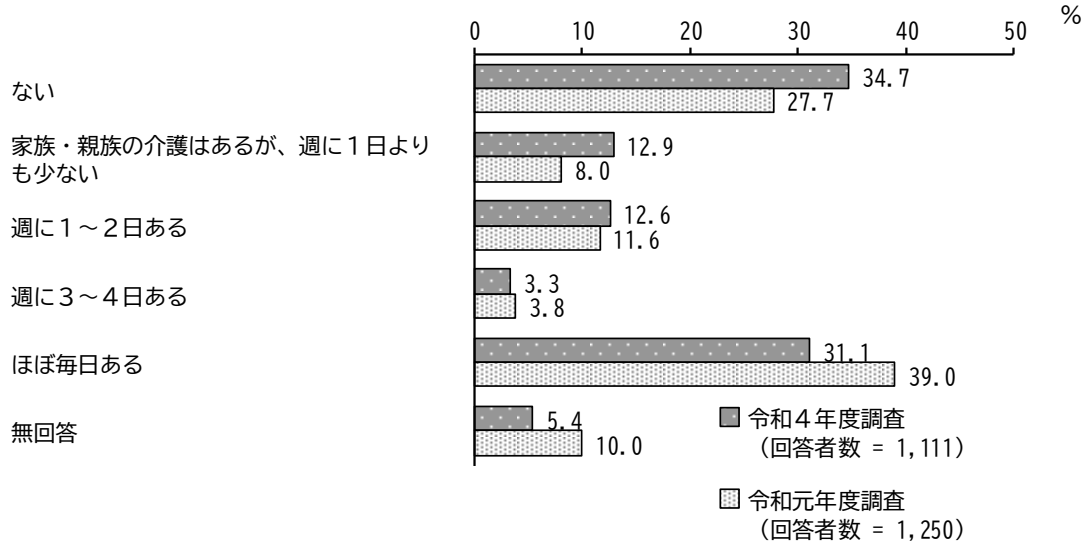
「単身世帯」の割合が32.8%、「夫婦のみ世帯」の割合が34.0%となっています。令和元年度調査と比較すると、「単身世帯」の割合が増加しています。



問10 家族や親族からの介護は、週にどのくらいありますか。(〇はひとつ)

「ない」の割合が34.7%と最も高く、次いで「ほぼ毎日ある」の割合が31.1%、「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」の割合が12.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加し、「ほぼ毎日ある」の割合が減少しています。



【要介護度】

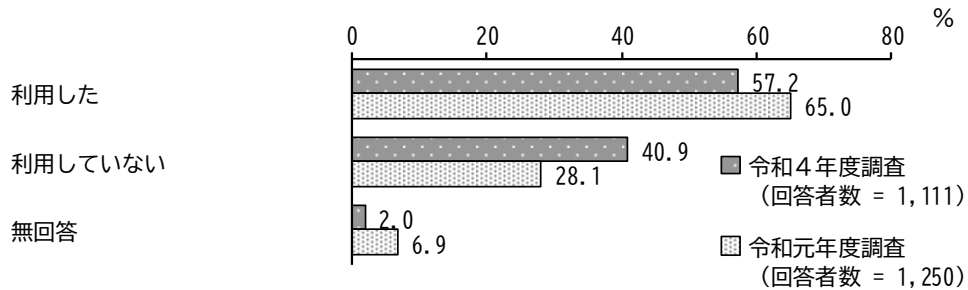
要介護度によると、要介護3・4・5及び要介護1・2で「ほぼ毎日ある」の割合が、要支援1・2で「ない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ない	家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない	週に1～2日ある	週に3～4日ある	ほぼ毎日ある	無回答
全体	1111	34.7	12.9	12.6	3.3	31.1	5.4
要支援1・2	656	42.5	15.7	14.9	2.9	19.5	4.4
要介護1・2	263	20.9	8.7	12.5	4.9	50.6	2.3
要介護3・4・5	134	21.6	9.7	4.5	1.5	56.7	6.0

問11 令和5年1月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用しましたか。(○はひとつ)

「利用した」の割合が57.2%、「利用していない」の割合が40.9%となっています。令和元年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。

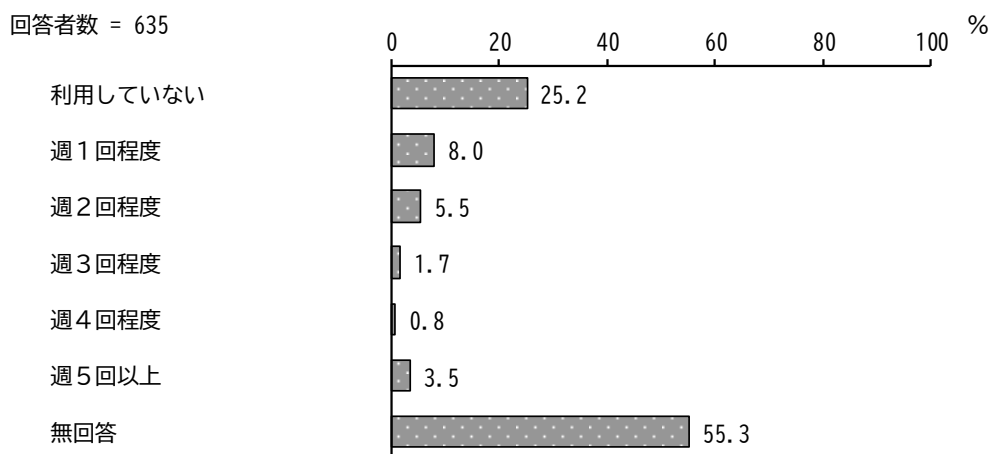


※問11で「利用した」と回答された人におたずねします。

問12 以下の介護保険サービスについて、令和5年1月の1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「利用していない(0回、利用していない)」を選択してください(それぞれ1つに○)。

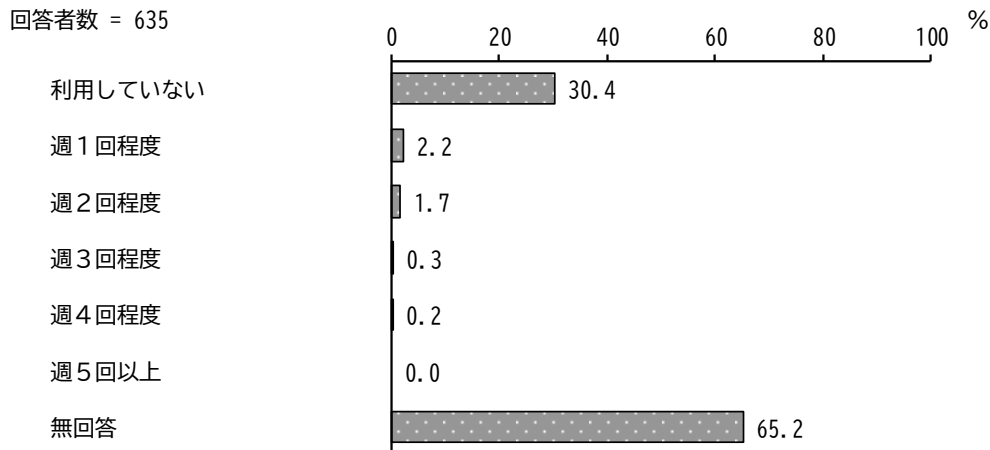
#### A. 訪問介護(ホームヘルプサービス)

「利用していない」の割合が25.2%と最も高くなっています。



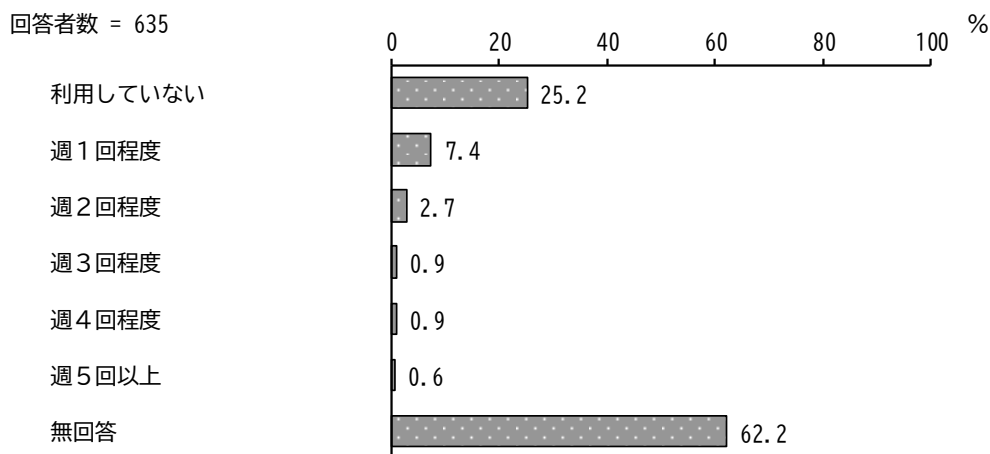
## B. 訪問入浴介護

「利用していない」の割合が30.4%と最も高くなっています。



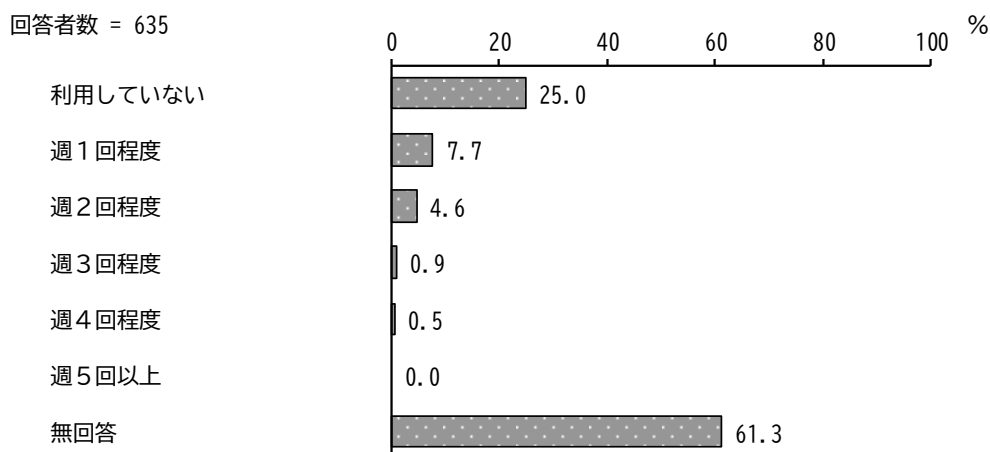
## C. 訪問看護

「利用していない」の割合が25.2%と最も高くなっています。



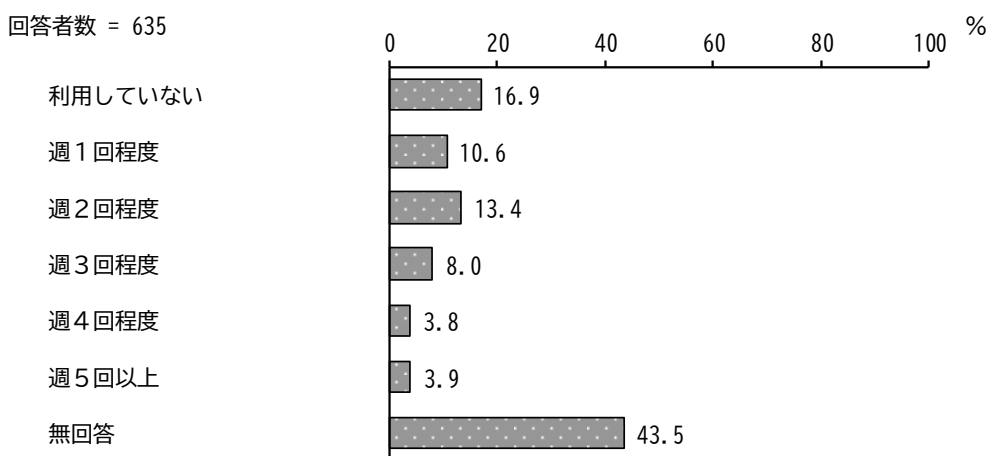
## D. 訪問リハビリテーション

「利用していない」の割合が25.0%と最も高くなっています。



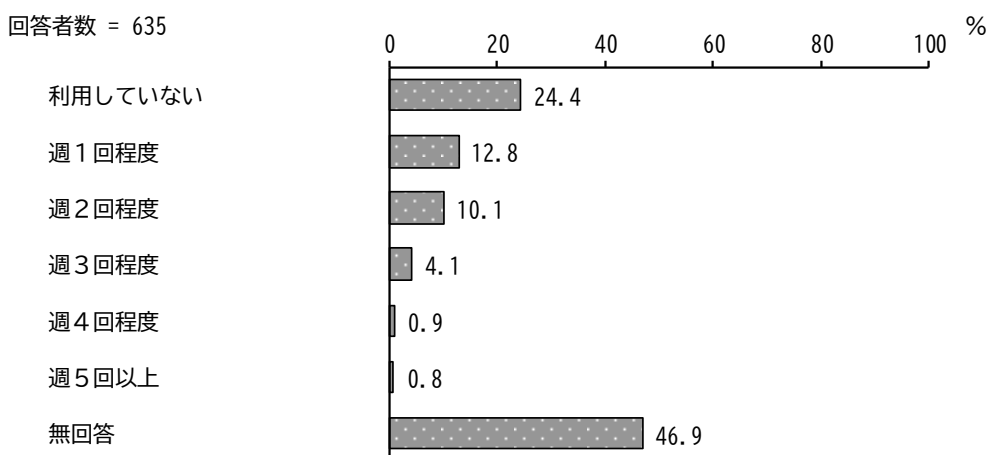
### E. 通所介護（デイサービス）

「利用していない」の割合が16.9%と最も高く、次いで「週2回程度」の割合が13.4%、「週1回程度」の割合が10.6%となっています。



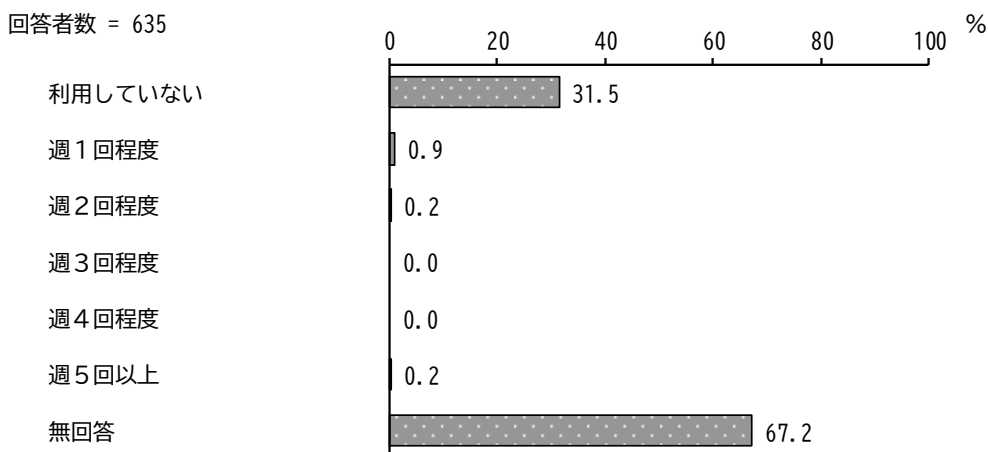
### F. 通所リハビリテーション（デイケア）

「利用していない」の割合が24.4%と最も高く、次いで「週1回程度」の割合が12.8%、「週2回程度」の割合が10.1%となっています。



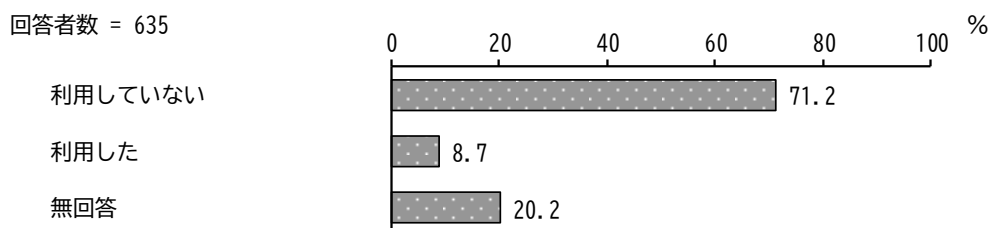
### G. 夜間対応型訪問介護（※訪問のあった回数を回答）

「利用していない」の割合が31.5%と最も高くなっています。



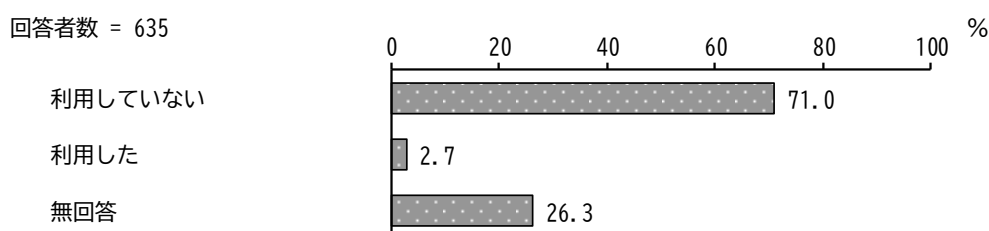
#### H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

「利用していない」の割合が71.2%、「利用した」の割合が8.7%となっています。



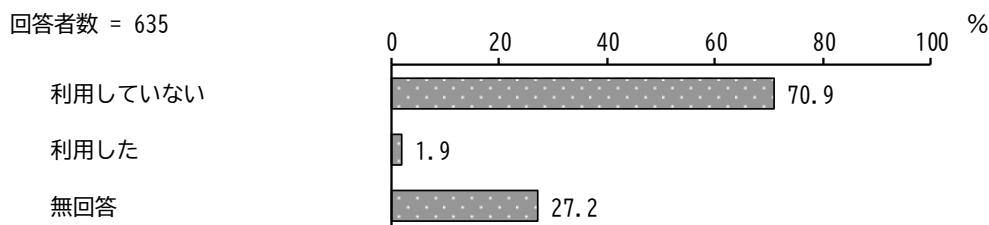
#### I. 小規模多機能型居宅介護

「利用していない」の割合が71.0%、「利用した」の割合が2.7%となっています。



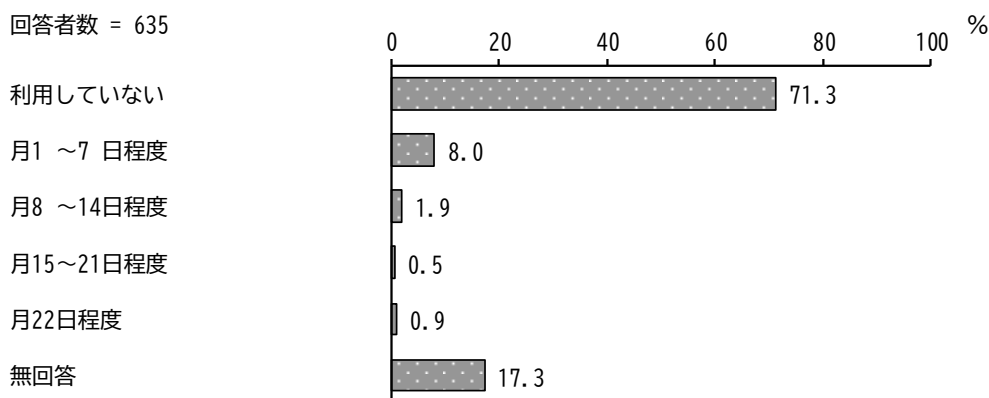
#### J. 看護小規模多機能型居宅介護

「利用していない」の割合が70.9%、「利用した」の割合が1.9%となっています。



#### K. ショートステイ

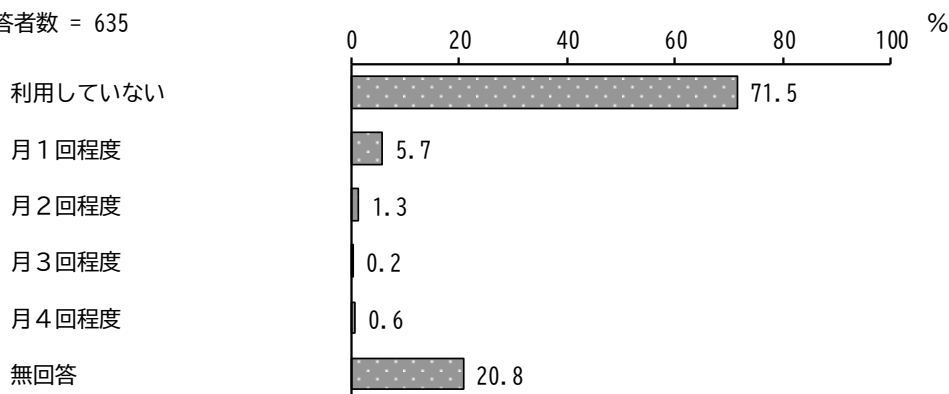
「利用していない」の割合が71.3%と最も高くなっています。



## L. 居宅療養管理指導

「利用していない」の割合が71.5%と最も高くなっています。

回答者数 = 635

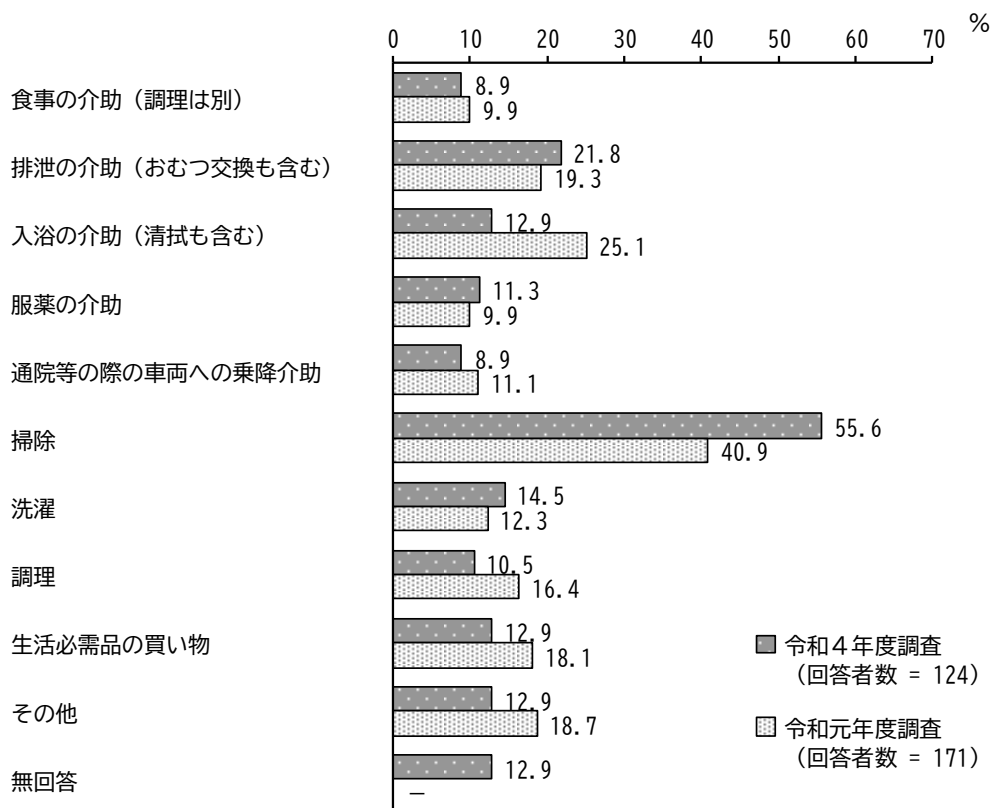


※問12で「訪問介護を週1回程度以上利用している」と回答された人におたずねします。

### 問13 訪問介護で援助を受けている内容は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「掃除」の割合が55.6%と最も高く、次いで「排泄の介助(おむつ交換も含む)」の割合が21.8%、「洗濯」の割合が14.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「掃除」の割合が増加しています。一方、「入浴の介助(清拭も含む)」「調理」「生活必需品の買い物」の割合が減少しています。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護3・4・5で「排泄の介助（おむつ交換も含む）」の割合が、要介護1・2及び要支援1・2で「掃除」の割合が高くなっています。

単位：％

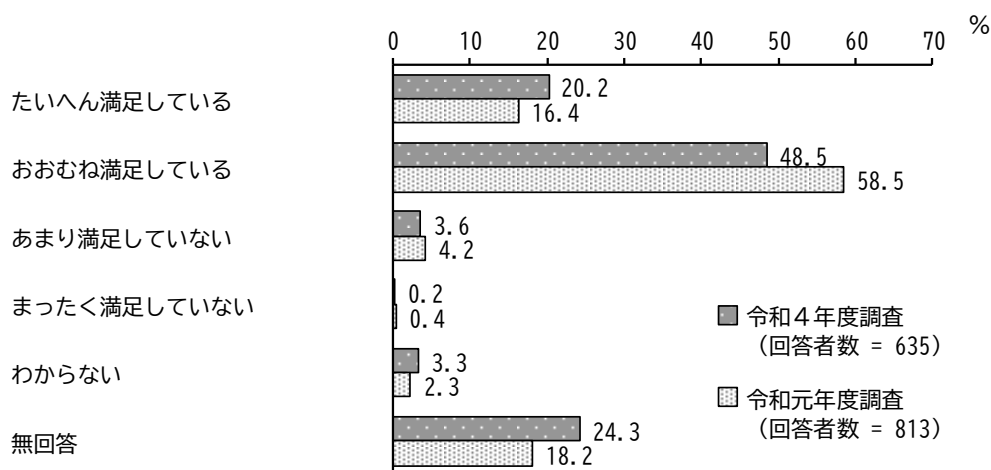
区分	回答者数（件）	食事の介助（調理は別）	排泄の介助（おむつ交換も含む）	入浴の介助（清拭も含む）	服薬の介助	通院等の際の車両への乗降介助	掃除	洗濯	調理	生活必需品の買い物	その他	無回答
全体	124	8.9	21.8	12.9	11.3	8.9	55.6	14.5	10.5	12.9	12.9	12.9
要支援1・2	60	1.7	1.7	6.7	3.3	5.0	70.0	11.7	3.3	20.0	6.7	15.0
要介護1・2	31	12.9	25.8	12.9	16.1	9.7	51.6	16.1	22.6	9.7	22.6	16.1
要介護3・4・5	29	20.7	58.6	24.1	24.1	17.2	34.5	20.7	6.9	3.4	17.2	6.9

※問11で「利用した」と回答された人におたずねします。

問14 現在受けている介護サービスについて、どの程度満足されていますか。  
（○はひとつ）

「たいへん満足している」と「おおむね満足している」をあわせた“満足している”の割合が68.7%、「あまり満足していない」と「まったく満足していない」をあわせた“満足していない”の割合が3.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、“満足している”の割合が減少しています。



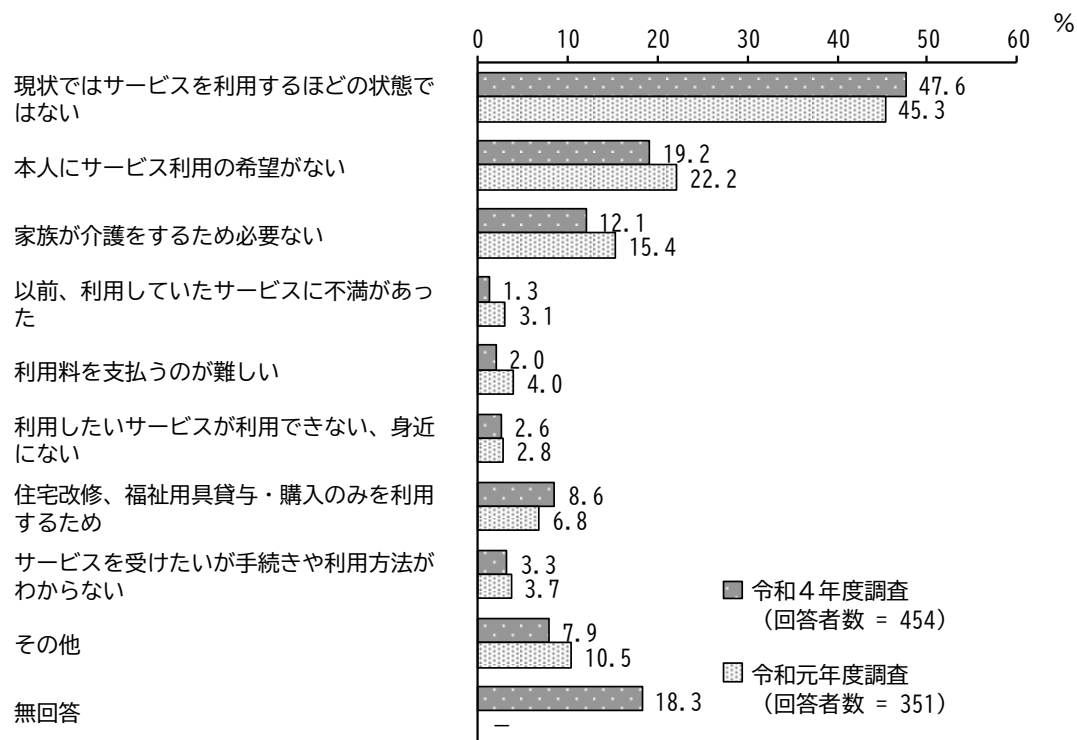


※問 11 で「利用していない」と回答された人におたずねします。

**問 15 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)**

「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」の割合が 19.2%、「家族が介護をするため必要ない」の割合が 12.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



**【要介護度】**

要介護度でみると、要介護3・4・5及び要介護1・2で「本人にサービス利用の希望がない」の割合が、要支援1・2で「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」の割合が高くなっています。

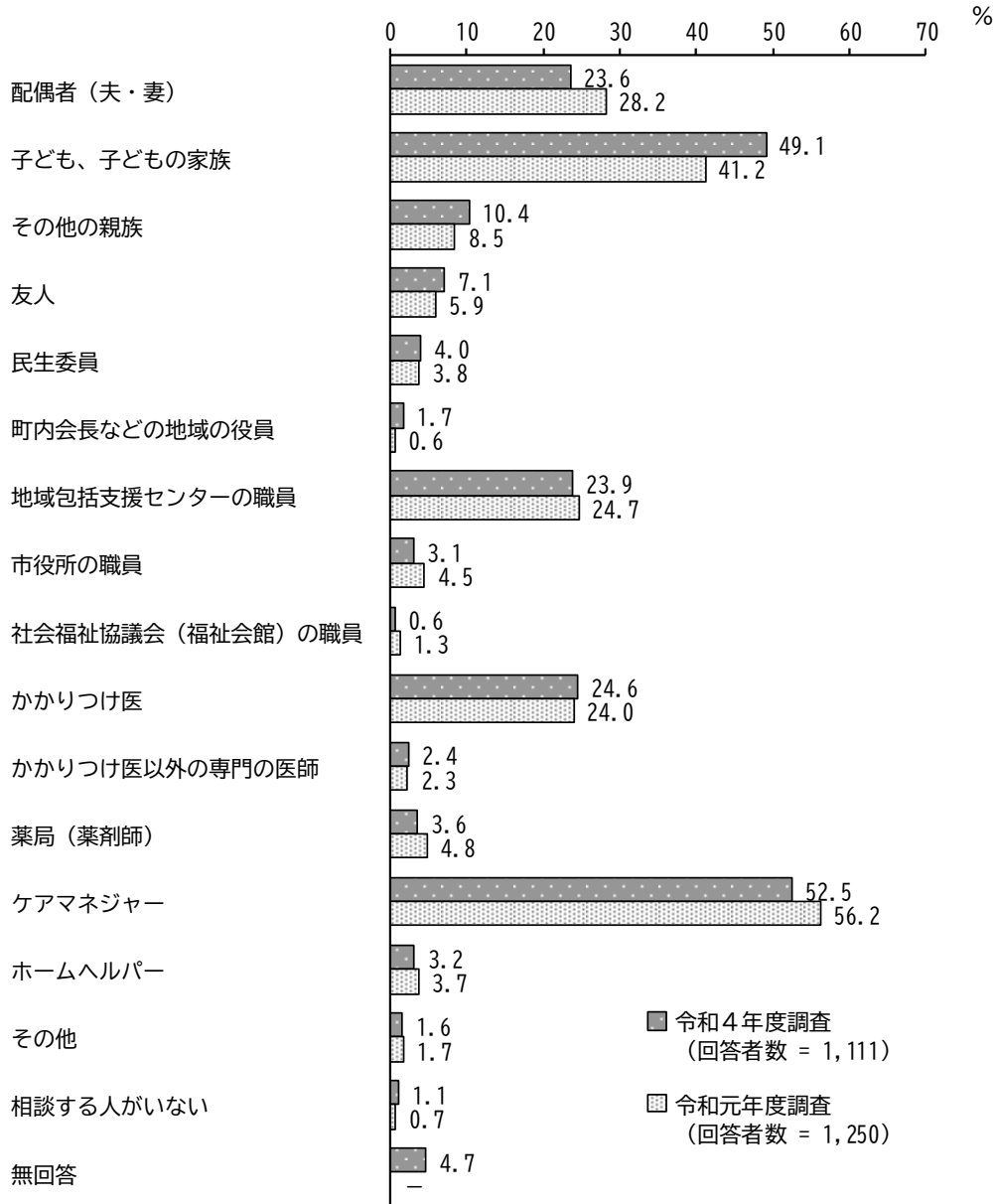
単位：%

区分	回答者数(件)	現状ではサービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない	その他	無回答
全体	454	47.6	19.2	12.1	1.3	2.0	2.6	8.6	3.3	7.9	18.3
要支援1・2	332	53.9	15.4	9.9	0.9	1.8	2.4	9.6	1.8	5.1	18.1
要介護1・2	68	29.4	33.8	22.1	4.4	4.4	4.4	2.9	8.8	13.2	17.6
要介護3・4・5	33	12.1	30.3	21.2	-	-	3.0	15.2	6.1	30.3	18.2

問16 介護保険や健康、福祉などに関する事で、知りたいことがあったり、困ったことがあったりしたときに、どなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

「ケアマネジャー」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「子ども、子どもの家族」の割合が 49.1%、「かかりつけ医」の割合が 24.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「子ども、子どもの家族」の割合が増加しています。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護3・4・5及び要介護1・2で「ケアマネジャー」の割合が、要支援1・2で「子ども、子どもの家族」の割合が高くなっています。

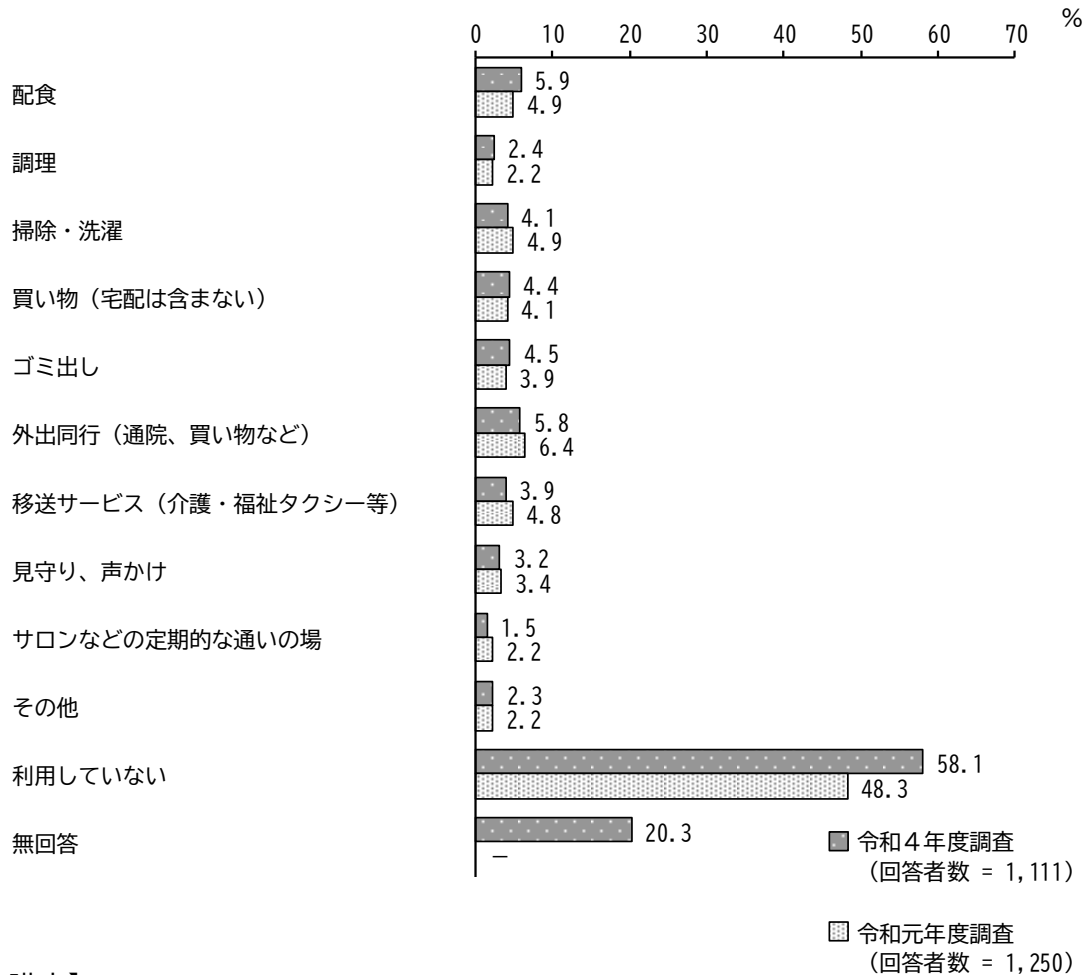
単位：％

区分	回答者数(件)	配偶者(夫・妻)	子ども、子どもの家族	その他の親族	友人	民生委員	町内会長などの地域の役員	地域包括支援センターの職員	市役所の職員
全体	1111	23.6	49.1	10.4	7.1	4.0	1.7	23.9	3.1
要支援1・2	656	25.3	53.8	10.8	7.9	5.5	2.3	33.2	3.7
要介護1・2	263	19.8	46.8	10.6	8.4	1.9	1.5	10.6	1.9
要介護3・4・5	134	22.4	36.6	8.2	3.0	1.5	—	9.0	3.0

区分	社会福祉協議会(福祉会館)の職員	かかりつけ医	かかりつけ医以外の専門の医師	薬局(薬剤師)	ケアマネジャー	ホームヘルパー	その他	相談する人がいない	無回答
全体	0.6	24.6	2.4	3.6	52.5	3.2	1.6	1.1	4.7
要支援1・2	0.2	27.7	2.1	4.7	44.5	3.2	0.8	1.4	4.1
要介護1・2	1.9	20.2	3.0	1.1	67.7	3.8	2.3	0.4	2.7
要介護3・4・5	—	23.1	2.2	4.5	71.6	3.7	5.2	1.5	3.0

問 17 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「利用していない」の割合が 58.1%と最も高くなっています。  
令和元年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。



【要介護度】

要介護度でみると、すべての介護度で「利用していない」の割合が最も高く、特に要介護1・2で高くなっています。

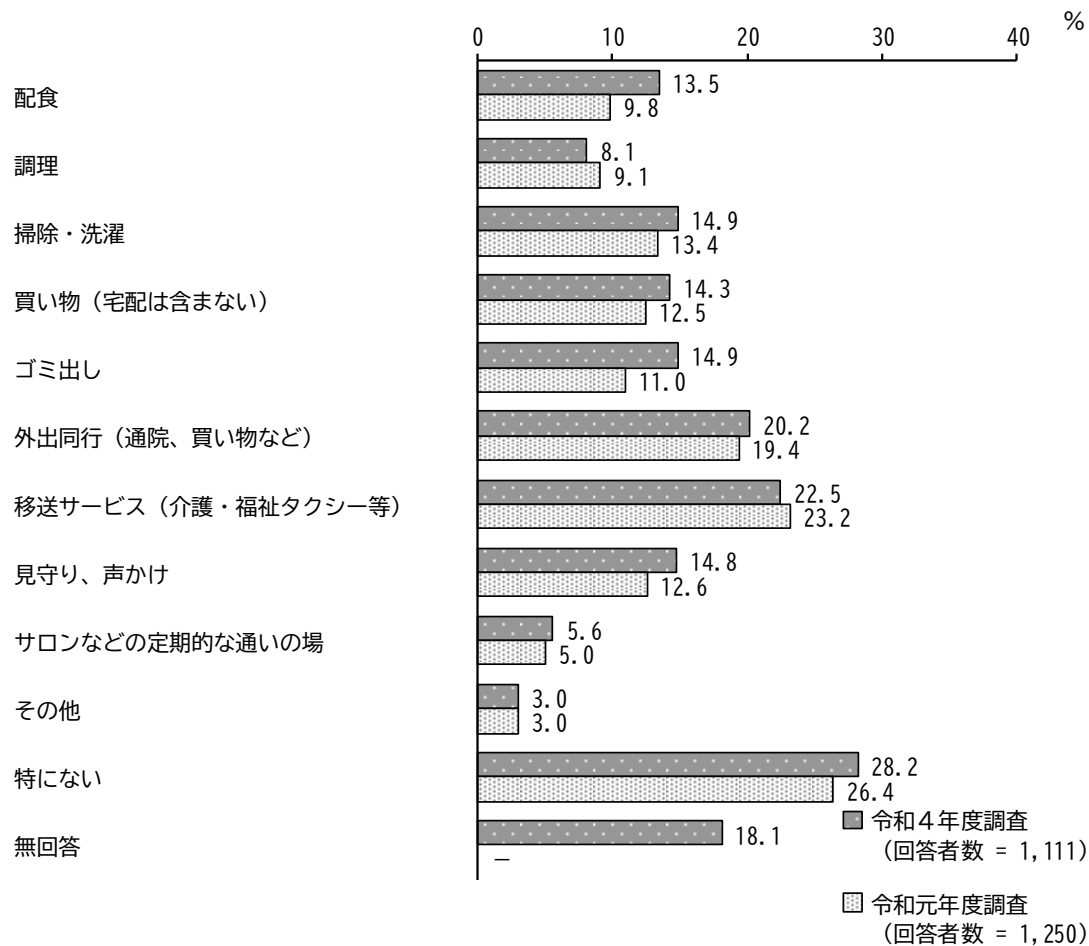
単位：%

区分	回答者数（件）	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
全体	1111	5.9	2.4	4.1	4.4	4.5	5.8	3.9	3.2	1.5	2.3	58.1	20.3
要支援1・2	656	6.7	2.7	5.5	5.0	4.9	7.2	4.1	3.0	1.8	2.0	55.2	20.4
要介護1・2	263	4.2	2.3	2.7	4.6	4.2	4.2	1.9	4.9	1.1	3.4	67.3	14.4
要介護3・4・5	134	6.7	1.5	1.5	2.2	3.0	2.2	8.2	0.7	0.7	2.2	63.4	17.9

問 18 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「特にない」の割合が 28.2%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が 22.5%、「外出同行（通院、買い物など）」の割合が 20.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護1・2で「見守り、声かけ」「配食」の割合が高くなっています。

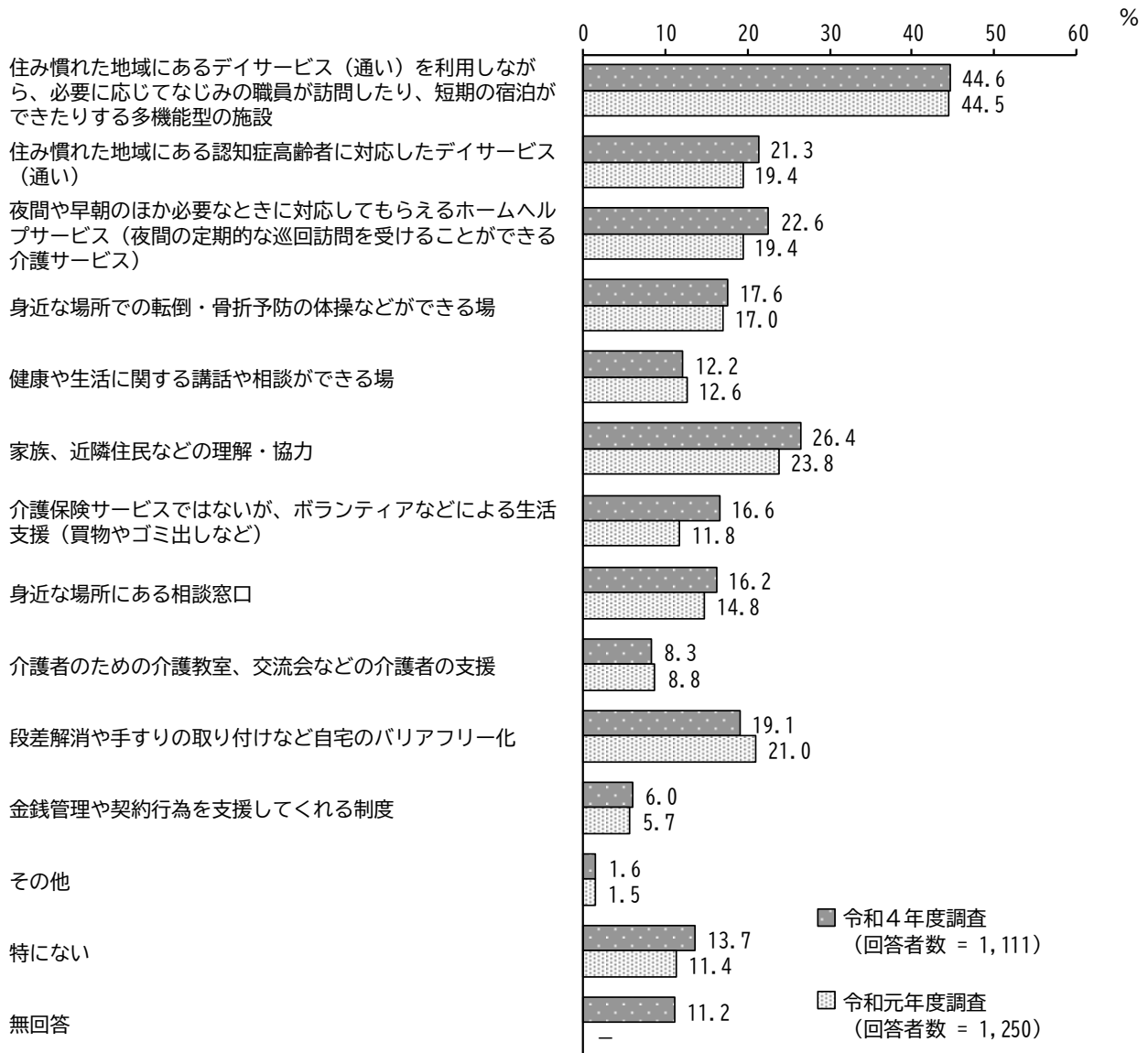
単位：%

区分	回答者数（件）	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特にない	無回答
全体	1111	13.5	8.1	14.9	14.3	14.9	20.2	22.5	14.8	5.6	3.0	28.2	18.1
要支援1・2	656	12.5	8.4	16.3	17.1	17.5	22.0	23.3	14.3	4.9	2.1	27.9	16.5
要介護1・2	263	19.0	10.3	15.6	13.7	12.9	22.1	22.8	21.7	8.0	4.2	28.9	14.4
要介護3・4・5	134	9.0	5.2	10.4	6.7	9.7	11.9	23.1	9.0	6.0	5.2	34.3	17.9

問 19 在宅での生活を続けるために必要なことはどのようなことだと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「住み慣れた地域にあるデイサービス（通い）を利用しながら、必要に応じてなじみの職員が訪問したり、短期の宿泊ができたりする多機能型の施設」の割合が 44.6%と最も高く、次いで「家族、近隣住民などの理解・協力」の割合が 26.4%、「夜間や早朝のほか必要ときに対応してもらえるホームヘルプサービス（夜間の定期的な巡回訪問を受けることができる介護サービス）」の割合が 22.6%となっています。

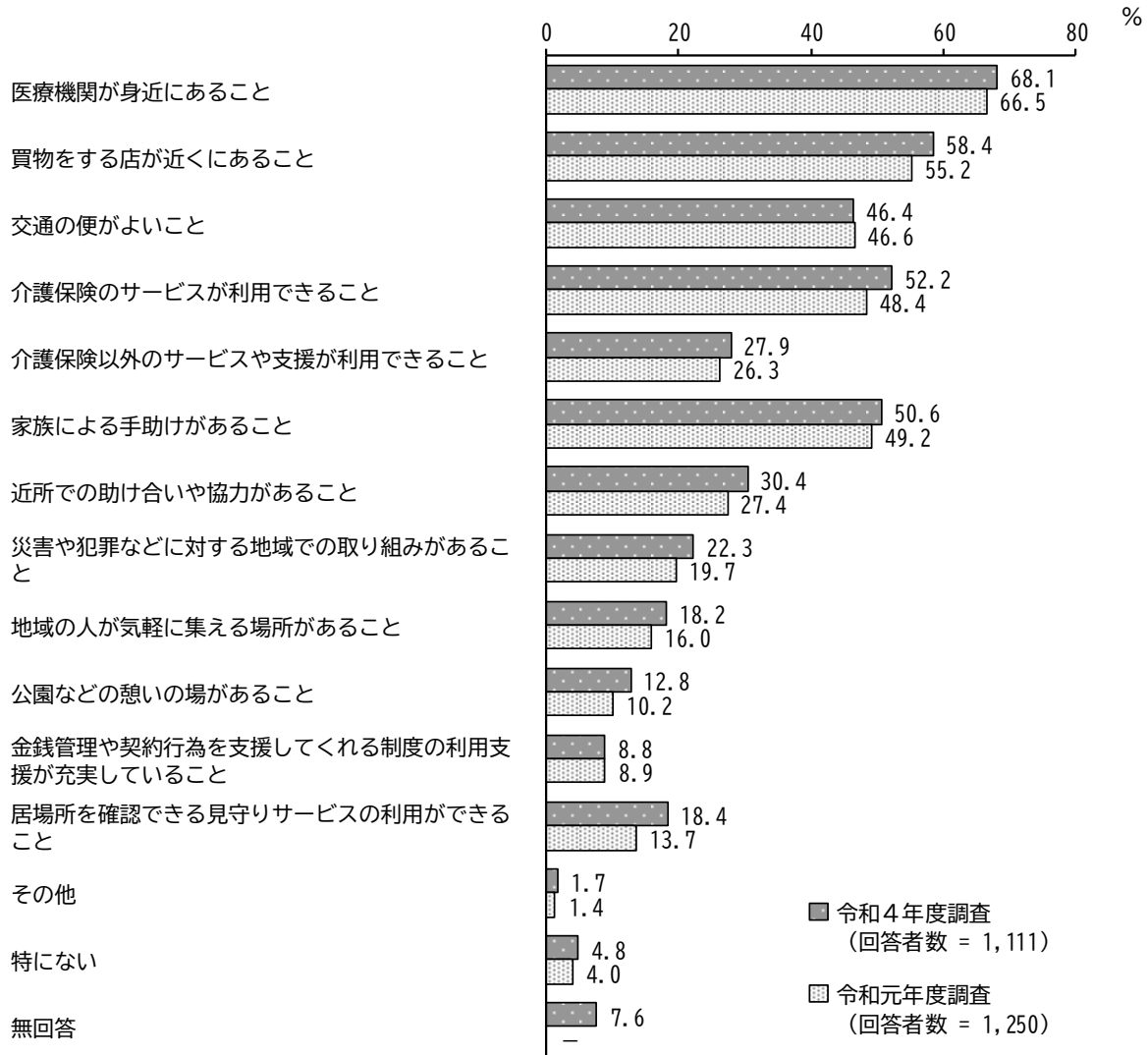
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 20 今後も自分の希望する場所で暮らしていくためには何が必要だと感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

「医療機関が身近にあること」の割合が 68.1%と最も高く、次いで「買物をする店が近くにあること」の割合が 58.4%、「介護保険のサービスが利用できること」の割合が 52.2%となっています。

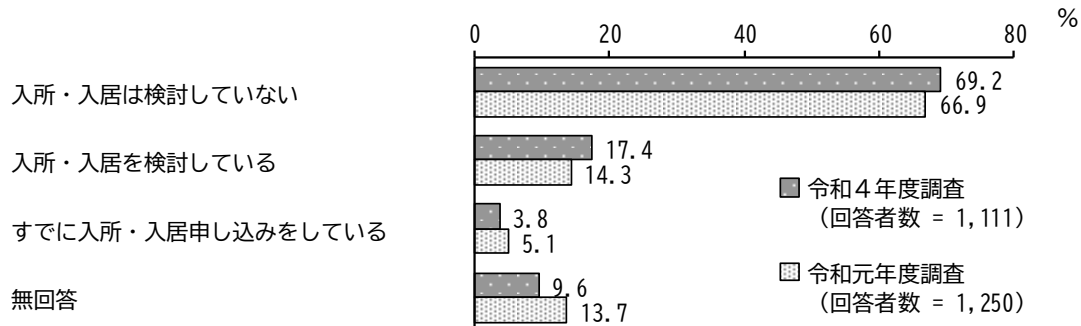
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 21 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について教えてください。(〇はひとつ)

「入所・入居は検討していない」の割合が 69.2%、「入所・入居を検討している」の割合が 17.4% となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護3・4・5及び要介護1・2で「入所・入居を検討している」の割合が、要支援1・2で「入所・入居は検討していない」の割合が高くなっています。

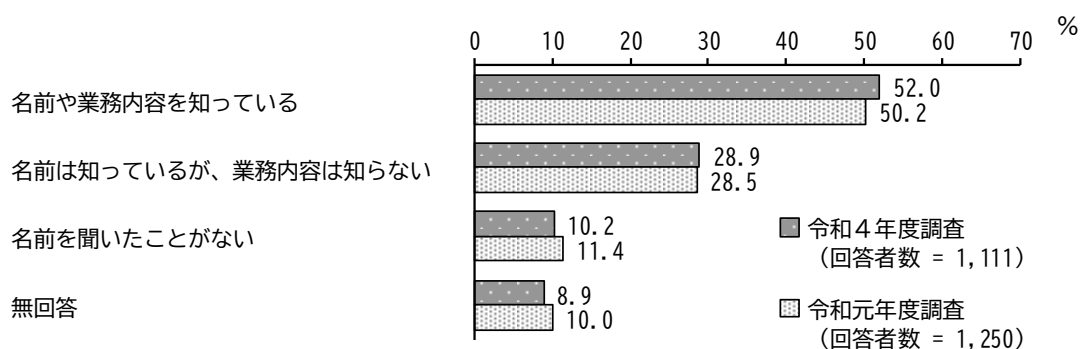
単位：%

区分	回答者数(件)	入所・入居は検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている	無回答
全体	1111	69.2	17.4	3.8	9.6
要支援1・2	656	74.5	14.8	1.4	9.3
要介護1・2	263	64.6	23.2	6.1	6.1
要介護3・4・5	134	56.0	22.4	11.9	9.7

問 22 市内に地域包括支援センターがあることを知っていますか。(〇はひとつ)

「名前や業務内容を知っている」の割合が 52.0%と最も高く、次いで「名前は知っているが、業務内容は知らない」の割合が 28.9%、「名前を聞いたことがない」の割合が 10.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



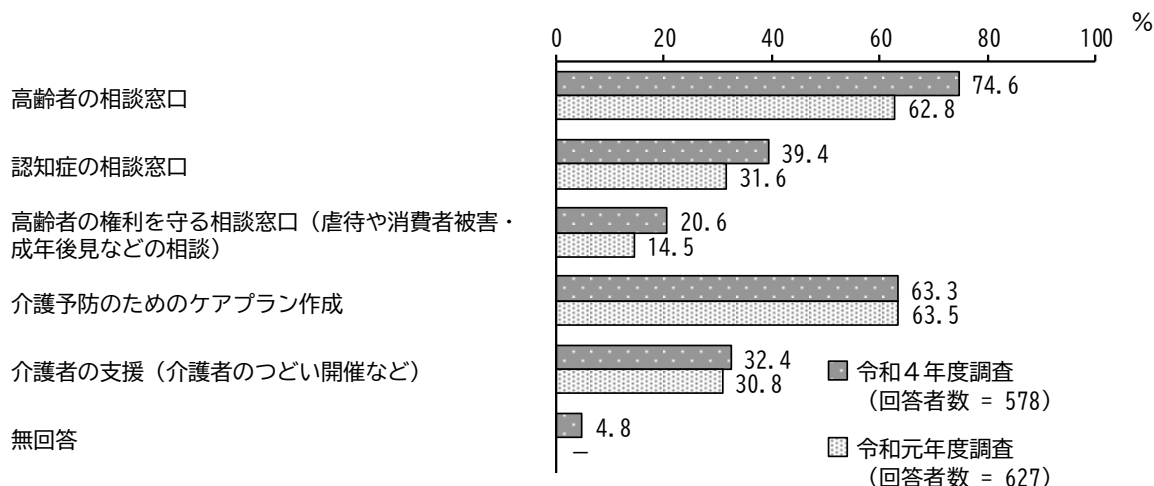


※問 22 で「名前や業務内容を知っている」と回答された人におたずねします。

**問 23 どのような業務内容を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)**

「高齢者の相談窓口」の割合が 74.6%と最も高く、次いで「介護予防のためのケアプラン作成」の割合が 63.3%、「認知症の相談窓口」の割合が 39.4%となっています。

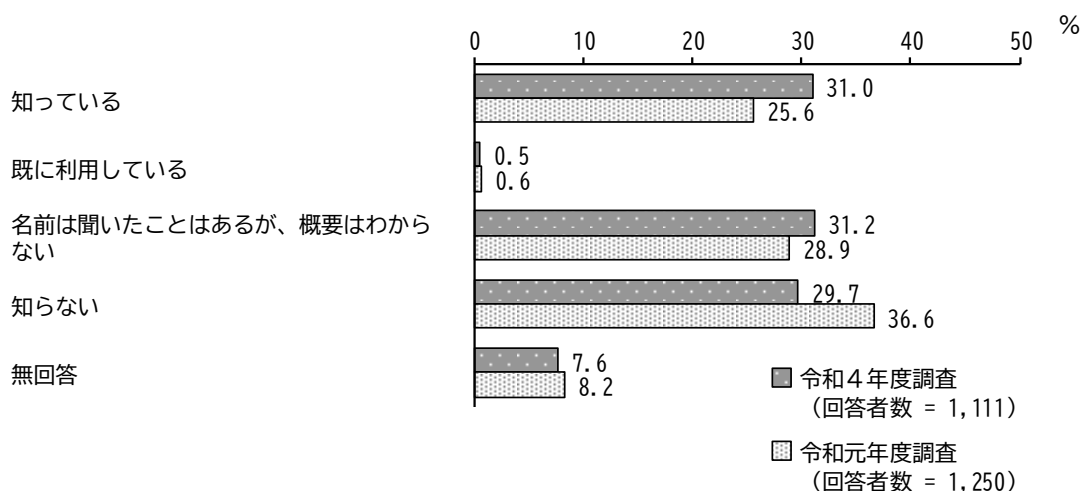
令和元年度調査と比較すると、「高齢者の相談窓口」「認知症の相談窓口」「高齢者の権利を守る相談窓口（虐待や消費者被害・成年後見などの相談）」の割合が増加しています。



**問 24 成年後見制度について制度の概要を知っていますか。(○はひとつ)**

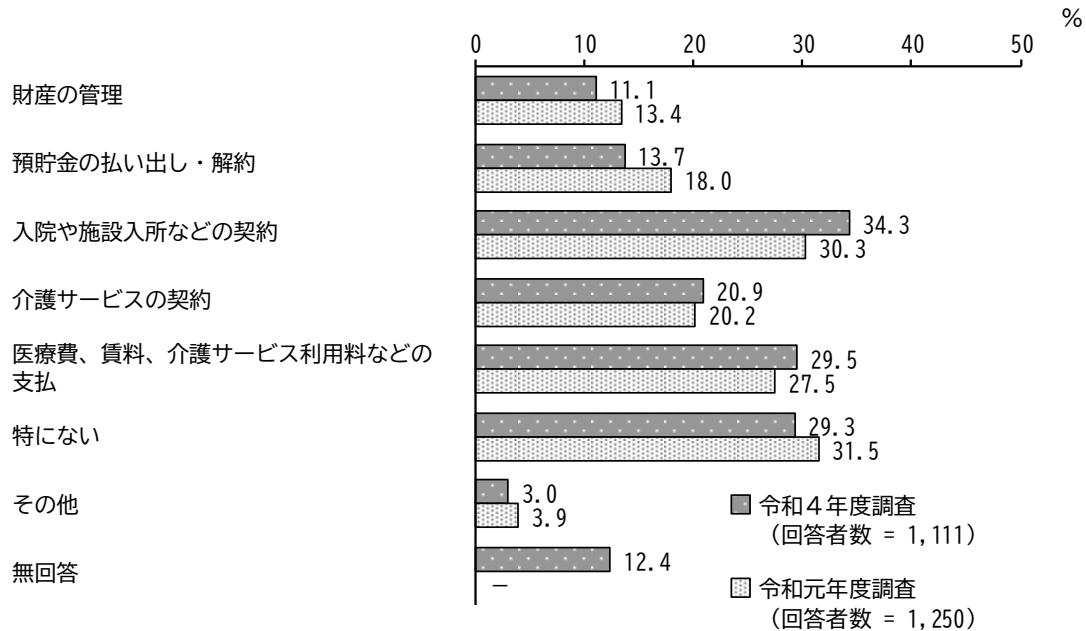
「名前は聞いたことはあるが、概要はわからない」の割合が 31.2%と最も高く、次いで「知っている」の割合が 31.0%、「知らない」の割合が 29.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加し、「知らない」の割合が減少しています。



問 25 将来の自分について不安なことはどんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

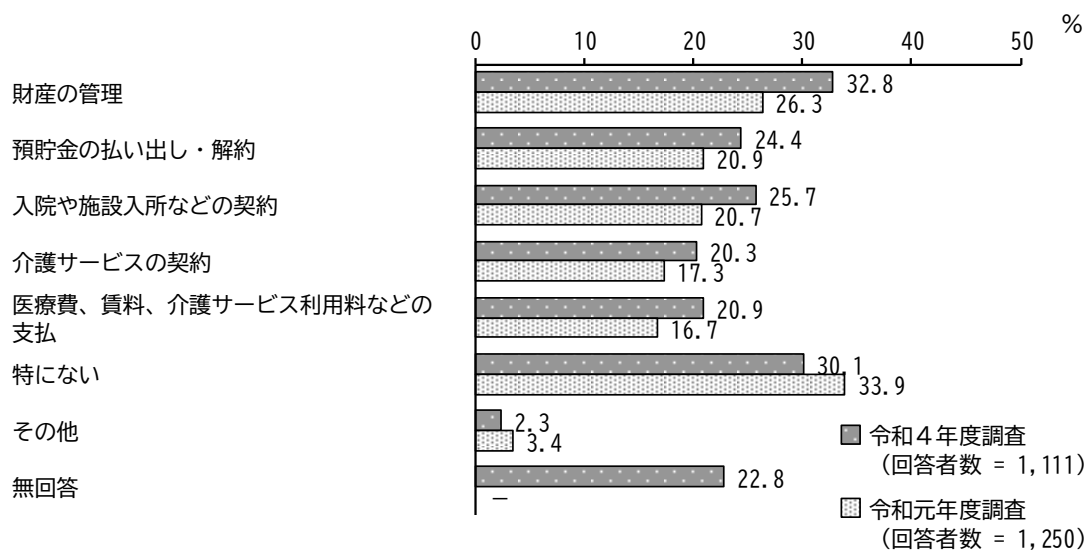
「入院や施設入所などの契約」の割合が 34.3%と最も高く、次いで「医療費、賃料、介護サービス利用料などの支払」の割合が 29.5%、「特にない」の割合が 29.3%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 26 成年後見制度を利用した場合、以下のようなことを支援することができますが、どのような内容を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

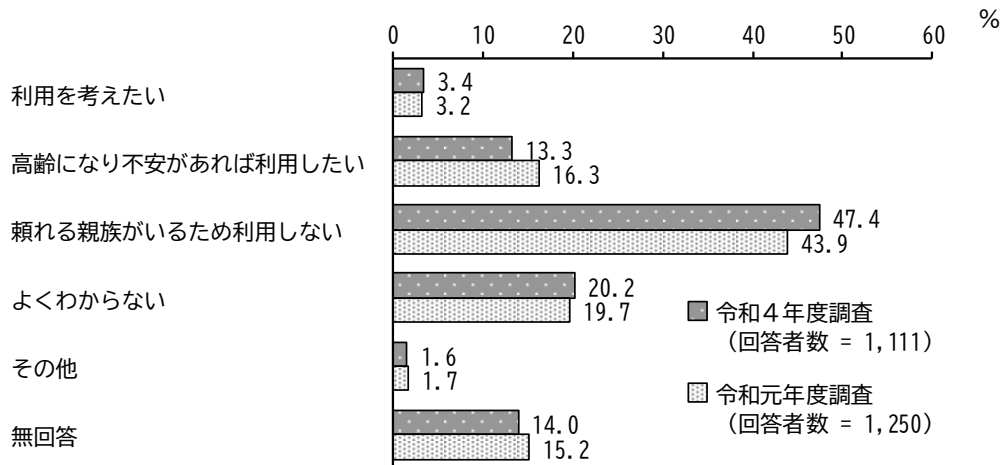
「財産の管理」の割合が 32.8%と最も高く、次いで「特に知っている内容はない」の割合が 30.1%、「入院や施設入所などの契約」の割合が 25.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「財産の管理」「入院や施設入所などの契約」の割合が増加しています。



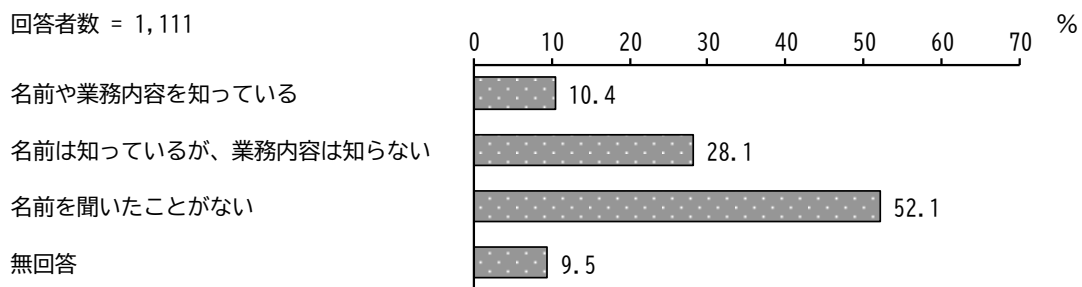
問 27 問 26 の選択肢「財産の管理」～「医療費、賃料、介護サービス利用料などの支払」のような支援をしてくれる成年後見制度の利用についてどのように考えますか。(○はひとつ)

「頼れる親族がいるため利用しない」の割合が 47.4%と最も高く、次いで「よくわからない」の割合が 20.2%、「高齢になり不安があれば利用したい」の割合が 13.3%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



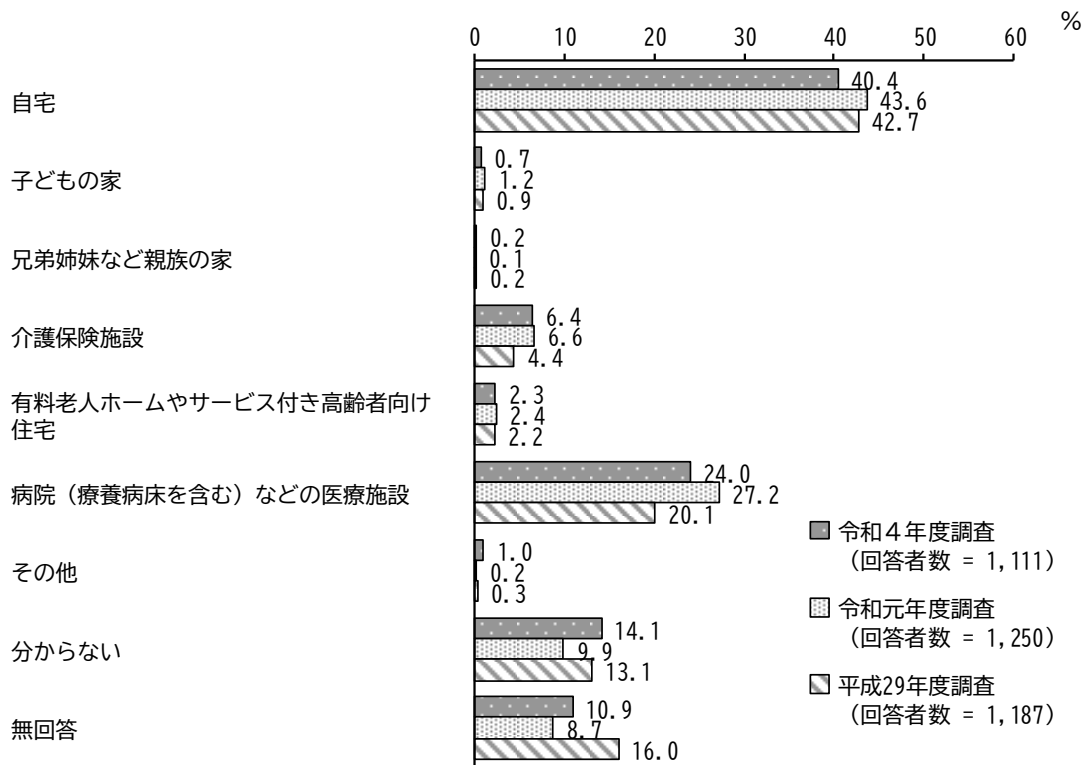
問 28 成年後見制度の相談ができる成年後見支援センターが市内にあることを知っていますか。(○はひとつ)

「名前を聞いたことがない」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「名前は知っているが、業務内容は知らない」の割合が 28.1%、「名前や業務内容を知っている」の割合が 10.4%となっています。



問 29 治る見込みがない病気になった場合、どこで最期を迎えたいですか。  
(○はひとつ)

「自宅」の割合が40.4%と最も高く、次いで「病院（療養病床を含む）などの医療施設」の割合が24.0%、「分からない」の割合が14.1%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【要介護度】

要介護度でみると、全区分で「自宅」の割合が高くなっています。

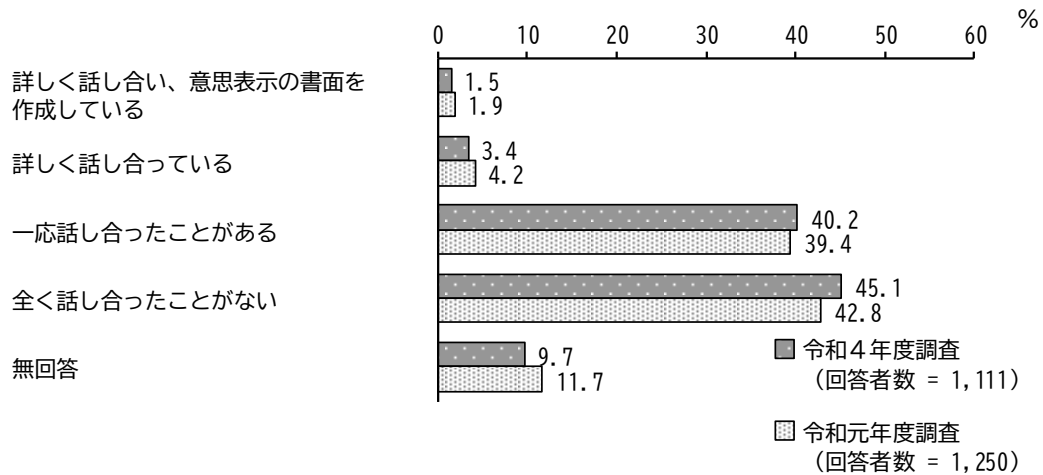
単位：%

区分	回答者数(件)	自宅	子どもの家	兄弟姉妹など親族の家	介護保険施設	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅	病院（療養病床を含む）などの医療施設	その他	分からない	無回答
全 体	1111	40.4	0.7	0.2	6.4	2.3	24.0	1.0	14.1	10.9
要支援1・2	656	37.8	0.8	0.2	6.7	2.7	26.4	1.2	14.5	9.8
要介護1・2	263	47.9	—	0.4	7.2	1.9	22.1	1.1	12.2	7.2
要介護3・4・5	134	40.3	2.2	—	5.2	1.5	20.1	—	17.2	13.4

問 30 人生の最期をどのように迎えたいか家族と話し合ったことがありますか。  
(○はひとつ)

「全く話し合ったことがない」の割合が45.1%と最も高く、次いで「一応話し合ったことがある」の割合が40.2%となっています。

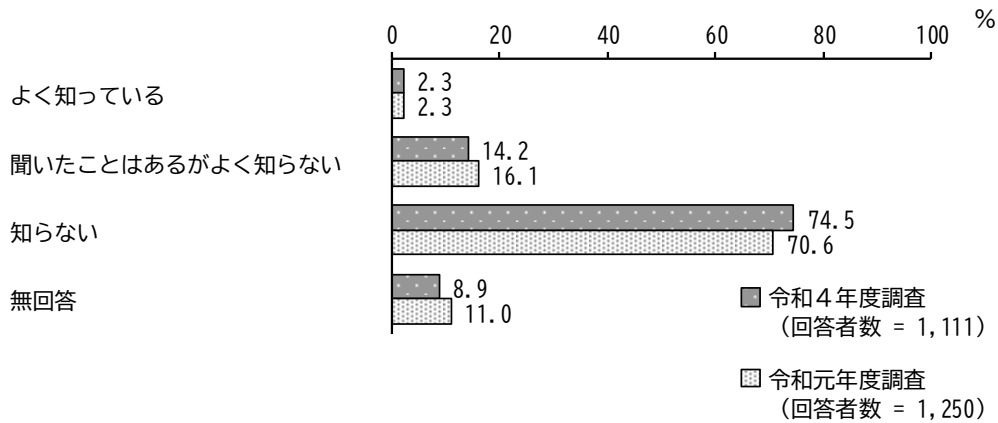
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 31 あなたは、アドバンス・ケア・プランニング（ACP、人生会議）について、知っていますか。(○はひとつ)

「知らない」の割合が74.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」の割合が14.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【要介護度】

要介護度でみると、全区分で「知らない」の割合が最も高くなっています。

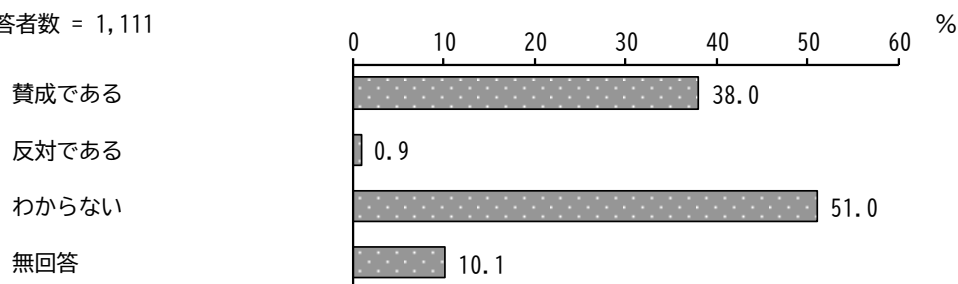
単位：%

区分	回答者数(件)	よく知っている	聞いたことはあるがよく知らない	知らない	無回答
全 体	1111	2.3	14.2	74.5	8.9
要支援1・2	656	2.6	16.8	73.3	7.3
要介護1・2	263	2.7	10.3	80.6	6.5
要介護3・4・5	134	0.7	10.4	76.1	12.7

問 32 このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。  
(○はひとつ)

「わからない」の割合が51.0%と最も高く、次いで「賛成である」の割合が38.0%となっています。

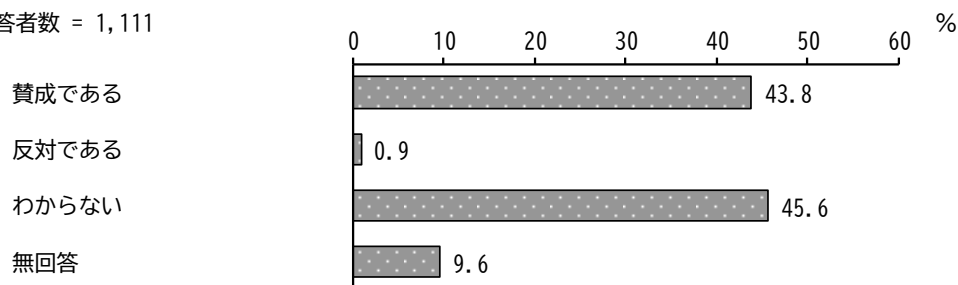
回答者数 = 1,111



問 33 あなたは、自分が意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・療養を受けたいか（受たくないか）などを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。(○はひとつ)

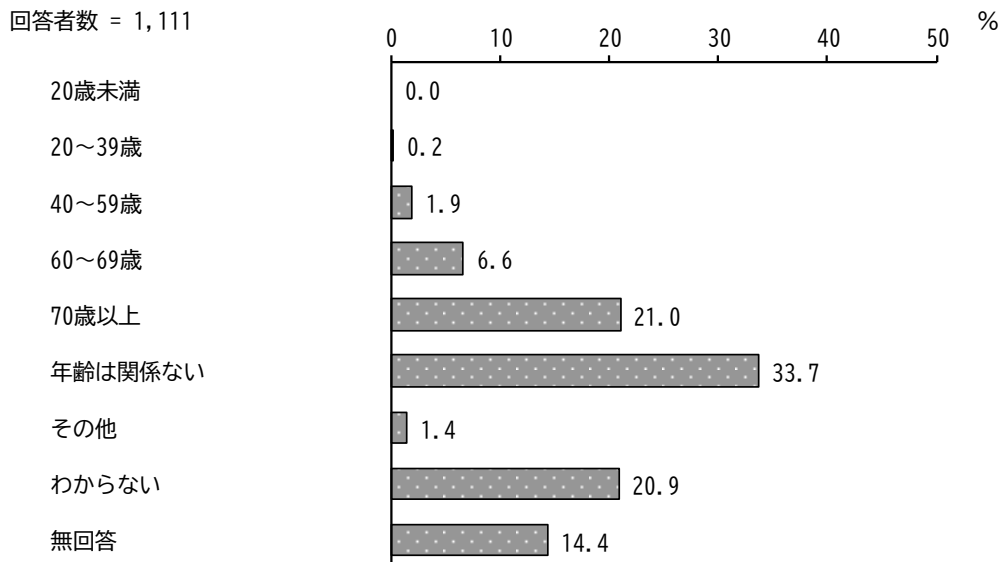
「わからない」の割合が45.6%と最も高く、次いで「賛成である」の割合が43.8%となっています。

回答者数 = 1,111



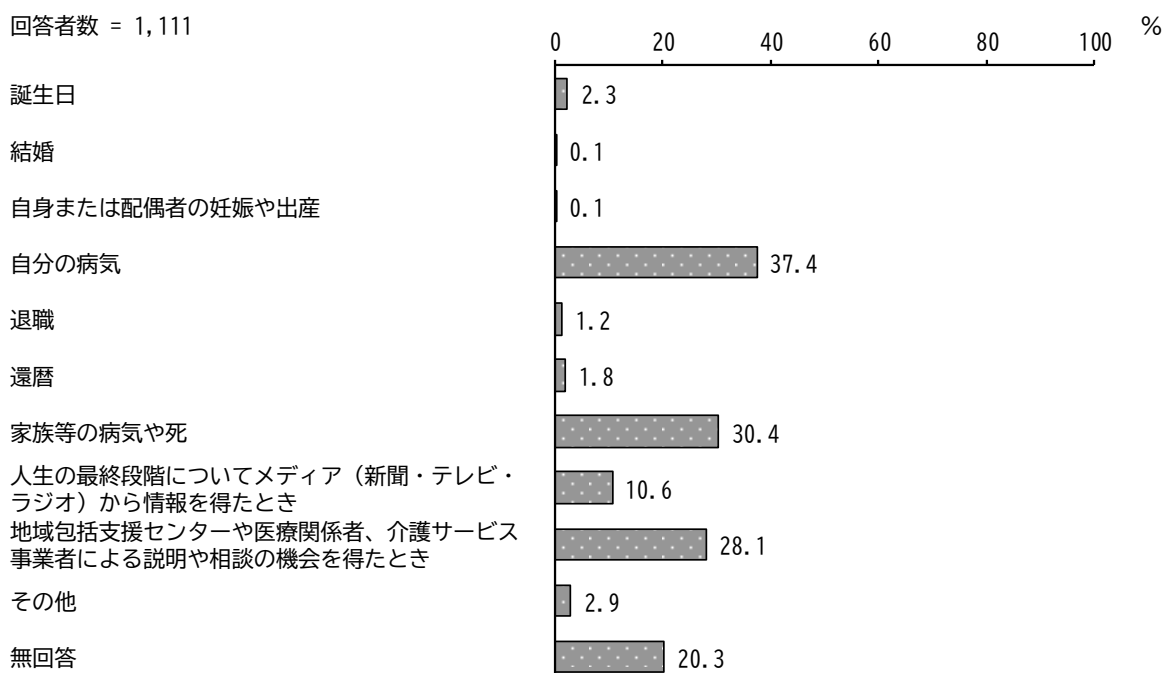
問 34 もし、家族や医療介護関係者等の方と医療・療養について話し合う（人生会議を  
実践する）時期があるとすれば、いつごろが適切な年齢だと思いますか。（話し  
合ったことがある方は、いつごろでしたか。）（○はひとつ）

「年齢は関係ない」の割合が 33.7%と最も高く、次いで「70 歳以上」の割合が 21.0%、「わか  
らない」の割合が 20.9%となっています。



問 35 もし、家族や医療介護関係者等の方と医療・療養について話し合うきっかけがあ  
るとすれば、どのような出来事だと思いますか。（話し合ったことがある方は、  
何がきっかけでしたか。）（あてはまるものすべてに○）

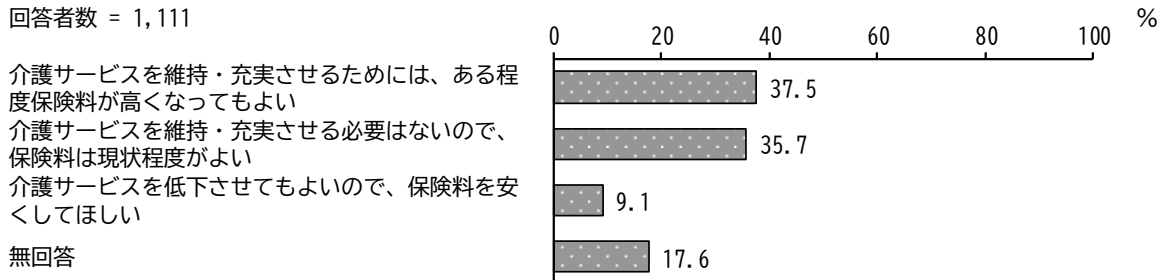
「自分の病気」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「家族等の病気や死」の割合が 30.4%、  
「地域包括支援センターや医療関係者、介護サービス事業者による説明や相談の機会を得たとき」  
の割合が 28.1%となっています。



問 36 今後、高齢者の増加に伴い、介護サービスを利用する人の増加が見込まれています。その結果、保険料が高くなる可能性があります。保険料と介護サービスの関係について、あなたの考えにもっとも近いものはどれですか。(○はひとつ)

「介護サービスを維持・充実させるためには、ある程度保険料が高くなってもよい」の割合が37.5%と最も高く、次いで「介護サービスを維持・充実させる必要はないので、保険料は現状程度がよい」の割合が35.7%となっています。

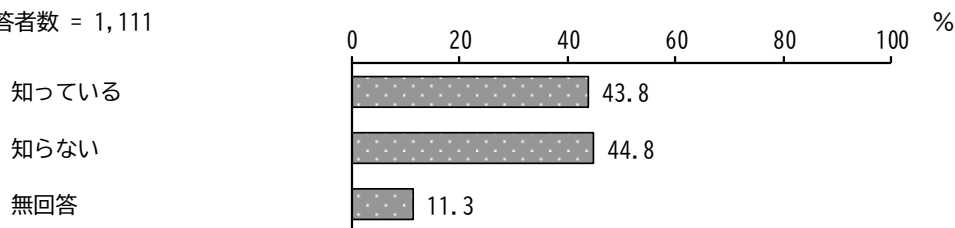
回答者数 = 1,111



問 37 自分が住んでいる地域や家の周りの災害の危険性を知っていますか。(○はひとつ)

「知っている」の割合が43.8%、「知らない」の割合が44.8%となっています。

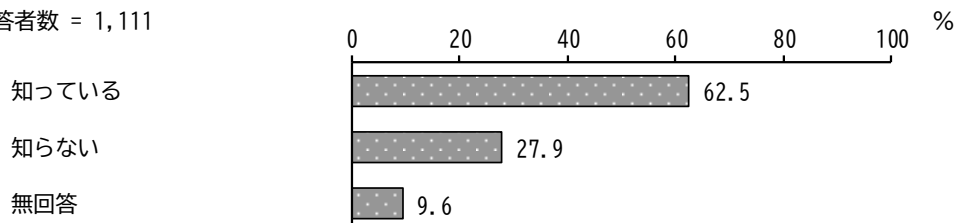
回答者数 = 1,111



問 38 避難場所を知っていますか。(○はひとつ)

「知っている」の割合が62.5%、「知らない」の割合が27.9%となっています。

回答者数 = 1,111

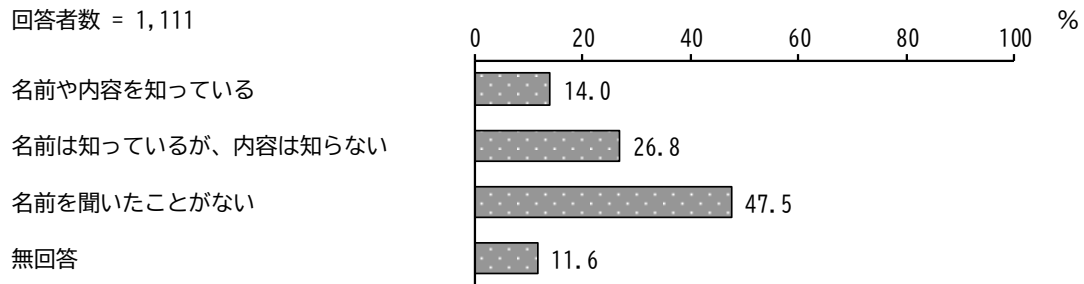




問 39 災害時における「避難行動要支援者制度」について知っていますか。(〇はひとつ)

「名前を聞いたことがない」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 26.8%、「名前や内容を知っている」の割合が 14.0%となっています。

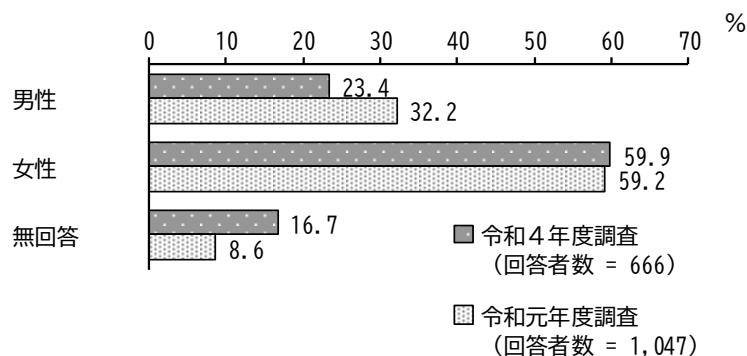
回答者数 = 1,111



### (3) 介護をしている人について

#### 問1 あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

「男性」の割合が23.4%、「女性」の割合が59.9%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、「男性」の割合が減少しています。



#### 【要介護度】

要介護度に見ると、全区分で「女性」の割合が高くなっています。

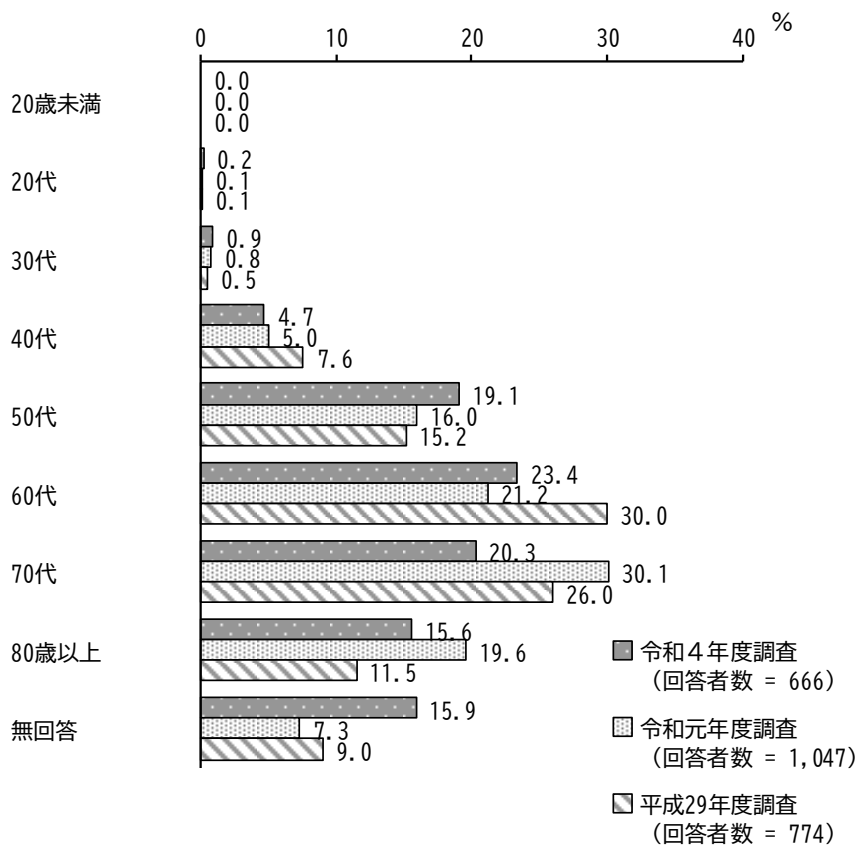
単位：%

区分	回答者数 (件)	男性	女性	無回答
全 体	666	23.4	59.9	16.7
要支援1・2	348	17.0	55.2	27.9
要介護1・2	202	26.7	68.8	4.5
要介護3・4・5	97	39.2	57.7	3.1

問2 あなたの年齢を教えてください。(〇はひとつ)

「60代」の割合が23.4%と最も高く、次いで「70代」の割合が20.3%、「50代」の割合が19.1%となっています。

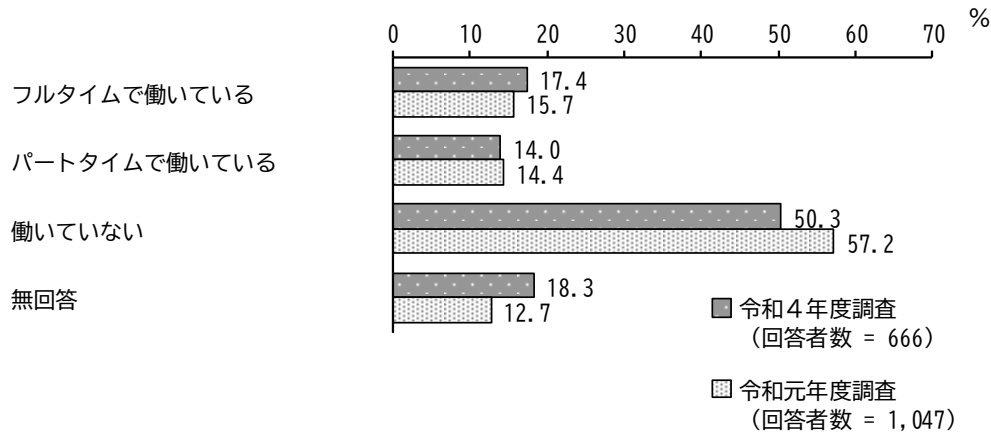
令和元年度調査と比較すると、「70代」の割合が減少しています。



問3 あなたの現在の勤務形態について、ご回答ください。(〇はひとつ)

「働いていない」の割合が 50.3%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」の割合が 17.4%、「パートタイムで働いている」の割合が 14.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「働いていない」の割合が減少しています。

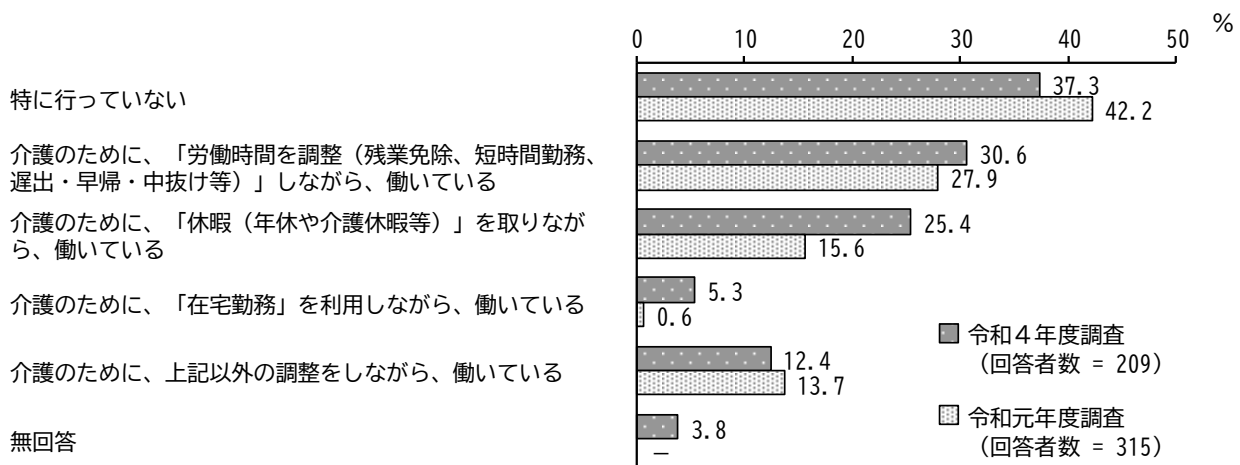


※問3で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答された人におたずねします。

問4 あなたは、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。(あてはまるものすべてに〇)

「特に行っていない」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が 30.6%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の割合が 25.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の割合が増加しています。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護1・2で「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が、要支援1・2で「特に行っていない」の割合が、要介護3・4・5で「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」の割合が高くなっています。

単位：%

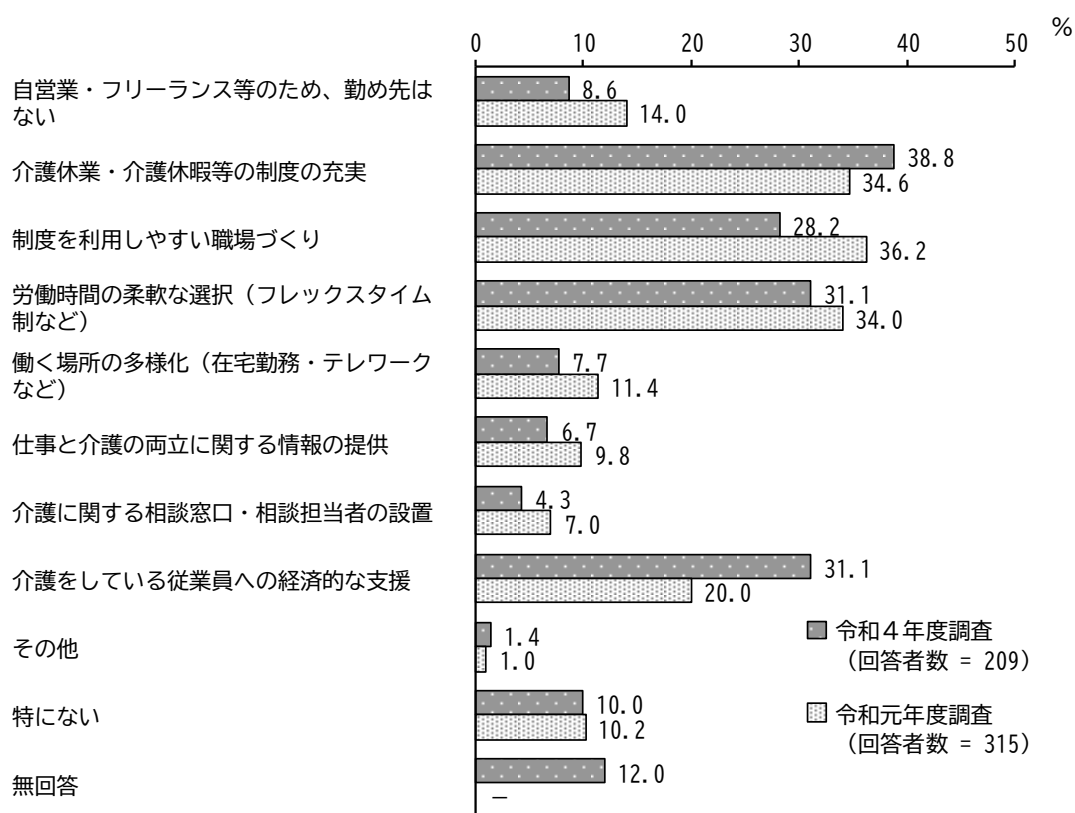
区分	回答者数(件)	特に行っていない	介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている	介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている	無回答
全体	209	37.3	30.6	25.4	5.3	12.4	3.8
要支援1・2	100	45.0	24.0	24.0	7.0	12.0	3.0
要介護1・2	77	28.6	39.0	24.7	5.2	10.4	6.5
要介護3・4・5	25	28.0	36.0	32.0	—	20.0	—

※問3で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答された人におたずねします。

**問5 あなたは、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(あてはまるものに3つまで○)**

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が38.8%と最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」、「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が31.1%となっています。

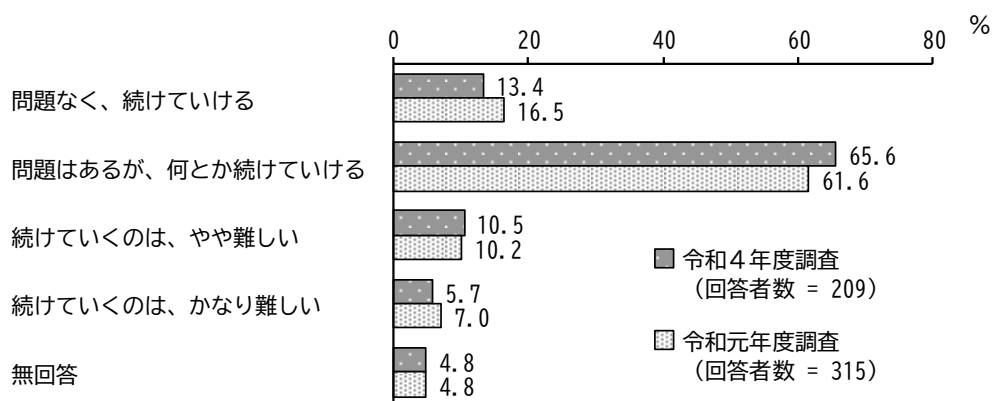
令和元年度調査と比較すると、「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が増加しています。一方、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が減少しています。



※問3で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答された人におたずねします。

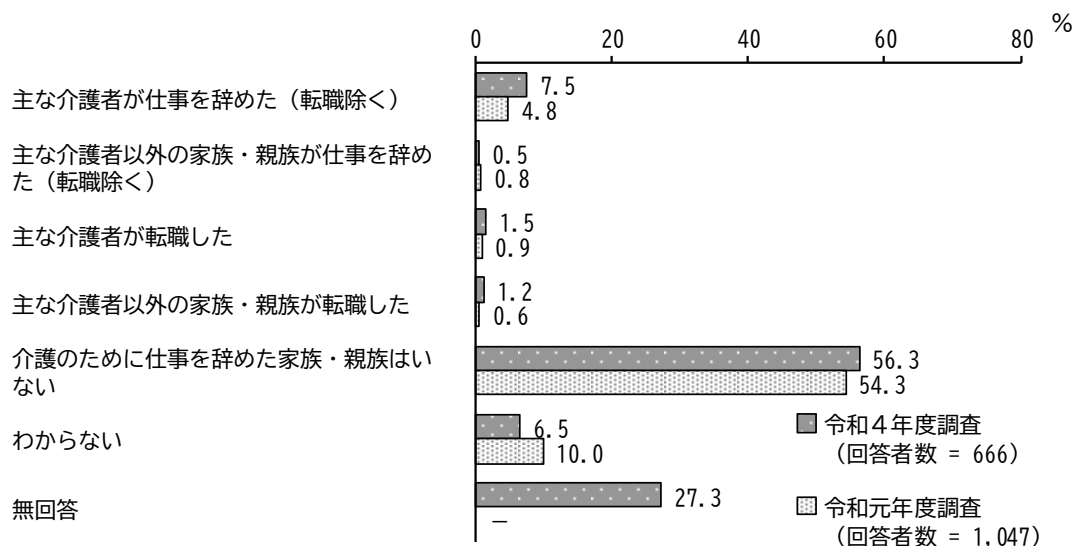
**問6 あなたは、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(○はひとつ)**

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が65.6%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の割合が13.4%、「続けていくのは、やや難しい」の割合が10.5%となっています。令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



**問7 家族や親族の中で、介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた人はいますか。(あてはまるものすべてに○)**

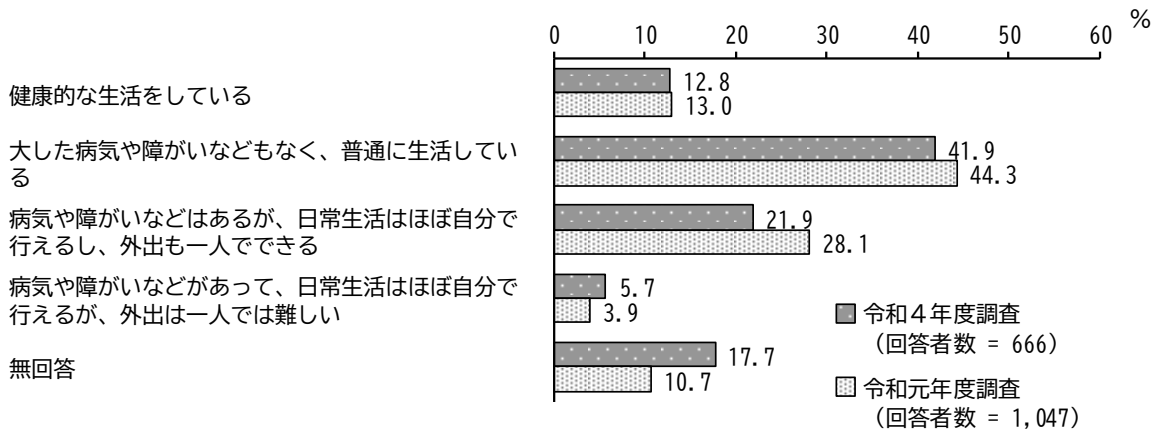
「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が56.3%と最も高くなっています。令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問8 あなたの健康状態はいかがですか。(○はひとつ)

「大した病気や障がいなどもなく、普通に生活している」の割合が41.9%と最も高く、次いで「病気や障がいなどはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出も一人で行える」の割合が21.9%、「健康的な生活をしている」の割合が12.8%となっています。

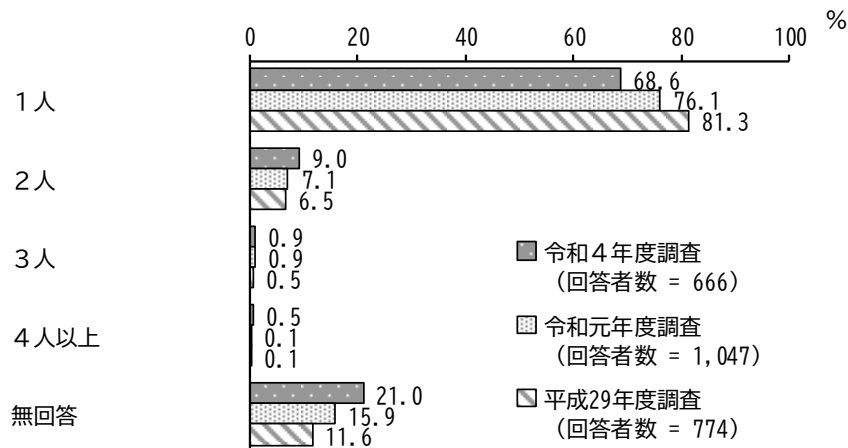
令和元年度調査と比較すると、「病気や障がいなどはあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出も一人で行える」の割合が減少しています。



問9 あなたが介護をしている人は何人ですか。

「1人」の割合が68.6%と最も高くなっています。

令和元年度調査と比較すると、「1人」の割合が減少しています。

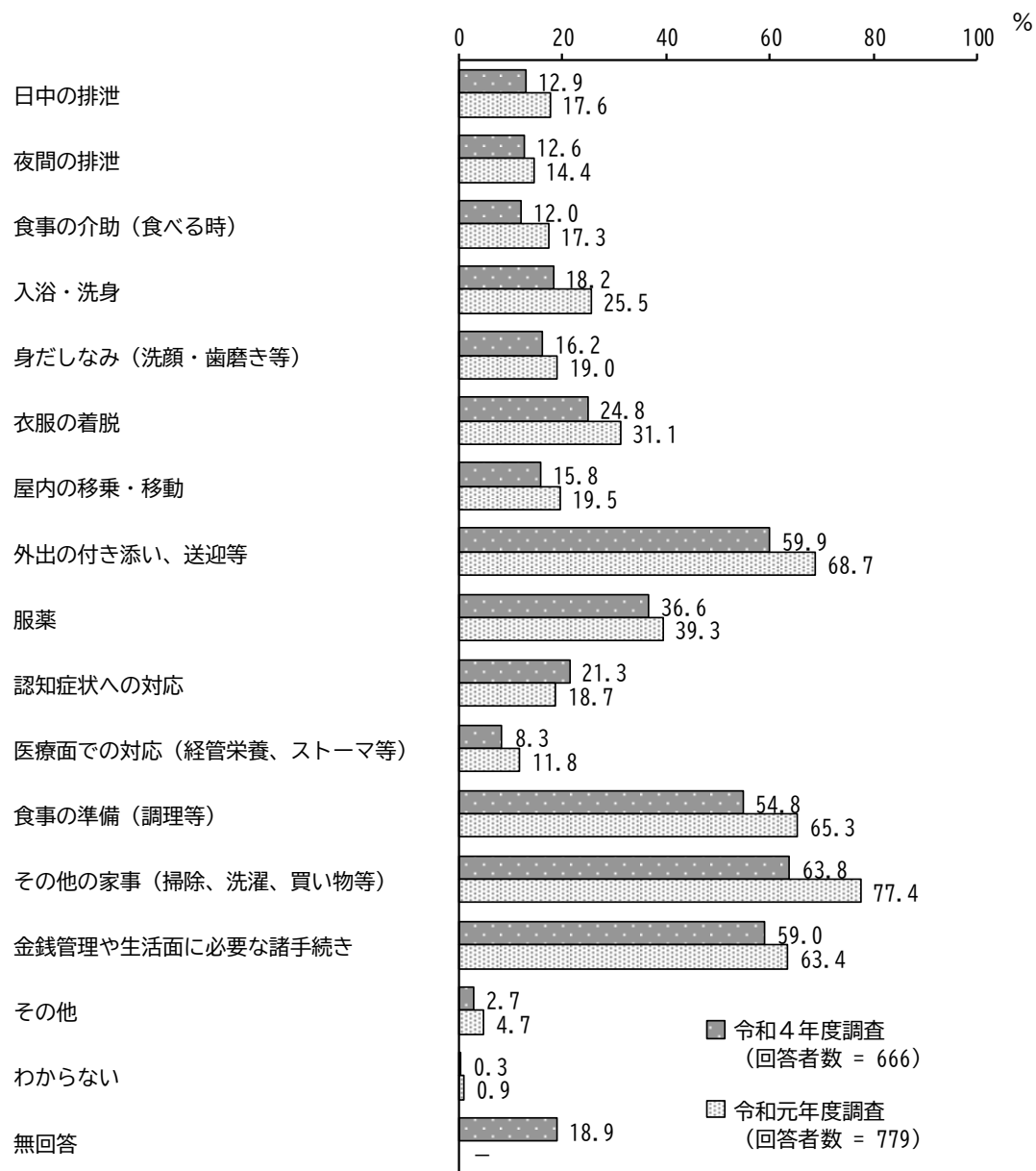




問10 あなたが行っている介護等について教えてください。  
(あてはまるものすべてに○)

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が63.8%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」の割合が59.9%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が59.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「食事の介助（食べる時）」「入浴・洗身」「衣服の着脱」「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が減少しています。



【要介護度】

要介護度でみると、要支援1・2及び要介護3・4・5では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が、要介護1・2では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が最も高くなっています。

単位：%

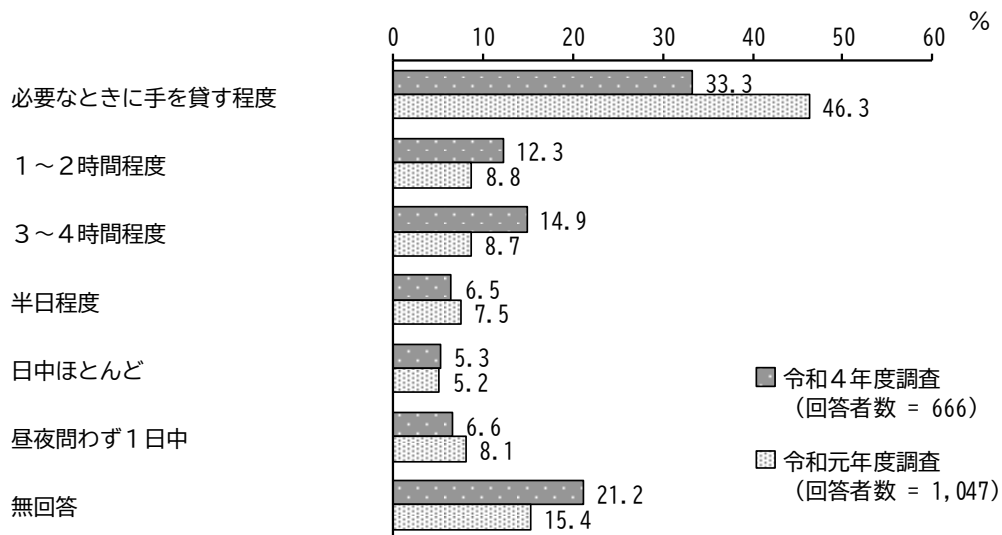
区分	回答者数(件)	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助(食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等
全体	666	12.9	12.6	12.0	18.2	16.2	24.8	15.8	59.9
要支援1・2	348	2.0	2.9	4.9	12.1	6.0	11.2	7.8	50.6
要介護1・2	202	15.3	12.9	11.9	24.8	19.3	30.7	17.3	73.3
要介護3・4・5	97	48.5	47.4	39.2	27.8	48.5	63.9	43.3	70.1

区分	服薬	認知症状への対応	医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)	食事の準備(調理等)	その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	わからない	無回答
全体	36.6	21.3	8.3	54.8	63.8	59.0	2.7	0.3	18.9
要支援1・2	19.5	7.5	5.5	37.4	51.1	42.0	2.0	0.3	29.9
要介護1・2	54.5	45.5	9.9	72.3	77.2	79.7	3.5	0.5	6.4
要介護3・4・5	63.9	23.7	16.5	80.4	85.6	80.4	2.1	—	4.1

問 11 あなたが介護（行為）にかけている1日あたりの平均時間はどのくらいですか。  
 ※複数の人を介護されている場合は、1日あたりの合計の平均時間をご記入ください。（○はひとつ）

「必要なときに手を貸す程度」の割合が33.3%と最も高く、次いで「3～4時間程度」の割合が14.9%、「1～2時間程度」の割合が12.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「3～4時間程度」の割合が増加し、「必要なときに手を貸す程度」の割合が減少しています。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護3・4・5及び要介護1・2で「3～4時間程度」の割合が高くなっています。

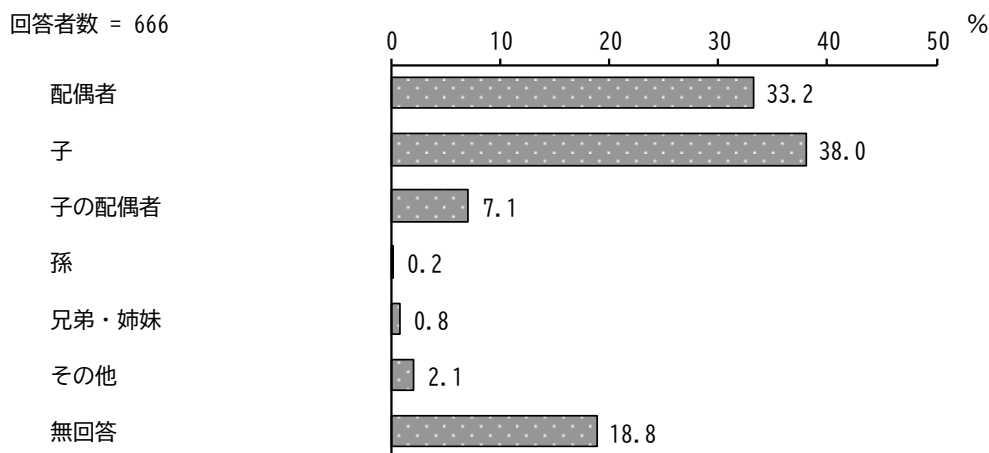
単位：%

区分	回答者数(件)	必要なときに手を貸す程度	1～2時間程度	3～4時間程度	半日程度	日中ほとんど	昼夜問わず1日中	無回答
全体	666	33.3	12.3	14.9	6.5	5.3	6.6	21.2
要支援1・2	348	37.6	11.2	10.3	3.4	3.7	1.4	32.2
要介護1・2	202	33.2	15.3	20.8	9.4	5.0	7.9	8.4
要介護3・4・5	97	22.7	7.2	20.6	10.3	12.4	21.6	5.2

#### (4) 介護を必要としている人について

問12 介護を必要としている人（あて名のご本人）からみて、あなたはどのような続柄ですか。（○はひとつ）

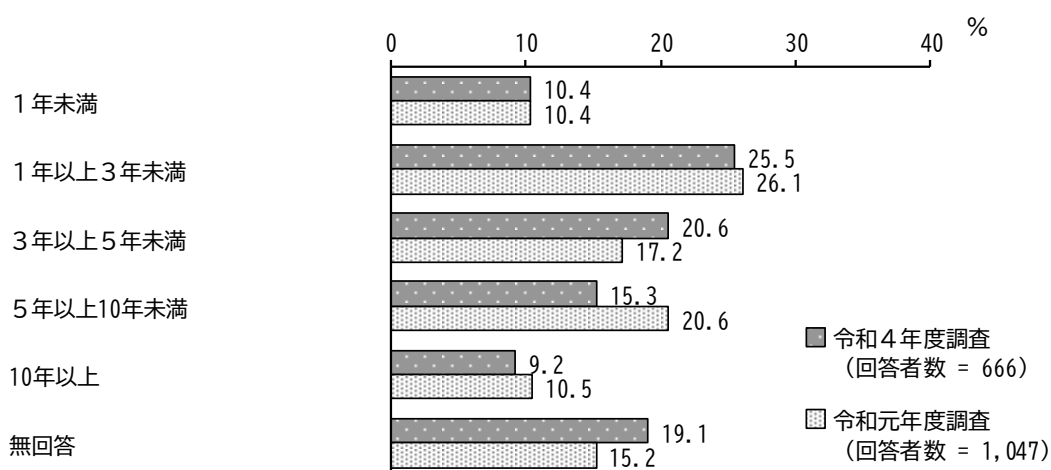
「子」の割合が38.0%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が33.2%となっています。



問13 あなたが介護をするようになって何年になりますか。（○はひとつ）

「1年以上3年未満」の割合が25.5%と最も高く、次いで「3年以上5年未満」の割合が20.6%、「5年以上10年未満」の割合が15.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「5年以上10年未満」の割合が減少しています。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護3・4・5で「5年以上10年未満」の割合が、要介護1・2で「3年以上5年未満」「5年以上10年未満」の割合が高くなっています。

単位：％

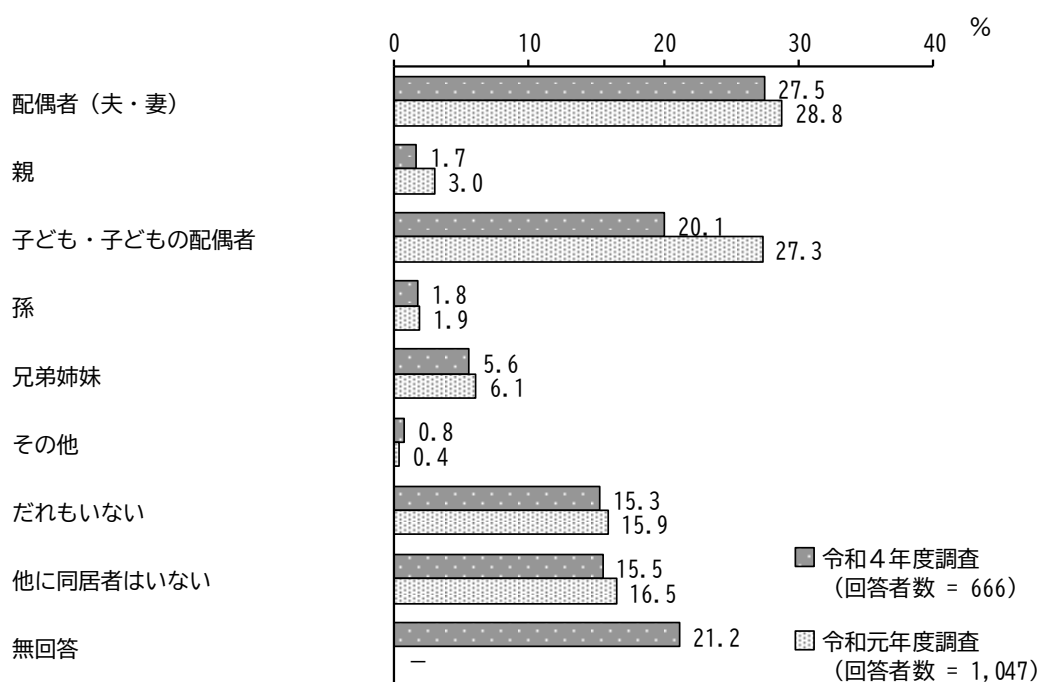
区分	回答者数(件)	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	無回答
全 体	666	10.4	25.5	20.6	15.3	9.2	19.1
要支援1・2	348	11.2	24.7	16.7	10.6	6.3	30.5
要介護1・2	202	8.4	26.7	27.2	20.3	9.9	7.4
要介護3・4・5	97	9.3	26.8	19.6	22.7	19.6	2.1

## (5) 介護の環境などについて

問 14 同居している家族の中で、介護に協力してくれる人はあなたからみてどなたですか。  
(あてはまるものすべてに○)

「配偶者（夫・妻）」の割合が 27.5%と最も高く、次いで「子ども・子どもの配偶者」の割合が 20.1%、「他に同居者はいない」の割合が 15.5%となっています。

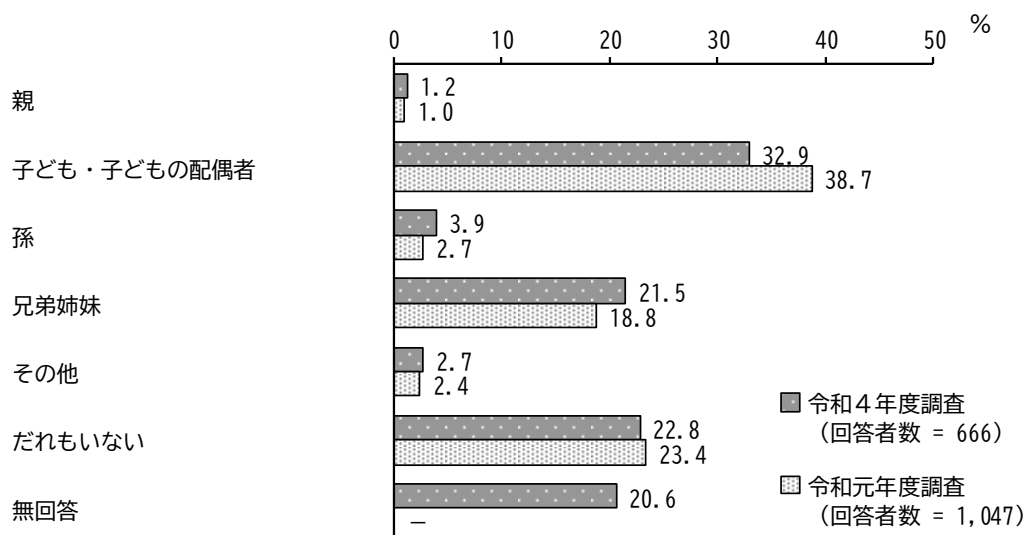
令和元年度調査と比較すると、「子ども・子どもの配偶者」の割合が減少しています。



問 15 別居している家族の中で、介護に協力してくれる人はあなたからみてどなたですか。  
(あてはまるものすべてに○)

「子ども・子どもの配偶者」の割合が 32.9%と最も高く、次いで「だれもいない」の割合が 22.8%、「兄弟姉妹」の割合が 21.5%となっています。

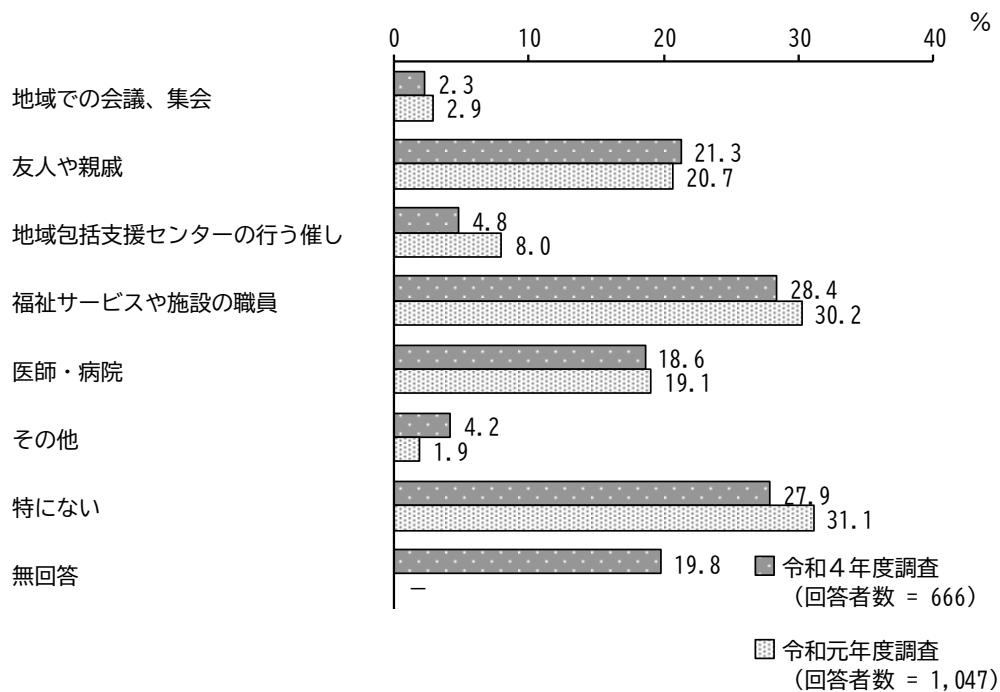
令和元年度調査と比較すると、「子ども・子どもの配偶者」の割合が減少しています。



問 16 介護について、情報交換の場はありますか。(あてはまるものすべてに○)

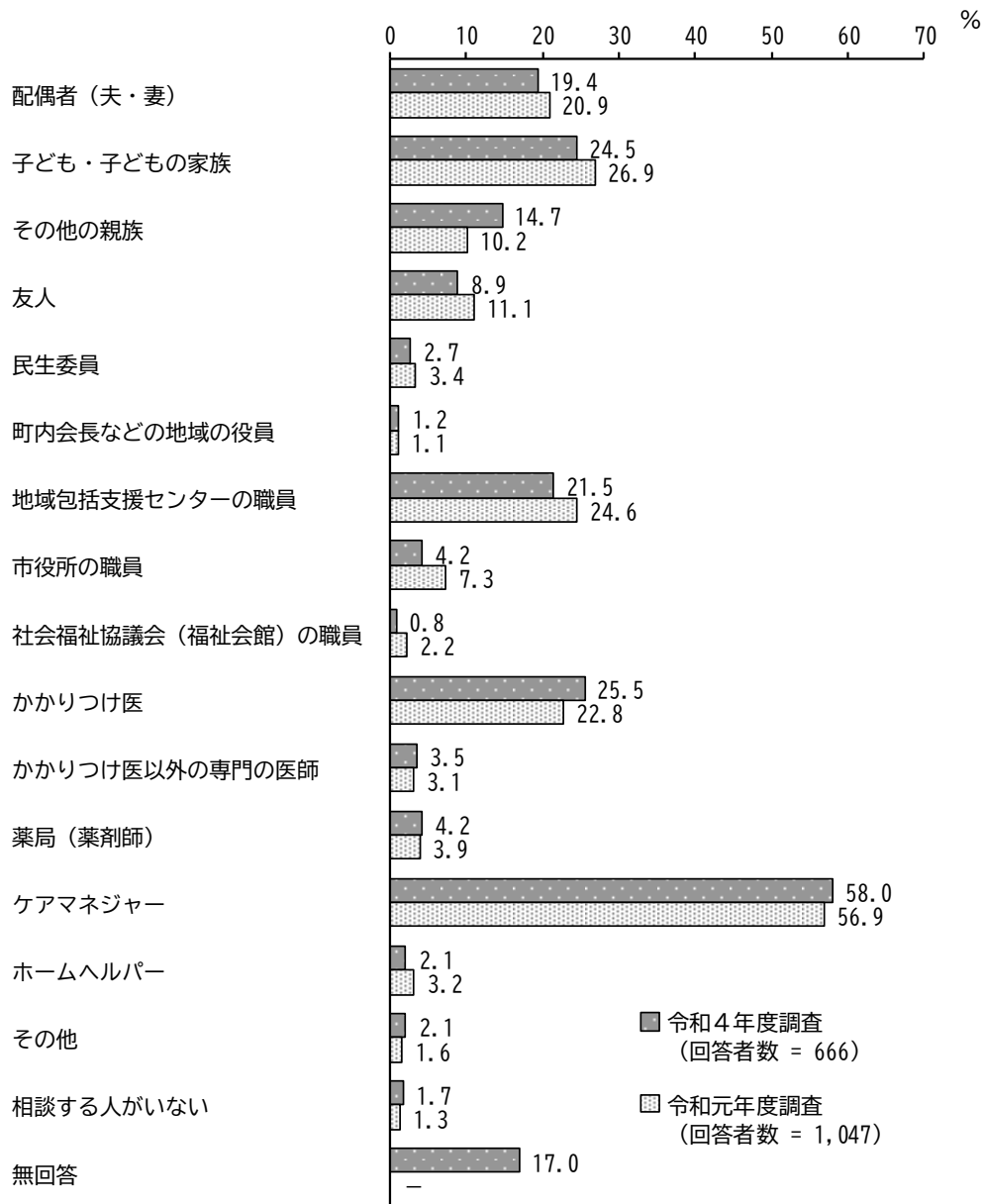
「福祉サービスや施設の職員」の割合が28.4%と最も高く、次いで「特にない」の割合が27.9%、「友人や親戚」の割合が21.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問17 介護保険や健康、福祉などに関する事で、知りたいことがあったり、困ったことがあったりしたときにどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

「ケアマネジャー」の割合が58.0%と最も高く、次いで「かかりつけ医」の割合が25.5%、「子ども・子どもの家族」の割合が24.5%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

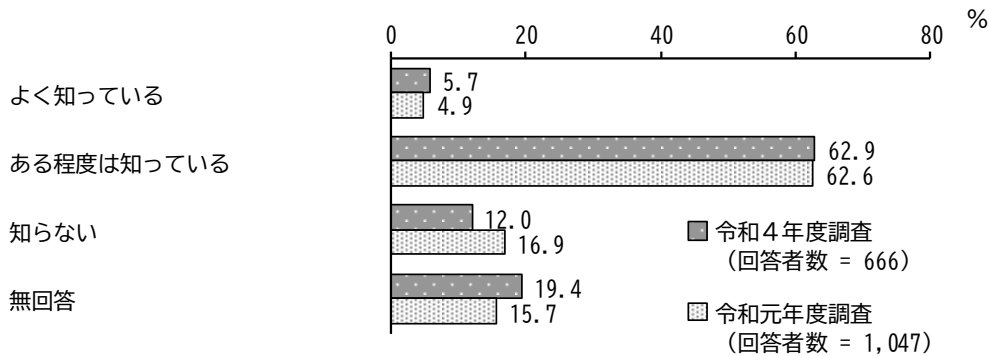




問 18 介護保険制度の内容や仕組みを知っていますか。(○はひとつ)

「ある程度は知っている」の割合が 62.9%と最も高く、次いで「知らない」の割合が 12.0%となっています。

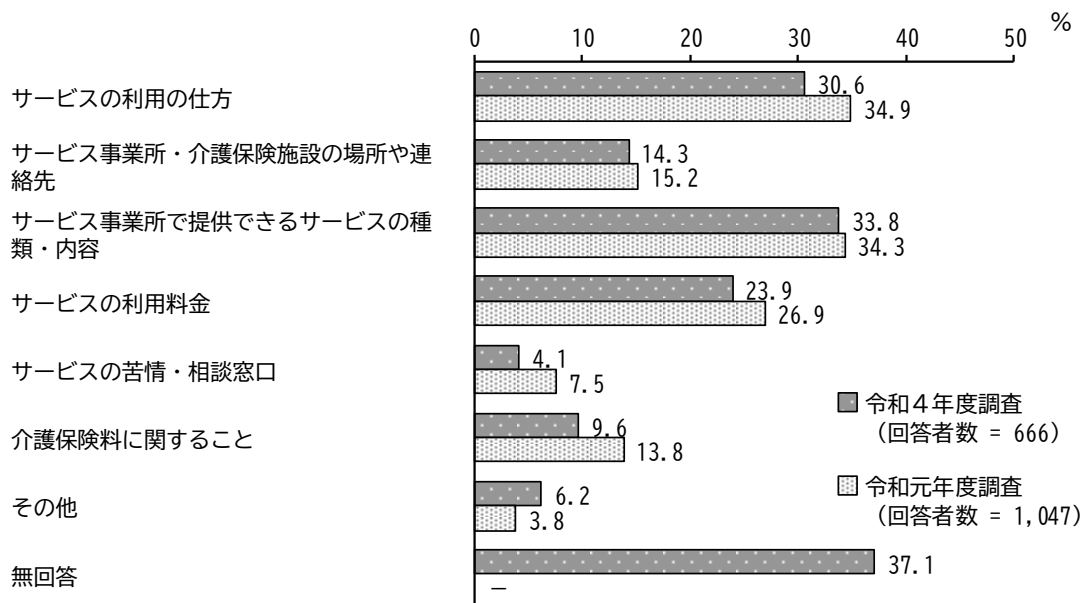
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 19 介護保険制度に関する内容や仕組みについて知りたいことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

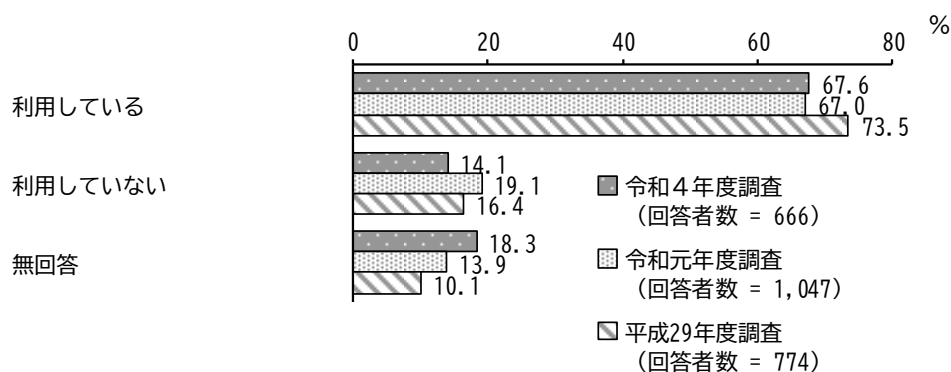
「サービス事業所で提供できるサービスの種類・内容」の割合が 33.8%と最も高く、次いで「サービスの利用の仕方」の割合が 30.6%、「サービスの利用料金」の割合が 23.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 20 あなたが介護をしている人は、現在介護保険サービスを利用していますか。(○はひとつ)

「利用している」の割合が67.6%、「利用していない」の割合が14.1%となっています。令和元年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が減少しています。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護1～5で「利用している」の割合が高くなっています。

単位：%

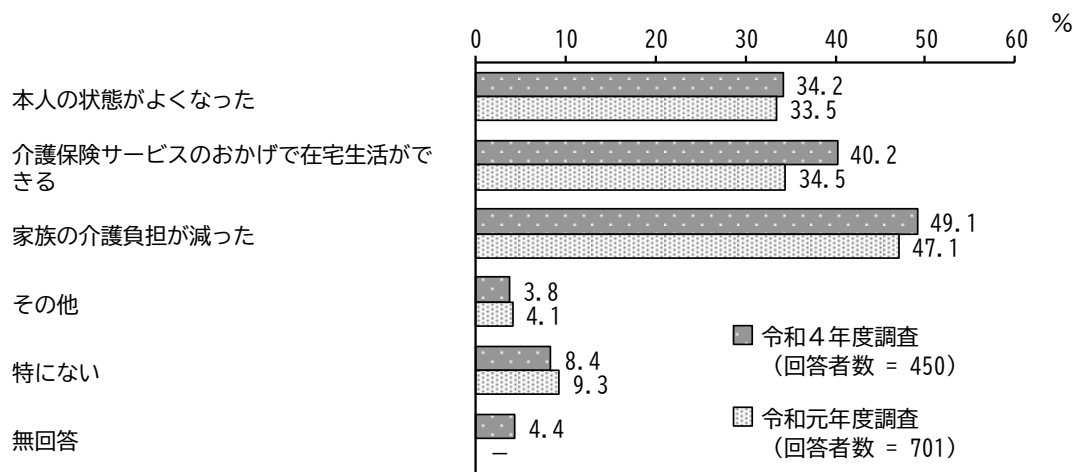
区分	回答者数 (件)	利用している	利用していない	無回答
全 体	666	67.6	14.1	18.3
要支援1・2	348	54.6	16.7	28.7
要介護1・2	202	81.7	12.4	5.9
要介護3・4・5	97	87.6	8.2	4.1

※問 20 で「利用している」と回答された人におたずねします。

問 21 介護保険サービスを利用してよかったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「家族の介護負担が減った」の割合が 49.1%と最も高く、次いで「介護保険サービスのおかげで在宅生活ができる」の割合が 40.2%、「本人の状態がよくなった」の割合が 34.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「介護保険サービスのおかげで在宅生活ができる」の割合が増加しています。



【要介護度】

要介護度でみると、要介護1・2で「家族の介護負担が減った」の割合が、要介護3・4・5で「介護保険サービスのおかげで在宅生活ができる」「家族の介護負担が減った」の割合が高くなっています。

単位：%

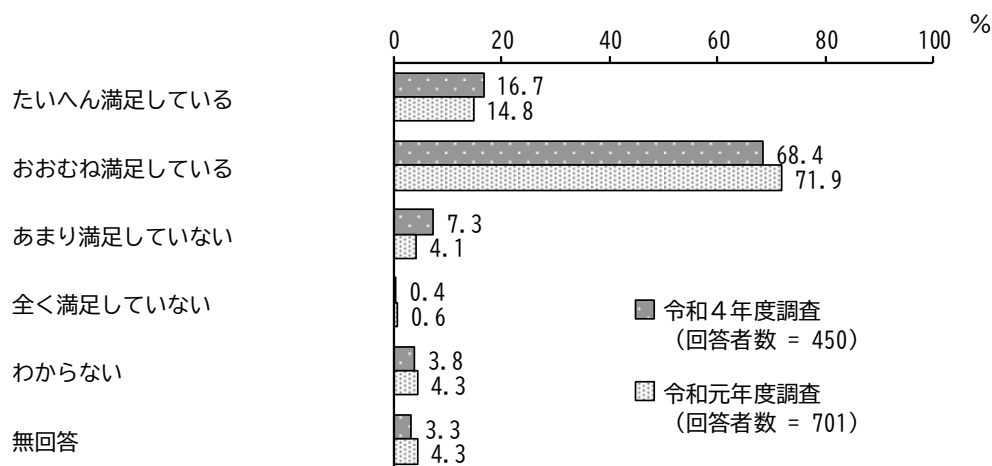
区分	回答者数(件)	本人の状態がよくなった	介護保険サービスのおかげで在宅生活ができる	家族の介護負担が減った	その他	特にない	無回答
全体	450	34.2	40.2	49.1	3.8	8.4	4.4
要支援1・2	190	41.6	34.2	31.6	3.7	10.5	6.3
要介護1・2	165	30.3	40.6	63.6	3.6	7.3	2.4
要介護3・4・5	85	25.9	51.8	58.8	4.7	5.9	3.5

※問 20 で「利用している」と回答された人におたずねします。

**問 22 現在受けている介護サービスについて、どの程度満足されていますか。  
(○はひとつ)**

「たいへん満足している」と「おおむね満足している」をあわせた“満足している”の割合が 85.1%、「あまり満足していない」と「全く満足していない」をあわせた“満足していない”の割合が 7.7%となっています。

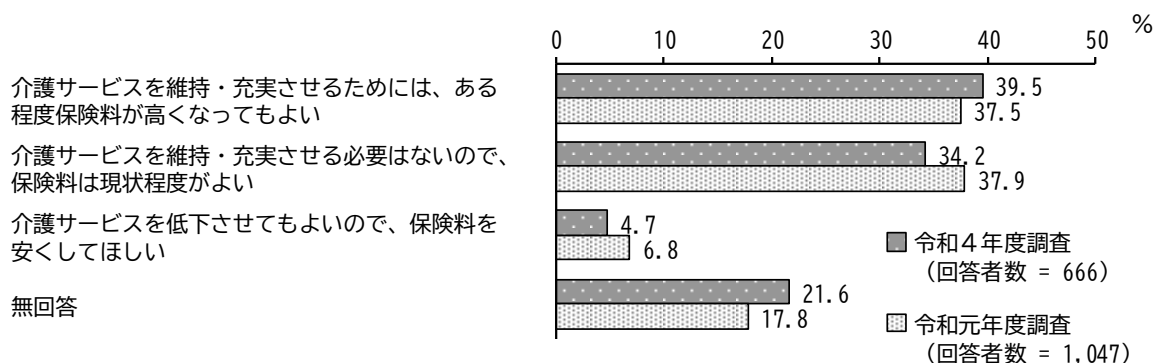
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



**問 23 今後、高齢者の増加に伴い、介護サービスを利用する人の増加が見込まれています。その結果、保険料が高くなる可能性があります。保険料と介護サービスの関係について、あなたの考えにもっとも近いものはどれですか。(○はひとつ)**

「介護サービスを維持・充実させるためには、ある程度保険料が高くなってもよい」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「介護サービスを維持・充実させる必要はないので、保険料は現状程度がよい」の割合が 34.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【要介護度】

要介護度で見ると、要介護1・2で「介護サービスを維持・充実させるためには、ある程度保険料が高くなってもよい」の割合が、要介護3・4・5で「介護サービスを維持・充実させるためには、ある程度保険料が高くなってもよい」の割合が高くなっています。

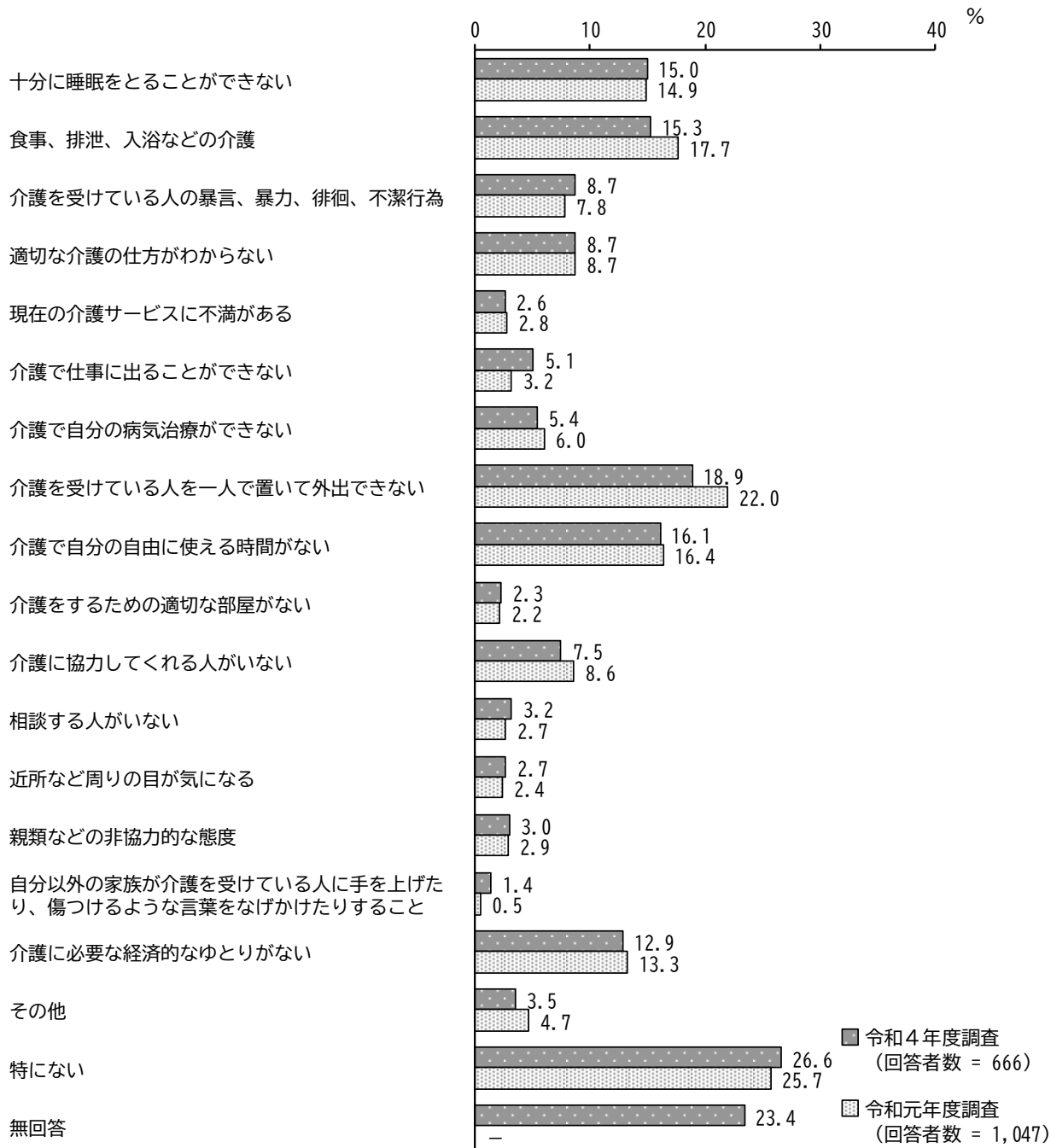
単位：%

区分	回答者数(件)	介護サービスを維持・充実させるためには、ある程度保険料が高くなってもよい	介護サービスを維持・充実させる必要はないので、保険料は現状程度がよい	介護サービスを低下させてもよいので、保険料を安くしてほしい	無回答
全 体	666	39.5	34.2	4.7	21.6
要支援1・2	348	30.7	33.9	5.5	29.9
要介護1・2	202	52.0	33.7	4.0	10.4
要介護3・4・5	97	46.4	38.1	4.1	11.3

問 24 現在、介護をしていて困ること、負担に感じることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が26.6%と最も高く、次いで「介護を受けている人を一人で置いて外出できない」の割合が18.9%、「介護で自分の自由に使える時間がない」の割合が16.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

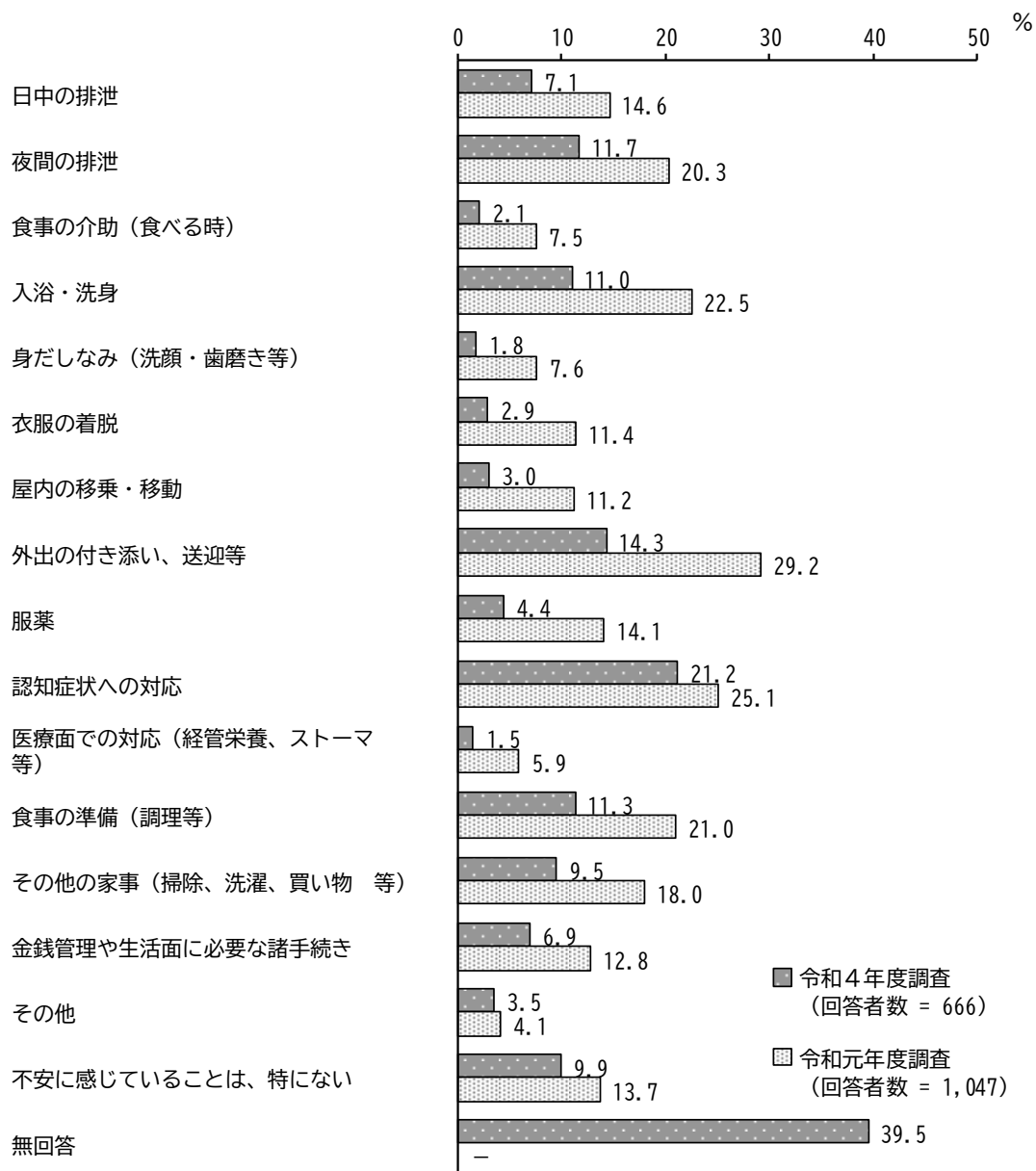


問 25 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等について、ご回答ください。

※現状で行っているか否かは問いません。(あてはまるものに3つまで○)

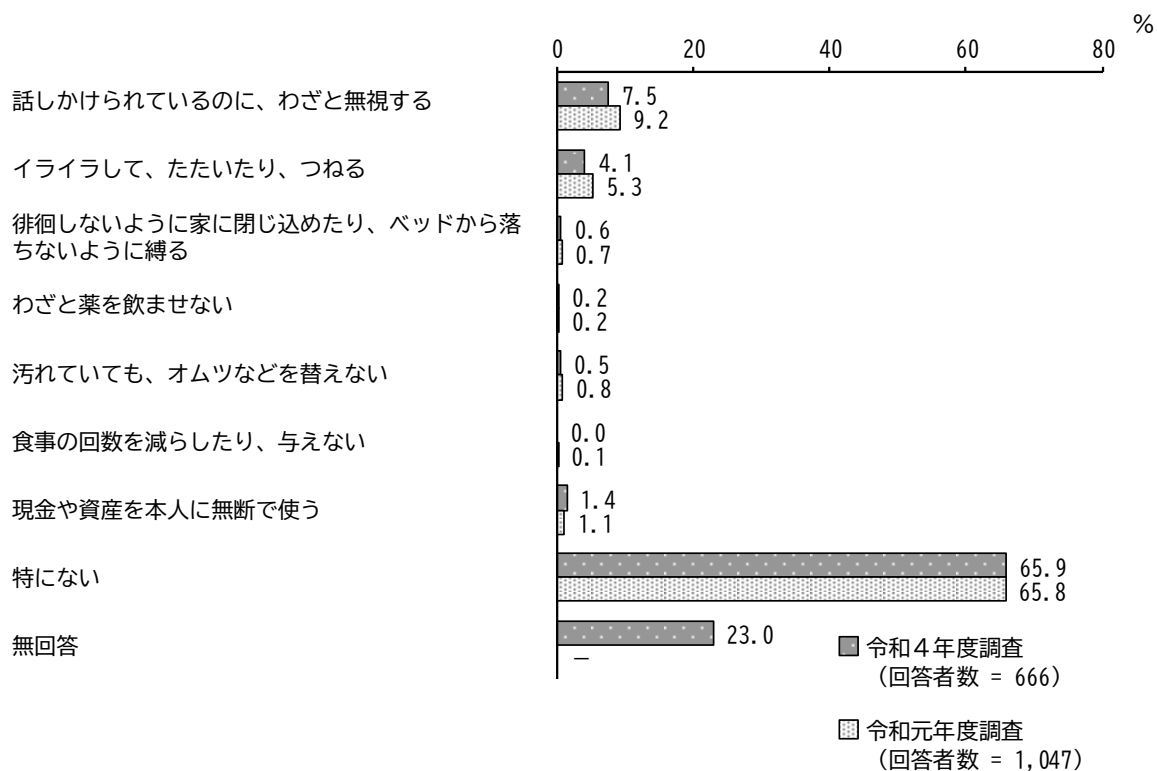
「認知症状への対応」の割合が21.2%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」の割合が14.3%、「夜間の排泄」の割合が11.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助（食べる時）」「入浴・洗身」「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」「衣服の着脱」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」「服薬」「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が減少しています。



問 26 介護を受けている人に対して、以下のようなことをした、またはしそうなことになった経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が 65.9%と最も高くなっています。  
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

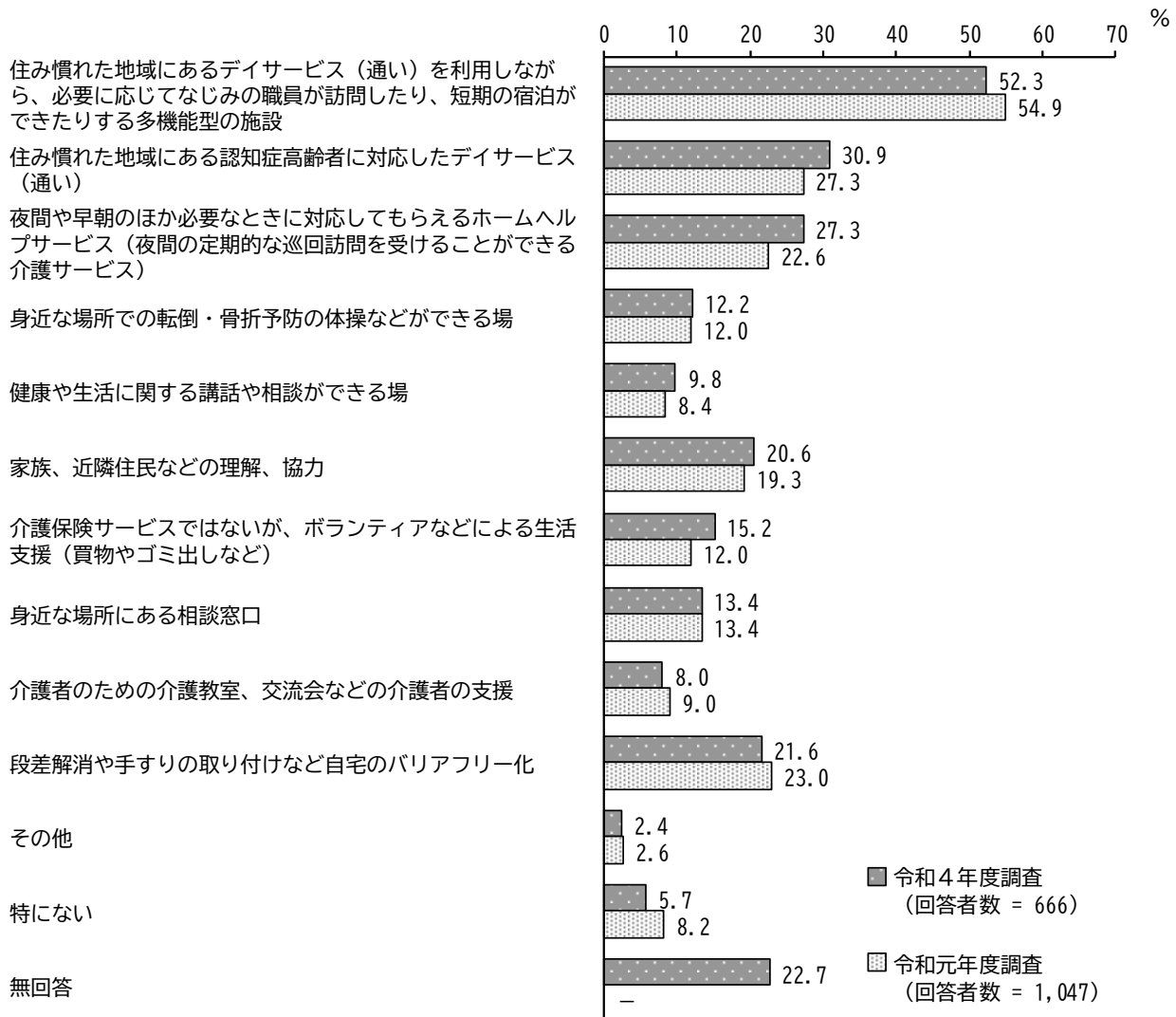




問 27 介護を必要とする人が在宅での生活を続けるために必要なことはどのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「住み慣れた地域にあるデイサービス（通い）を利用しながら、必要に応じてなじみの職員が訪問したり、短期の宿泊ができたりする多機能型の施設」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「住み慣れた地域にある認知症高齢者に対応したデイサービス（通い）」の割合が 30.9%、「夜間や早朝のほか必要なときに対応してもらえるホームヘルプサービス（夜間の定期的な巡回訪問を受けることができる介護サービス）」の割合が 27.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

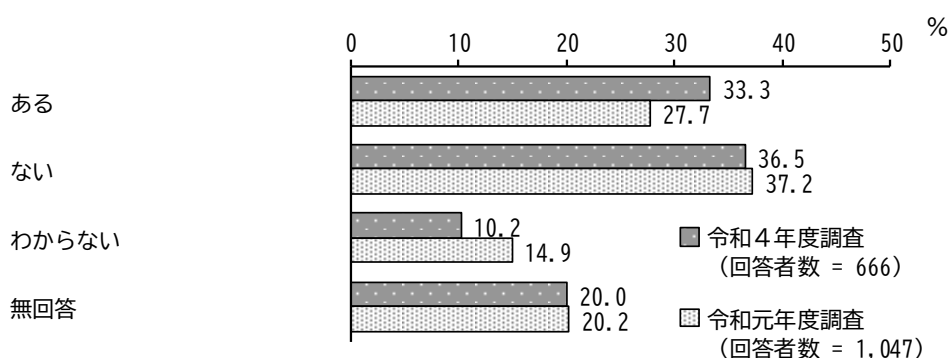


## (6) 認知症に関することについて

問 28 あなたが介護をしている人に認知症と思われる傾向がありますか。  
(○はひとつ)

認知症の症状が「ない」の割合が 36.5%と最も高く、次いで「ある」の割合が 33.3%、「わからない」の割合が 10.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「ある」の割合が増加しています。

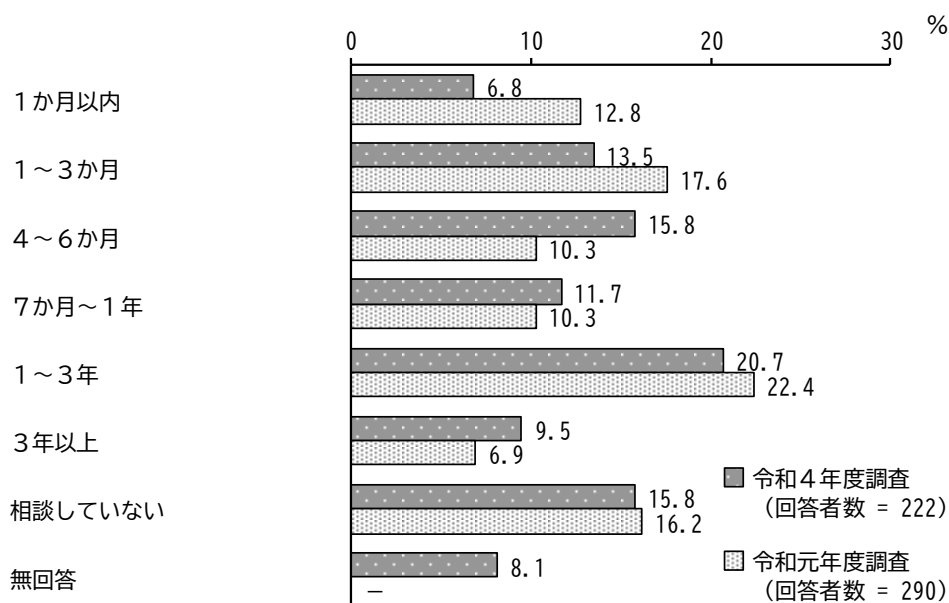


※問 28 で「ある」と回答された人におたずねします。

問 29 気になる認知症の症状が出てから、医療・介護の相談機関に相談されるまでの期間はどのくらいかかりましたか。(あてはまるものすべてに○)

「1～3年」の割合が 20.7%と最も高く、次いで「4～6か月」、「相談していない」の割合が 15.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「1か月以内」の割合が減少し、「4～6か月」の割合が増加しています。

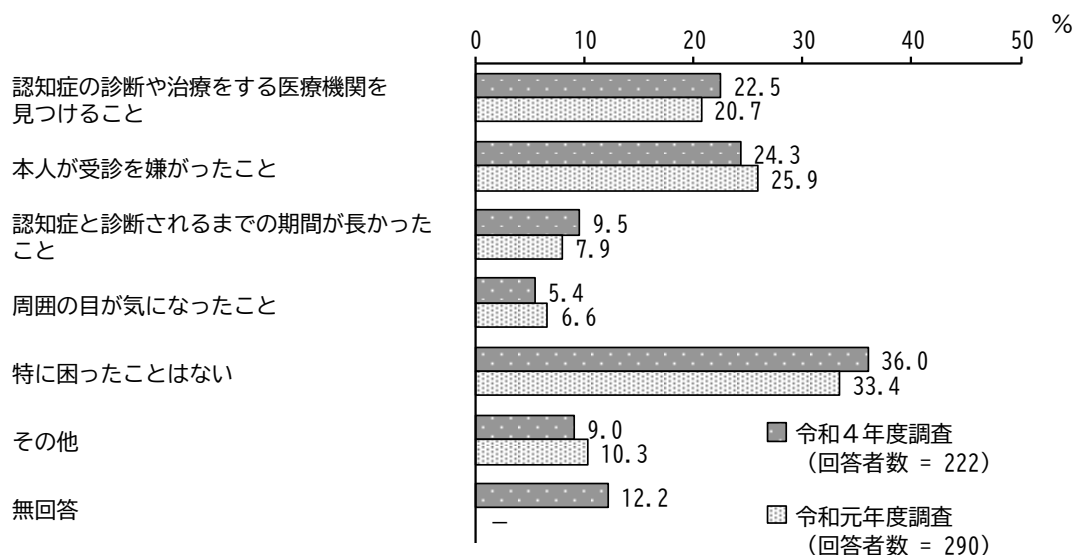


※問 28 で「ある」と回答された人におたずねします。

問 30 認知症の診断や治療をはじめるまでにどのようなことに困りましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

「特に困ったことはない」の割合が 36.0%と最も高く、次いで「本人が受診を嫌がったこと」の割合が 24.3%、「認知症の診断や治療をする医療機関を見つけること」の割合が 22.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

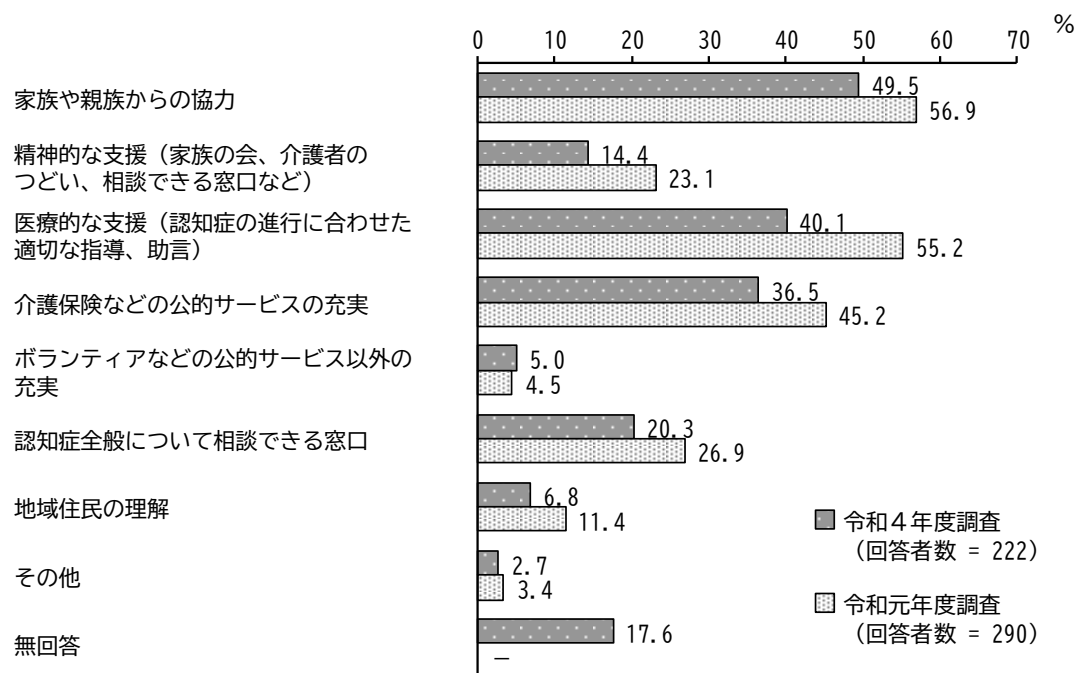


※問 28 で「ある」と回答された人におたずねします。

問 31 認知症の人の介護をしていて、必要だと感じるものは何ですか。  
(○は3つまで)

「家族や親族からの協力」の割合が 49.5%と最も高く、次いで「医療的な支援（認知症の進行に合わせた適切な指導、助言）」の割合が 40.1%、「介護保険などの公的サービスの充実」の割合が 36.5%となっています。

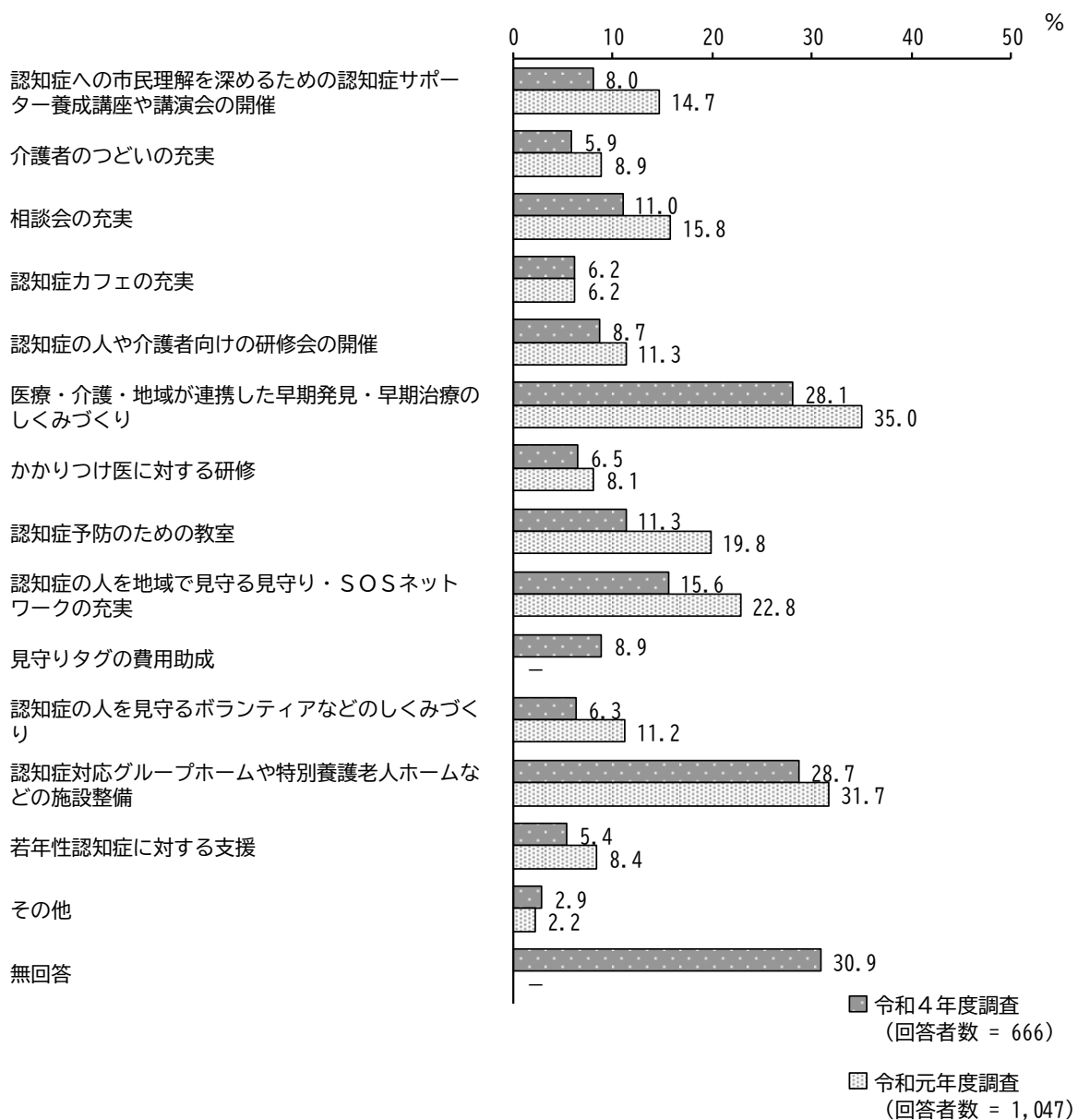
令和元年度調査と比較すると、「家族や親族からの協力」「精神的な支援（家族の会、介護者のつどい、相談できる窓口など）」「医療的な支援（認知症の進行に合わせた適切な指導、助言）」「介護保険などの公的サービスの充実」「認知症全般について相談できる窓口」の割合が減少しています。



問 32 今後、市が認知症対策を進めて行くうえで、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「認知症対応グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」の割合が 28.7%と最も高く、次いで「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期治療のしくみづくり」の割合が 28.1%、「認知症の人を地域で見守る見守り・SOSネットワークの充実」の割合が 15.6%となっています。

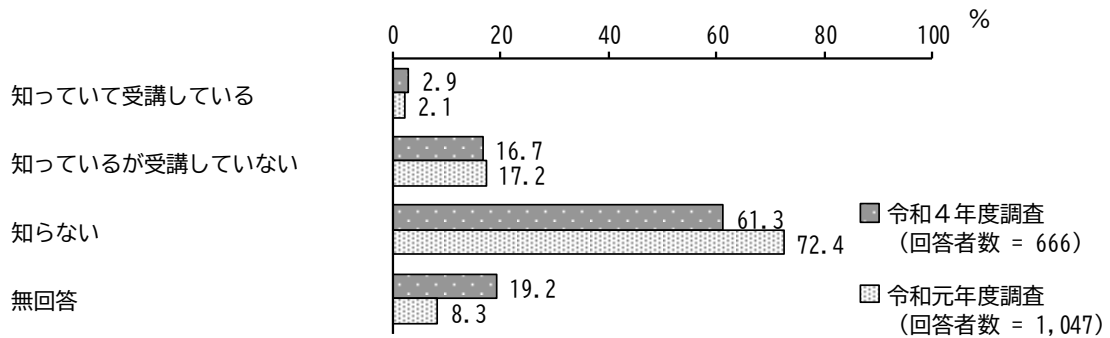
令和元年度調査と比較すると、「見守りタグの費用助成」の割合が増加しています。一方、「認知症への市民理解を深めるための認知症サポーター養成講座や講演会の開催」「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期治療のしくみづくり」「認知症予防のための教室」「認知症の人を地域で見守る見守り・SOSネットワークの充実」の割合が減少しています。



問 33 加古川市では、認知症の基礎知識や認知症の人への接し方を学ぶ「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。(○はひとつ)

「知らない」の割合が 61.3%と最も高く、次いで「知っているが受講していない」の割合が 16.7%となっています。

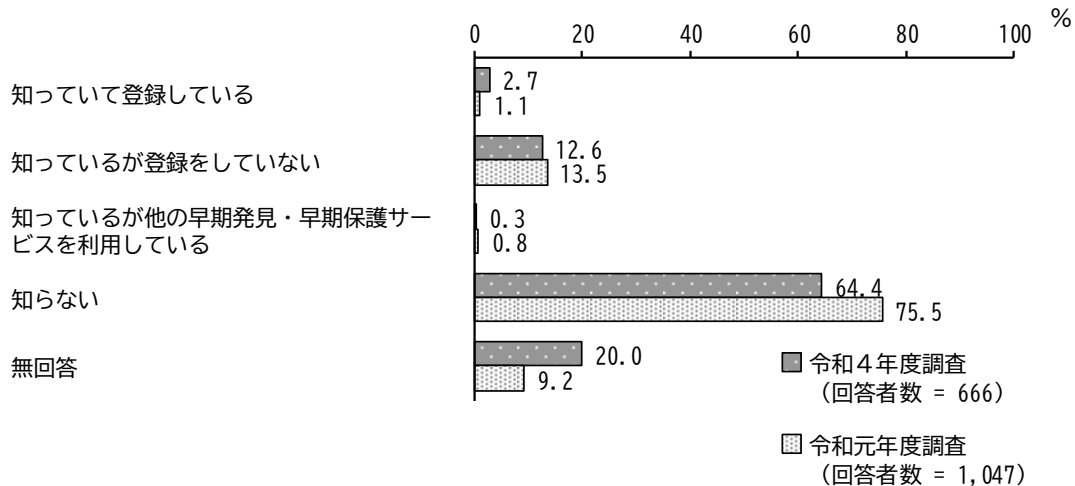
令和元年度調査と比較すると、「知らない」の割合が減少しています。



問 34 加古川市では、地域で認知症の人を見守り、早期発見・早期保護するための「見守り・SOSネットワーク」を実施していますが、知っていますか。(○はひとつ)

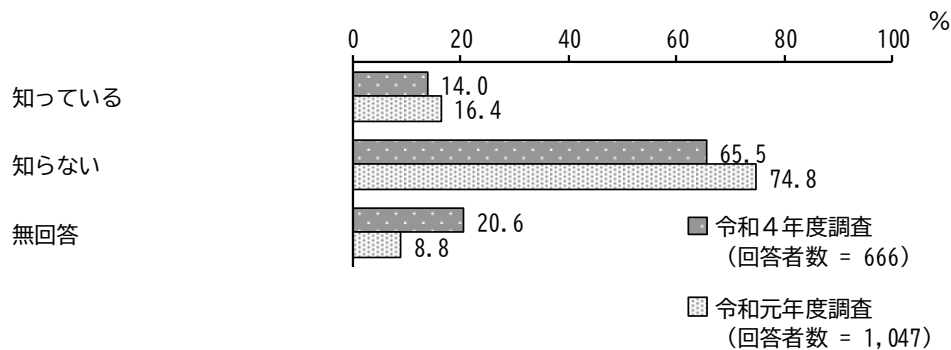
「知らない」の割合が 64.4%と最も高く、次いで「知っているが登録をしていない」の割合が 12.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「知らない」の割合が減少しています。



問 35 認知症の人とその家族、地域の人など誰もが気軽に集える場としての認知症カフェを知っていますか。(〇はひとつ)

「知っている」の割合が14.0%、「知らない」の割合が65.5%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、「知らない」の割合が減少しています。

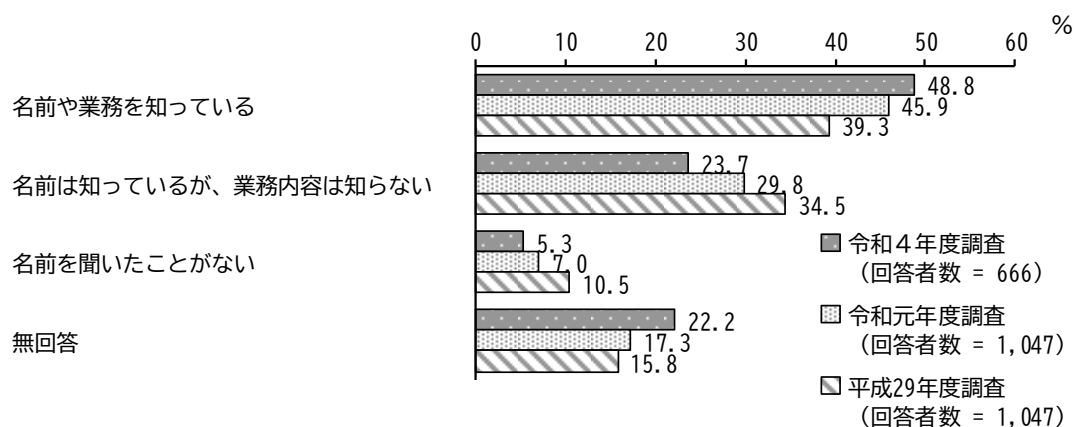


## (7) 介護をしている人への支援について

### 問 36 市内に地域包括支援センターがあることを知っていますか。(○はひとつ)

「名前や業務を知っている」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「名前は知っているが、業務内容は知らない」の割合が 23.7%となっています。

令和元年度調査、平成 29 年度調査と比較すると、「名前は知っているが、業務内容は知らない」「名前を聞いたことがない」の割合が減少し、「名前や業務を知っている」の割合が増加しています。

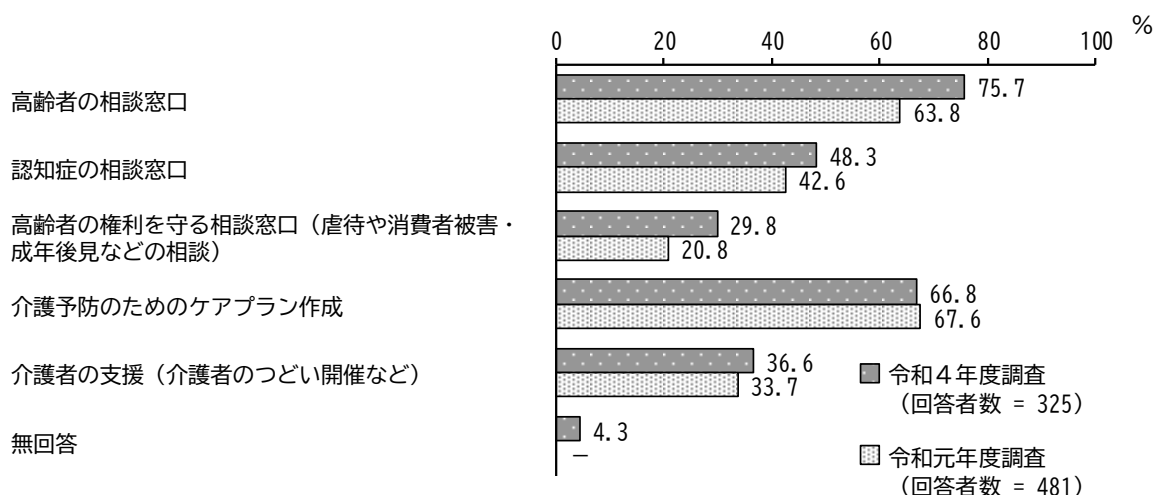


※問 36 で「名前や業務内容を知っている」と回答された人におたずねします。

### 問 37 どのような業務内容を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「高齢者の相談窓口」の割合が 75.7%と最も高く、次いで「介護予防のためのケアプラン作成」の割合が 66.8%、「認知症の相談窓口」の割合が 48.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「高齢者の相談窓口」「認知症の相談窓口」「高齢者の権利を守る相談窓口（虐待や消費者被害・成年後見などの相談）」の割合が増加しています。

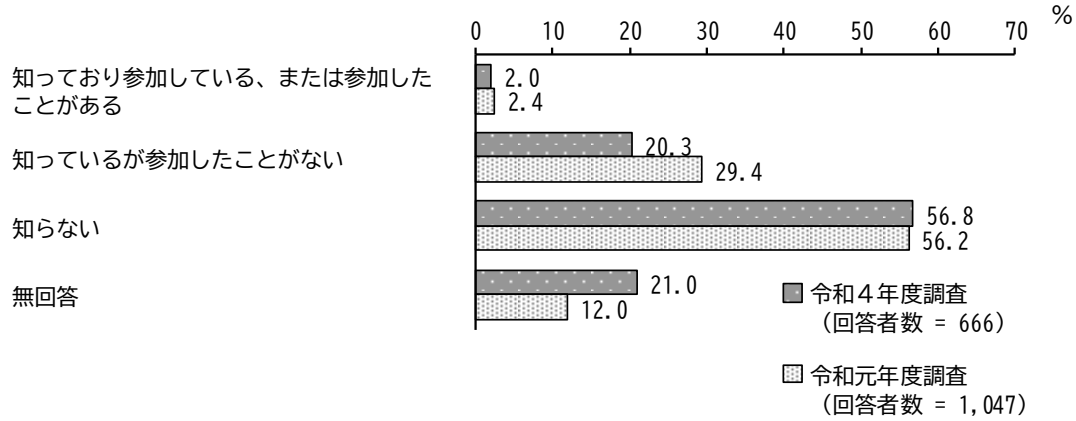




問 38 加古川市では、介護をしているご家族を支援するために、各地域包括支援センターで「介護者のつどい」を開催していますが、知っていますか。(〇はひとつ)

「知らない」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「知っているが参加したことがない」の割合が 20.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「知っているが参加したことがない」の割合が減少しています。

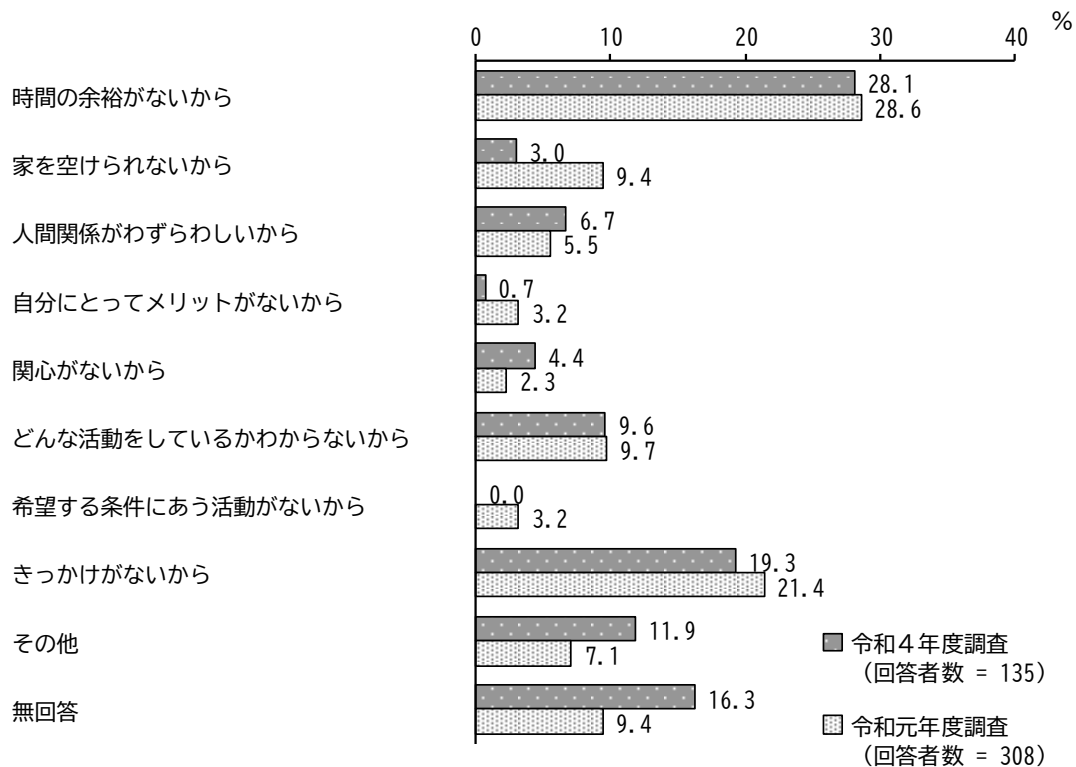


※問 38 で「知っているが参加したことがない」と回答された人におたずねします。

問 39 参加したことがない理由は何ですか。(〇はひとつ)

「時間の余裕がないから」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「きっかけがないから」の割合が 19.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「家を空けられないから」の割合が減少しています。

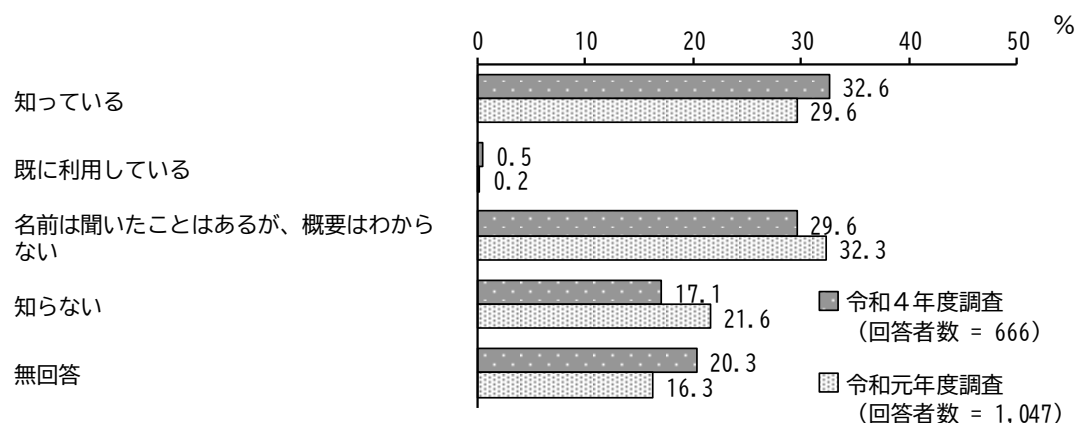


## (8) 成年後見制度について

### 問 40 成年後見制度について制度の概要を知っていますか。(○はひとつ)

「知っている」の割合が32.6%と最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが、概要はわからない」の割合が29.6%、「知らない」の割合が17.1%となっています。

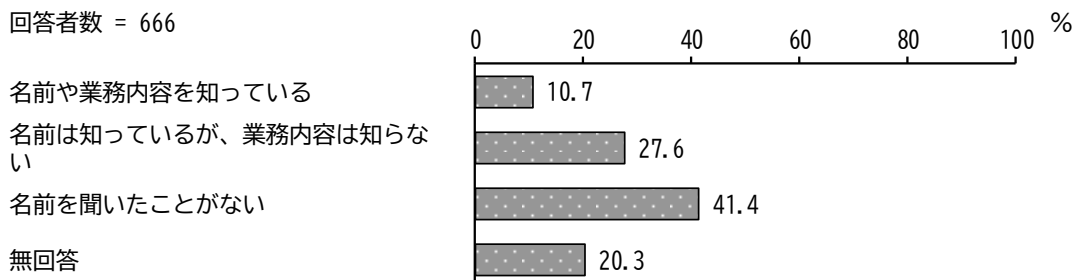
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 問 41 成年後見制度の相談ができる成年後見支援センターが市内にあることを知っていますか。(○はひとつ)

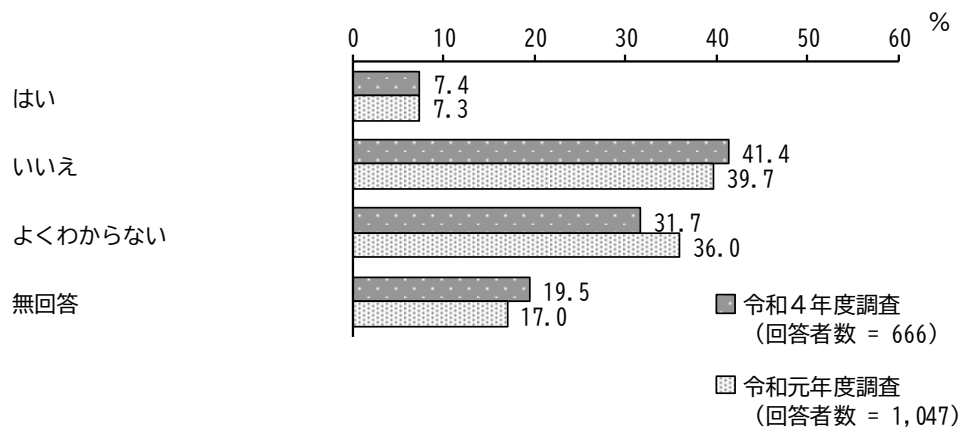
「名前を聞いたことがない」の割合が41.4%と最も高く、次いで「名前は知っているが、業務内容は知らない」の割合が27.6%、「名前や業務内容を知っている」の割合が10.7%となっています。

回答者数 = 666



問 42 身近な人に成年後見制度の利用をしたほうが良いと思われる人はいますか。  
(○はひとつ)

「はい」の割合は7.4%となっています。  
令和元年度調査と比較すると、「よくわからない」の割合が減少しています。

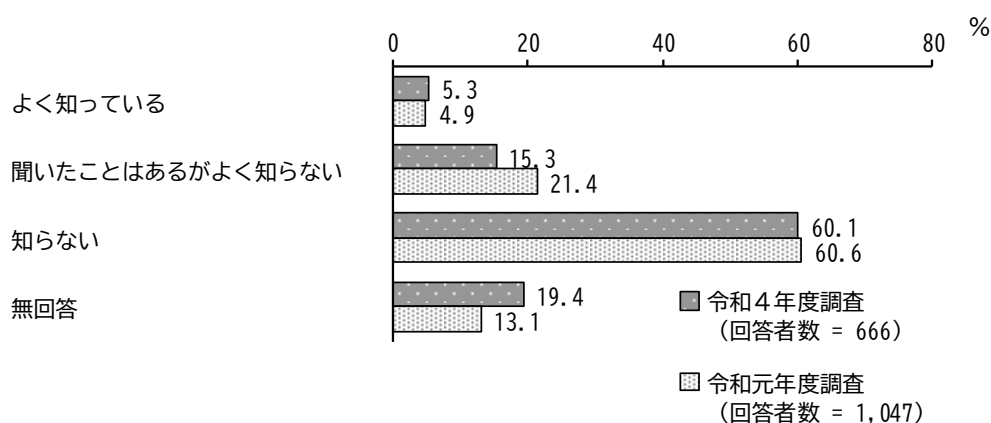


## (9) 人生の最終段階に関することについて

問 43 あなたは、アドバンス・ケア・プランニング（ACP、人生会議）について、知っていますか。（○はひとつ）

「知らない」の割合が60.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」の割合が15.3%となっています。

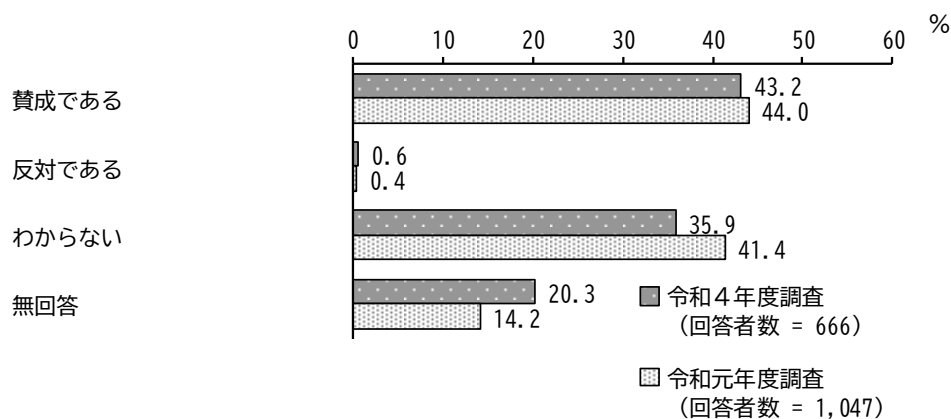
令和元年度調査と比較すると、「聞いたことはあるがよく知らない」の割合が減少しています。



問 44 あなたは、このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。（○はひとつ）

「賛成である」の割合が43.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が35.9%となっています。

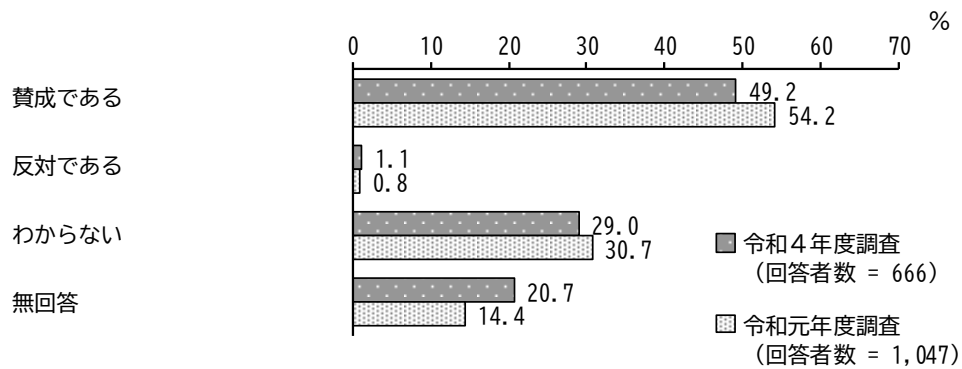
令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が減少しています。



問 45 あなたは、自分が意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・療養を受けたか（受けたくないか）などを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。（○はひとつ）

「賛成である」の割合が49.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が29.0%となっています。

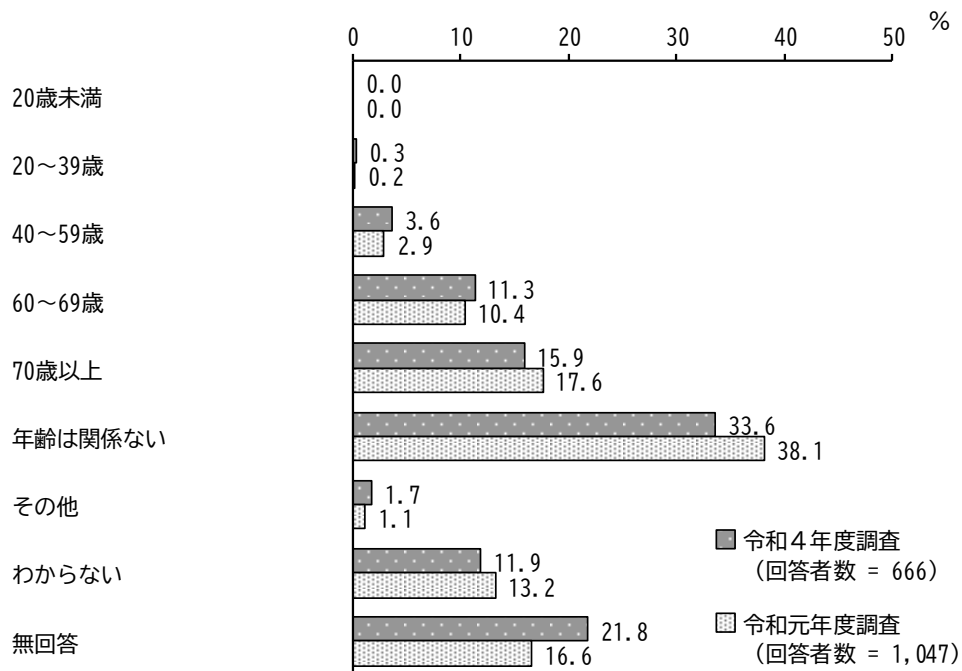
令和元年度調査と比較すると、「賛成である」の割合が減少しています。



問 46 あなたは、もし、家族や医療介護関係者等の方と医療・療養について話し合う（人生会議を実践する）時期があるとするば、いつごろが適切な年齢だと思いますか。（話し合ったことがある人は、いつごろでしたか。）（○はひとつ）

「年齢は関係ない」の割合が33.6%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が15.9%、「わからない」の割合が11.9%となっています。

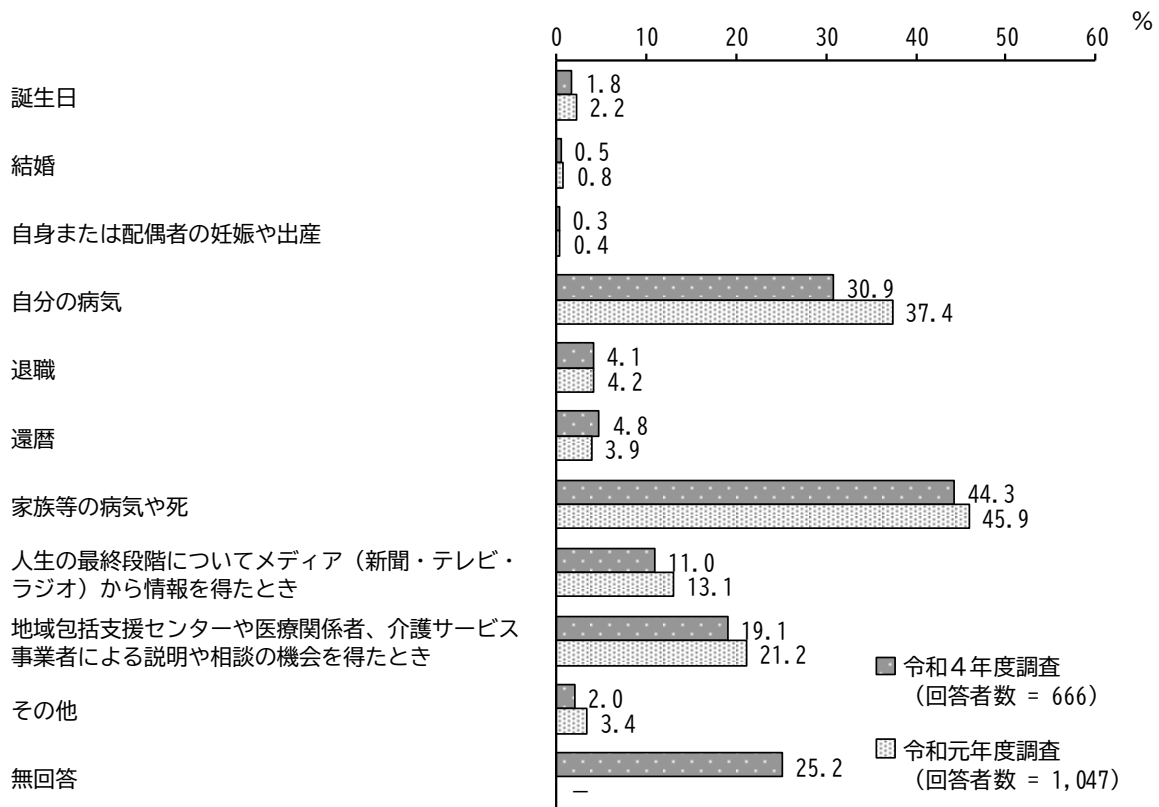
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 47 あなたは、もし、家族や医療介護関係者等の方と医療・療養について話し合うきっかけがあるとしたら、どのような出来事だと思いますか。(話し合ったことがある人は、何がきっかけでしたか。あてはまるものすべてに○)

「家族等の病気や死」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「自分の病気」の割合が 30.9%、「地域包括支援センターや医療関係者、介護サービス事業者による説明や相談の機会を得たとき」の割合が 19.1%となっています。

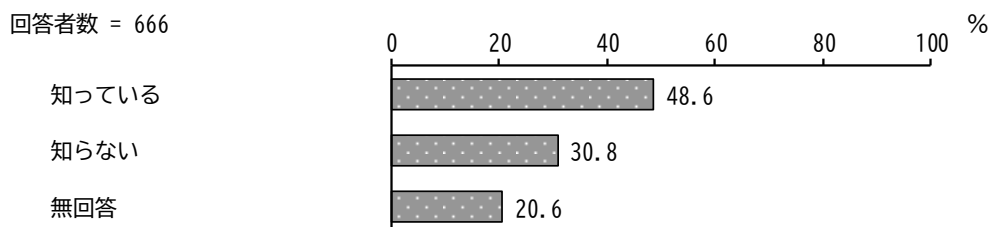
令和元年度調査と比較すると、「自分の病気」の割合が減少しています。



## (10) 災害に関することについて

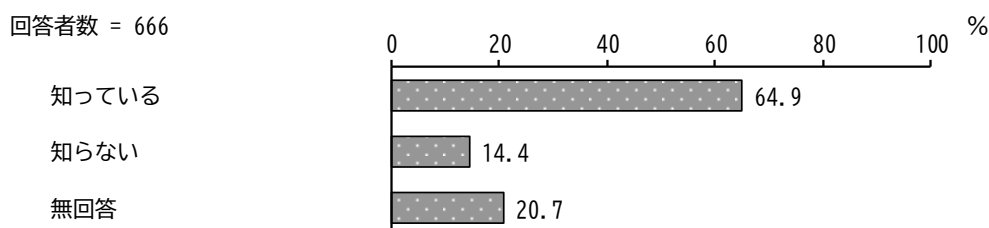
問 48 自分が住んでいる地域や家の周りの災害の危険性を知っていますか。  
(○はひとつ)

「知っている」の割合が 48.6%、「知らない」の割合が 30.8%となっています。



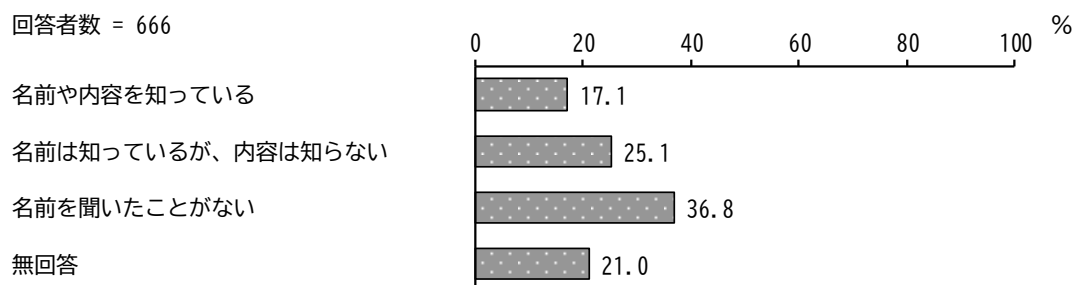
問 49 避難場所を知っていますか。(○はひとつ)

「知っている」の割合が 64.9%、「知らない」の割合が 14.4%となっています。



問 50 災害時における「避難行動要支援者制度」について知っていますか。  
(○はひとつ)

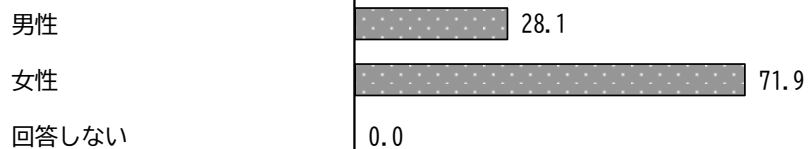
「名前を聞いたことがない」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 25.1%、「名前や内容を知っている」の割合が 17.1%となっています。



### 3 介護支援専門員

問1 あなたの性別を教えてください。

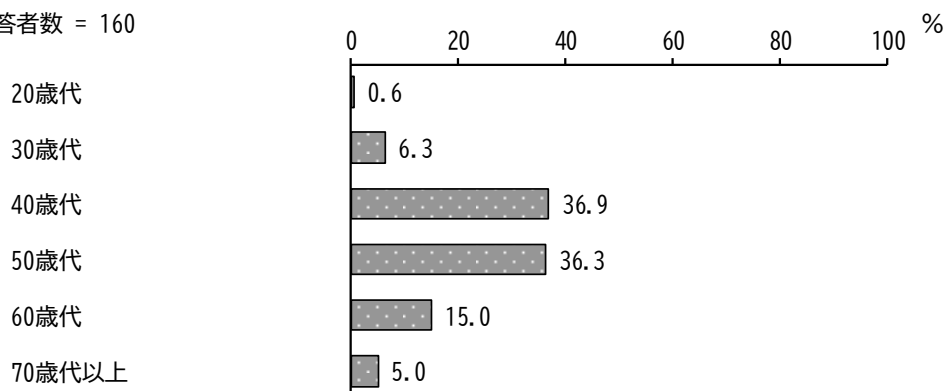
回答者数 = 160



問2 令和5年1月1日現在のあなたの年齢を教えてください。

「40歳代」の割合が36.9%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が36.3%、「60歳代」の割合が15.0%となっています。

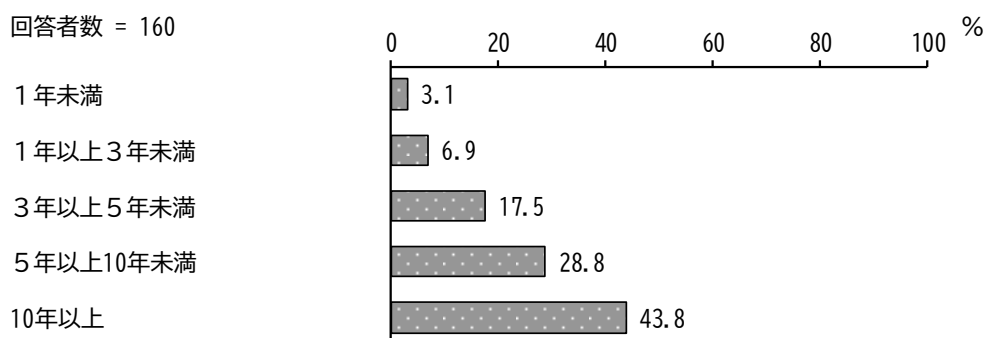
回答者数 = 160





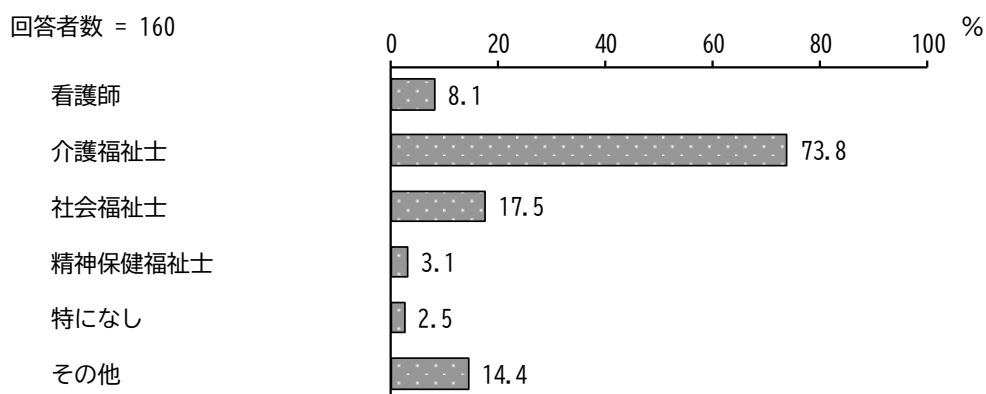
問3 介護支援専門員としての経験年数を教えてください。

「10年以上」の割合が43.8%と最も高く、次いで「5年以上10年未満」の割合が28.8%、「3年以上5年未満」の割合が17.5%となっています。



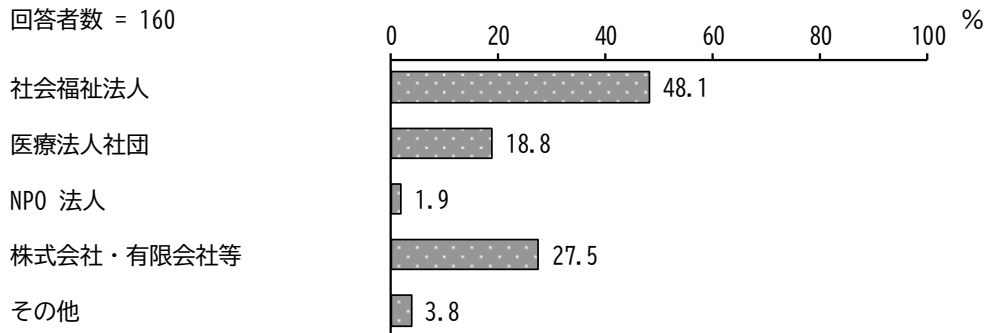
問4 あなたが介護支援専門員以外に持っている資格を教えてください。※複数選択可

「介護福祉士」の割合が73.8%と最も高く、次いで「社会福祉士」の割合が17.5%となっています。



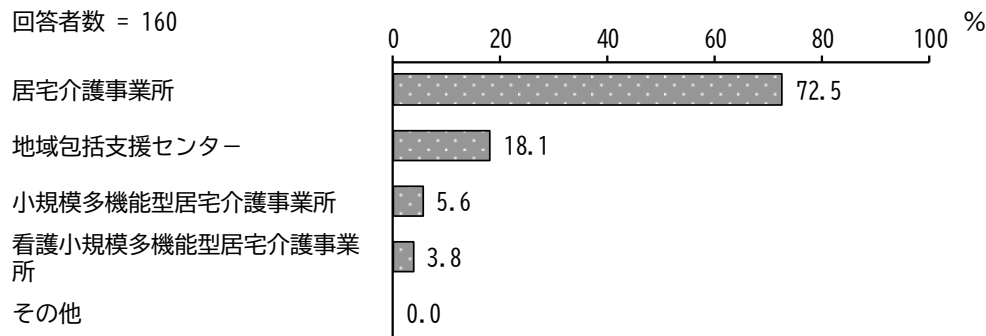
問5 あなたが現在働いている事業所の運営形態はどれですか。

「社会福祉法人」の割合が48.1%と最も高く、次いで「株式会社・有限会社等」の割合が27.5%、「医療法人社団」の割合が18.8%となっています。



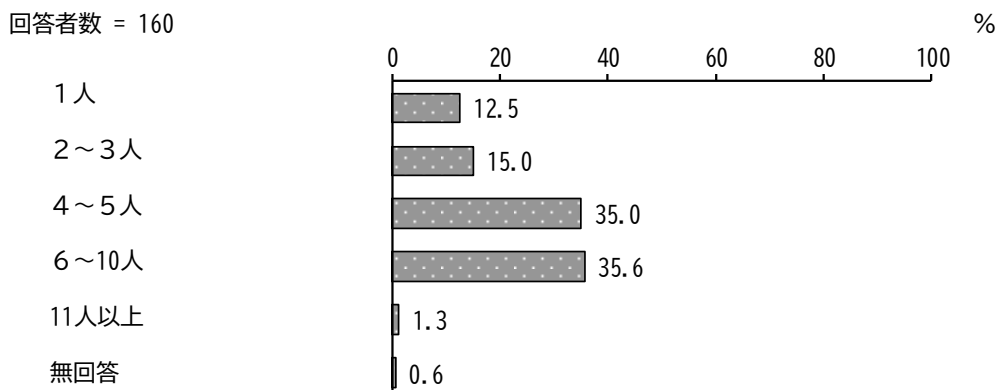
問6 あなたが現在働いている事業所の種類はどれですか。

「居宅介護事業所」の割合が72.5%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」の割合が18.1%となっています。



問7 あなたが現在働いている事業所にあなたを含めて何人ですか。

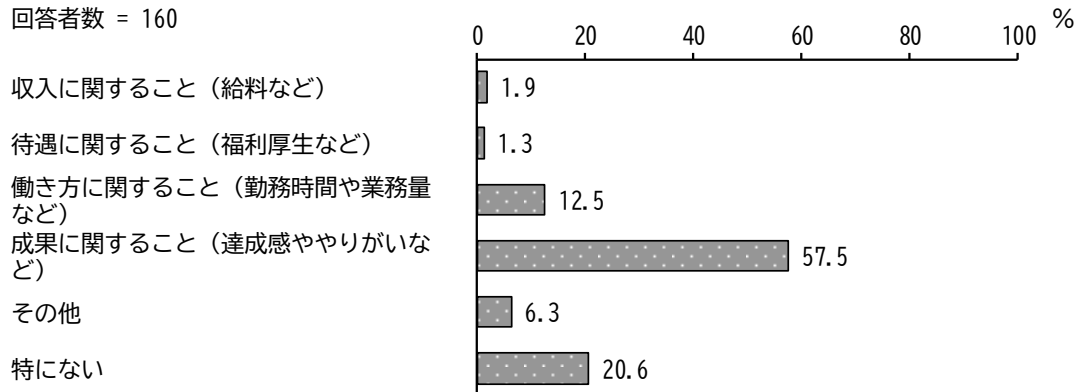
「6～10人」の割合が35.6%と最も高く、次いで「4～5人」の割合が35.0%、「2～3人」の割合が15.0%となっています。



問8 ケアマネジャーという仕事について、最も魅力だと考える点を教えてください。

「成果に関すること（達成感ややりがいなど）」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「特にない」の割合が 20.6%、「働き方に関すること（勤務時間や業務量など）」の割合が 12.5%となっています。

回答者数 = 160



問9 問8で魅力だと考える点について、詳しくはどのようなことですか。

〈具体的な意見〉

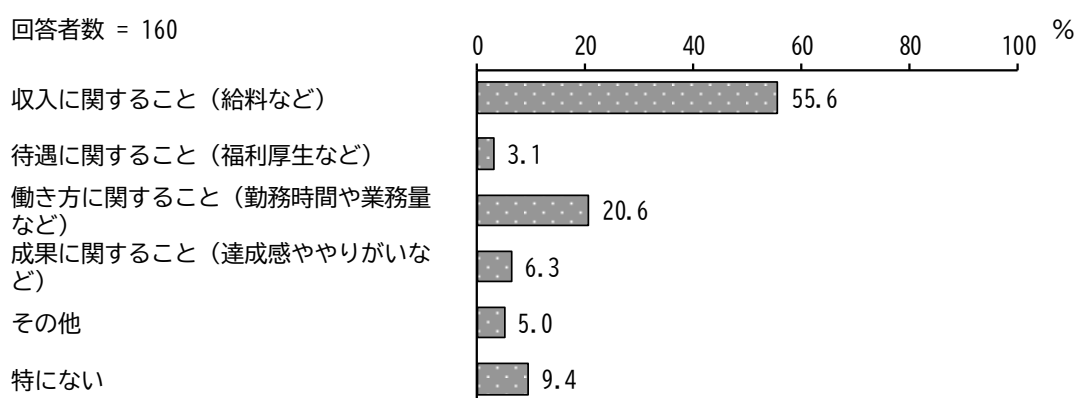
- ・ 時間に融通がきく。
- ・ 腰痛があるので、実際の介護はできませんが、介護の仕事が好きなので。
- ・ 制度は次々にかわるが利用者とのプランがうまくいけば楽しい。
- ・ 給料は激務な割に安い。
- ・ 現場での身体介助が負担。
- ・ ご利用者様の目標やご家族のニーズに合わせて提案した介護サービスをご利用されて、喜ばれた時に大変うれしく思います。
- ・ ケアマネジメントをする仕事を通して、いろいろな方と出会い、自立するために一緒に考えていく点。
- ・ 正しく老後の生活が希望に近く成り立っている。
- ・ 利用者様の生活の上での、その方にあったサービスを提案できること。
- ・ 相談業務。
- ・ 利用者が身体的、精神的に向上できて生活向上に繋がったとき。
- ・ 利用者が自分の望む生活に近づく事ができたとき。
- ・ 家族、本人の願う生活に近づけることができたとき。
- ・ ご利用者ご家族の意向を伺い状況を確認して現時点では困難な事がケアやりハビリを通じ可能になられたり、少しでも充実した生活を送られる事に繋がる支援に携わる事ができた場合は魅力を感じる。
- ・ 利用者様に感謝して頂けた時にやりがいを感じる。
- ・ 困った時の心の支えになる。
- ・ 魅力を感じることはない。
- ・ 対人援助職の専門家として、同業の仲間とスキルアップのための学びを深め、それが実践に役立つと感じること。
- ・ 平日、土日祝お休みな点。

- ・急な家族の用事が出来た場合でも、訪問予定は個人で組んでおり、有休さえ残っていれば休みやすい。
- ・色々。
- ・利用者様の手助けになったときやりがいを感じます。
- ・ケアマネジメントを実行し本人や家族の生活が豊かになり改善された時、人生の質が充実されたと評価できた時。
- ・ケアプラン立案後その人なりの暮らしが出来、暮らしに喜びや満足感を利用者本人が持てた時又は自身の危機管理など視点で動ける様になった時などです。
- ・利用者様の生活スタイルの向上や、身体面などの向上が図れた時。
- ・利用者様の困り事を解決に導けたり、手助けができた実感できる事。
- ・コロナによる長期休暇時も自分で1か月の仕事を組み直すことができる。
- ・ご利用者や家族との関係性の構築がうまくいったとき。
- ・基本夜勤がない。
- ・困難な課題に対して一緒に検討する事は大変だが、本人、家族と信頼関係が出来たの時は達成感ややりがいを感じる。
- ・子育てするにあたり土日祝など、ある程度は自身でスケジュール調整がしやすい。
- ・自分でスケジュールを立てられるところ。
- ・看護師時代は、腰痛や夜勤などで疲弊していたので。
- ・利用者・家族より、介護保険が利用出来て助かっていると言われる。介護保険を利用して頂くことで、生活の改善を感じることができる。いろいろな専門職の人たちとの関りを持つことができる。
- ・高齢者やご家族の支援を通して良きにつけ悪きにつけ人生の学びになる。
- ・多職種による、チームサポートが、できる点。
- ・高齢者の生活課題を解決に導く過程。
- ・高齢者から感謝の言葉をかけてもらったときなど、うれしくて、この仕事をしていて良かったと思う。
- ・利用者様、家族様が満足されたり、目標が達成されたりしたとき。
- ・楽しい。
- ・利用者さんが「よかった」「ありがとう」と言って下さる時。
- ・同居親の介護をしながらなので、働きやすい。
- ・介護サービスが回って、在宅生活が円滑に出来ている。多職種と情報共有が出来てうまくサービスが回る。ご本人が納得できるサービスが提供できたときなど。
- ・2号のご利用者様が介護保険を卒業された時。
- ・利用者や家族から自分のことを必要とされていると感じたとき。
- ・高齢者でも一緒に成長できることがまだあり本人の魅力を引き出せると達成感を感じ。
- ・本人家族を含め、身体状況変化や低下により、生活継続が困難になられた方々の相談支援を行うことで、暮らし継続できるようになること。
- ・自分の生き方の参考になる。
- ・担当の方の心身の状態が改善し、家族の介護負担の軽減ができ、希望に沿った支援ができた時に喜びを感じる。
- ・介護保険制度の知識がつく。他事業所とのやりとりで人間関係が広がる。家族様に感謝される事。等々。
- ・人生スキルの向上。

- ・ご利用者様の残りの人生においてご支援ができる事。提案等に満足していただいたとき。
- ・援助の仕事。
- ・直接的な援助ではないが、相談して下さる利用者さんが喜んで下さる仕事だと思う。
- ・人の役にたっている事。
- ・サービスに繋ぐ事ができ利用者や家族の困り事が減り笑顔が見ることができる。
- ・困難ケースが上手くサービスに繋がった時に達成感を感じます。
- ・介護がいる状態になると、無いと困る職業。
- ・高齢者の方の生活を支援できる。
- ・支援、援助業務ができる。
- ・要支援・要介護者の必要の為に尽くし喜んで頂けた時、やりがいを感じる。
- ・困難ケースなど解決のめどが立つと達成感がある。
- ・利用者の困りごとが少しでも解消し生活がしやすくなっていくのを見た時に、やっていて良かったと思う。
- ・利用者がお元気になる。生活の質が上がる。
- ・利用者との関わりで、自分自身の成長に妻がる。
- ・利用者や家族が前向きな気持ちに変化して行くのを感じた時。
- ・サービスを利用し、利用者様に改善がみられた時。
- ・多職種が関わることで、ご本人の心身状態や生活に改善がみられること。
- ・利用者の方が、サービスを利用することにより生活状況が良くなったこと。
- ・夜勤がないこと、身体的な負擔が少ないこと。
- ・利用者様が自宅での生活を続けられた時。

問 10 ケアマネジャーという仕事について、不満があれば、その中で最も不満であることを教えてください。

「収入に関すること（給料など）」の割合が 55.6%と最も高く、次いで「働き方に関すること（勤務時間や業務量など）」の割合が 20.6%となっています。



問 11 問 10 で不満であることについて、詳しくはどのようなことですか。

〈具体的な意見〉

- ・ 処遇改善加算もつかず、給料も低い。
- ・ 業務の量に対する対価が社会的にも低い。
- ・ 安過ぎる、仕事内容に見合っていない。
- ・ ヘルパーさん等の加算はあり時給はあがるがケアマネの加算は一人ケアマネにはない。
- ・ ケアマネの業務を重視されていない。
- ・ 書類が多い。
- ・ 予防給付の対象者のプランニングを行っているが、件数をたくさん持つわりには、報酬が低い。
- ・ あまりにも多い業務量におおきな責任が見合っていない。
- ・ 特定事業所の加算をとっていないが、休み関係なく連絡があり対応せざるおえない時がある。求められる事がどんどん増えていて、特に災害時や緊急時など対応できるか自信がないし不安に感じている。個別の避難計画の作成の研修も受けたが、そこまで手が回らないし、私は力不足だと感じているし、私には無理な仕事なのかな？と感じる事が多い。
- ・ 週休2日制ではないこと。
- ・ 安すぎる報酬のわりに、業務量と責任が大きい。支援も受けたいが、支援は受ければ受けるだけ赤字になる。
- ・ 処遇改善手当がない。
- ・ 他の介護職と比べて報酬が上がらない。
- ・ 改正の度に利用者様への負担が増えたり不利益につながっているように感じる。
- ・ 処遇改善加算等の必須対象でないので、介護職の方が給与が良い。
- ・ 業務量の多さ。
- ・ 収入は少ないのに責任が重い。制度的なところを守っていくと普通にはやっていけない。無駄な業務が多すぎる。本当に必要なことができていない。
- ・ 介護保険制度設立から 20 年が経過し、ケアマネジメントの内容も進化し、標準化が求められる中で自身の力量が不足していることを実感すること。業務量が多すぎてこなすことができない。
- ・ 介護保険と関係ない相談ばかりで、聞きたくない。元々生活破綻しているのに、介護保険申請した途端に他の事も相談してくる。申請がしやすいからなのか、他の関係ない相談が多い。ケアマネがついているとみると、生活保護のワーカーにしろ、市役所の申請にしろ、全員ケアマネを家族の様に扱ってることがしんどい。なのに、書類仕事だけ増えて給料が上がらない。
- ・ ケアマネに個人的に 24 時間電話対応させるなど人権無視も甚だしい。
- ・ 仕事の線引きが難しい所。
- ・ 仕事量（事務処理）が多く、時間内に追いつかない。
- ・ 資格があるが収入に見合っていない。国家資格と同等にしてほしい。
- ・ 相談援助職に対する報酬が見合っていない。本当に大変です。
- ・ ケアマネの仕事の理解が他者、会社の関係者などに理解がされない、どのような動きをしているか理解してもらえない。
- ・ 休み関係無く、夜中でも利用者様家族や本人様より連絡が入る事。
- ・ 仕事の内容が多岐にわたり、帳票などの事務作業も膨大で、仕事に忙殺される日々に、自分の時間や家庭を犠牲にしなければならないこと。休みであっても、夜中であっても電話

対応しているため、ストレス解消ができない。

- ・支援の人を受け持っていますが、しっかりしている分だけ色々と言ってきて振り回されている割にはそれに見合った給料でない。
- ・特に小多機のケアマネは介護業務も含まれる仕事をするのがケアマネの存在意義をぼやけさせている。
- ・業務量、責任等を考え実態に合っていない、低すぎる。
- ・処遇改善加算がない。
- ・収入が少ない。キャリアアップのはずが、以前の介護職の方が収入が多い。処遇改善から外されている。給付管理が発生しないとどれだけ支援をしても一銭も報酬がない。担当数と業務量に報酬が見合っていない。
- ・ケアマネ一人に対して、精神的負担が大きい事例があります。最近は無理を言ったり勤務時間を無視した対応を希望するケースがあり、外からは見えづらい負担が大きく、その事に対して給与面等での評価が全体的に低い事です。
- ・介護職員は処遇改善がありますがケアマネジャーはありません。身体的負担は少ないですが精神的負担がかなり大きい。
- ・処遇改善加算等が付かず、結局は介護職の方が高収入になっている。
- ・便利屋のように使われている。
- ・専門的資格を頑張って取得したが、介護職の方が収入がいい。全く魅力を感じない。モチベーションが下がる。
- ・他業種と比して給料が安い。マイナンバーカードの証明など、ケアマネの本来の業務以外の仕事がある。
- ・年々、仕事が複雑になっている。書類が多い。事務的なことは合理化が進んでいる職種が多いが、まったく進んでいない。
- ・何でもケアマネに振られて対応しないといけない。休みの時まで電話対応や調整が必要な場合が多くゆっくり休めない。
- ・介護職員のような処遇改善が行われない。
- ・介護士の方が手当てが増えて、給料が良い。ケアマネジャーに処遇改善を付けてほしい。
- ・地域包括支援センターの介護支援専門員は特に給与が低い。今後も家庭を引っ張るうえでは継続した勤務は難しい。
- ・忙しい。
- ・責任のある仕事の割には給料が少ない。
- ・仕事内容や国や県、市町村が求めることが、給料にたいして割に合わない。契約と介護保険サービス導入の両方につながらないと成果にならず、状況によってただ働きになることが多い。
- ・国家資格ではないので、5年ごとに更新の研修があり、その為に本来利用者の為に使える時間が減り、利用者に不利益になっている。作成する書類が多すぎて、本来のマネジメントが十分に出来ない。
- ・年々業務量は増えるが給与は増えない。そもそも給与が増やせるほどの介護報酬がない。介護職しか処遇改善されず、ケアマネは処遇改善されていない。物価高騰に伴い、国はベースアップを求めているが介護報酬が決められ、報酬を増やすことができないのに仕事を辞める以外どうすることもできない。
- ・勤務時間外でも利用者やその家族の都合が優先され、対応しないといけない。
- ・ケアマネ不足の中、介護職のような改善手当等がないこと。
- ・雑務や仕事の内容が多岐にわたり、高齢者の事や介護保険業務以外の事まで仕事を押し付

けられる。

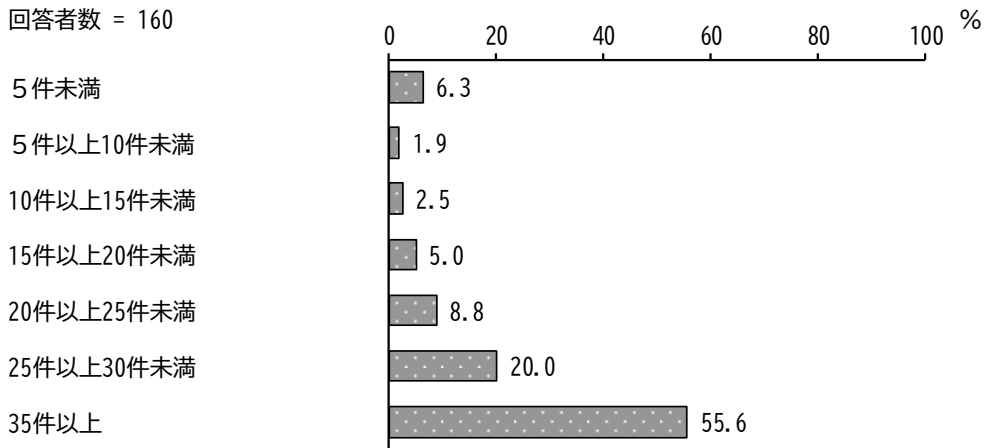
- ・業務時間外でも必要に応じて対応している。
- ・ご本人、ご家族の権利主張が強くなった。
- ・現場から経験値を積み、勉強をして試験を経て資格の取得をしましたが、ケアマネ業務につき年間所得が大幅に減少した。介護職とヒエラルキーが逆転した。
- ・書類作成や事務処理をしながら、訪問件数をこなすのが精一杯。もっと利用者と時間をかけて話したくても感染症の不安と隣り合わせで自分も感染の可能性があるかもと緊張して訪問。休みの日も連絡があったり、緊急対応をしないといけないなど、帰宅後も休日も気持ちが休まらない。
- ・負担は大きく、担うことが増え続けていると感じている。
- ・書類作成の量が膨大で負担感が大きい。
- ・給料が安い。
- ・休みの日にも連絡が入ってきたり、変更等時間がかかったり、家族の支援が得られない等、業務量が収入に見合わない。変更に伴い事務処理も多く、疲弊している。
- ・収入が少ないです。
- ・書類関係が多く仕事量が多い。収入にあっていない。家族からの要望が多く対応に困り精神的苦痛が多い。
- ・処遇改善が無いので介護支援専門員になりたいと思う人が少なくなっている。このままでは不安。
- ・しんどい仕事のわりには処遇改善はついていない。とても不満である。
- ・市役所の職員と同じようなことをしても給料に反映しないときや家族間のトラブルに巻き込まれたりするとき。
- ・介護現場の労働負担が着目されますが、ケアマネは抱えるものの重圧はあります。皆様の生活を支えるうえで、個人で休日に対応することもあります。対象者の問題が解決するまで 24 時間精神的に背負うこともあります。ケアマネの処遇の改善は見直されず、やりきれない思いもあります。介護職は現場がメインとされ、ケアマネは社会的に置いてきぼりになっているような気がします。
- ・仕事内容に対しての対価が低い。
- ・国があまりケアマネの仕事を評価していないので収入が低いと思う。
- ・持っている人数が多い事。
- ・書類作成等が多く仕事量が多い。
- ・書類が多い。なんでもケアマネにとなることが多い。
- ・要介護者と現実問題のギャップを調整する難しさを感じます。
- ・業務や事務量が多いが、そのことに対する理解が得られていない。
- ・利用者や家族の望む生活を実現できるようサービスや生活の調整をする為にたくさんの時間を要するのに、介護支援専門員として行うべき業務量が多すぎる。
- ・手間が多く、精神的に負担が多いにも関わらず業務内容に見合った給料ではないと感じる。
- ・介護保険外の相談など多岐にわたり、対応しなければならない状況であるにも関わらず、収入は本当に低い。何でも相談の様になっており、加古川市からも何でも包括にと振られている。市で対応できることは市で対応してほしい。
- ・パートが冷遇されている。
- ・書類作成、モニタリング訪問、介護業務と限らない働きが山積みである。
- ・書類等の事務業務が多すぎる。



- ・業務にかかる時間や内容等収入に合わない。
- ・不満ではないが、休みの日にも緊急対応しなければいけない時はしんどいと思う。独居の方が救急搬送される場合などケアマネ以外に対応してくれる機関がないのが困る。市の方でももう少し考えて欲しい。あと、作らなければいけない書類が多すぎる。画一的にはできないので、件数だけでは測れないものがあることをわかって欲しい。
- ・国はケアマネに対して、負担を増やしているが、それに見合う給与が支払われていない。
- ・福祉業界の全体的な賃上げは必要。人材確保ができにくい。
- ・仕事量が事務的な事も含めて煩雑でやる事が多い。何でも屋と捉えている人が居る。
- ・社会的地位も低く、仕事量に対しての収入が低すぎる。
- ・処遇改善費について。
- ・資格を持って専門職として働いているにも関わらず、介護職員のように国からの処遇改善が認められていない。また、5年に一度更新研修を受けなければいけないことについても負担が大きく、資格に対しての手当、給与が低いと感じている。
- ・あまりにもブラック。残業つかず、有給ほとんど取れない。
- ・一生懸命支援しても、理解してもらえず罵倒叱責を受けることが多い。
- ・小規模という職場の性質上介護職員としての仕事も多い。
- ・24時間電話対応。プライベートでも1時間以上の電話相談が多すぎるが無給。残業代が全くなし。家族や行政の手が届かない、見て見ぬ振りになっているグレーゾーンが1番大変なのに、担当者任せにされる面がよくある。
- ・仕事の内容の割に給与が少ない。

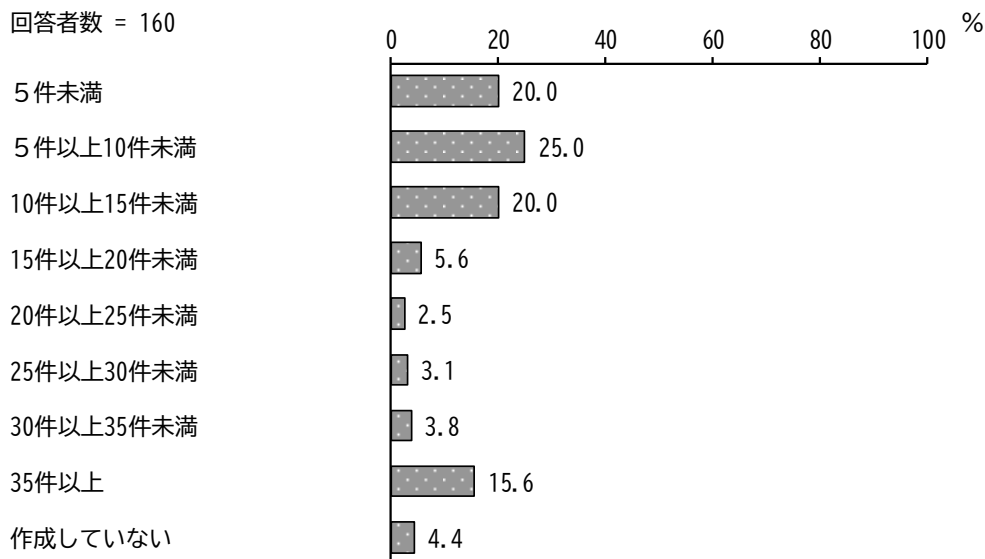
問12 令和5年1月分の給付管理は何件ですか。

「35件以上」の割合が55.6%と最も高く、次いで「25件以上30件未満」の割合が20.0%となっています。



問13 問12で回答した件数のうち、介護予防ケアプランは何件ですか。

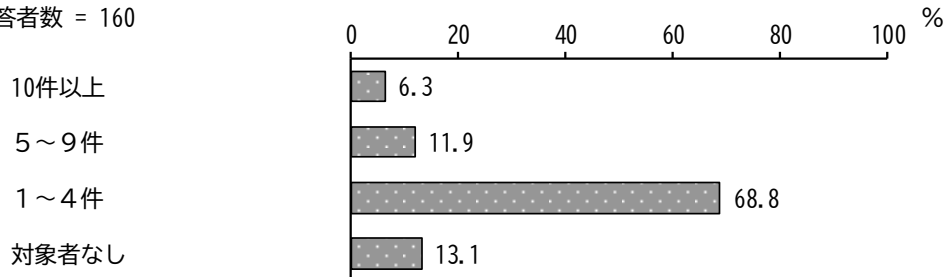
「5件以上10件未満」の割合が25.0%と最も高く、次いで「5件未満」、「10件以上15件未満」の割合が20.0%となっています。



問 14 問 12 で回答した件数以外に、担当しているが（入院やサービス利用なし等で）給管理が発生しなかった対象者は何件ですか。

「1～4件」の割合が68.8%と最も高く、次いで「対象者なし」の割合が13.1%、「5～9件」の割合が11.9%となっています。

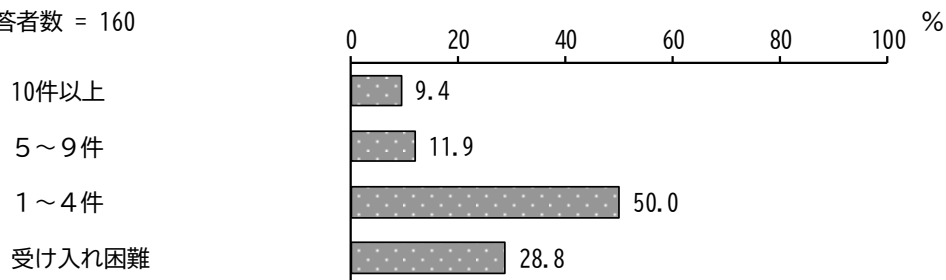
回答者数 = 160



問 15 あと何件担当する余裕がありますか。

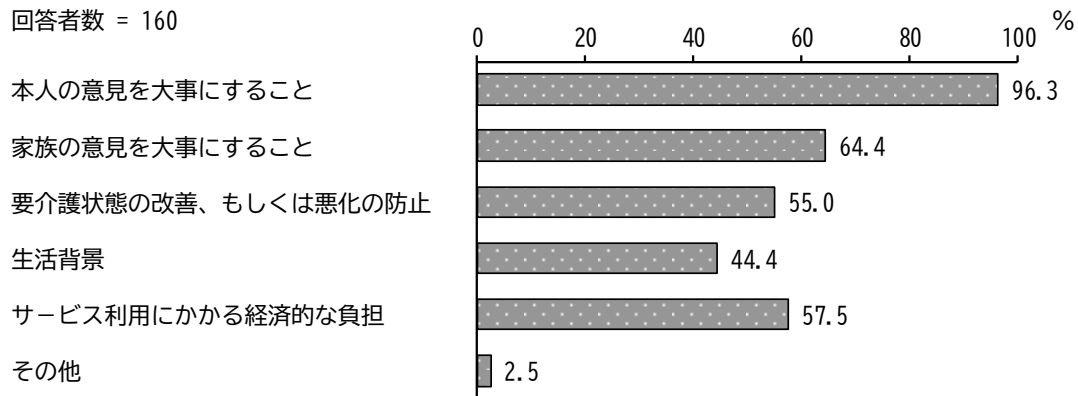
「1～4件」の割合が50.0%と最も高く、次いで「受け入れ困難」の割合が28.8%、「5～9件」の割合が11.9%となっています。

回答者数 = 160



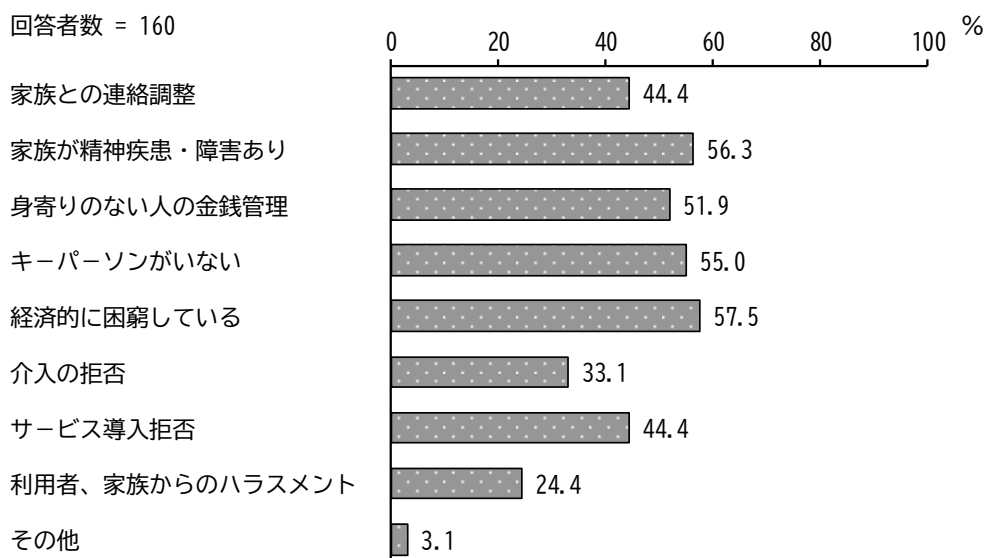
問 16 ケアプランを立てるにあたり、生活機能の状態のほかに、どのようなことに気をつけていますか。※複数選択可

「本人の意見を大事にすること」の割合が 96.3%と最も高く、次いで「家族の意見を大事にすること」の割合が 64.4%、「サービス利用にかかる経済的な負担」の割合が 57.5%となっています。



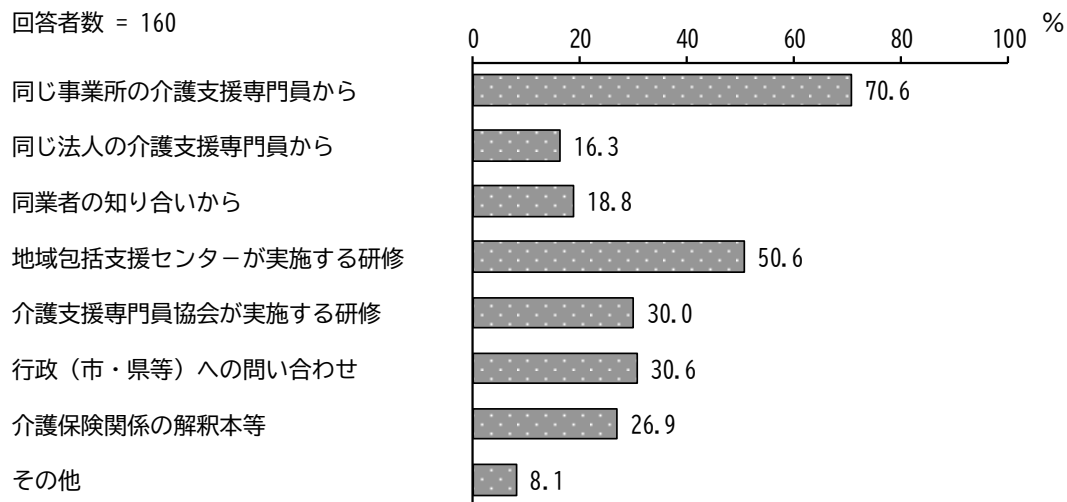
問 17 介護支援専門員として利用者に関わる中でどのようなことに困りましたか。※複数選択可

「経済的に困窮している」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「家族が精神疾患・障害あり」の割合が 56.3%、「キーパーソンがない」の割合が 55.0%となっています。



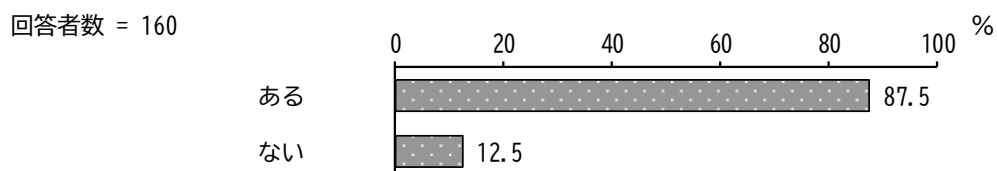
問 18 介護支援専門員として必要な知識をどのように得ていますか。 ※3つまで選択可

「同じ事業所の介護支援専門員から」の割合が70.6%と最も高く、次いで「地域包括支援センターが実施する研修」の割合が50.6%、「行政（市・県等）への問い合わせ」の割合が30.6%となっています。



問 19 災害時に備えて担当している利用者に対してどんなケアが必要か考えたことはありますか。

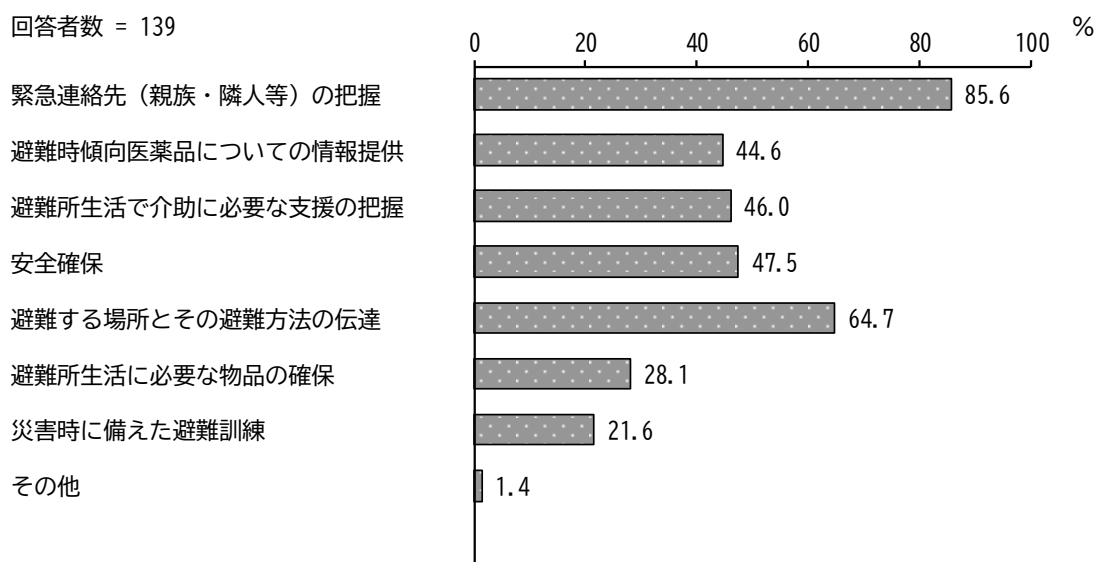
「ある」の割合が87.5%、「ない」の割合が12.5%となっています。



※問 19 で「ある」と回答した人のみ。

問 20 災害時、介護支援専門員として担当している利用者に対してどんなケアが必要だと思いますか。

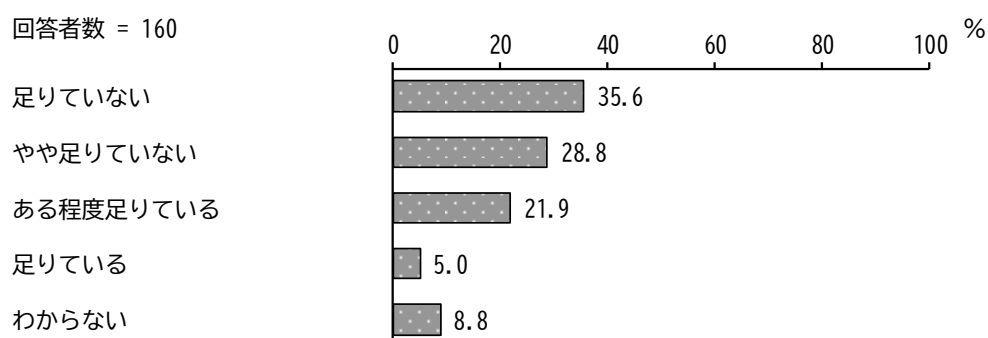
「緊急連絡先（親族・隣人等）の把握」の割合が 85.6%と最も高く、次いで「避難する場所とその避難方法の伝達」の割合が 64.7%、「安全確保」の割合が 47.5%となっています。



問 21 市内におけるサービスの充足状況についてどのように思いますか。（以下問 21-28 まで各サービスについて回答してください）

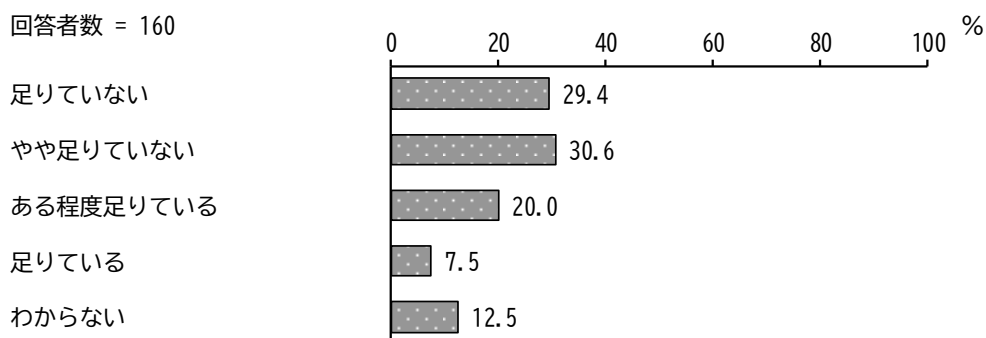
問 21-1 訪問診療（医師の訪問）

「足りていない」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が 28.8%、「ある程度足りている」の割合が 21.9%となっています。



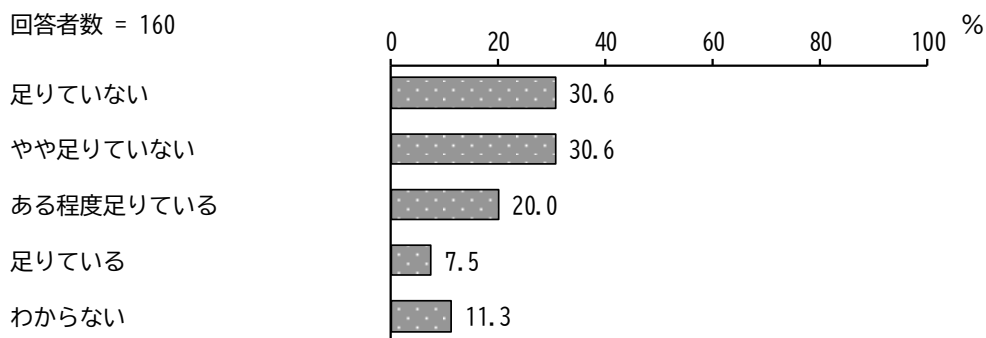
### 問 21-2 訪問介護

「やや足りていない」の割合が 30.6%と最も高く、次いで「足りていない」の割合が 29.4%、「ある程度足りている」の割合が 20.0%となっています。



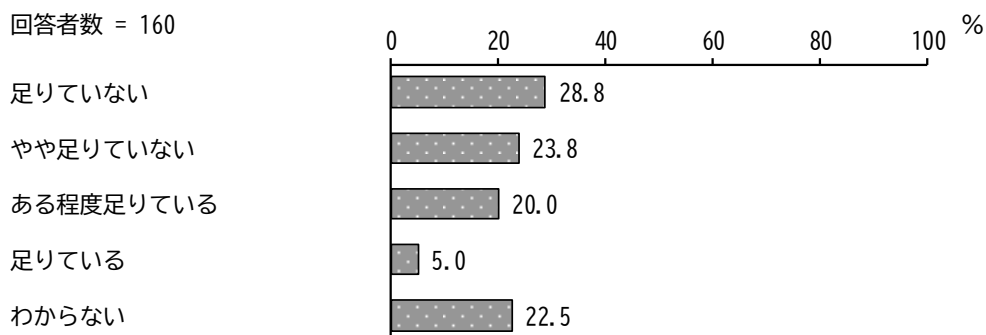
### 問 21-3 介護予防型訪問サービス

「足りていない」、「やや足りていない」の割合が 30.6%と最も高く、次いで「ある程度足りている」の割合が 20.0%となっています。



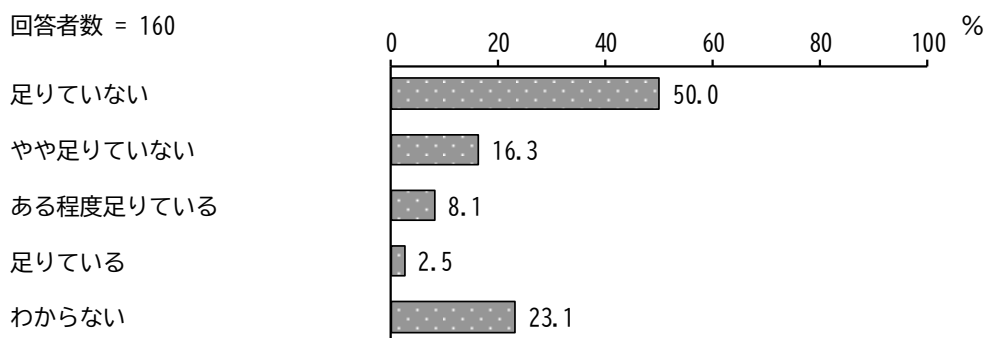
### 問 21-4 生活援助型訪問サービス

「足りていない」の割合が 28.8%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が 23.8%、「わからない」の割合が 22.5%となっています。



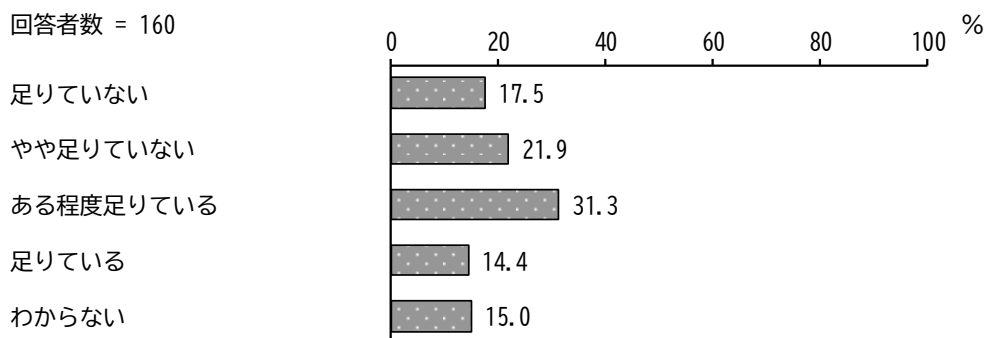
### 問 21-5 夜間対応型訪問介護

「足りていない」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 23.1%、「やや足りていない」の割合が 16.3%となっています。



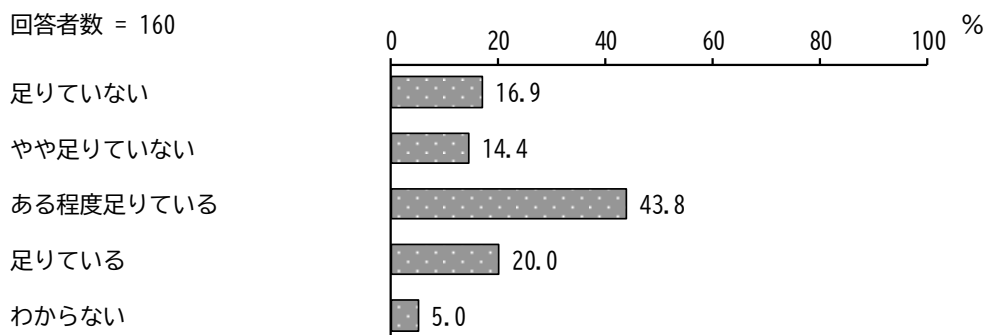
### 問 21-6 訪問入浴介護

「ある程度足りている」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が 21.9%、「足りていない」の割合が 17.5%となっています。



### 問 21-7 訪問看護

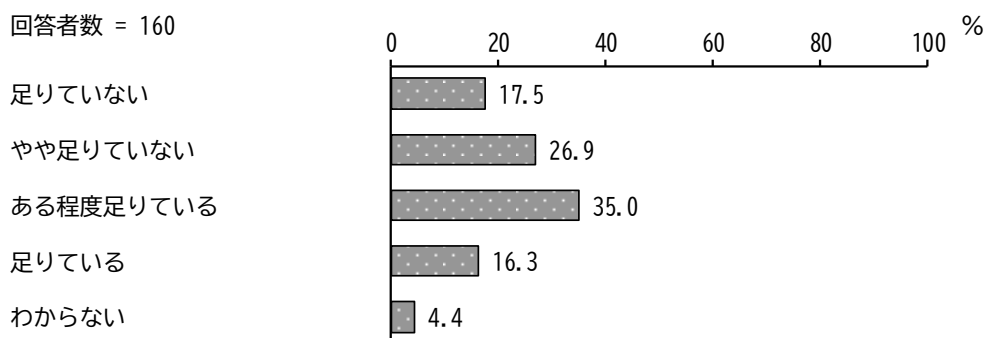
「ある程度足りている」の割合が 43.8%と最も高く、次いで「足りている」の割合が 20.0%、「足りていない」の割合が 16.9%となっています。





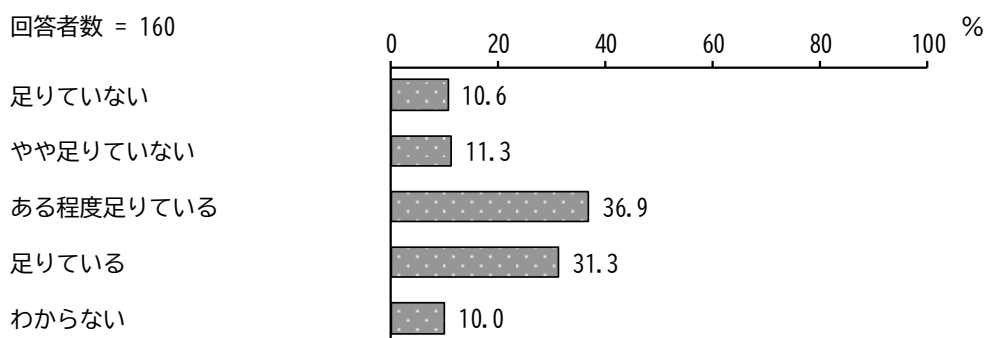
### 問 21-8 訪問リハビリテーション

「ある程度足りている」の割合が 35.0%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が 26.9%、「足りていない」の割合が 17.5%となっています。



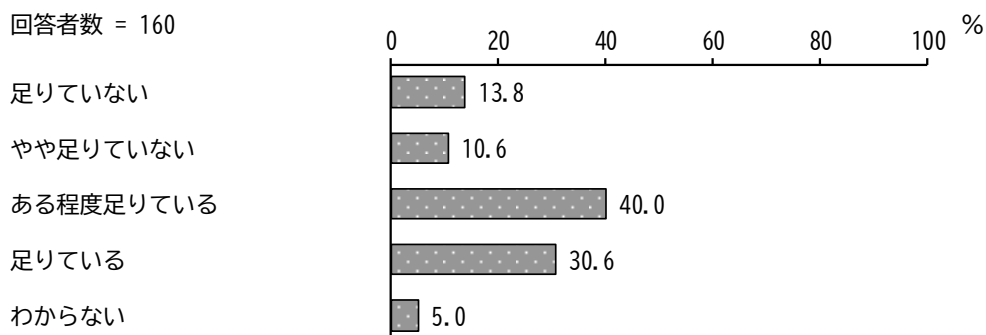
### 問 21-9 通所介護 (デイサービス)

「ある程度足りている」の割合が 36.9%と最も高く、次いで「足りている」の割合が 31.3%、「やや足りていない」の割合が 11.3%となっています。



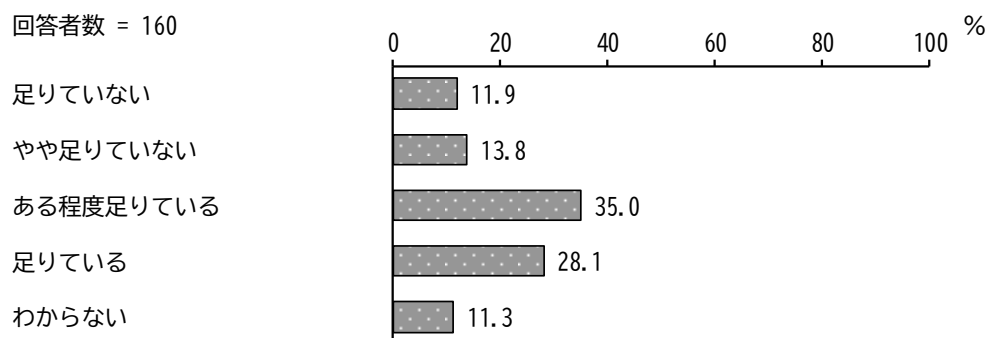
### 問 21-10 介護予防型通所サービス

「ある程度足りている」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「足りている」の割合が 30.6%、「足りていない」の割合が 13.8%となっています。



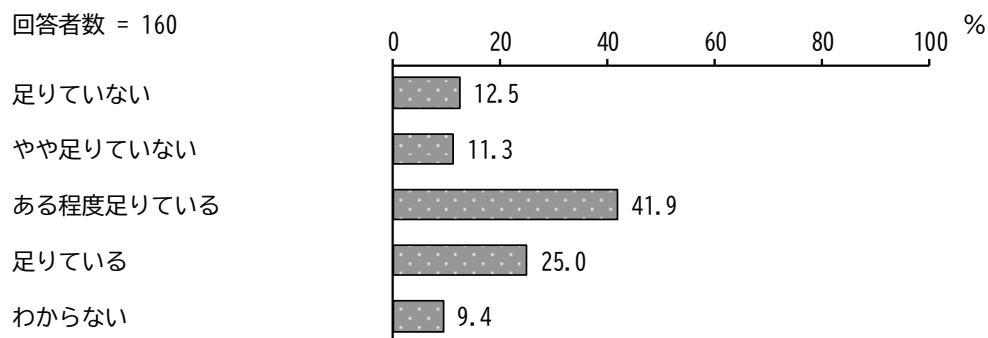
### 問 21-11 トレーニング型通所サービス

「ある程度足りている」の割合が 35.0%と最も高く、次いで「足りている」の割合が 28.1%、「やや足りていない」の割合が 13.8%となっています。



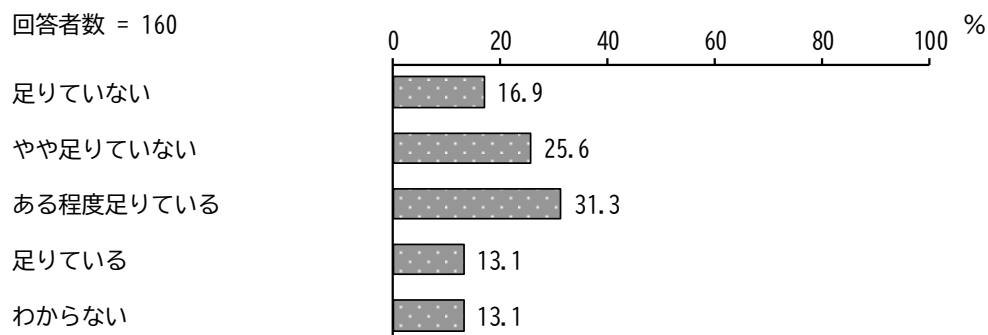
### 問 21-12 地域密着型通所介護（定員 18 名以下の通所介護）

「ある程度足りている」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「足りている」の割合が 25.0%、「足りていない」の割合が 12.5%となっています。



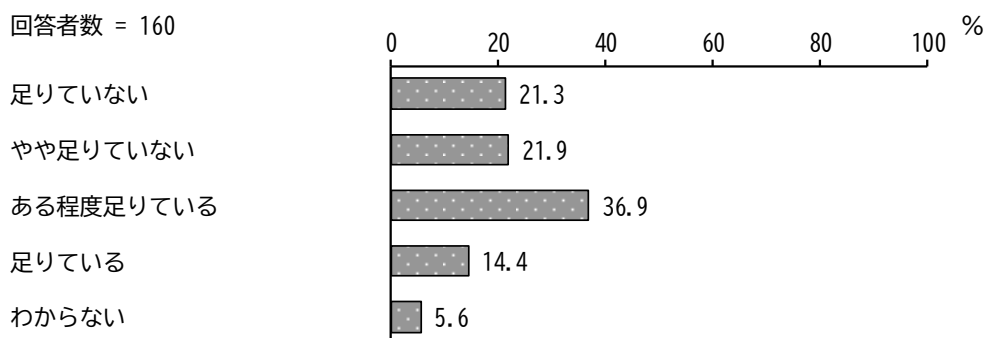
### 問 21-13 認知症対応型通所介護

「ある程度足りている」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が 25.6%、「足りていない」の割合が 16.9%となっています。



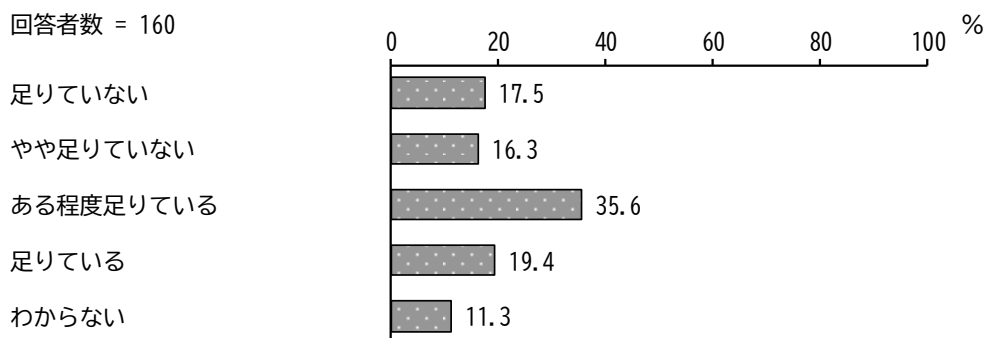
#### 問 21-14 通所リハビリテーション（デイケア）

「ある程度足りている」の割合が 36.9%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が 21.9%、「足りていない」の割合が 21.3%となっています。



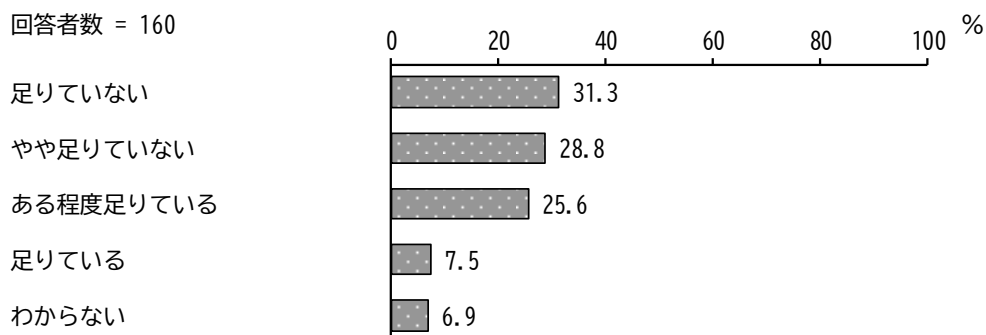
#### 問 21-15 小規模多機能型居宅介護

「ある程度足りている」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「足りている」の割合が 19.4%、「足りていない」の割合が 17.5%となっています。



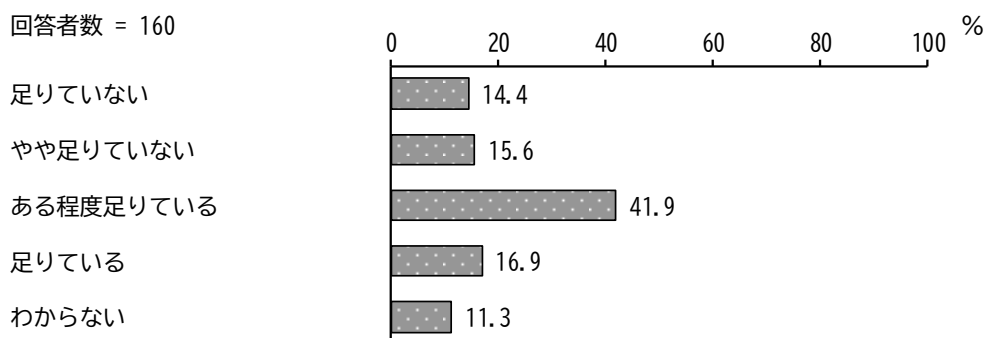
#### 問 21-16 短期入所（ショートステイ）

「足りていない」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が 28.8%、「ある程度足りている」の割合が 25.6%となっています。



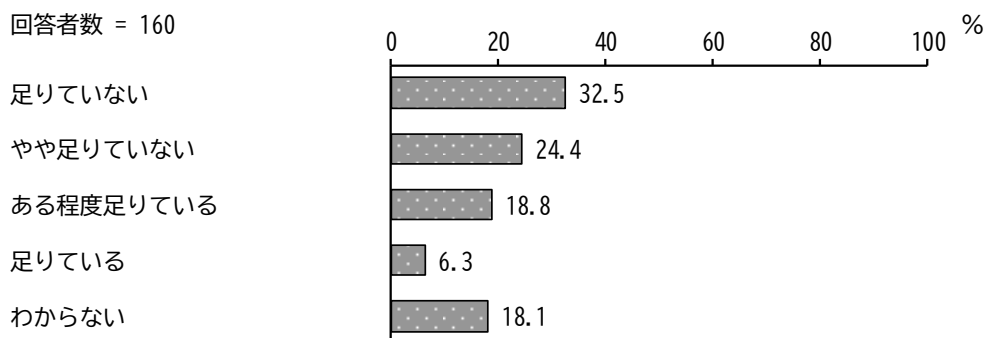
### 問 21-17 医師や薬剤師などによる療養上の指導（居宅療養管理指導）

「ある程度足りている」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「足りている」の割合が 16.9%、「やや足りていない」の割合が 15.6%となっています。



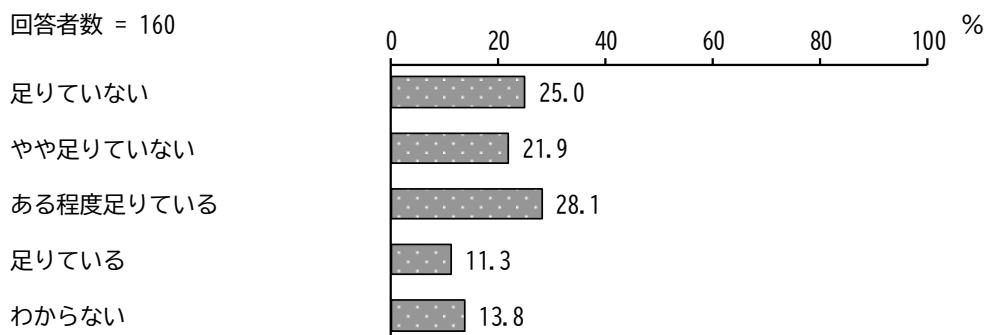
### 問 21-18 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

「足りていない」の割合が 32.5%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が 24.4%、「ある程度足りている」の割合が 18.8%となっています。



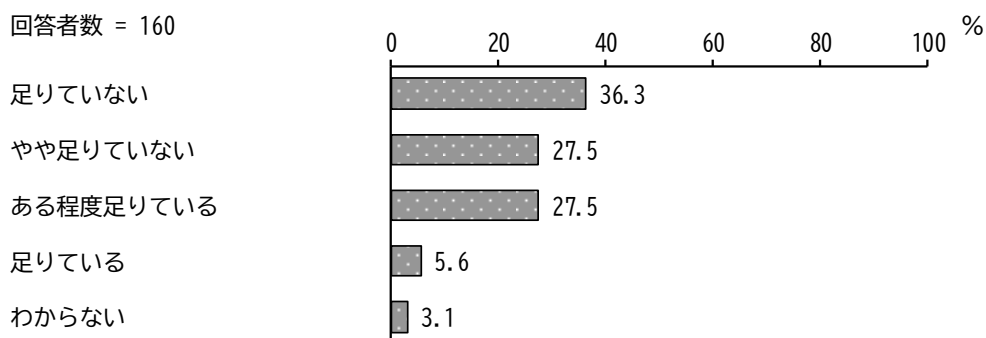
### 問 21-19 看護小規模多機能型居宅介護

「ある程度足りている」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「足りていない」の割合が 25.0%、「やや足りていない」の割合が 21.9%となっています。



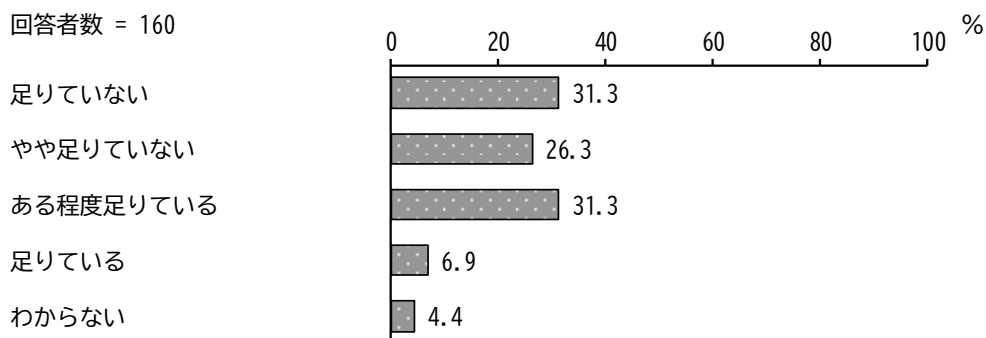
### 問 21-20 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

「足りていない」の割合が36.3%と最も高く、次いで「やや足りていない」、「ある程度足りている」の割合が27.5%となっています。



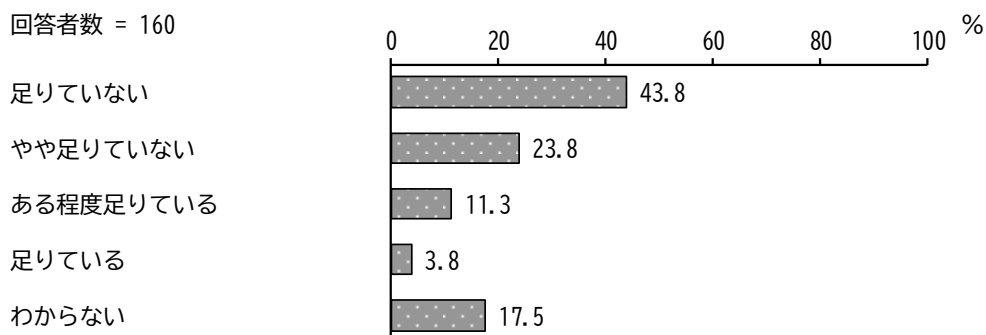
### 問 21-21 介護老人保健施設

「足りていない」、「ある程度足りている」の割合が31.3%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が26.3%となっています。



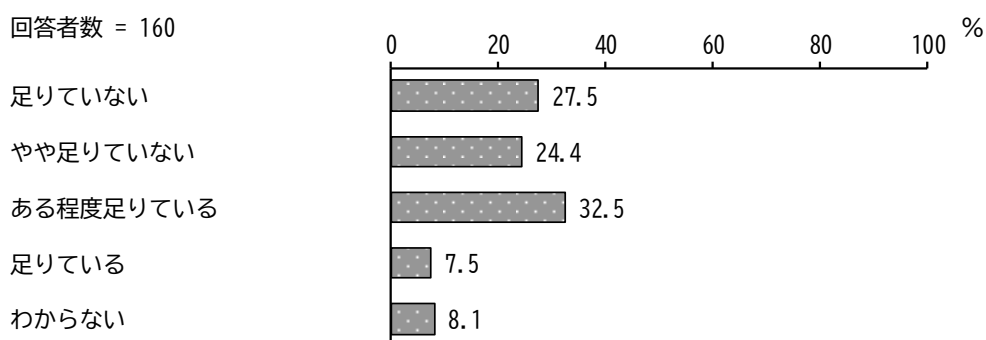
### 問 21-22 介護医療院

「足りていない」の割合が43.8%と最も高く、次いで「やや足りていない」の割合が23.8%、「わからない」の割合が17.5%となっています。



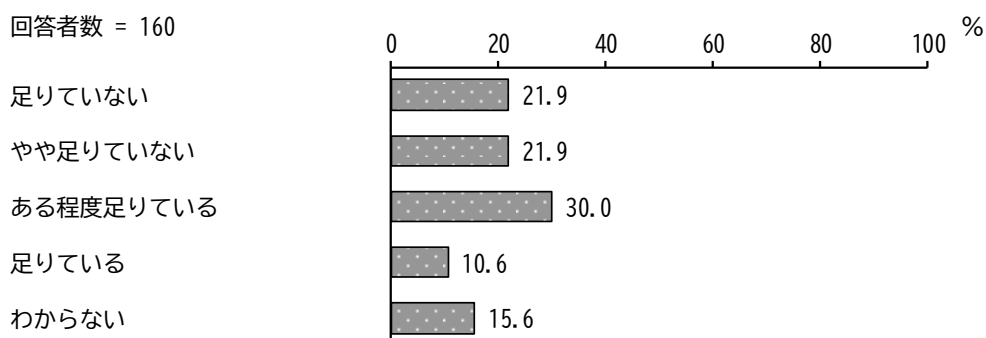
### 問 21-23 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

「ある程度足りている」の割合が 32.5%と最も高く、次いで「足りていない」の割合が 27.5%、「やや足りていない」の割合が 24.4%となっています。



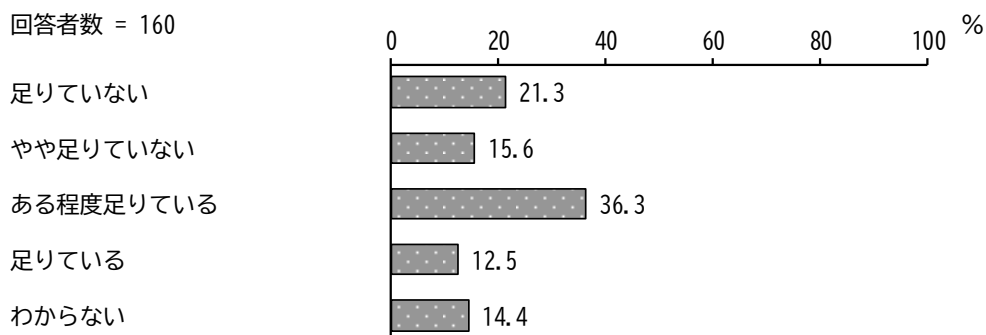
### 問 21-24 特定施設入居者生活介護

「ある程度足りている」の割合が 30.0%と最も高く、次いで「足りていない」、「やや足りていない」の割合が 21.9%となっています。



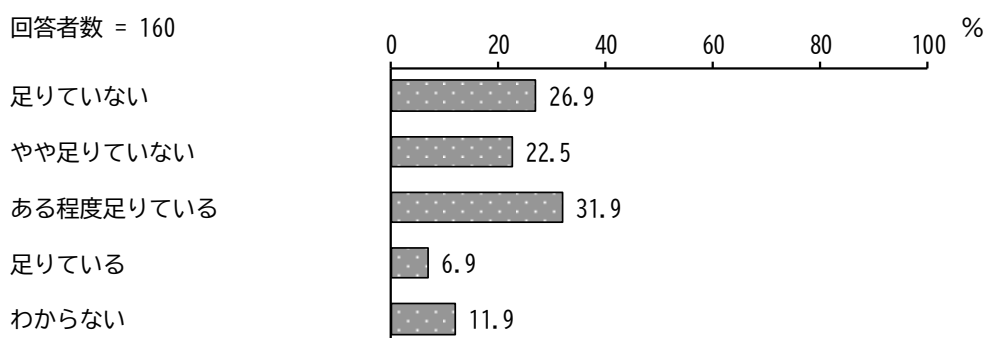
### 問 21-25 有料老人ホーム

「ある程度足りている」の割合が 36.3%と最も高く、次いで「足りていない」の割合が 21.3%、「やや足りていない」の割合が 15.6%となっています。



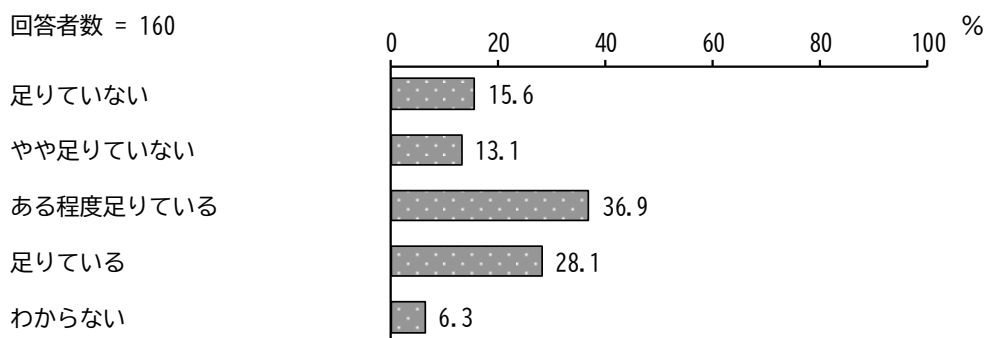
### 問 21-26 軽費老人ホーム（ケアハウス）

「ある程度足りている」の割合が 31.9%と最も高く、次いで「足りていない」の割合が 26.9%、「やや足りていない」の割合が 22.5%となっています。



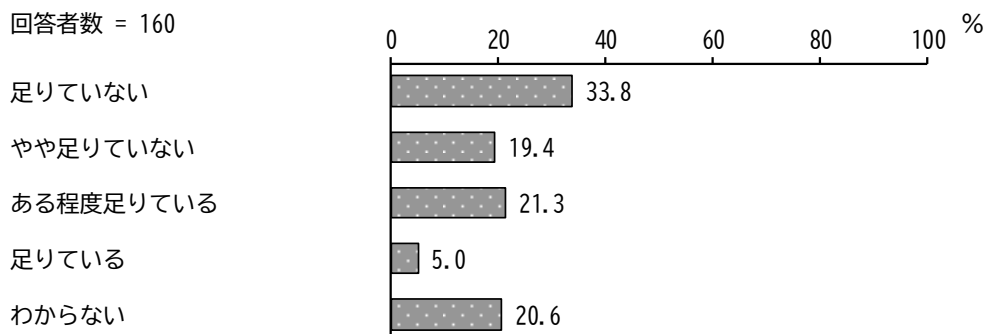
### 問 21-27 サービス付き高齢者向け住宅

「ある程度足りている」の割合が 36.9%と最も高く、次いで「足りている」の割合が 28.1%、「足りていない」の割合が 15.6%となっています。



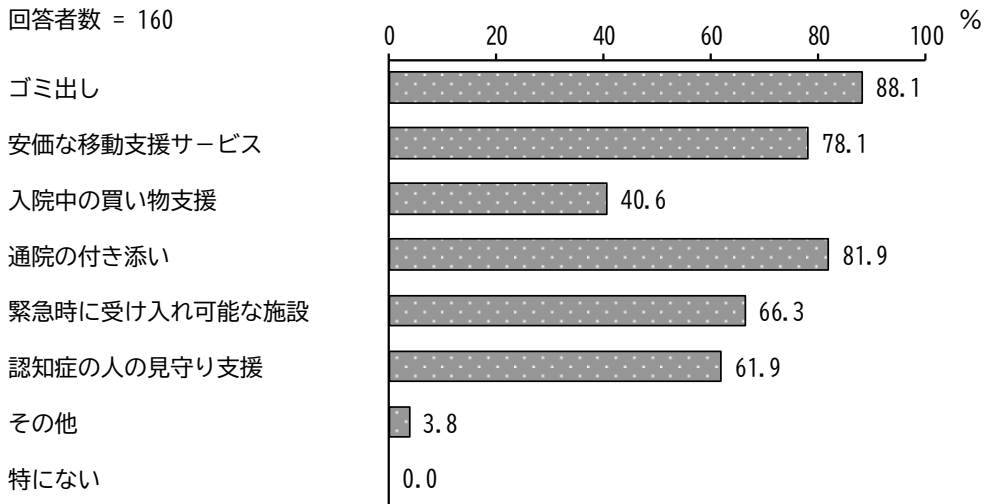
### 問 21-28 養護老人ホーム

「足りていない」の割合が 33.8%と最も高く、次いで「ある程度足りている」の割合が 21.3%、「わからない」の割合が 20.6%となっています。



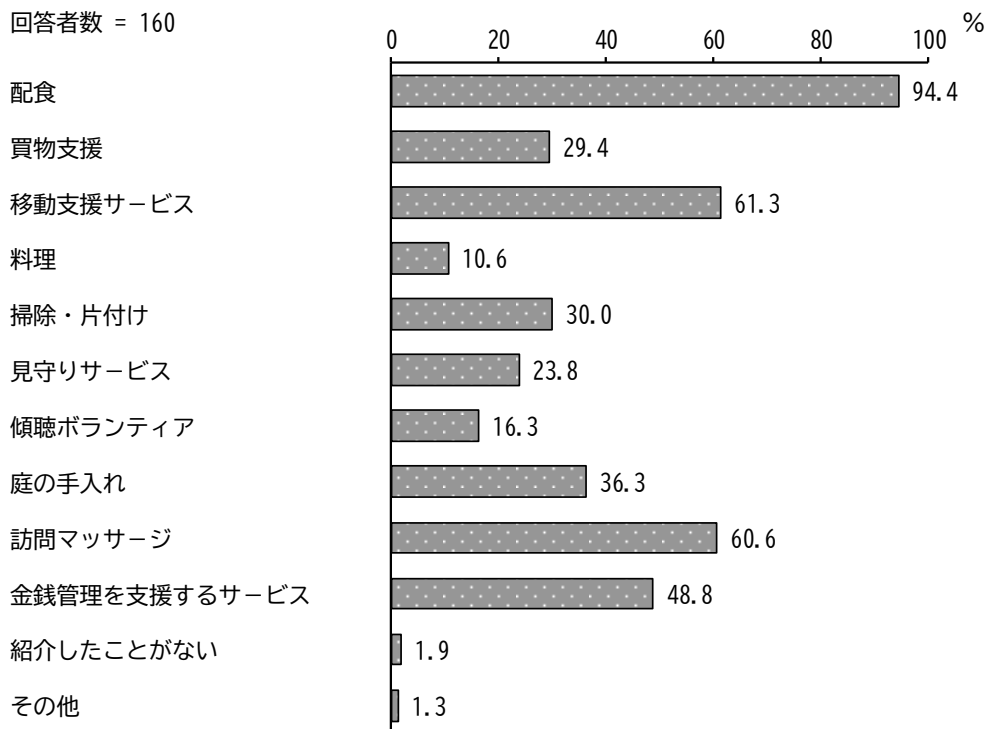
問 22 介護保険サービス以外にあれば良いと思うサービスは何ですか。※複数選択可

「ゴミ出し」の割合が 88.1%と最も高く、次いで「通院の付き添い」の割合が 81.9%、「安価な移動支援サービス」の割合が 78.1%となっています。



問 23 介護保険サービス以外のサービスで紹介したことがあるものは何ですか。※複数選択可

「配食」の割合が 94.4%と最も高く、次いで「移動支援サービス」の割合が 61.3%、「訪問マッサージ」の割合が 60.6%となっています。

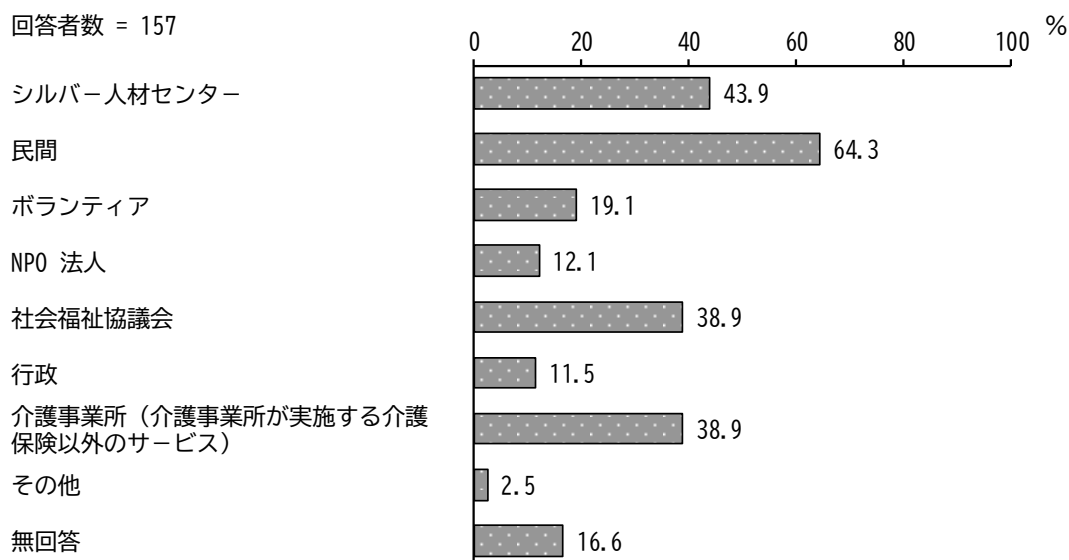




※問 23 で「紹介したことがない」と回答した人以外

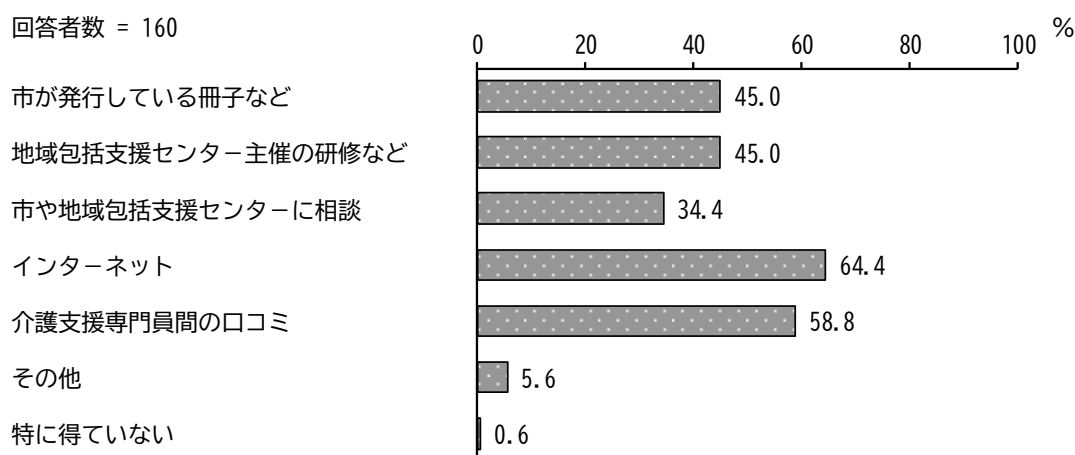
問 24 問 23 の項目で紹介したことがあるサービスについては、どのような団体が実施するサービスですか。※複数選択可

「民間」の割合が 64.6%と最も高く、次いで「シルバー人材センター」の割合が 43.9%、「社会福祉協議会」、「介護事業所（介護事業所が実施する介護保険以外のサービス）」の割合が 38.9%となっています。



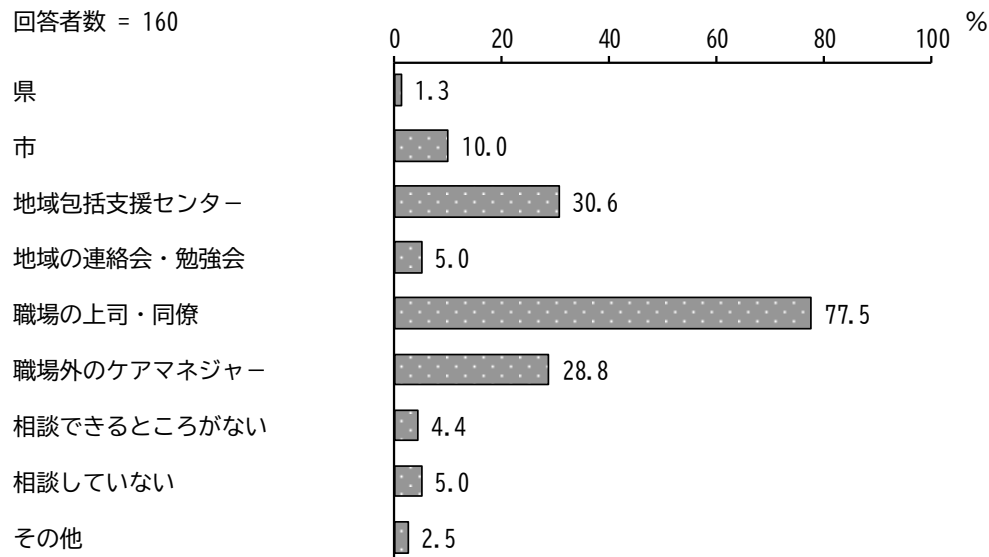
問 25 介護保険サービス以外の情報をどのように得ていますか。※複数選択可

「インターネット」の割合が 64.4%と最も高く、次いで「介護支援専門員間の口コミ」の割合が 58.8%、「市が発行している冊子など」、「地域包括支援センター主催の研修など」の割合が 45.0%となっています。



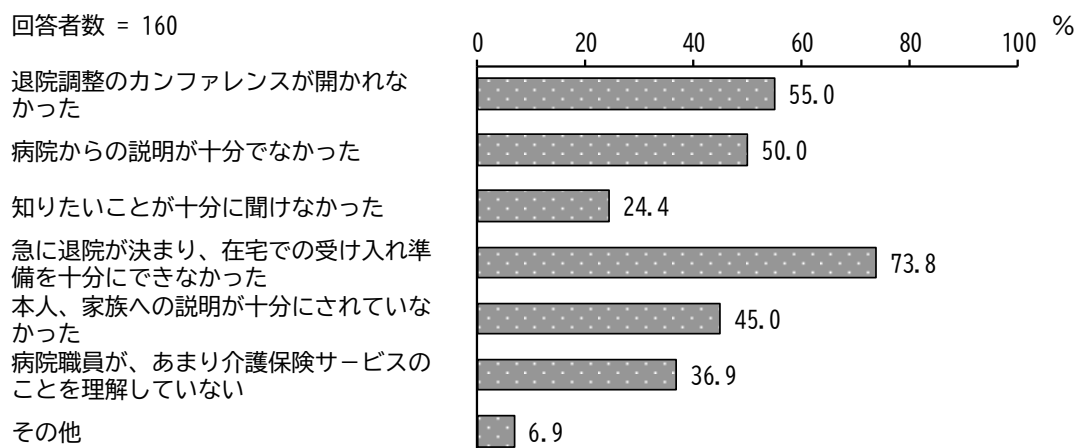
問 26 あなたは、ケアプランに関して悩んだときなどに、だれに相談することが多いですか。※複数選択可

「職場の上司・同僚」の割合が 77.5%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」の割合が 30.6%、「職場外のケアマネジャー」の割合が 28.8%となっています。



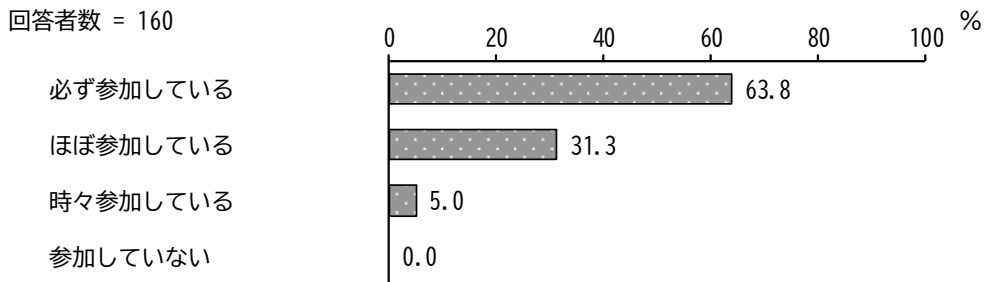
問 27 退院支援や調整をする中でどのようなことに困りましたか。※複数選択可

「急に退院が決まり、在宅での受け入れ準備を十分にできなかった」の割合が 73.8%と最も高く、次いで「退院調整のカンファレンスが開かれなかった」の割合が 55.0%、「病院からの説明が十分でなかった」の割合が 50.0%となっています。



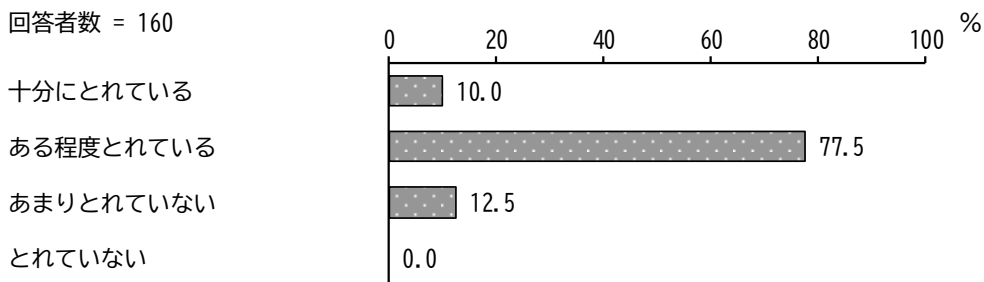
問 28 病院における退院前カンファレンスが開催される時には、参加していますか。

「必ず参加している」の割合が 63.8%と最も高く、次いで「ほぼ参加している」の割合が 31.3%となっています。



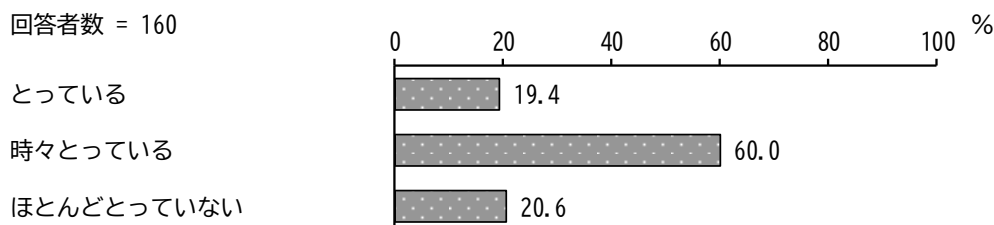
問 29 退院時に、病院の主治医または連携担当者（地域連携室など）と円滑な連携がとれていますか。

「ある程度とれている」の割合が 77.5%と最も高く、次いで「あまりとれていない」の割合が 12.5%、「十分にとれている」の割合が 10.0%となっています。



問 30 利用者の病状や健康状態について主治医と連絡をとっていますか。

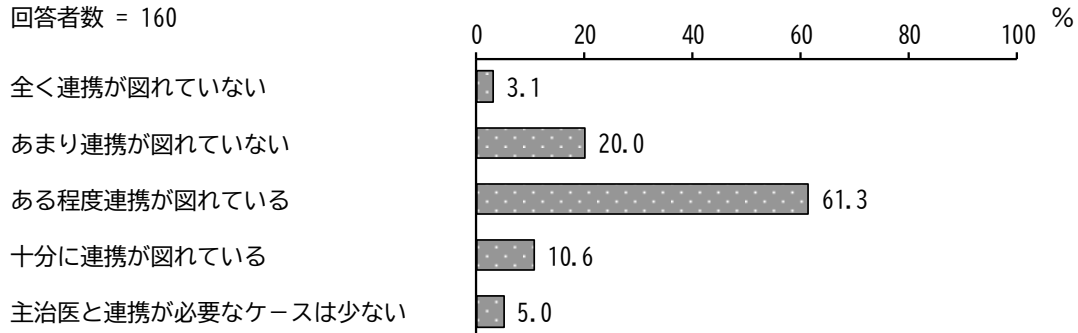
「時々とっている」の割合が 60.0%と最も高く、次いで「ほとんどとっていない」の割合が 20.6%、「とっている」の割合が 19.4%となっています。



問 31 あなたが主治医との連携が必要だと思われるケースでは、実際に主治医と連携が図れていますか。

「ある程度連携が図れている」の割合が 61.3%と最も高く、次いで「あまり連携が図れていない」の割合が 20.0%、「十分に連携が図れている」の割合が 10.6%となっています。

回答者数 = 160

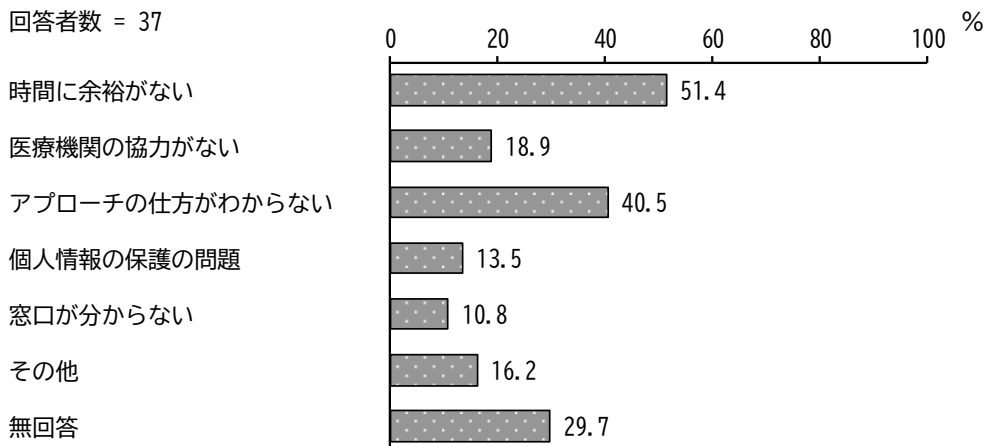


※問 31 で「全く連携が図れていない」か「あまり連携が図れていない」と回答した人のみ

問 32 連携が図れていない主な理由は何ですか。※複数選択可

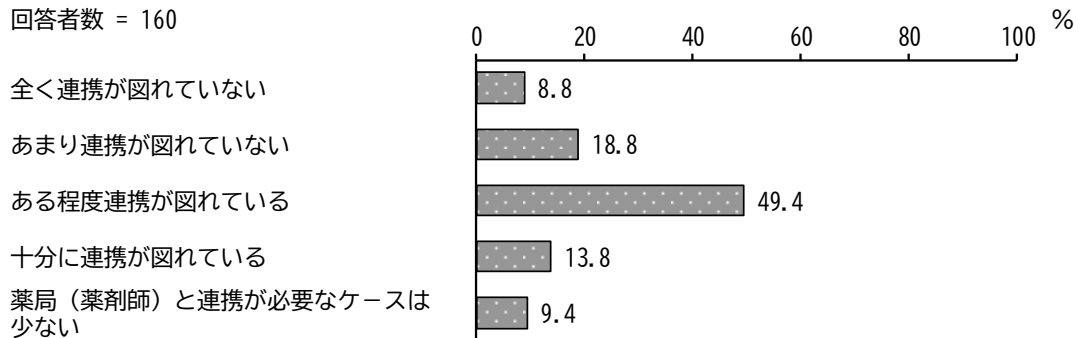
「時間に余裕がない」の割合が 51.4%と最も高く、次いで「アプローチの仕方がわからない」の割合が 40.5%、「医療機関の協力がいない」の割合が 18.9%となっています。

回答者数 = 37



問 33 利用者の服薬管理などについて薬局（薬剤師）と連携が図れていますか。

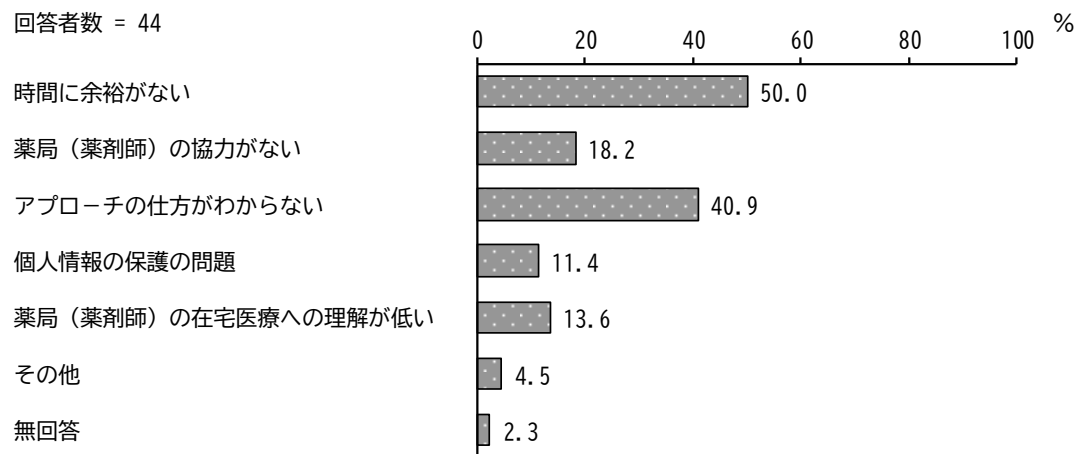
「ある程度連携が図れている」の割合が 49.4%と最も高く、次いで「あまり連携が図れていない」の割合が 18.8%、「十分に連携が図れている」の割合が 13.8%となっています。



※問 33 で「全く連携が図れていない」か「あまり連携が図れていない」と回答した人のみ

問 34 連携が図れていない主な理由は何ですか。※複数選択可

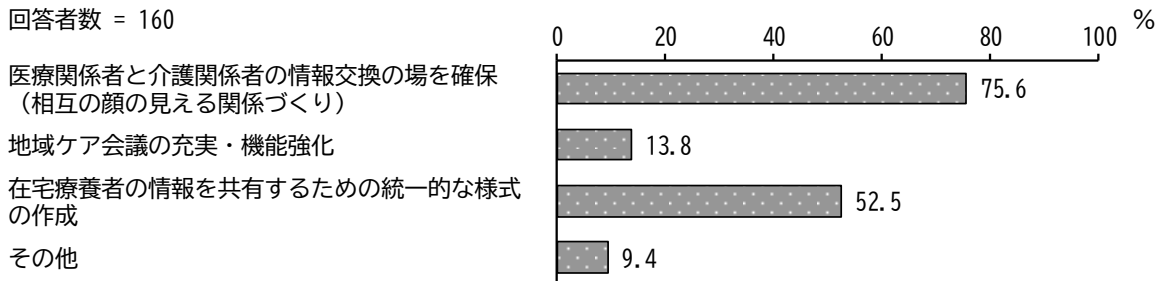
「時間に余裕がない」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「アプローチの仕方がわからない」の割合が 40.9%、「薬局（薬剤師）の協力がいない」の割合が 18.2%となっています。



問 35 医療機関と連携を図るために必要なことは何だと思えますか。※複数選択可

「医療関係者と介護関係者の情報交換の場を確保（相互の顔の見える関係づくり）」の割合が75.6%と最も高く、次いで「在宅療養者の情報を共有するための統一的な様式の作成」の割合が52.5%、「地域ケア会議の充実・機能強化」の割合が13.8%となっています。

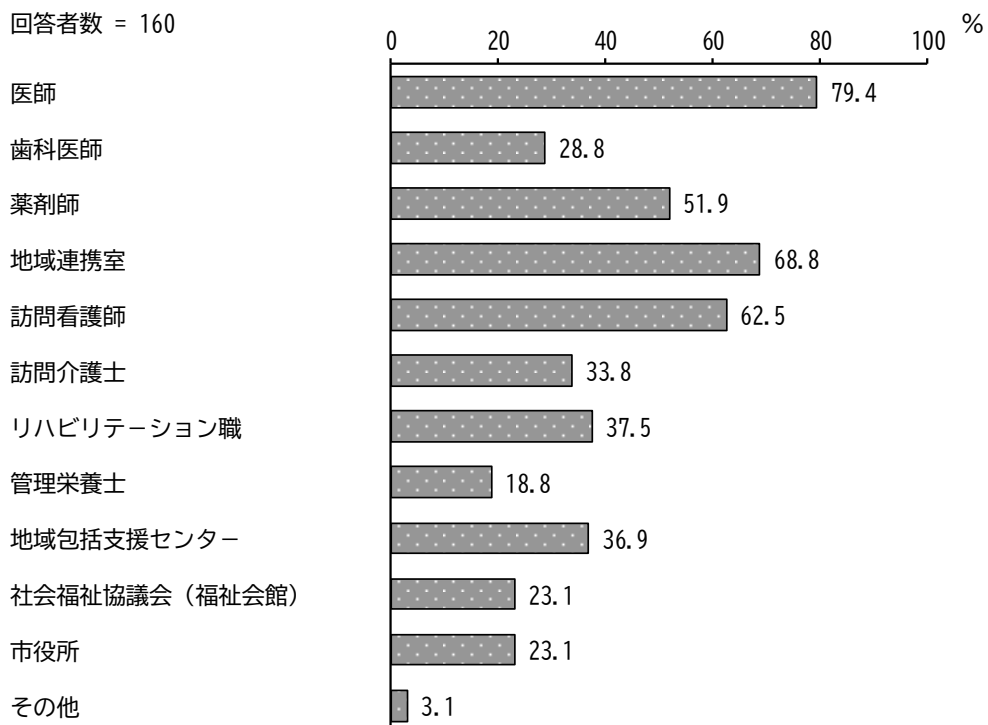
回答者数 = 160



問 36 利用者の在宅生活を支えるために連携を強めたい職種・機関はどこですか。※複数選択可

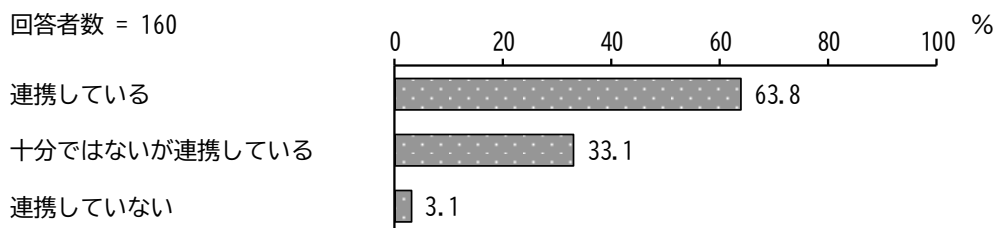
「医師」の割合が79.4%と最も高く、次いで「地域連携室」の割合が68.8%、「訪問看護師」の割合が62.5%となっています。

回答者数 = 160



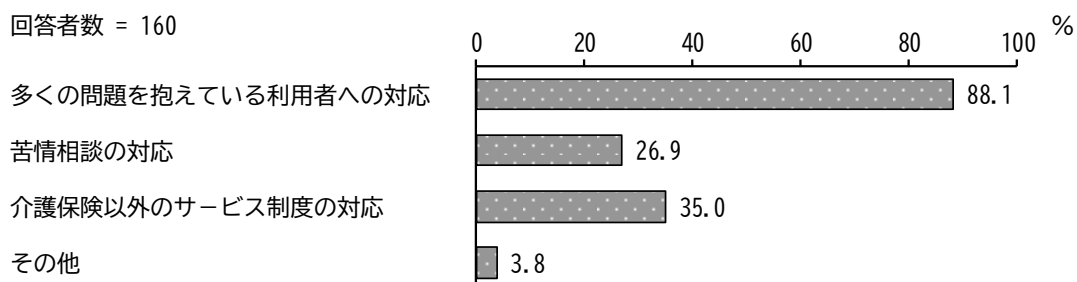
問 37 地域包括支援センターと連携していますか。

「連携している」の割合が 63.8%と最も高く、次いで「十分ではないが連携している」の割合が 33.1%となっています。



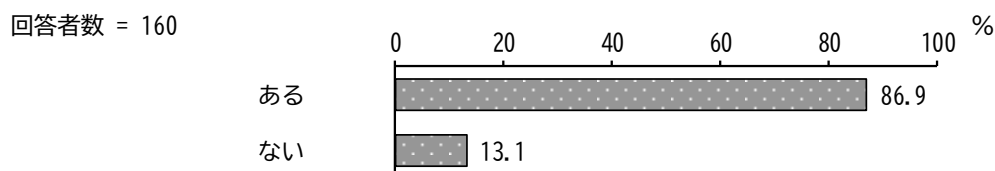
問 38 市や地域包括支援センターと連携するときにはどのような場合ですか。※複数選択可

「多くの問題を抱えている利用者への対応」の割合が 88.1%と最も高く、次いで「介護保険以外のサービス制度の対応」の割合が 35.0%、「苦情相談の対応」の割合が 26.9%となっています。



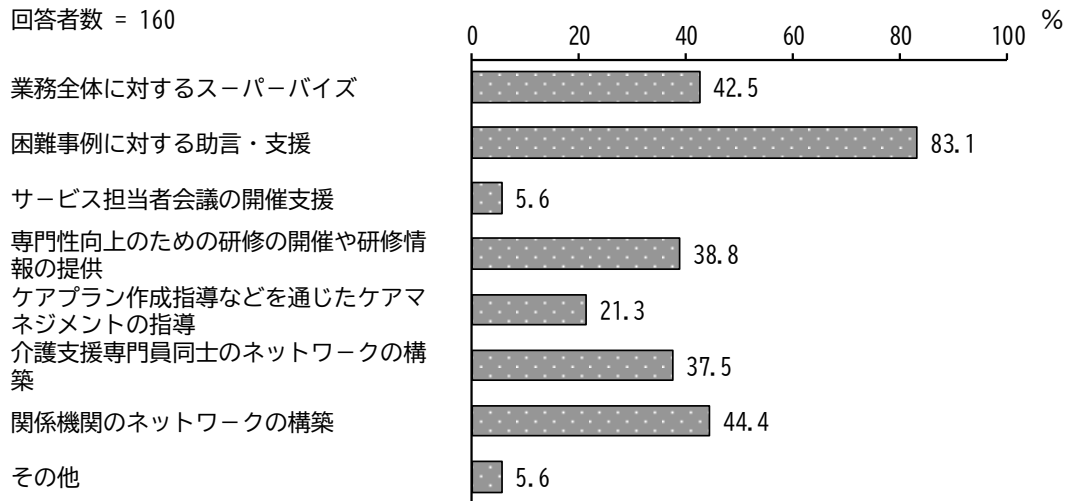
問 39 困難事例などを地域包括支援センターに相談したことがありますか。

「ある」の割合が 86.9%、「ない」の割合が 13.1%となっています。



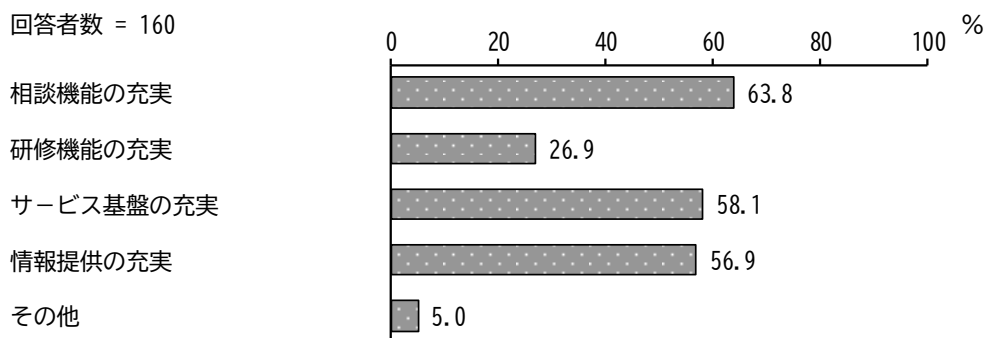
問 40 地域包括支援センターにどのような役割を期待していますか。※複数選択可

「困難事例に対する助言・支援」の割合が 83.1%と最も高く、次いで「関係機関のネットワークの構築」の割合が 44.4%、「業務全体に対するスーパーバイズ」の割合が 42.5%となっています。



問 41 今後市に期待する役割は何ですか。※複数選択可

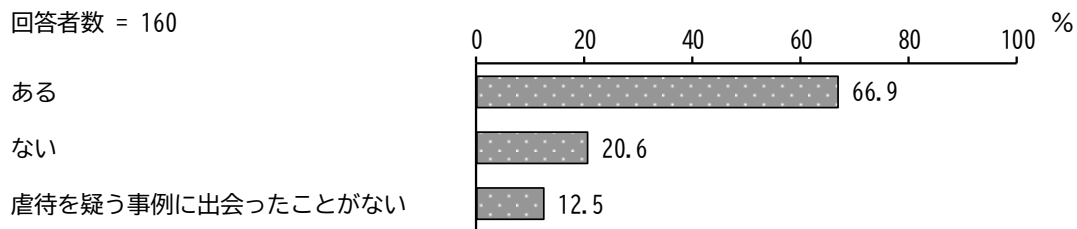
「相談機能の充実」の割合が 63.8%と最も高く、次いで「サービス基盤の充実」の割合が 58.1%、「情報提供の充実」の割合が 56.9%となっています。





問 42 家庭内における高齢者虐待の事例を経験（担当）したことがありますか。

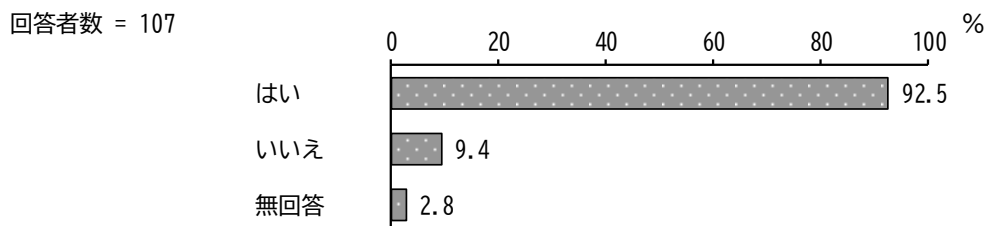
「ある」の割合が 66.9%と最も高く、次いで「ない」の割合が 20.6%、「虐待を疑う事例に出会ったことがない」の割合が 12.5%となっています。



※問 42 で「ある」と回答した人のみ

問 43 今までに高齢者虐待を疑う事例に出会ったとき、市や地域包括支援センターへ相談（通報）しましたか。

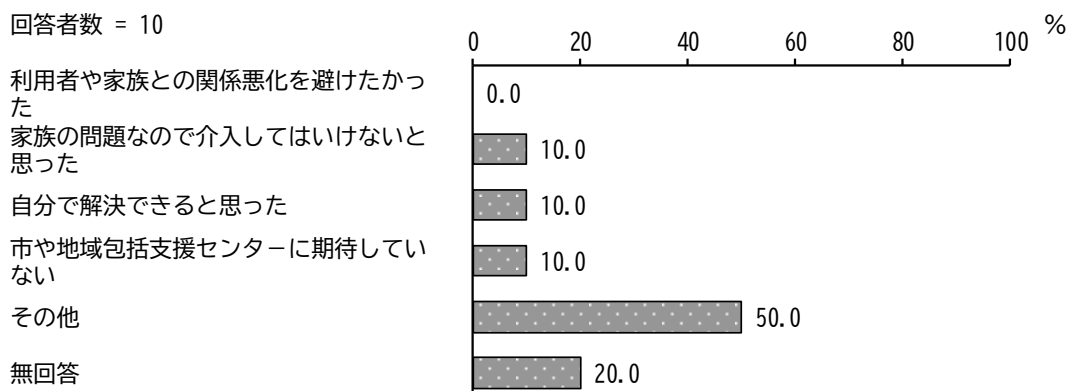
「はい」の割合が 92.5%、「いいえ」の割合が 5.6%となっています。



※問 43 で「いいえ」と回答した人のみ

問 44 相談（通報）しなかった理由は何ですか。※複数選択可

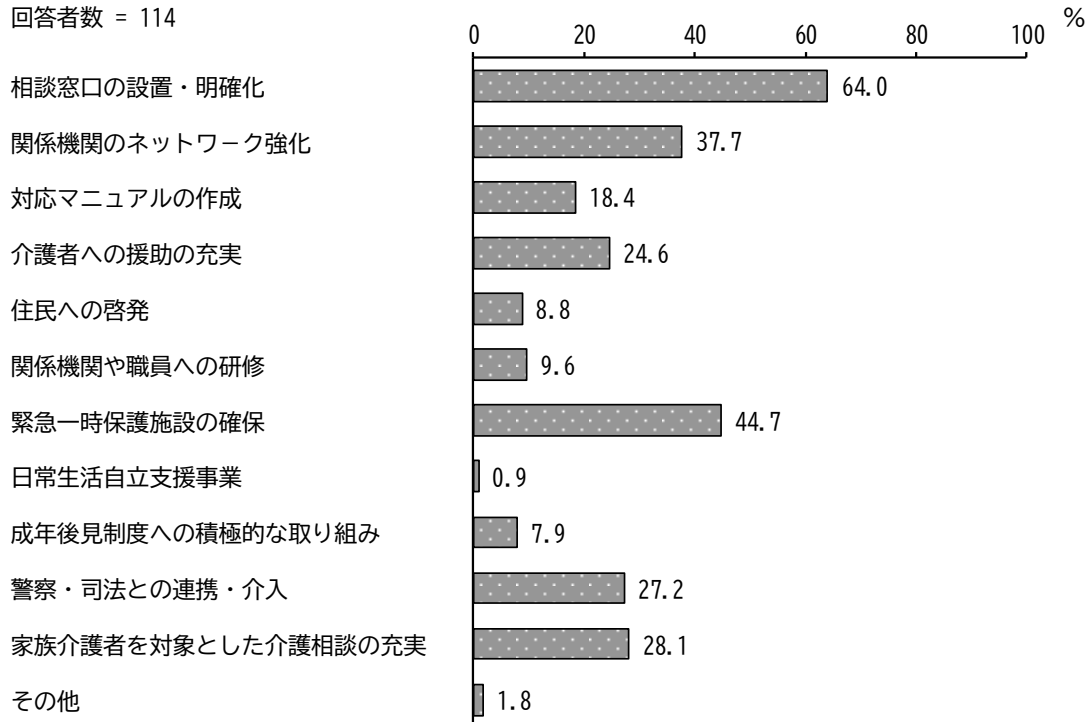
「家族の問題なので介入してはいけないと思った」、「自分で解決できると思った」が 1 件となっています。



問 45 高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組みはどのようなものだと思いますか。 ※3つまで選択可

「相談窓口の設置・明確化」の割合が 64.0%と最も高く、次いで「緊急一時保護施設の確保」の割合が 44.7%、「関係機関のネットワーク強化」の割合が 37.7%となっています。

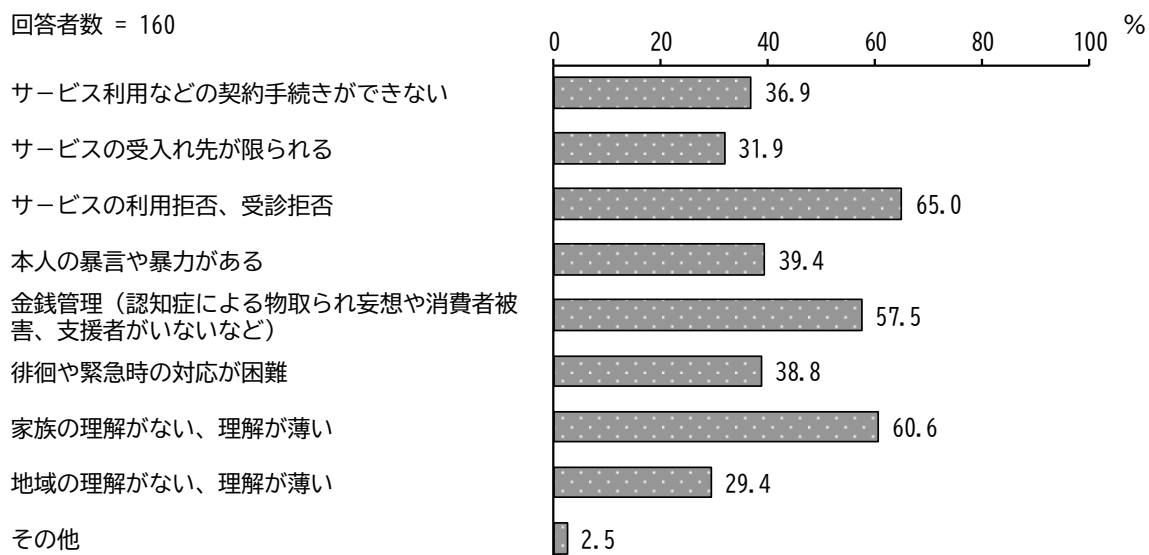
回答者数 = 114



問 46 認知症高齢者への支援において、困っていること（困ったこと）はありますか。  
※複数選択可

「サービスの利用拒否、受診拒否」の割合が 65.0%と最も高く、次いで「家族の理解がない、理解が薄い」の割合が 60.6%、「金銭管理（認知症による物取られ妄想や消費者被害、支援者がいないなど）」の割合が 57.5%となっています。

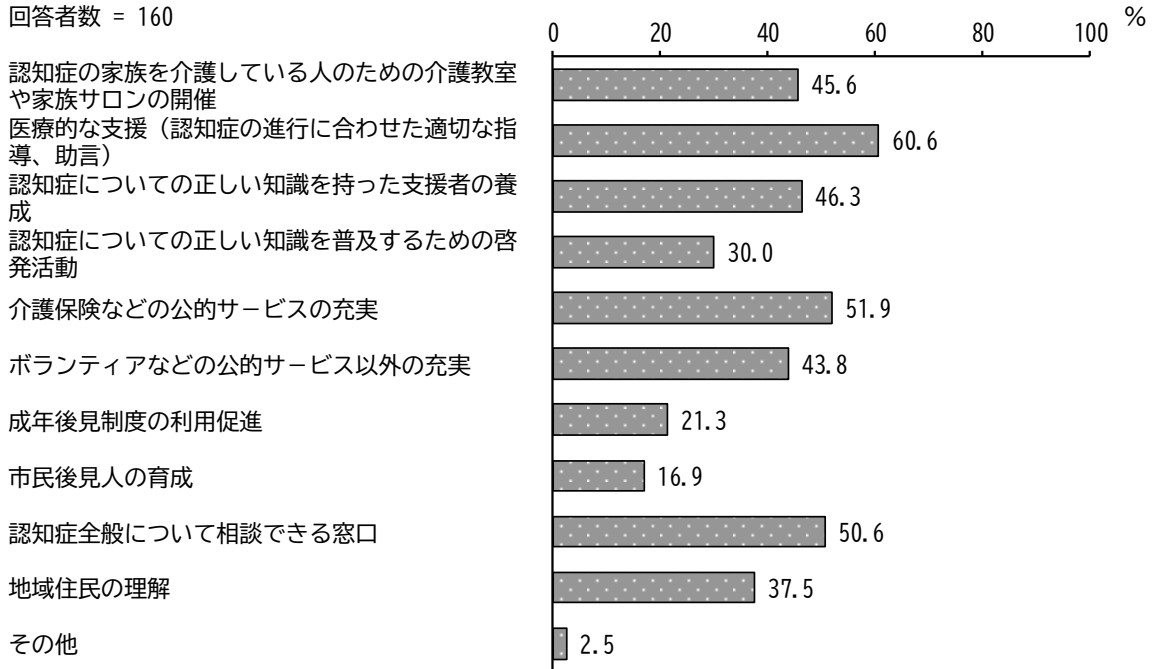
回答者数 = 160



問 47 認知症高齢者への支援に必要なことはどのようなことだと思いますか。※複数選択可

「医療的な支援（認知症の進行に合わせた適切な指導、助言）」の割合が 60.6%と最も高く、次いで「介護保険などの公的サービスの充実」の割合が 51.9%、「認知症全般について相談できる窓口」の割合が 50.6%となっています。

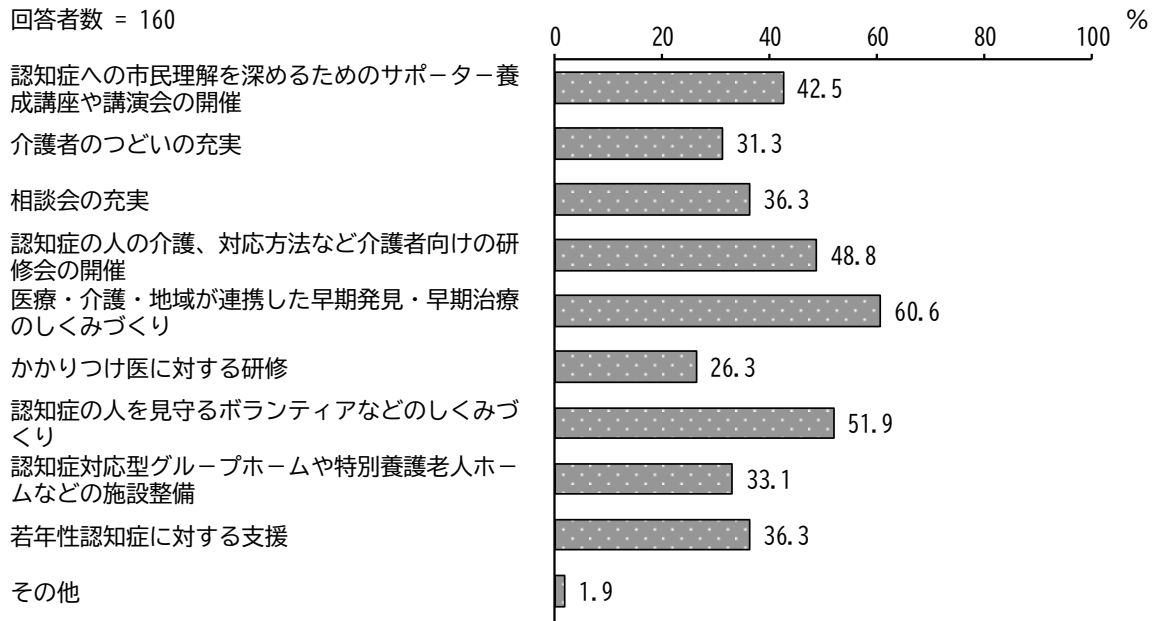
回答者数 = 160



問 48 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。※複数選択可

「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期治療のしくみづくり」の割合が 60.6%と最も高く、次いで「認知症の人を見守るボランティアなどのしくみづくり」の割合が 51.9%、「認知症の人の介護、対応方法など介護者向けの研修会の開催」の割合が 48.8%となっています。

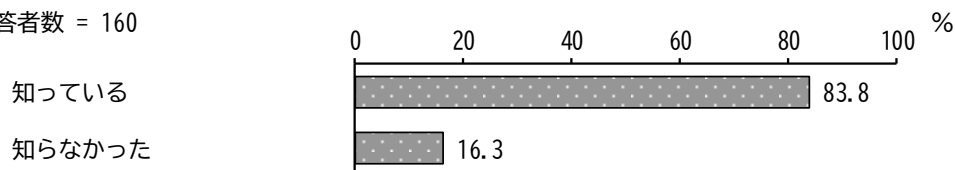
回答者数 = 160



問 49 加古川市では、認知症の人や家族を支援するために、市内の地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置していますが、知っていますか。

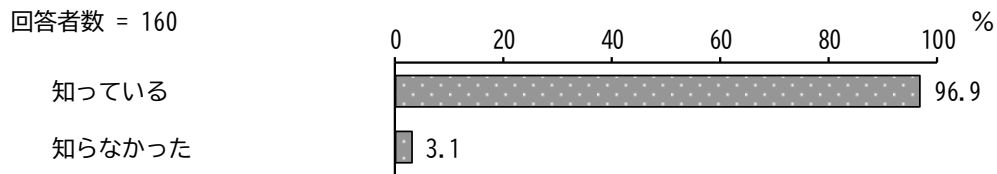
「知っている」の割合が 83.8%、「知らなかった」の割合が 16.3%となっています。

回答者数 = 160



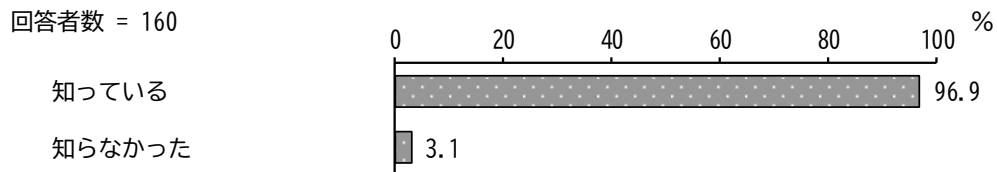
問 50 加古川市では、認知症の基礎知識や認知症の人への接し方を学ぶ「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。

「知っている」の割合が 96.9%、「知らなかった」の割合が 3.1%となっています。



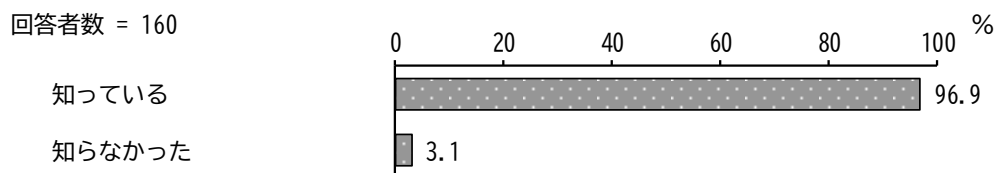
問 51 加古川市では、地域で認知症の人を見守るため、行方不明になる可能性のある人を日常から見守り、早期発見・早期保護するための「見守り・SOS ネットワーク」を実施していますが、知っていますか。

「知っている」の割合が 96.9%、「知らなかった」の割合が 3.1%となっています。



問 52 加古川市では、見守りカメラと連動した位置情報履歴発信機器（見守りタグ）の費用助成事業を実施していますが、知っていますか。

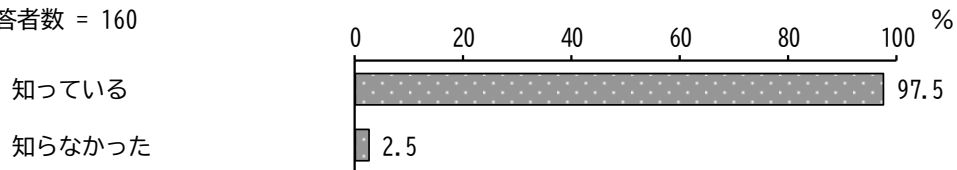
「知っている」の割合が 96.9%、「知らなかった」の割合が 3.1%となっています。



問 53 認知症の人とその家族、地域の人など誰もが気軽に集える場としての認知症カフェを知っていますか。

「知っている」の割合が 97.5%、「知らなかった」の割合が 2.5%となっています。

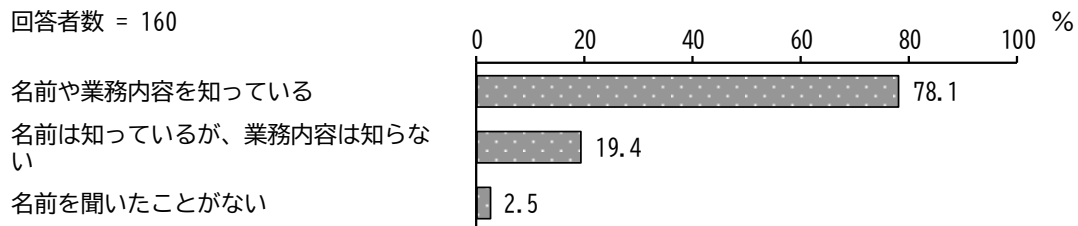
回答者数 = 160



問 54 成年後見制度の相談ができる成年後見支援センターが市内にあることを知っていますか。

「名前や業務内容を知っている」の割合が 78.1%と最も高く、次いで「名前は知っているが、業務内容は知らない」の割合が 19.4%となっています。

回答者数 = 160



問 55 あなたの担当している利用者の制度等の利用状況を教えてください。(各項目にあてはまる利用者の人数を回答してください)

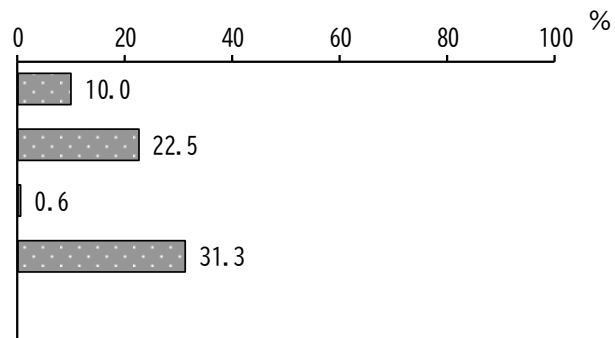
回答者数 = 160

日常生活自立支援事業を利用している

成年後見制度を利用している

両方利用している

利用（把握）していない



①日常生活自立支援事業

	回答数	構成比
1人	13	81.3%
2人	2	12.5%
3人	1	6.3%
合計	16	100.0%

②成年後見制度

	回答数	構成比
1人	24	66.7%
2人	9	25.0%
3人	3	8.3%
合計	36	100.0%

③両方利用

	回答数	構成比
1人	1	100.0%
合計	1	100.0%

④利用（把握）していない

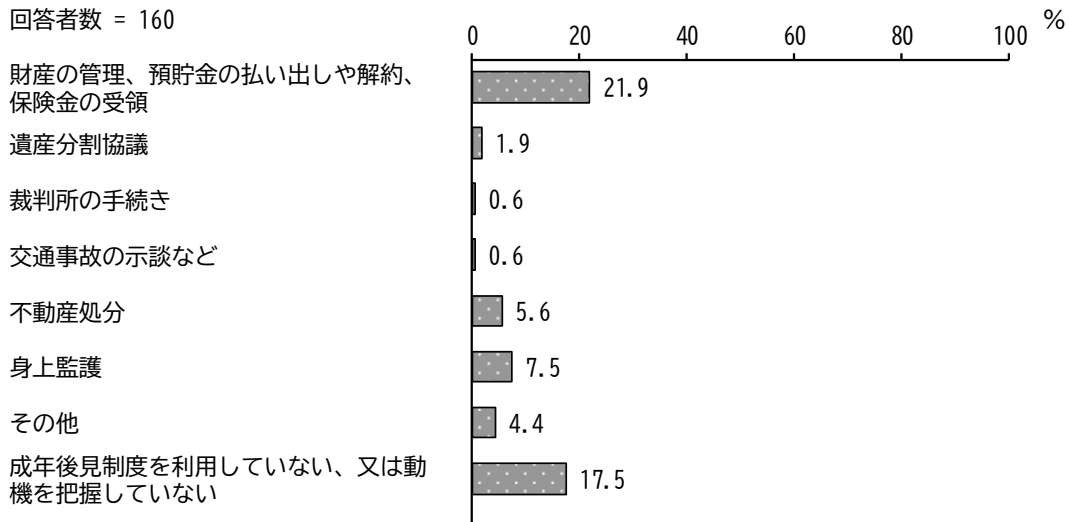
	回答数	構成比
1人	2	4.0%
8人	1	2.0%
18人	2	4.0%
19人	2	4.0%
21人	1	2.0%
22人	1	2.0%
26人	4	8.0%
27人	1	2.0%
30人	3	6.0%
31人	1	2.0%
32人	3	6.0%
33人	1	2.0%
34人	2	4.0%
35人	3	6.0%
36人	2	4.0%
37人	1	2.0%
38人	1	2.0%



40人	2	4.0%
41人	2	4.0%
42人	2	4.0%
43人	2	4.0%
50人	1	2.0%
76人	1	2.0%
77人	1	2.0%
78人	1	2.0%
80人	6	12.0%
150人	1	2.0%
合計	50	100.0%

問 56 あなたの利用者が成年後見制度を利用することとなった動機について教えてください。(各動機にあてはまる利用者の人数を回答してください)

回答者数 = 160



①財産の管理等

	回答数	構成比
1人	28	80.0%
2人	5	14.3%
3人	2	5.7%
合計	35	100.0%

②遺産分割協議

	回答数	構成比
1人	3	100.0%
合計	3	100.0%

③裁判所の手続き

	回答数	構成比
1人	1	100.0%
合計	1	100.0%

④交通事故の示談など

	回答数	構成比
1人	1	100.0%
合計	1	100.0%

⑤不動産処分

	回答数	構成比
1人	9	100.0%
合計	9	100.0%

⑥身上介護

	回答数	構成比
1人	10	83.3%
2人	1	8.3%
3人	1	8.3%
合計	12	100.0%

⑦その他

	回答数	構成比
1人	4	57.1%
2人	3	42.9%
合計	7	100.0%

⑧利用（把握）していない

	回答数	構成比
1人	1	3.6%
8人	1	3.6%
19人	1	3.6%
21人	1	3.6%
26人	3	10.7%
32人	1	3.6%
34人	2	7.1%
35人	3	10.7%
36人	1	3.6%
38人	2	7.1%
40人	3	10.7%
41人	1	3.6%
42人	2	7.1%
50人	1	3.6%
76人	1	3.6%
77人	1	3.6%
80人	2	7.1%
81人	1	3.6%
合計	28	100.0%

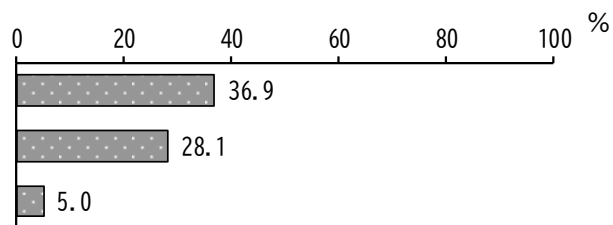
問 57 あなたの担当している利用者で成年後見制度を利用したほうがいいと思う人について教えてください。(各項目にあてはまる利用者の人数を回答してください)  
 ※既に成年後見制度を利用している人は除く

回答者数 = 160

利用したほうがいい

利用しなくてもいい

判断できない



①利用した方がいい人数

	回答数	構成比
1人	32	54.2%
2人	18	30.5%
3人	7	11.9%
4人	2	3.4%
合計	59	100.0%

②利用しなくてもいい人数

	回答数	構成比
1人	1	2.2%
2人	1	2.2%
5人	1	2.2%
10人	1	2.2%
12人	1	2.2%
18人	1	2.2%
19人	1	2.2%
20人	2	4.4%
23人	1	2.2%
24人	1	2.2%
25人	1	2.2%
26人	2	4.4%
27人	1	2.2%
28人	2	4.4%

③判断できない人数

	回答数	構成比
1人	1	12.5%
2人	1	12.5%
4人	1	12.5%
5人	3	37.5%
20人	1	12.5%
40人	1	12.5%
合計	8	100.0%

30 人	2	4.4%
32 人	3	6.7%
33 人	3	6.7%
36 人	1	2.2%
38 人	3	6.7%
39 人	1	2.2%
40 人	2	4.4%
41 人	2	4.4%
42 人	1	2.2%
47 人	1	2.2%
49 人	1	2.2%
70 人	1	2.2%
72 人	1	2.2%
76 人	1	2.2%
77 人	2	4.4%
78 人	1	2.2%
79 人	1	2.2%
80 人	1	2.2%
合計	45	100.0%

問 58 問 57 で利用したほうがいいと思う理由について教えてください。(各理由にあてはまる利用者の人数を回答してください)

回答者数 = 160

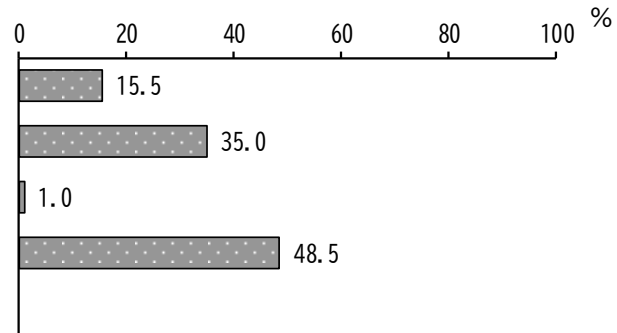
日々の金銭管理に困っている

介護保険契約、施設入所契約ができない

適切な医療が行えない

訴訟手続きを抱えている  
(将来的なものも含む)

その他



①日々の金銭管理に困っている

	回答数	構成比
1人	25	69.4%
2人	7	19.4%
3人	2	5.6%
4人	1	2.8%
15人	1	2.8%
合計	36	100.0%

②介護保険等の契約ができない

	回答数	構成比
1人	22	68.8%
2人	6	18.8%
3人	2	6.3%
4人	1	3.1%
6人	1	3.1%
合計	32	100.0%

③適切な医療が行えない

	回答数	構成比
1人	15	88.2%
3人	2	11.8%
合計	17	100.0%

④訴訟手続きを抱えている

	回答数	構成比
1人	3	100.0%
合計	3	100.0%

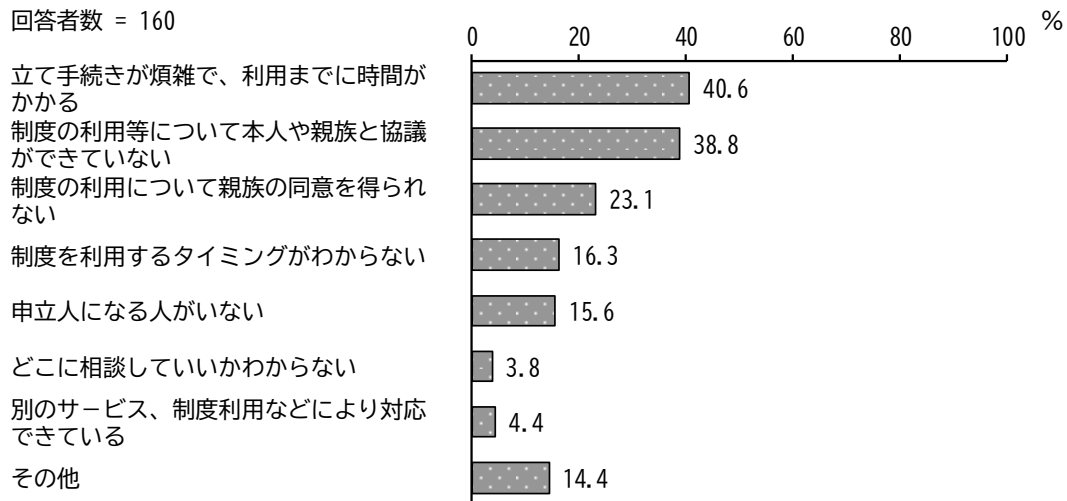
⑤その他

	回答数	構成比
1人	6	60.0%
2人	2	20.0%
3人	1	10.0%
50人	1	10.0%
合計	10	100.0%

問 59 成年後見制度を利用すべきであるが、利用に至らない理由は何ですか。※複数選択可

「立て手続きが煩雑で、利用までに時間がかかる」の割合が 40.6%と最も高く、次いで「制度の利用等について本人や親族と協議ができていない」の割合が 38.8%、「制度の利用について親族の同意を得られない」の割合が 23.1%となっています。

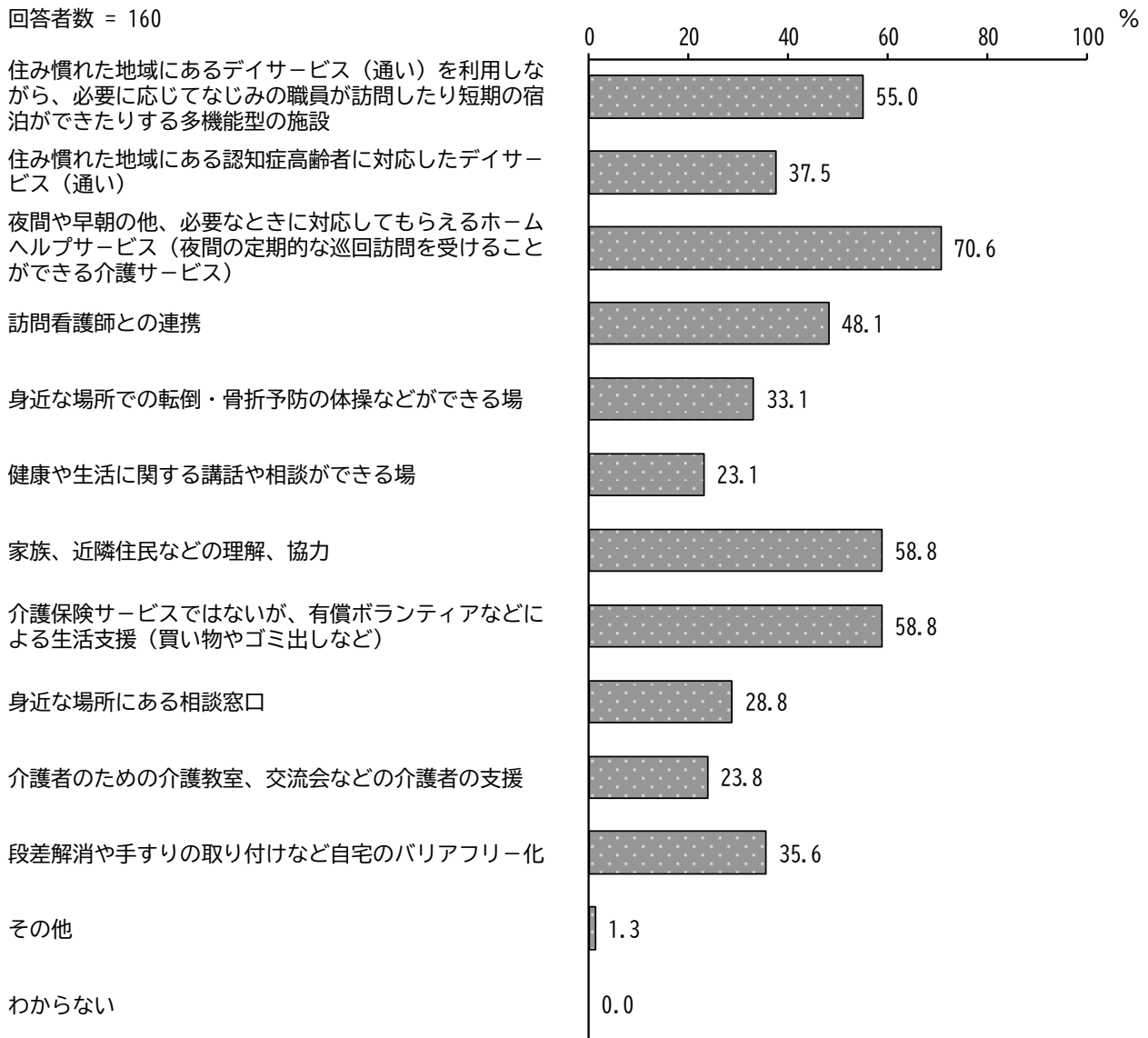
回答者数 = 160



問 61 在宅での生活を続けるために必要なことはどのようなことだと思いますか。※複数選択可

「夜間や早朝の他、必要なときに対応してもらえるホームヘルプサービス（夜間の定期的な巡回訪問を受けることができる介護サービス）」の割合が 70.6%と最も高く、次いで「家族、近隣住民などの理解、協力」、「介護保険サービスではないが、有償ボランティアなどによる生活支援（買い物やゴミ出しなど）」の割合が 58.8%となっています。

回答者数 = 160

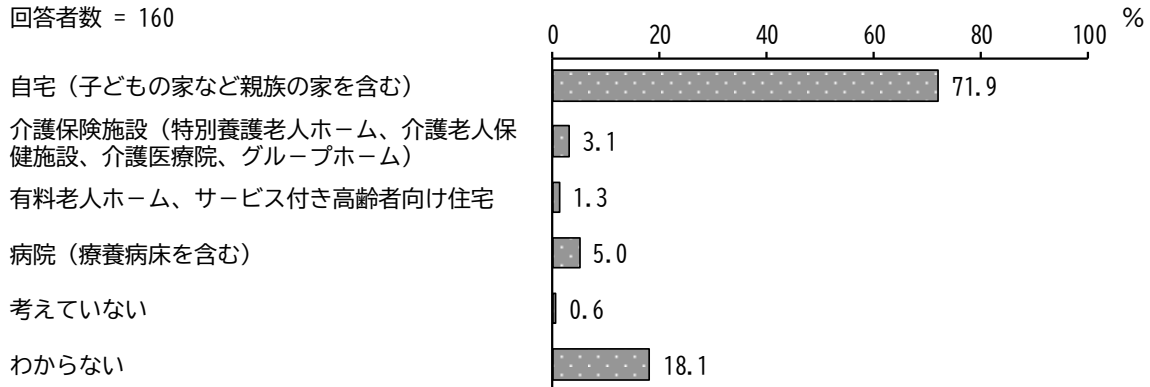




問 62 要介護者が最期をむかえる場所として、どのような場所がふさわしいと考えていますか。

「自宅（子どもの家など親族の家を含む）」の割合が71.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が18.1%となっています。

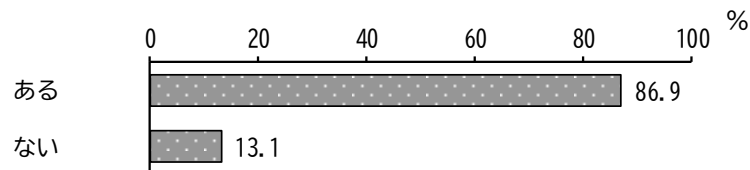
回答者数 = 160



問 63 在宅での看取りに関わった経験がありますか。

「ある」の割合が86.9%、「ない」の割合が13.1%となっています。

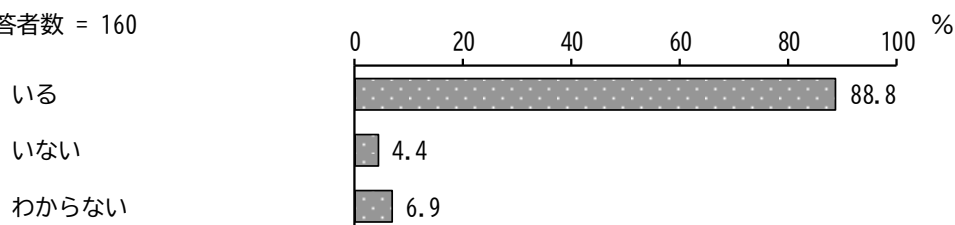
回答者数 = 160



問 64 在宅で看取りをするために連携できる医師がいますか。

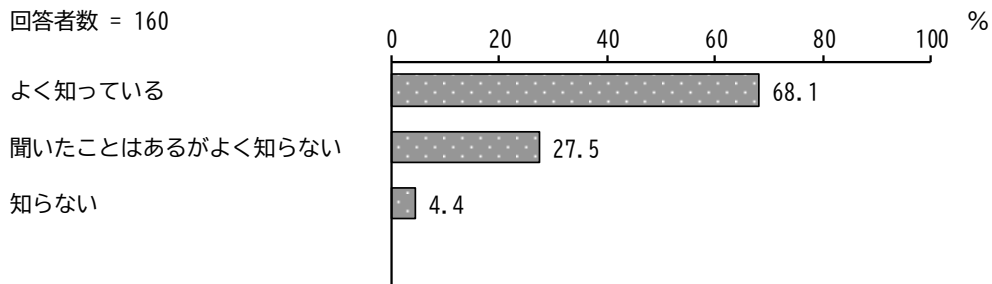
「いる」の割合が88.8%と最も高くなっています。

回答者数 = 160



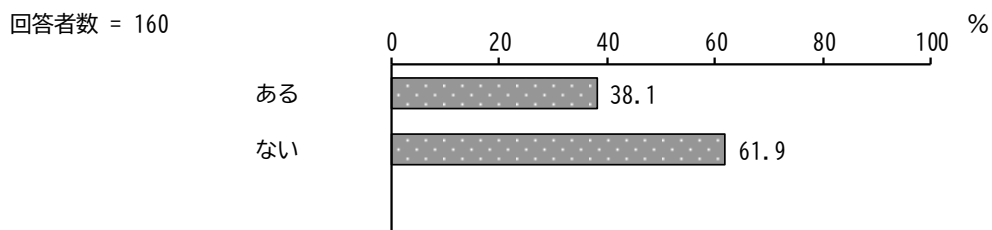
問 65 あなたは、アドバンス・ケア・プランニング（ACP、人生会議）について、知っていますか。

「よく知っている」の割合が 68.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」の割合が 27.5%となっています。



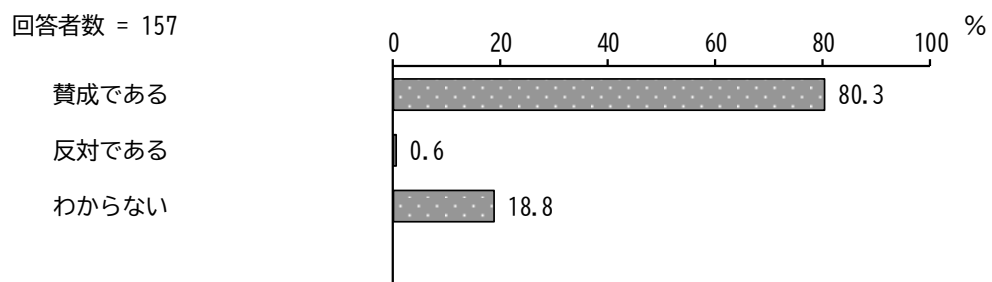
問 66 ACP を利用者に対して実施したことがありますか。

「ある」の割合が 38.1%、「ない」の割合が 61.9%となっています。



問 67 このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

「賛成である」の割合が 80.3%と最も高くなっています。

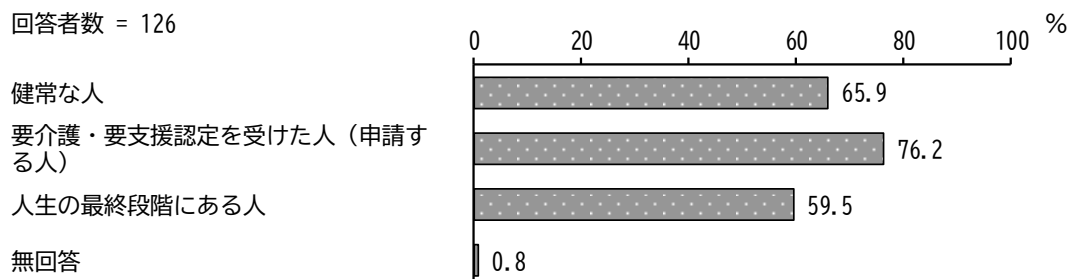


※問 67 で「賛成である」と回答した人のみ

問 68 ACP をだれに対してするべきと思いますか。※複数選択可

「要介護・要支援認定を受けた人（申請する人）」の割合が 85.7%と最も高く、次いで「健全な人」の割合が 66.1%、「人生の最終段階にある人」の割合が 57.1%となっています。

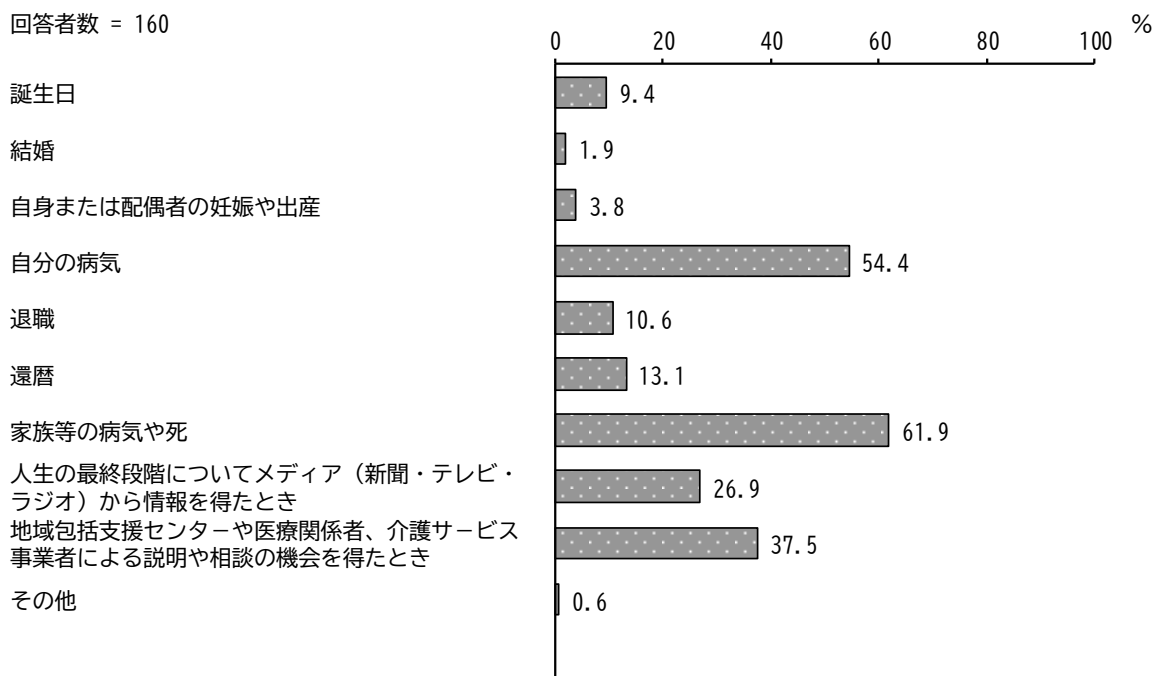
回答者数 = 126



問 69 もし、家族や医療介護関係者等の方と医療・療養について話し合うきっかけがあるとすれば、どのような出来事だと思いますか。（話し合ったことがある人は、何がきっかけでしたか。）

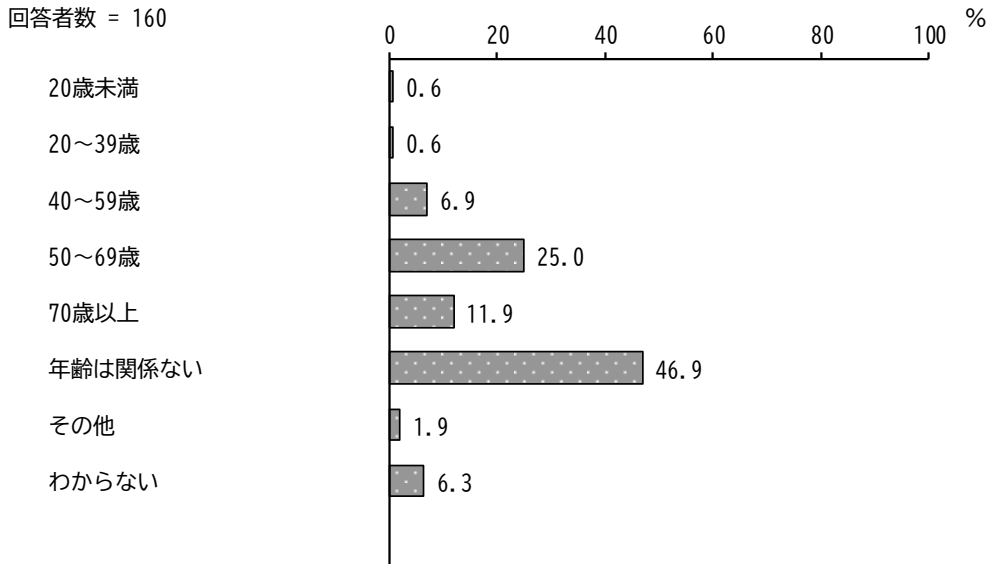
「家族等の病気や死」の割合が 61.9%と最も高く、次いで「自分の病気」の割合が 54.4%、「地域包括支援センターや医療関係者、介護サービス事業者による説明や相談の機会を得たとき」の割合が 37.5%となっています。

回答者数 = 160



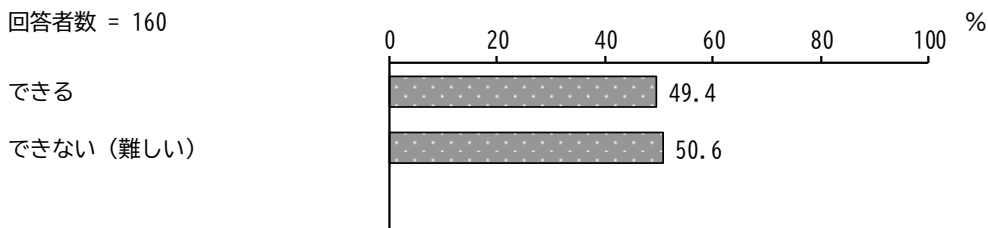
問 70 もし、家族や医療介護関係者等の方と医療・療養について話し合う（人生会議を  
実践する）時期があるとすれば、いつごろが適切な年齢だと思いますか。

「年齢は関係ない」の割合が46.9%と最も高く、次いで「50～69歳」の割合が25.0%、「70歳  
以上」の割合が11.9%となっています。



問 71 ケアプランニングの中で ACP を実践できますか。

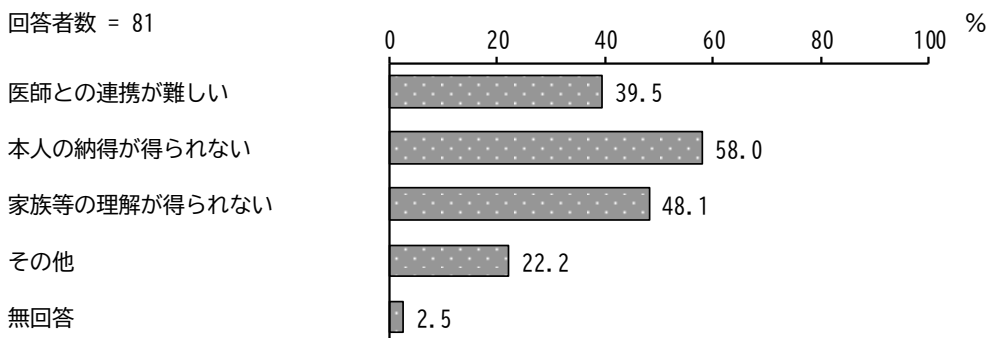
「できる」の割合が49.4%、「できない（難しい）」の割合が50.6%となっています。



※問 71 で「できない（難しい）」と回答した人のみ

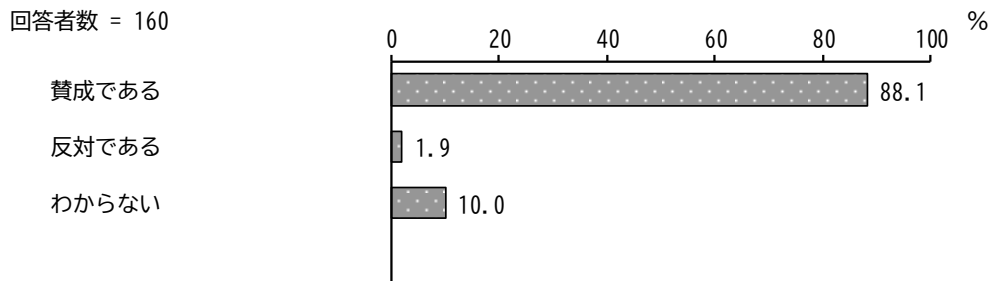
問 72 ACP が実践できないと思う理由は何ですか。※複数選択可

「本人の納得が得られない」の割合が58.0%と最も高く、次いで「家族等の理解が得られない」  
の割合が48.1%、「医師との連携が難しい」の割合が39.5%となっています。



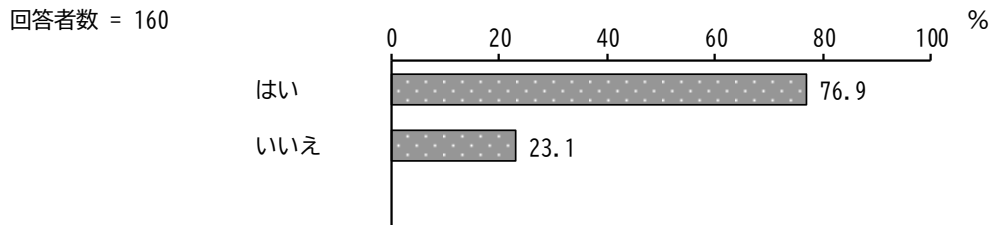
問 73 あなたは、自分が意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・療養を受けたいか（受けたくないか）などを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。

「賛成である」の割合が 88.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 10.0%となっています。



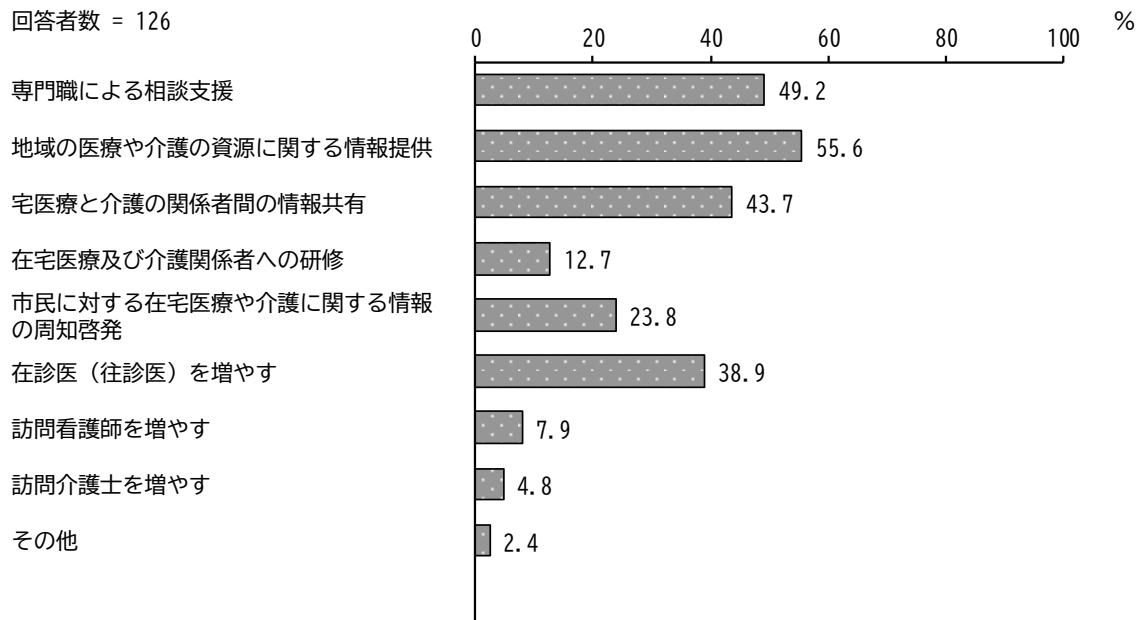
問 74 あなたは、市役所の高齢者・地域福祉課で在宅医療・介護連携について相談できることを知っていますか。

「はい」の割合が 76.9%、「いいえ」の割合が 23.1%となっています。



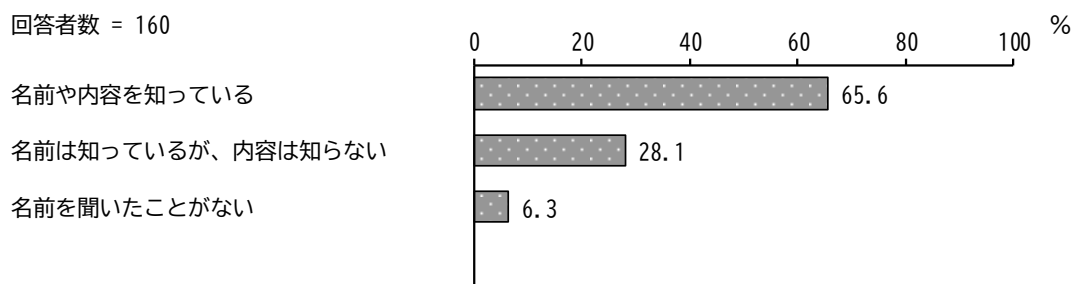
問 75 あなたは「在宅医療・介護連携推進事業」として、どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。※3つまで選択可

「地域の医療や介護の資源に関する情報提供」の割合が43.8%と最も高く、次いで「専門職による相談支援」の割合が38.8%、「宅医療と介護の関係者間の情報共有」の割合が34.4%となっています。



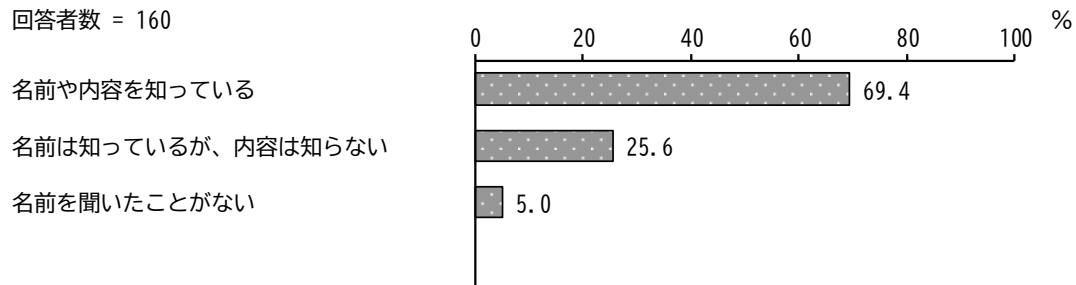
問 76 災害時における「避行動要支援者支援制度」について知っていますか。

「名前や内容を知っている」の割合が65.6%と最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が28.1%となっています。



問 77 あなたは「個別避難計画」について知っていますか。

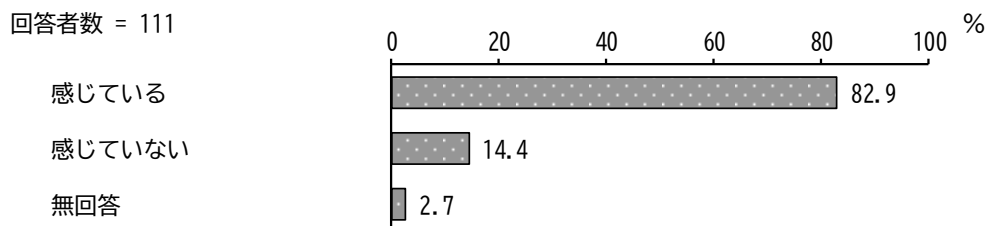
「名前や内容を知っている」の割合が 69.4%と最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」の割合が 25.6%となっています。



※問 77 で「名前や内容を知っている」と回答した人のみ

問 78 あなたは「個別避難計画」の必要性を感じていますか。

「感じている」の割合が 82.9%、「感じていない」の割合が 14.4%となっています。



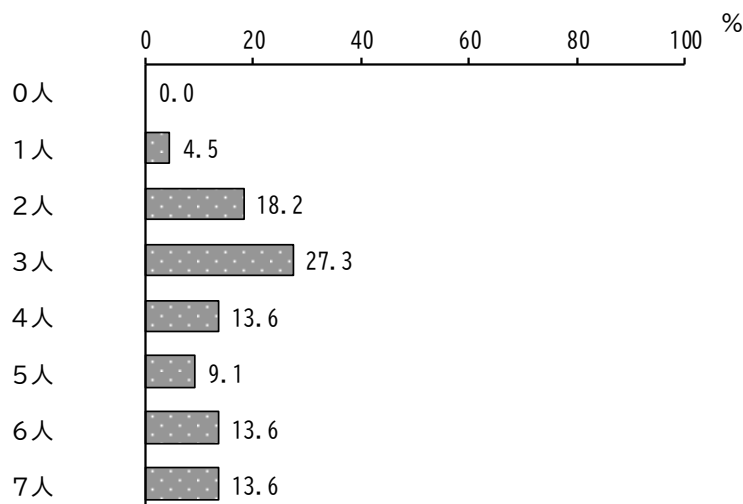
## 4 訪問看護事業所

問1 令和5年1月1日現在、事業所に従事している訪問看護師は何人ですか。

### 常勤看護師

「3人」の割合が27.3%と最も高く、次いで「2人」の割合が18.2%、「4人」、「6人」、「7人」の割合が13.6%となっています。

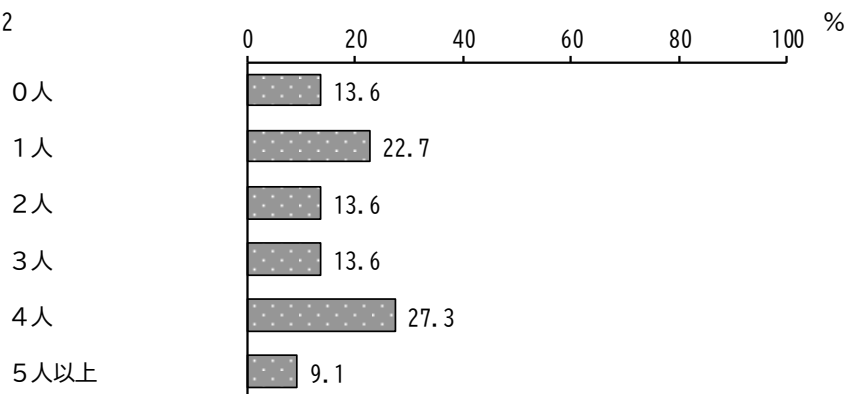
回答者数 = 22



### 非常勤看護師

「4人」の割合が27.3%と最も高く、次いで「1人」の割合が22.7%、「0人」、「2人」、「3人」の割合が13.6%となっています。

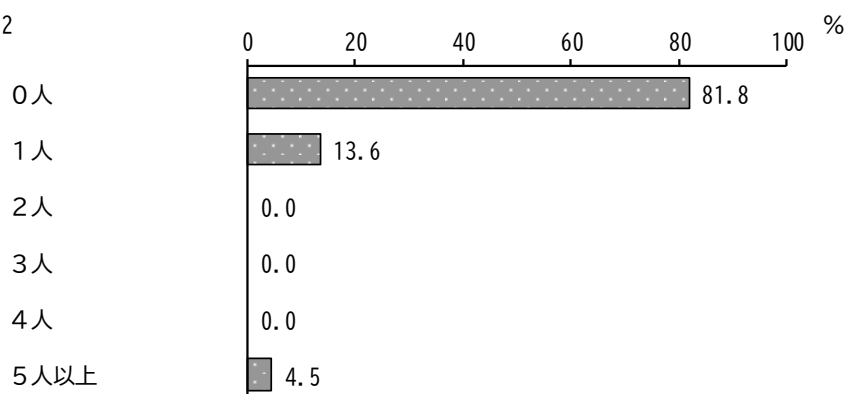
回答者数 = 22



### 常勤准看護師

「0人」の割合が81.8%と最も高く、次いで「1人」の割合が13.6%となっています。

回答者数 = 22

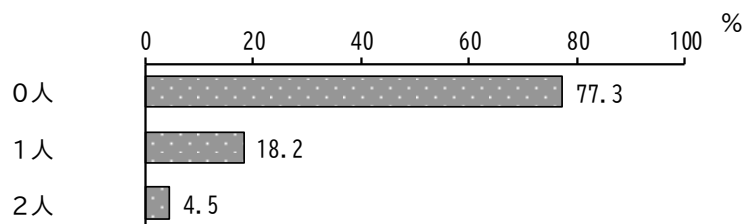




### 非常勤准看護師

「0人」の割合が77.3%と最も高く、次いで「1人」の割合が18.2%となっています。

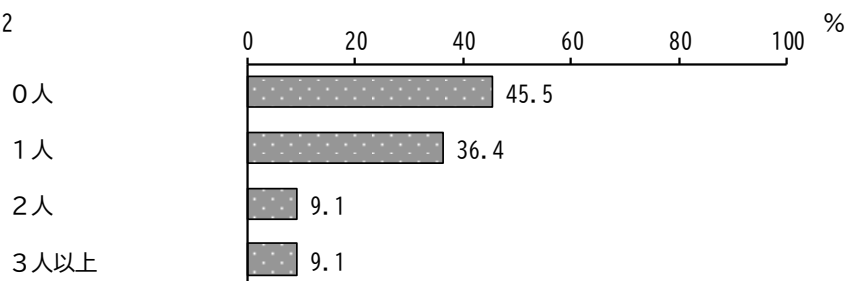
回答者数 = 22



### 事務員

「0人」の割合が45.5%と最も高く、次いで「1人」の割合が36.4%となっています。

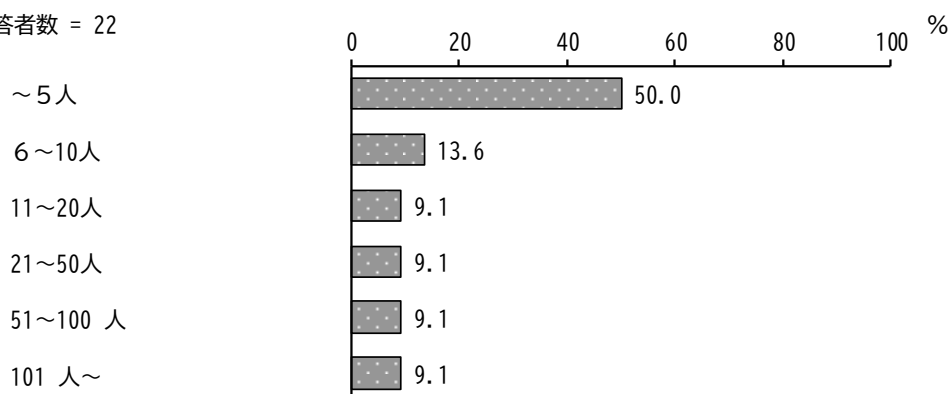
回答者数 = 22



問2 令和4年12月の1ヶ月で何人の利用者を受け入れましたか。(実人数を記入してください) ※数字のみを入力

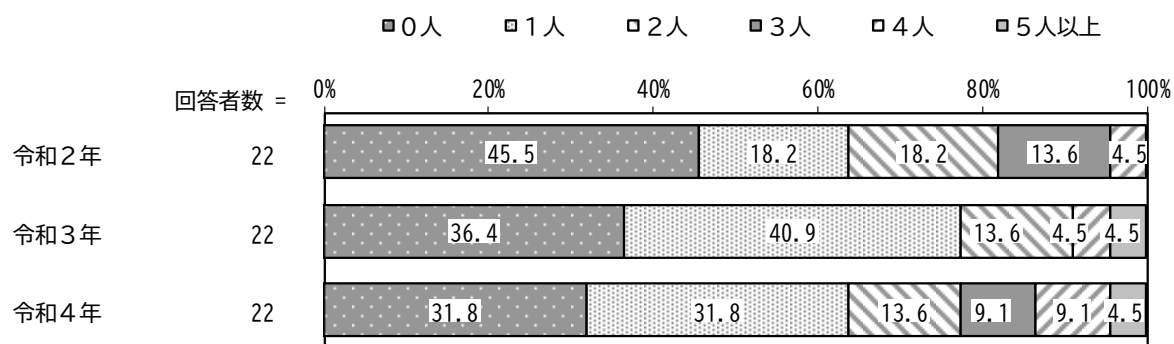
「～5人」の割合が50.0%と最も高く、次いで「6～10人」の割合が13.6%となっています。

回答者数 = 22



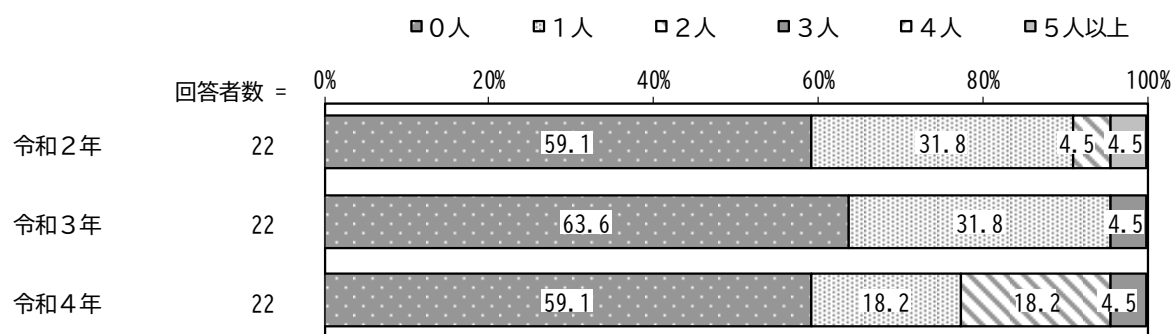
問3 令和2年から4年の間の職員採用数は何人ですか。

年度別にみると、令和2年で「0人」の割合が、令和3年で「1人」の割合が高くなっています。



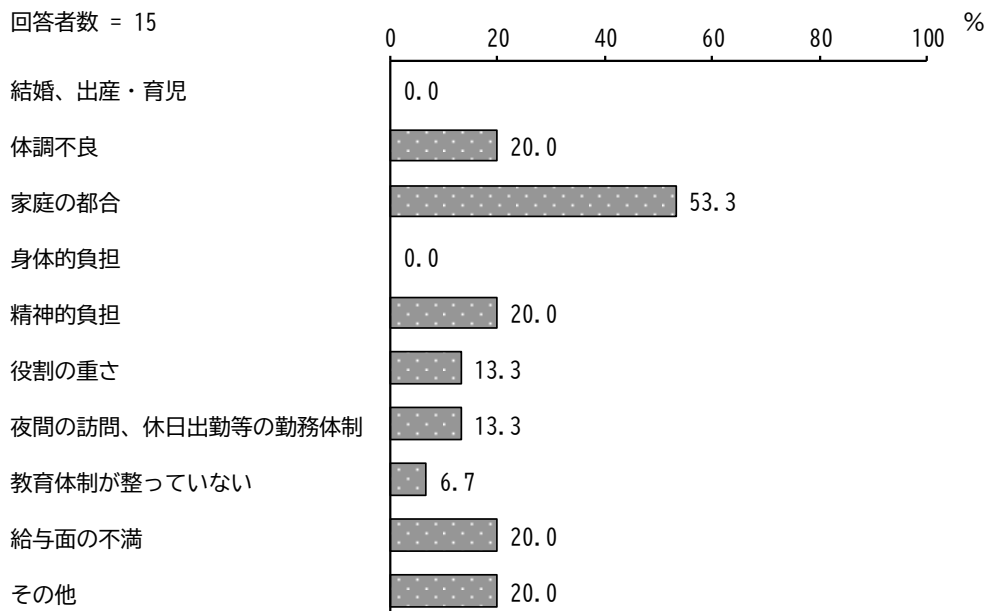
問4 令和2年から4年の間の職員離職者数は何人ですか。

年度別にみると、令和3年で「0人」の割合が、令和4年で「2人」の割合が高くなっています。



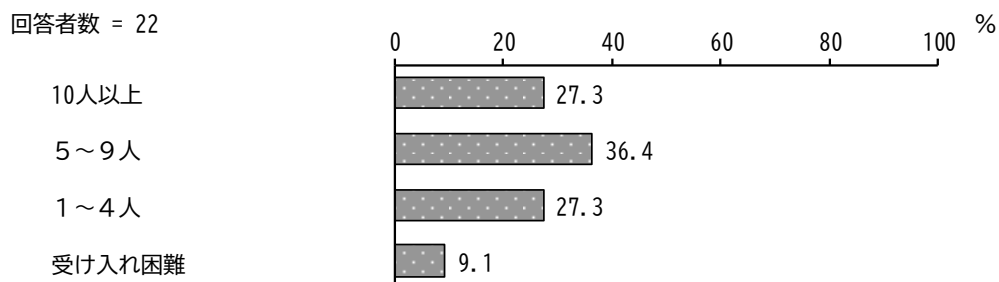
問5 離職の主な理由は何ですか。※複数選択可

「家庭の都合」の割合が53.3%と最も高く、次いで「体調不良」、「精神的負担」、「給与面の不満」の割合が20.0%となっています。



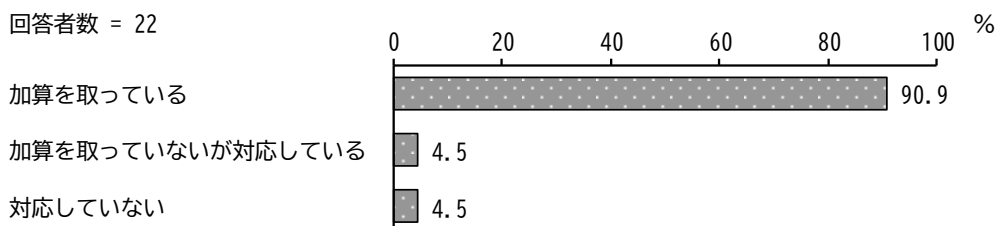
問6 現在の看護職員数で、あと何人の利用者を受け入れる余裕がありますか。

「5～9人」の割合が36.4%と最も高く、次いで「10人以上」、「1～4人」の割合が27.3%となっています。



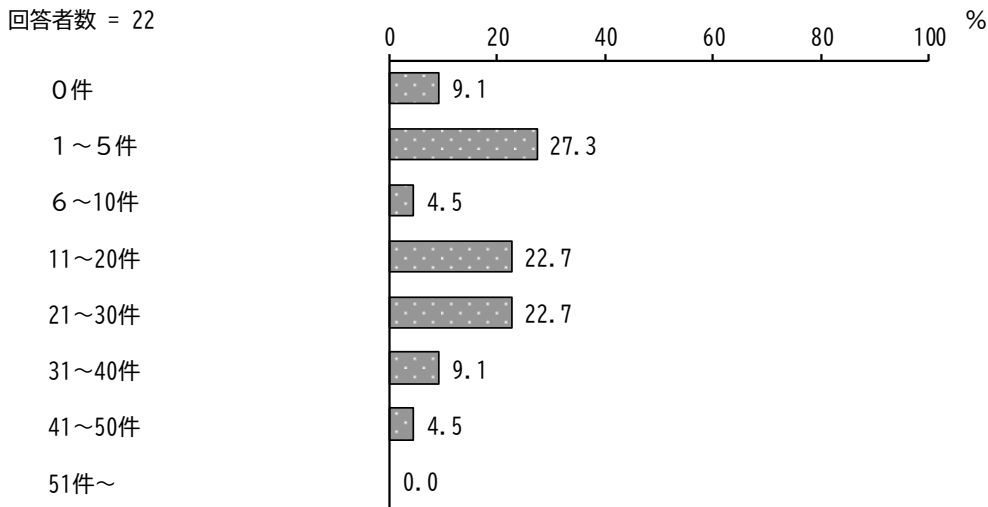
問7 現在、貴事業所では24時間対応の体制をとっていますか。

「加算を取っている」の割合が90.9%と最も高くなっています。



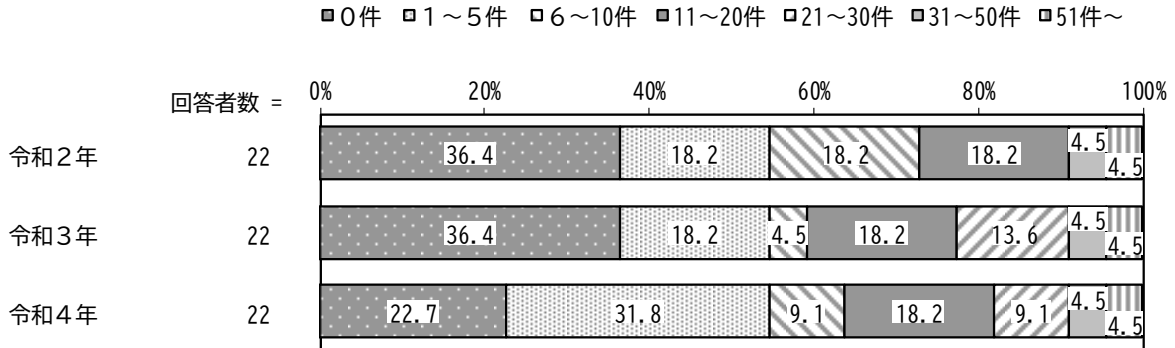
問8 連携している居宅介護支援事業所数を教えてください。

「1～5件」の割合が27.3%と最も高く、次いで「11～20件」、「21～30件」の割合が22.7%となっています。



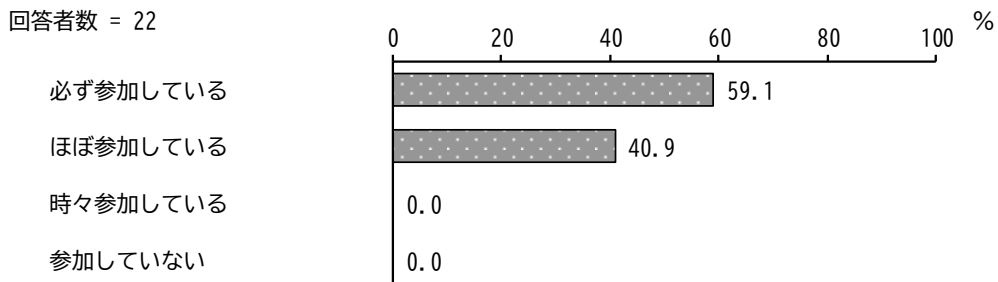
問9 年間看取り数を教えてください。

年度別にみると、令和2年、令和3年で「0件」の割合が、令和4年で「1～5件」の割合が高くなっています。



問10 病院における退院前カンファレンスが開催される時には、参加していますか。

「必ず参加している」の割合が59.1%と最も高く、次いで「ほぼ参加している」の割合が40.9%となっています。



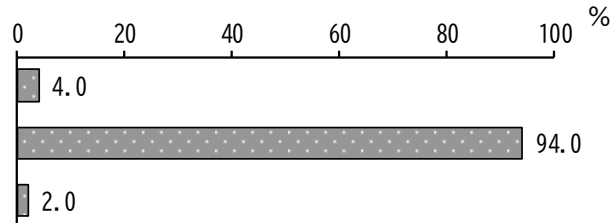
## 5 訪問看護師

### 問1 あなたの性別を教えてください。

「女性」の割合が94.0%と最も高くなっています。

回答者数 = 100

男性



女性

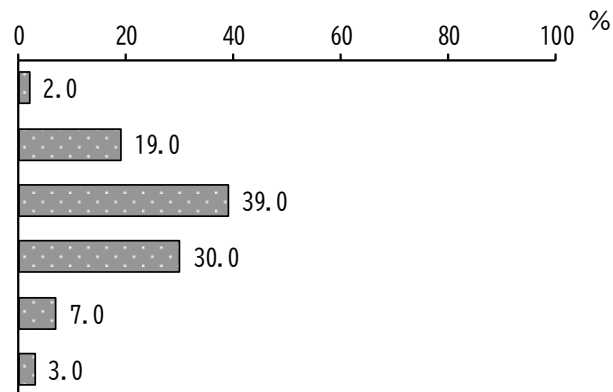
回答しない

### 問2 令和5年1月1日現在のあなたの年齢を教えてください。

「40歳代」の割合が39.0%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が30.0%、「30歳代」の割合が19.0%となっています。

回答者数 = 100

20歳代



30歳代

40歳代

50歳代

60歳代

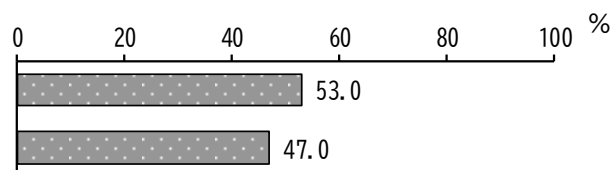
70歳代以上

### 問3 現在の勤務形態を教えてください。

「常勤」の割合が53.0%、「非常勤」の割合が47.0%となっています。

回答者数 = 100

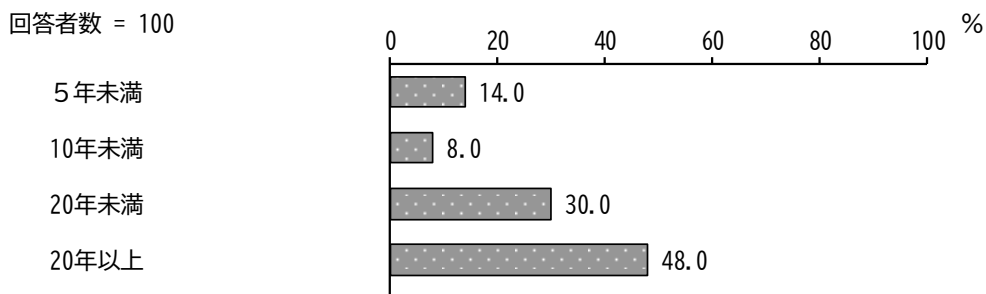
常勤



非常勤

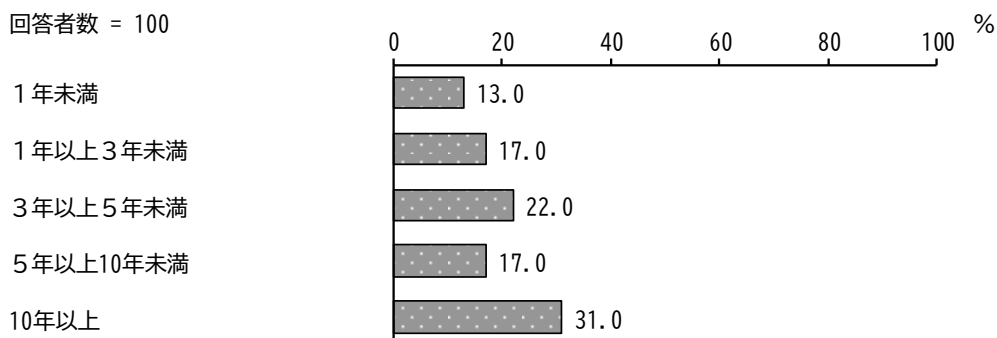
問4 あなたの臨床での経験年数を教えてください。

「20年以上」の割合が48.0%と最も高く、次いで「20年未満」の割合が30.0%、「5年未満」の割合が14.0%となっています。



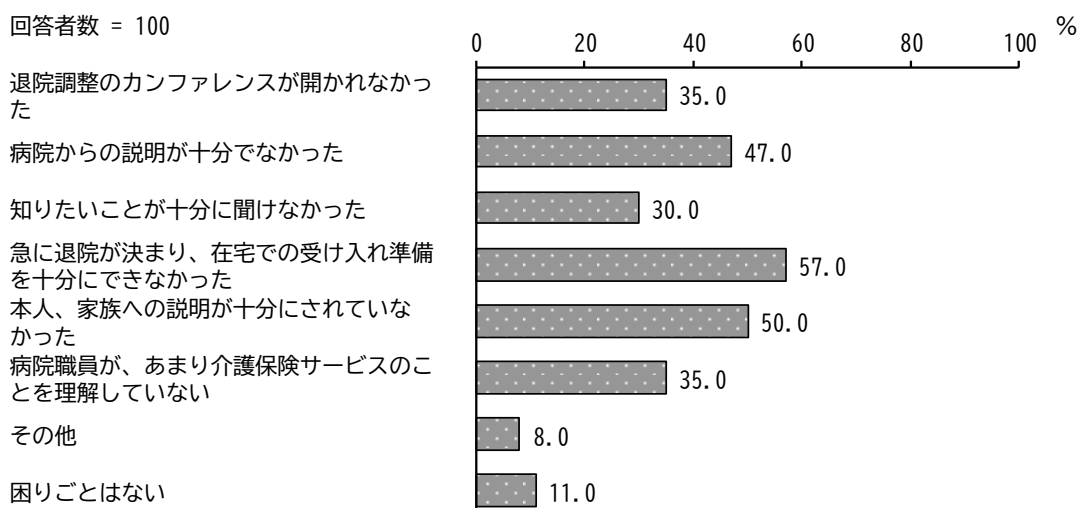
問5 訪問看護師としての経験年数を教えてください。

「10年以上」の割合が31.0%と最も高く、次いで「3年以上5年未満」の割合が22.0%、「1年以上3年未満」、「5年以上10年未満」の割合が17.0%となっています。



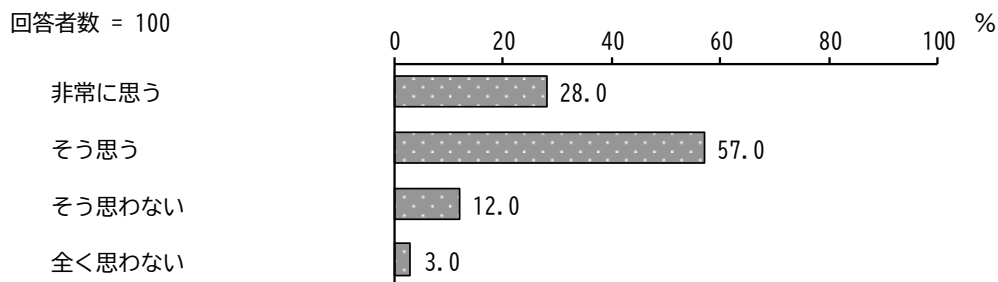
問6 退院支援や調整をする中でどのようなことに困りましたか。※複数選択可

「急に退院が決まり、在宅での受け入れ準備を十分にできなかった」の割合が57.0%と最も高く、次いで「本人、家族への説明が十分にされていなかった」の割合が50.0%、「病院からの説明が十分でなかった」の割合が47.0%となっています。



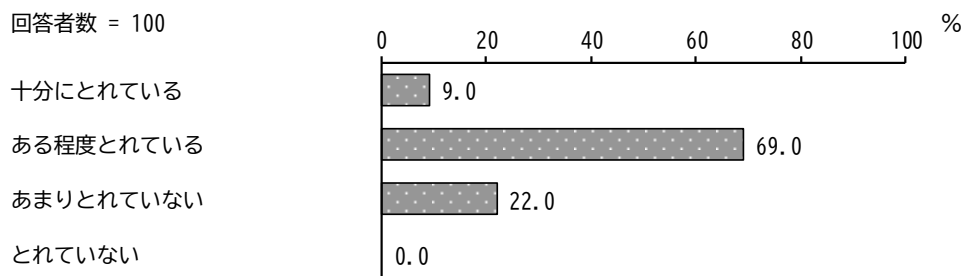
問7 医療機関によって退院支援・調整の対応が異なり困ることがありますか。

「そう思う」の割合が57.0%と最も高く、次いで「非常に思う」の割合が28.0%、「そう思わない」の割合が12.0%となっています。



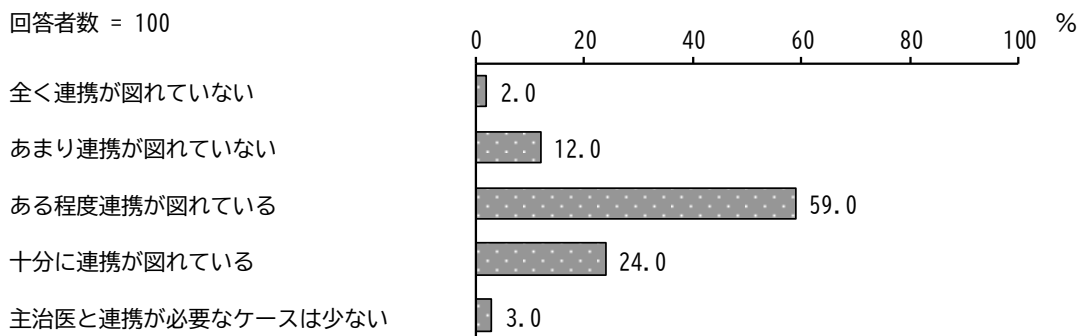
問8 退院時に、病院の主治医または連携担当者（地域連携室など）と円滑な連携がとれていますか。

「ある程度とれている」の割合が69.0%と最も高く、次いで「あまりとれていない」の割合が22.0%となっています。



問9 支援の過程で緊急時に主治医と連携を図る必要がある場合、連携が図れていますか。

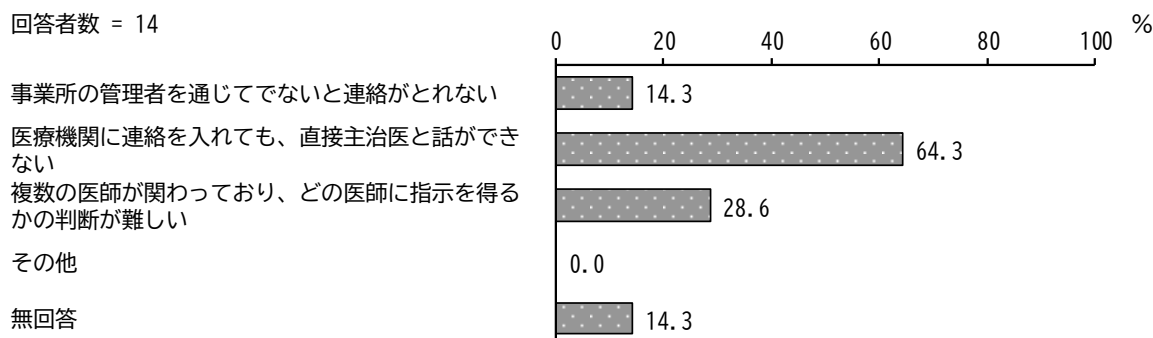
「ある程度連携が図れている」の割合が59.0%と最も高く、次いで「十分に連携が図れている」の割合が24.0%、「あまり連携が図れていない」の割合が12.0%となっています。



※問9で「まったく連携が図れていない」「あまり連携が図れていない」と回答した人におたずねします。

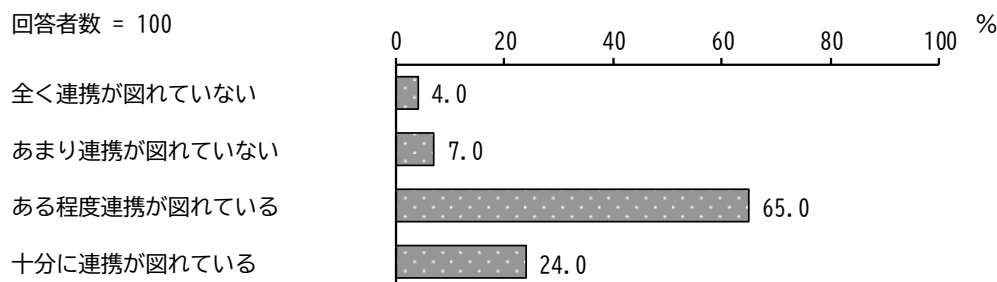
**問10 連携が図れていない主な理由は何ですか。**

「医療機関に連絡を入れても、直接主治医と話ができない」の割合が64.3%と最も高く、次いで「複数の医師が関わっており、どの医師に指示を得るかの判断が難しい」の割合が28.6%、「事業所の管理者を通じてでないで連絡がとれない」の割合が14.3%となっています。



**問11 利用者のケアプランなどについて居宅介護支援専門員と連携が図れていますか。**

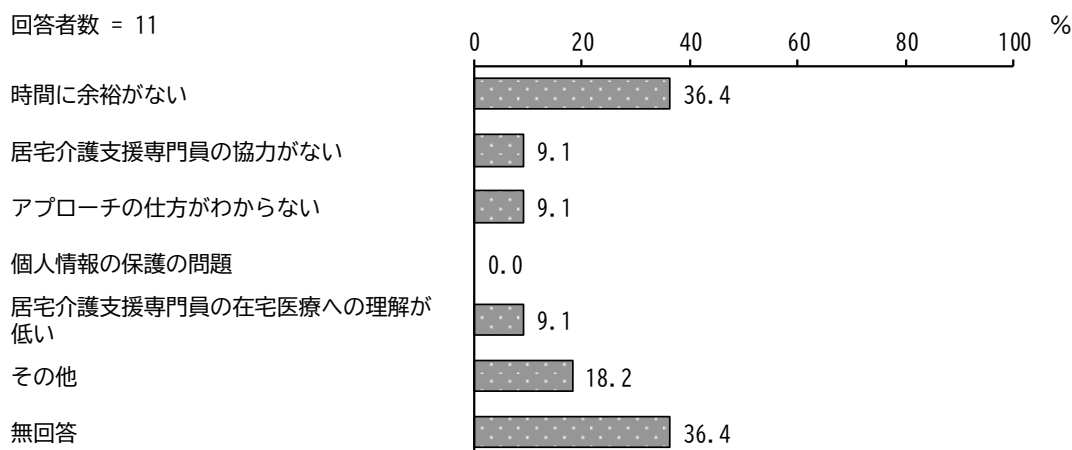
「ある程度連携が図れている」の割合が65.0%と最も高く、次いで「十分に連携が図れている」の割合が24.0%となっています。



※問11で「まったく連携が図れていない」「あまり連携が図れていない」と回答した人におたずねします。

**問12 連携が図れていない主な理由は何ですか。**

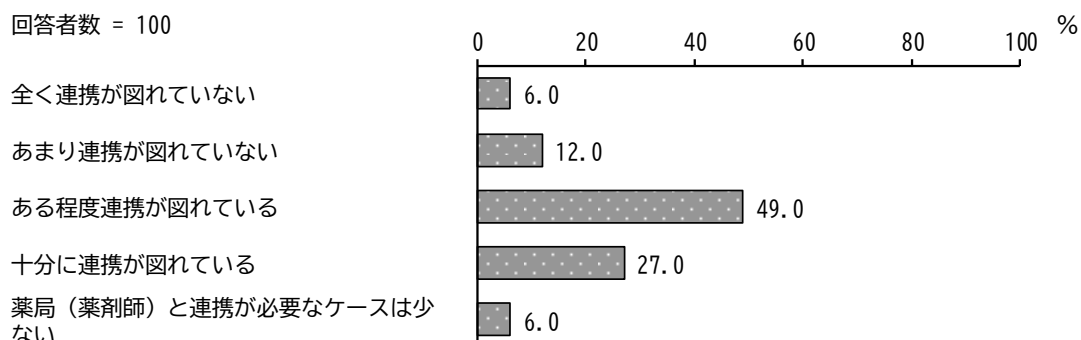
「時間に余裕がない」の割合が36.4%と最も高くなっています。





問 13 利用者の服薬管理などについて薬局（薬剤師）と連携が図れていますか。

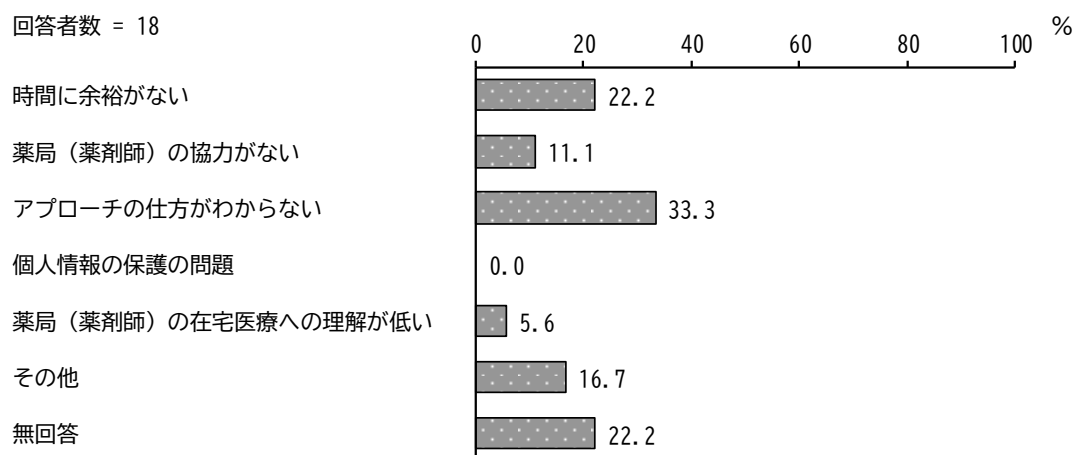
「ある程度連携が図れている」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「十分に連携が図れている」の割合が 27.0%、「あまり連携が図れていない」の割合が 12.0%となっています。



※問 13 で「まったく連携が図れていない」「あまり連携が図れていない」と回答した人におたずねします。

問 14 連携が図れていない主な理由は何ですか

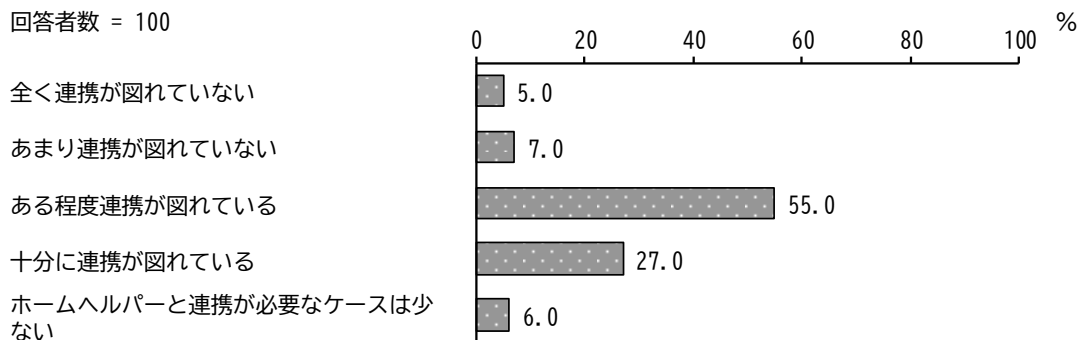
「アプローチの仕方がわからない」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「時間に余裕がない」の割合が 22.2%、「薬局（薬剤師）の協力がいない」の割合が 11.1%となっています。



問 15 利用者の在宅での生活についてホームヘルパーと連携は図れていますか。

「ある程度連携が図れている」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「十分に連携が図れている」の割合が 27.0%となっています。

回答者数 = 100

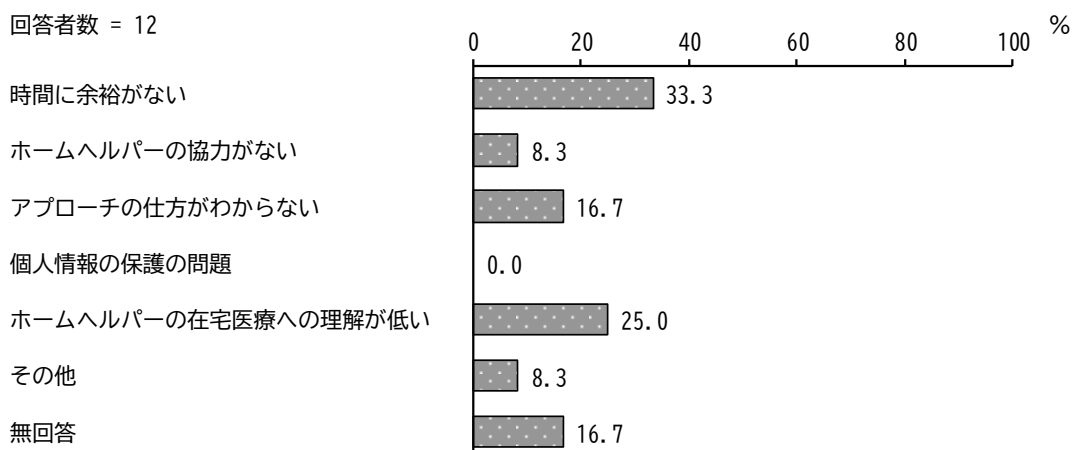


※問 15 で「まったく連携が図れていない」「あまり連携が図れていない」と回答した人におたずねします。

問 16 連携が図れていない主な理由は何ですか。

「時間に余裕がない」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「ホームヘルパーの在宅医療への理解が低い」の割合が 25.0%、「アプローチの仕方がわからない」の割合が 16.7%となっています。

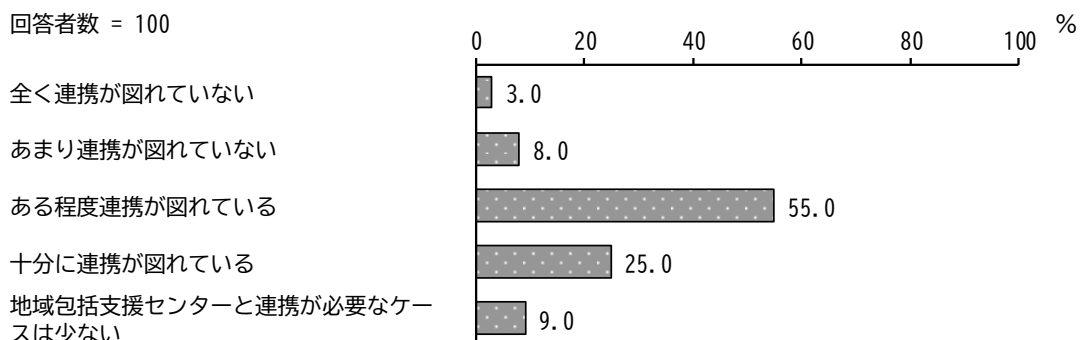
回答者数 = 12



問 17 利用者の在宅での生活について地域包括支援センターと連携は図れていますか。

「ある程度連携が図れている」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「十分に連携が図れている」の割合が 25.0%となっています。

回答者数 = 100

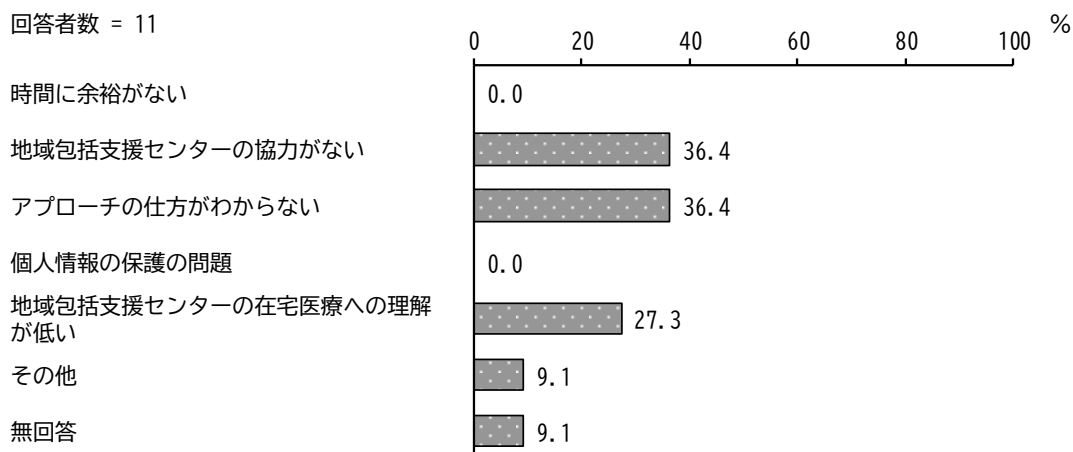


※問 17 で「まったく連携が図れていない」「あまり連携が図れていない」と回答した人におたずねします。

**問 18 連携が図れていない主な理由は何ですか。**

「地域包括支援センターの協力がいない」、「アプローチの仕方がわからない」の割合が 36.4%と最も高く、次いで「地域包括支援センターの在宅医療への理解が低い」の割合が 27.3%となっています。

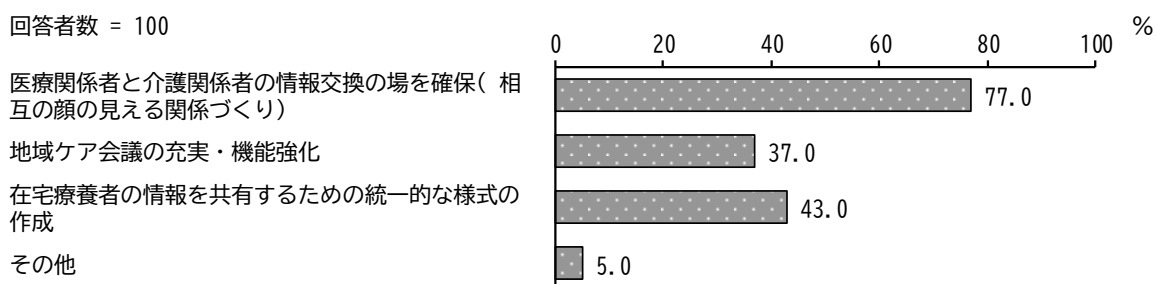
回答者数 = 11



**問 19 今後、関係機関との連携を図るために必要なことは何だと思えますか。※複数選択可**

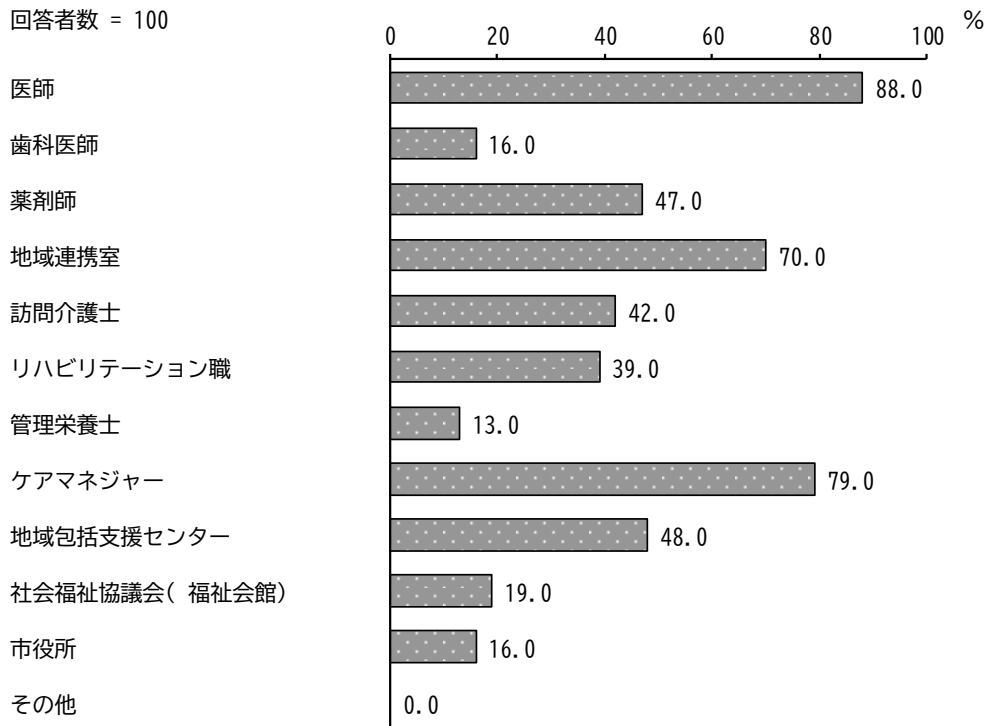
「医療関係者と介護関係者の情報交換の場を確保(相互の顔の見える関係づくり)」の割合が 77.0%と最も高く、次いで「在宅療養者の情報を共有するための統一的な様式の作成」の割合が 43.0%、「地域ケア会議の充実・機能強化」の割合が 37.0%となっています。

回答者数 = 100



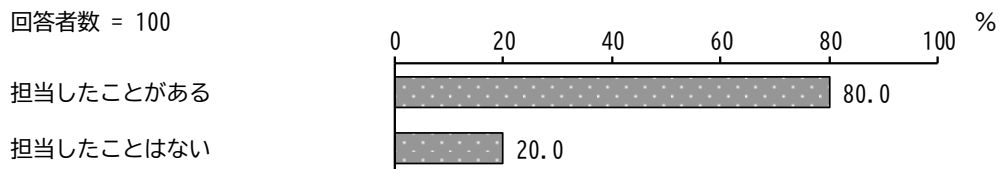
問 20 利用者の在宅生活を支えるために連携を強めたい職種・機関はどこですか。 ※複数選択可

「医師」の割合が 88.0%と最も高く、次いで「ケアマネジャー」の割合が 79.0%、「地域連携室」の割合が 70.0%となっています。



問 21 在宅での看取りを担当したことはありますか。

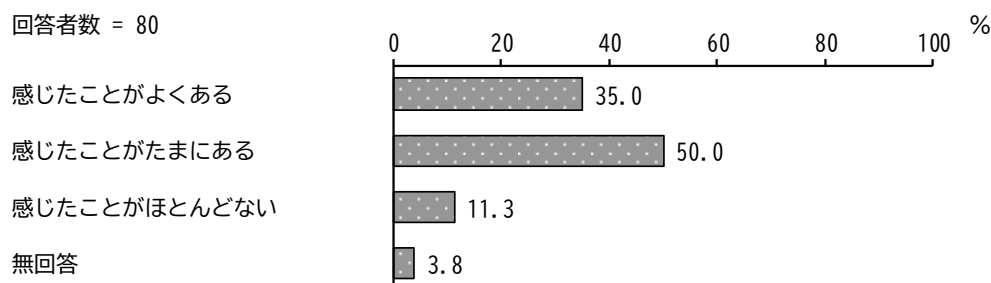
「担当したことがある」の割合が 80.0%、「担当したことはない」の割合が 20.0%となっています。



※問 21 で「担当したことがある」と回答した人におたずねします。

問 22 在宅での看取りに対して、訪問看護師として不安や負担を感じたことはありますか。

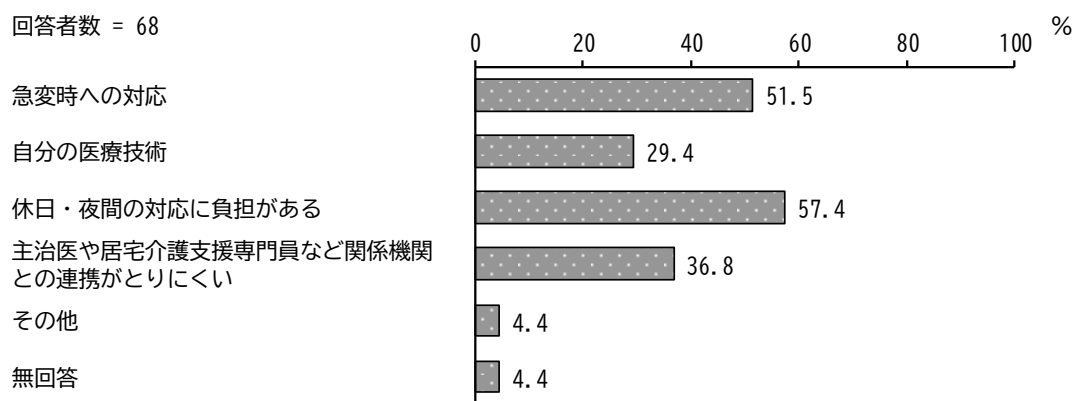
「感じたことがたまにある」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「感じたことがよくある」の割合が 35.0%、「感じたことがほとんどない」の割合が 11.3%となっています。



※問 22 で「感じたことがよくある」「感じたことがたまにある」と回答した人におたずねします。

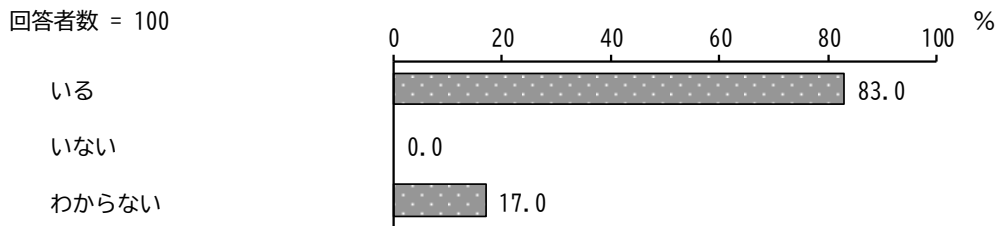
問 23 どのようなことに不安や負担を感じましたか。

「休日・夜間の対応に負担がある」の割合が 57.4%と最も高く、次いで「急変時への対応」の割合が 51.5%、「主治医や居宅介護支援専門員など関係機関との連携がとりにくい」の割合が 36.8%となっています。



問 24 利用者が在宅で最期を迎えたいという意思がある場合は、連携できる医師がいますか。

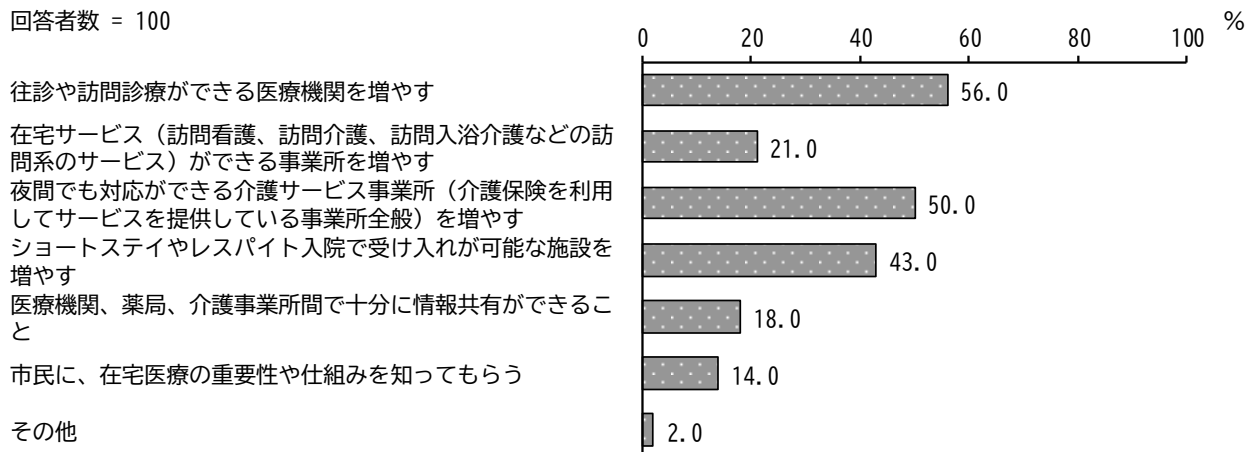
「いる」の割合が 83.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 17.0%となっています。



問 25 在宅医療を利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
※3つまで選択可

「往診や訪問診療ができる医療機関を増やす」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「夜間でも対応ができる介護サービス事業所（介護保険を利用してサービスを提供している事業所全般）を増やす」の割合が 50.0%、「ショートステイやレスパイト入院で受け入れが可能な施設を増やす」の割合が 43.0%となっています。

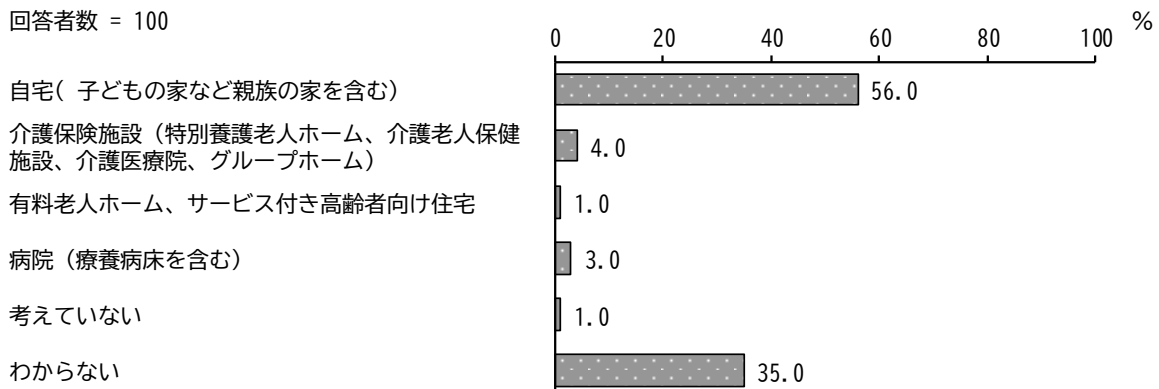
回答者数 = 100



問 26 要介護者が最期をむかえる場所として、どのような場所がふさわしいと考えていますか。

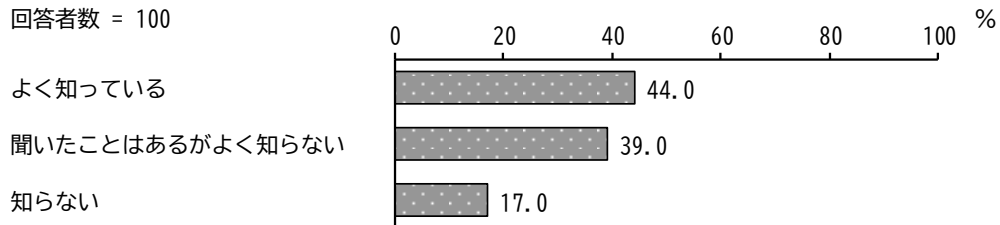
「自宅（子どもの家など親族の家を含む）」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 35.0%となっています。

回答者数 = 100



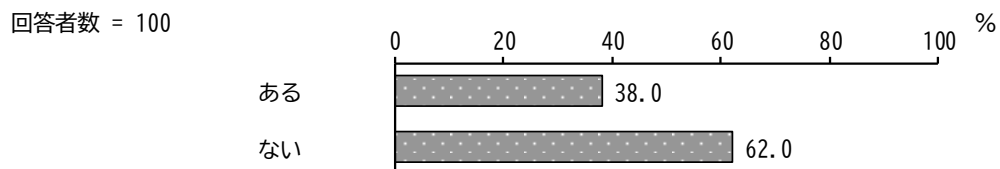
問 27 あなたは、アドバンス・ケア・プランニング（ACP、人生会議）について、知っていますか。

「よく知っている」の割合が 44.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」の割合が 39.0%、「知らない」の割合が 17.0%となっています。



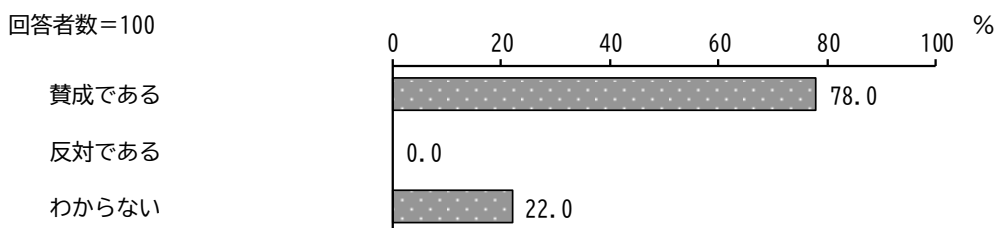
問 28 ACPを利用者に対して実施したことがありますか。

「ある」の割合が 38.0%、「ない」の割合が 62.0%となっています。



問 29 このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

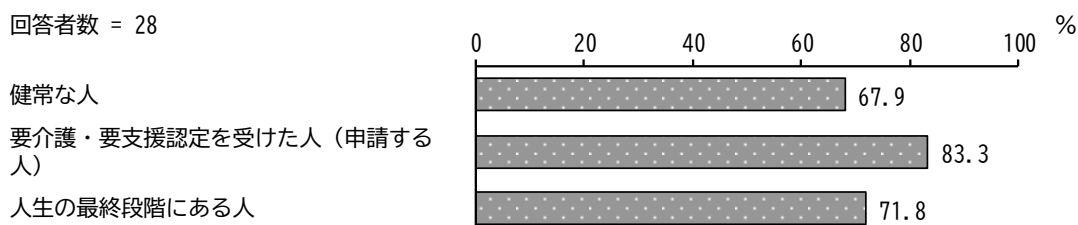
「賛成である」の割合が 78.0%と最も高くなっています。



※問 29 で「賛成である」と回答した人におたずねします。

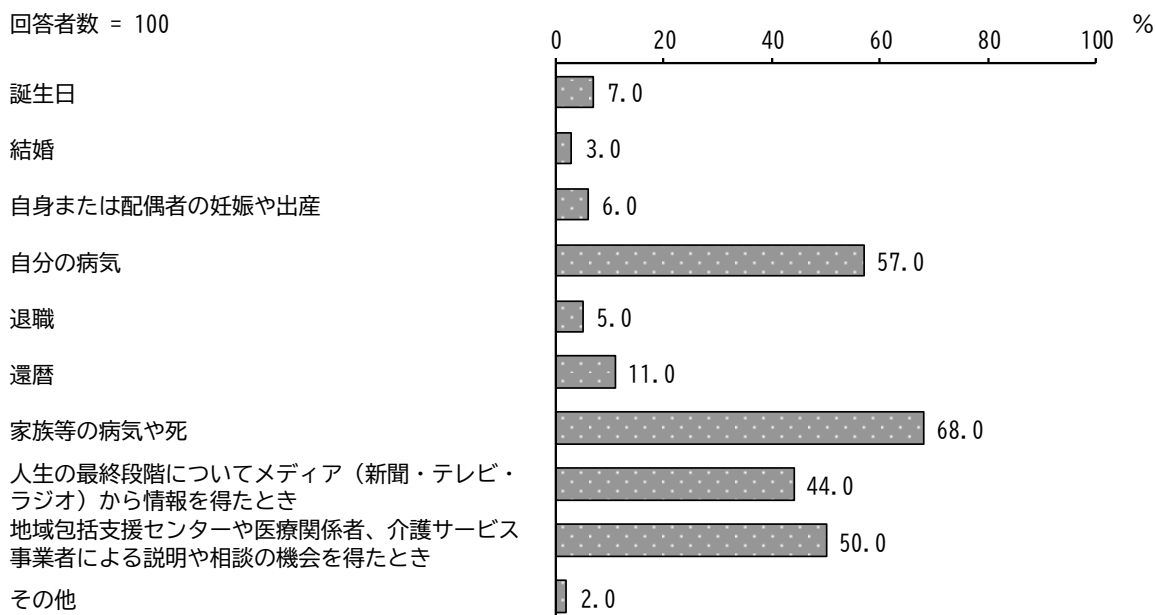
問 30 ACPをだれに対してするべきと思いますか。

「要介護・要支援認定を受けた人（申請する人）」、「人生の最終段階にある人」の割合が 80.6%と最も高く、次いで「健常な人」の割合が 75.0%となっています。



問 31 もし、家族や医療介護関係者等の方と医療・療養について話し合うきっかけがあるとすれば、どのような出来事だと思いますか。（話し合ったことがある人は、何がきっかけでしたか。）

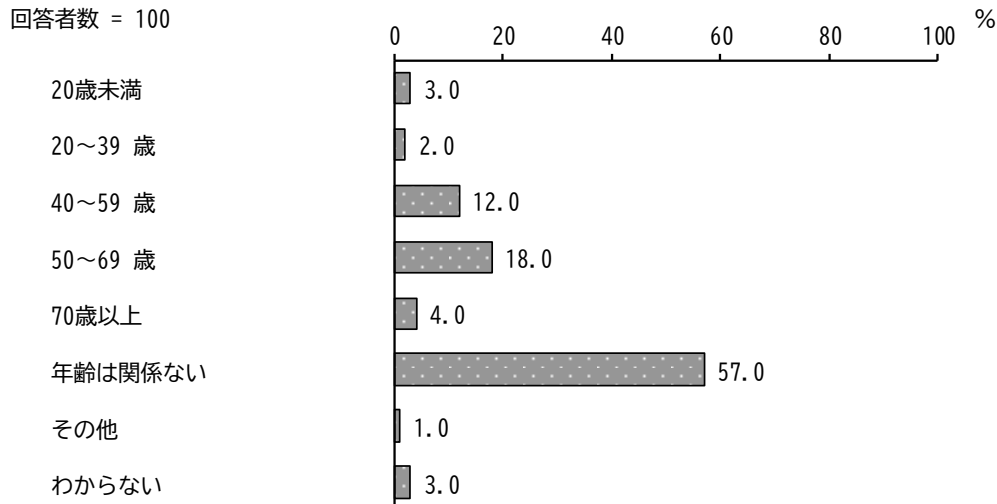
「家族等の病気や死」の割合が 68.0%と最も高く、次いで「自分の病気」の割合が 57.0%、「地域包括支援センターや医療関係者、介護サービス事業者による説明や相談の機会を得たとき」の割合が 50.0%となっています。





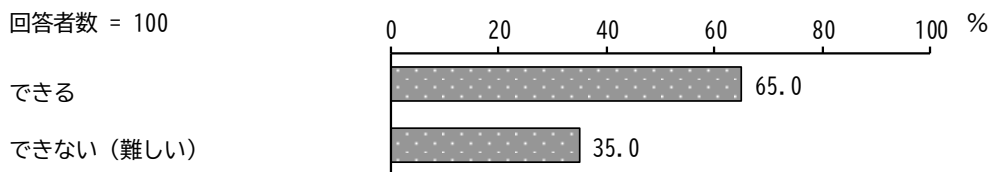
問 32 もし、家族や医療介護関係者等の方と医療・療養について話し合う（人生会議を  
実践する）時期があるとすれば、いつごろが適切な年齢だと思いますか。

「年齢は関係ない」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「50～69 歳」の割合が 18.0%、「40～  
59 歳」の割合が 12.0%となっています。



問 33 ケアを提供する中でACPを実践できますか。

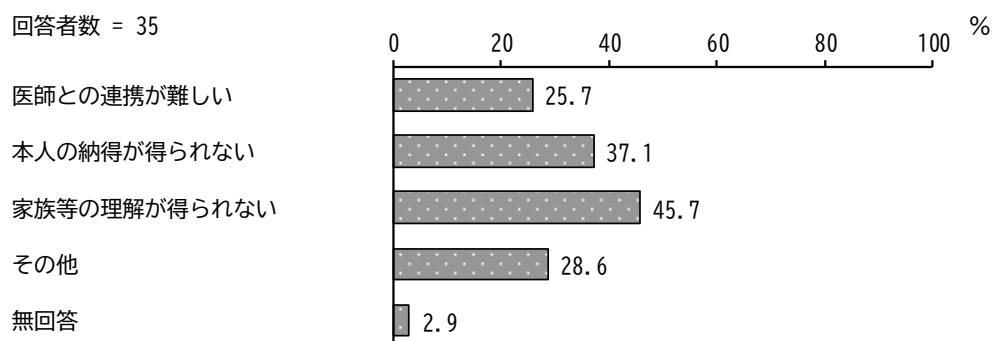
「できる」の割合が 65.0%、「できない（難しい）」の割合が 35.0%となっています。



※問 33 で「できない（難しい）」と回答した人におたずねします。

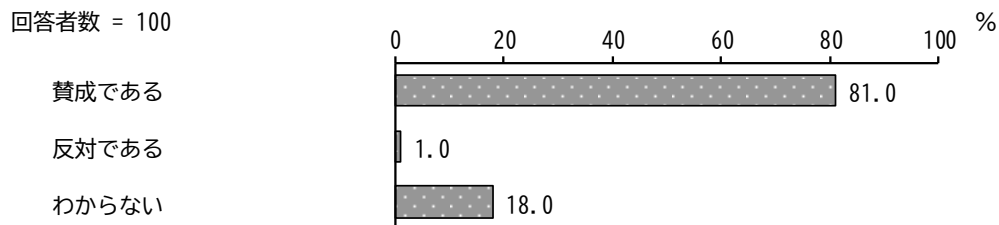
問 34 ACPが実践できないと思う理由は何ですか。

「家族等の理解が得られない」の割合が 45.7%と最も高く、次いで「本人の納得が得られない」  
の割合が 37.1%、「医師との連携が難しい」の割合が 25.7%となっています。



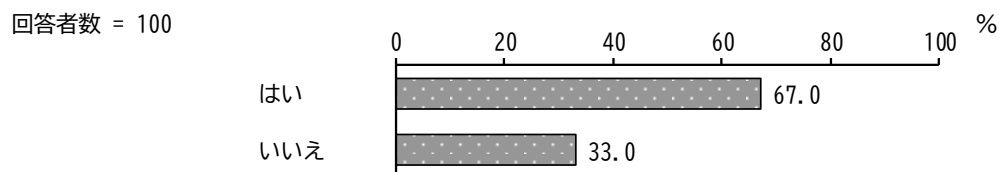
問 35 あなたは、自分が意思決定できなくなったときに備えて、どのような医療・療養を受けたいか（受けたくないか）などを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。

「賛成である」の割合が 81.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 18.0%となっています。



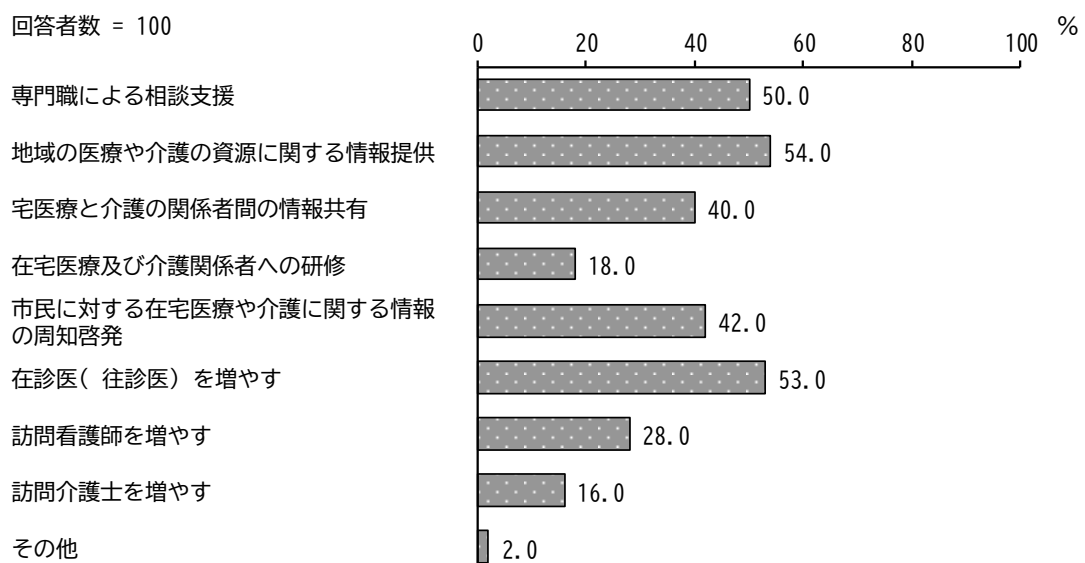
問 36 あなたは、市役所の高齢者・地域福祉課で在宅医療・介護連携について相談できることを知っていますか。

「はい」の割合が 67.0%、「いいえ」の割合が 33.0%となっています。



問 37 あなたは「在宅医療・介護連携推進事業」として、どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。※3つまで選択可

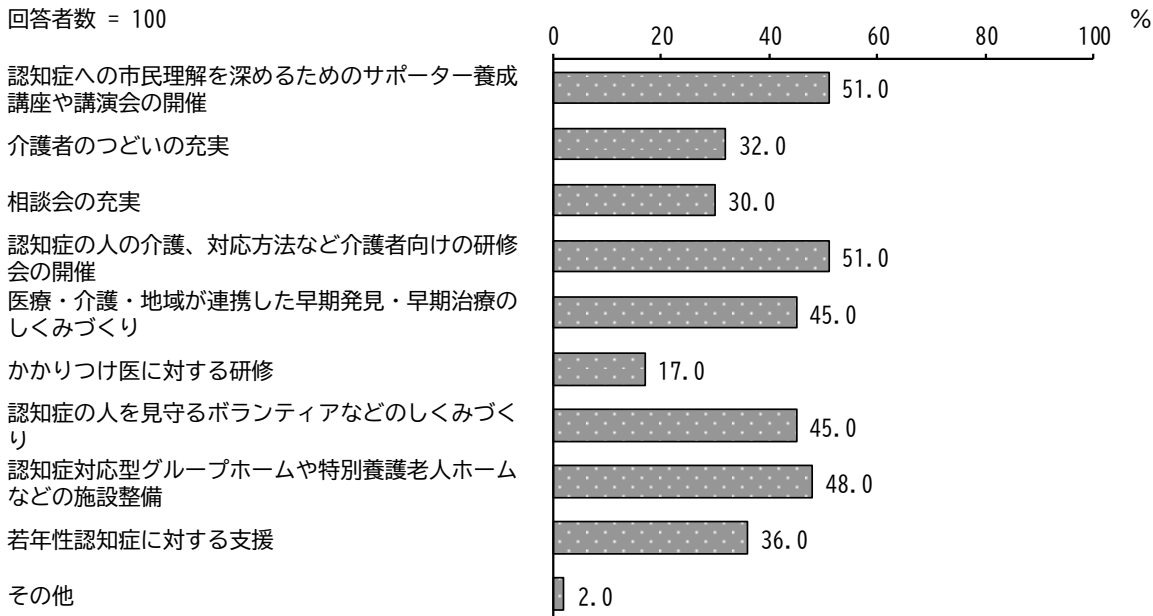
「地域の医療や介護の資源に関する情報提供」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「在診医（往診医）を増やす」の割合が 53.0%、「専門職による相談支援」の割合が 50.0%となっています。



問 38 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。※複数選択可

「認知症への市民理解を深めるためのサポーター養成講座や講演会の開催」、「認知症の人の介護、対応方法など介護者向けの研修会の開催」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「認知症対応型グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」の割合が 48.0%となっています。

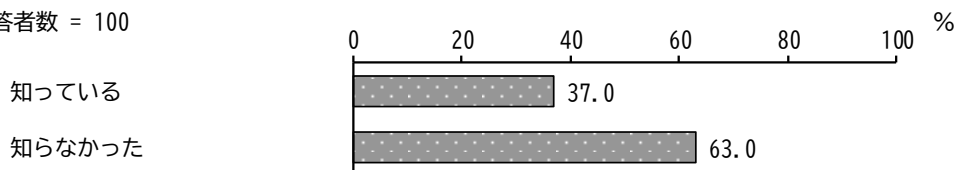
回答者数 = 100



問 39 加古川市では、認知症の人や家族を支援するために、市内の地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置していますが、知っていますか。

「知っている」の割合が 37.0%、「知らなかった」の割合が 63.0%となっています。

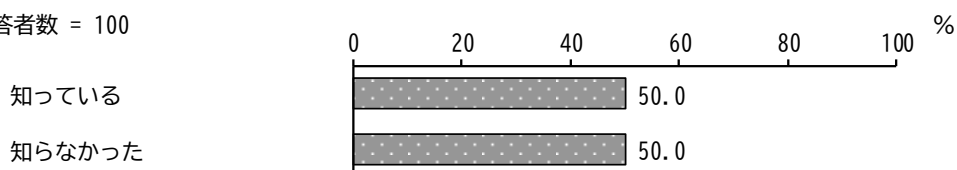
回答者数 = 100



問 40 加古川市では、認知症の基礎知識や認知症の人への接し方を学ぶ「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか。

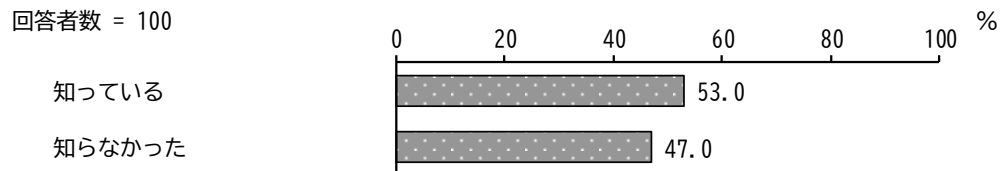
「知っている」の割合が 50.0%、「知らなかった」の割合が 50.0%となっています。

回答者数 = 100



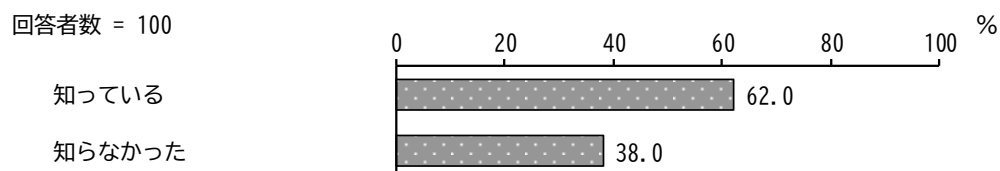
問 41 加古川市では、地域で認知症の人を見守るため、行方不明になる可能性のある人を日常から見守り、早期発見・早期保護するための「見守り・SOSネットワーク」を実施していますが、知っていますか。

「知っている」の割合が 53.0%、「知らなかった」の割合が 47.0%となっています。



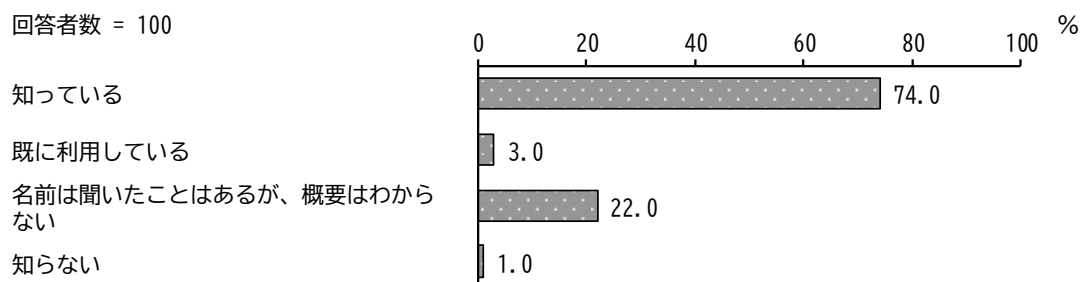
問 42 加古川市では、見守りカメラと連動した位置情報履歴発信機器（見守りタグ）の費用助成事業を実施していますが、知っていますか。

「知っている」の割合が 62.0%、「知らなかった」の割合が 38.0%となっています。



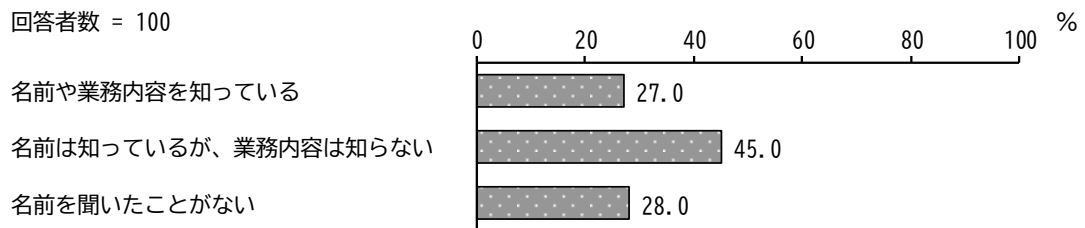
問 43 成年後見制度について制度の概要を知っていますか。

「知っている」の割合が 74.0%と最も高く、次いで「名前は聞いたことはあるが、概要はわからない」の割合が 22.0%となっています。



問 44 成年後見制度の相談ができる成年後見支援センターが市内にあることを知っていますか。

「名前は知っているが、業務内容は知らない」の割合が 45.0%と最も高く、次いで「名前を聞いたことがない」の割合が 28.0%、「名前や業務内容を知っている」の割合が 27.0%となっています。



高齢社会と介護保険に関する調査報告書  
令和5年5月

発行：高齢者・地域福祉課  
加古川市加古川町北在家 2000  
079-427-9715  
079-421-2063